

羽曳野市 男女共同参画に関する市民意識調査報告書

令和8(2026)年3月

羽曳野市

目 次

I	調査の概要	1
II	結果の概要	2
III	調査結果	7
1	あなたとご家族について	7
2	仕事と生活のバランス、家庭での役割について	10
3	職業生活や女性の活躍、困難支援などについて	43
4	暴力やハラスメントについて	64
5	男女共同参画の推進について	96
6	自由回答意見	125
	調査に用いた調査票	127

I 調査の概要

(1) 調査目的

次期「羽曳野市男女共同参画推進プラン」の策定に向けて、市内在住の18歳以上の市民を対象に、男女共同参画に関わる意識やニーズ等を把握し、プラン策定の基礎資料とするためにアンケート調査を実施しました。

(2) 調査の対象と実施方法

アンケート調査は、令和7年(2025年)8月から9月にかけて実施しました。今回よりインターネットを通じたWEB回答を受け付けました。

調査対象	市内在住の18歳以上の市民（無作為抽出）2,000名
調査方法	郵送による配布・回収（催告1回）及びWEB回答を併用
調査期間	令和7（2025）年8月15日～9月12日
回収状況	調査票配布数 2,000件 到達数 1,996件（郵送不達分を除く） 有効回答数 738件（うち紙 614件、WEB 124件） 有効回答率 37.0%

(3) 本資料について

※アンケート調査結果における各設問の母数n（Number of caseの略）は、設問に対する有効回答者数を意味します。

※各選択肢の構成比（％）は小数点第2位以下を四捨五入しています。このため、択一式の回答については構成比の合計が100％にならない場合があります。また、複数回答が可能な設問の場合、選択肢の構成比の合計が100％を超える場合があります。

※グラフ中の数字は、特に断り書きのないかぎりすべて構成比を意味し、単位は％です。

※性別のクロス集計結果については、選択肢「その他」「答えたくない」を選んだ人及び無回答の結果の表記を割愛しています。

※選択肢「その他」の記述内容については、全体構成比が概ね5％未満のものは表記を割愛しています。

※比較対象とした国・大阪府の調査は次の通りです。

国：男女共同参画社会に関する世論調査（令和6年9月調査）

家族の法制に関する世論調査（令和3年12月調査）

大阪府：男女共同参画にかかる府民意識調査（令和6年8月調査）

Ⅱ 結果の概要

《回答者の属性》【p.7～9：F1～F6】

- 女性が55.6%、「男性」が42.3%で、前回より「女性」の割合が減少しています。年齢層は60歳以上が51.7%と半数を占めています。
- 「既婚」が65.2%で、前回より「未婚」の割合が増えています。本人の職業は「勤め人（正規）」が最も多く、次いで「無職、年金受給者」「勤め人（パート・アルバイト・派遣）」の順となっています。
- 家族構成は「2世代家族」が47.4%と増加しています。何らかの支援や手助けが必要な家族がいる世帯は29.9%で、高齢者の介護や見守りが必要なケースが最も多い状況です。

《仕事と生活のバランス、家庭での役割について》

暮らし方の希望と現実の生活【p.10～16：問1～3】

- 希望する暮らし方は「家庭生活を優先したい」が26.3%と最も多く、「仕事と家庭生活をともに優先したい」も25.3%となっています。
- 現実の生活では「家庭を優先している」が29.3%と最も多く、女性は「家庭生活を優先している」、男性は「仕事を優先している」が目立っています。
- 平日の仕事に要する時間は「8時間以上」が25.9%で、前回より働く人の割合が増加しています。平日の家事に要する時間では男性の38.8%が「ほとんどしない」と回答しており、家事負担は依然として女性に偏る傾向です。

家庭における役割分担【p.17～28：問4】

- 理想の分担については、「炊事」「洗濯」は「主に妻・パートナー」が4割を超えていますが、多くの項目で「同じ程度」が増え、男女の役割均等を望む傾向が強まっています。
- 現実では、「生活費を稼ぐ」は「主に夫・パートナー」、「炊事」「洗濯」「育児」等は「主に妻・パートナー」が担うとの回答が中心で、性別による偏りが依然として残っています。

性別役割分担意識【p.29～34：問5、問5-1、問5-2】

- 「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対する人は48.3%で前回より減少しています。女性では反対が54.2%ですが、男性では賛成が42.7%と反対が40.7%と拮抗しています。
- 賛成の理由としては「性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから」が46.8%を占めています。
- 反対の理由としては「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が68.8%と最も多く、個人の多様な生き方を認める意見が中心です。

介護に関する意識【p.35～36：問6～7】

- 介護経験がある人は48.4%で前回より増加しています。
- 自分が介護を受ける場合に介護をしてほしい相手は「社会福祉施設や有料老人ホームの職員」が43.9%と最も多く、次いで「配偶者・パートナー」「ホームヘルパーやボランティア」が続いています。

男性が家事・育児・介護等に参加していくために必要なこと【p.37～39：問8】

- 「夫婦、パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」が50.9%と最も多く、次いで「小さいときから男性に家事や育児に関する教育をすること」「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」「労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」など、環境整備や意識改革を求める回答が目立ちます。

社会的活動への参加意向【p.40：問9】

- 回答者の47.9%が何らかの活動に参加したいと答えており、なかでも「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」への参加希望が多く見られます。

防災・災害復興対策として取り組む必要のあるもの【p.41～42：問10】

- 「避難所の設備（男女別トイレ・多目的トイレ・更衣室・授乳搾乳室・防犯対策等）」が67.2%と最も多く、「授乳児、高齢者、障害者、病気の人、女性が必要とするものなどの備えやニーズの把握、指示する際の配慮」を求める意見も多く寄せられています。また、「災害対策本部に女性が配置され、被災時の対策に女性の視点を入れること」は前回17.3%から35.1%へ大きく増加し、災害対応における女性視点の重要性が高まっています。

《職業生活や女性の活躍、困難支援などについて》

女性の働き方についての考え方【p.43～44：問11】

- 「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている（続けていた/続けるつもり）」が25.6%と最も多い一方、女性では「育児の時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けている（続けていた/続けるつもり）」も24.4%と多く、柔軟な雇用環境へのニーズが示されています。

職場における男女平等の状況【p.45～49：問12】

- 「男女平等」と感じる人が多いのは「研修の機会や内容」（50.3%）、「働き続けやすい雰囲気」（46.2%）、「募集・採用の仕方」（42.8%）、「配置される職場」（40.1%）、「仕事の内容」（40.1%）などで、前回より改善が見られます。
- 一方、「管理職への登用」（36.9%）や「昇進・昇給」（31.3%）では「男性が優遇されている」と答える人は多く、課題が残っています。

女性の就労継続・再就職支援に必要なこと【p.50～51：問13】

- 「労働時間の短縮やフレックスタイム制、在宅勤務など柔軟な勤務形態」が41.9%と最も多く、「男女がともに取得できる育児・介護休業制度の充実」「企業経営者や職場の理解」「育児や介護・看護のための施設やサービスの充実」「夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、介護・看護などへの参加」など、制度・意識の両面で改善が求められています。

政策立案・意思決定への女性参画【p. 52～55：問14～16】

- 地域・職場などでの政策立案や方針決定への女性の意見反映について「反映されている」「反映されていない」「わからない」がそれぞれ3割程度と意見が分かれています。
- 地域・職場などでの政策立案や方針決定の場への参画意欲では、「参画したい」が26.3%で、男性が33.7%、女性が20.7%と意識差が見られ、女性の参画を促す環境整備が必要です。
- 女性がもっと増えることが望ましい職業や役職について「議員」が46.7%と最も多く、次いで「知事・市長」が40.1%、「企業の管理職」が36.3%、「公務員の管理職」が32.2%となっています。

女性であることにより直面する困難と必要な支援【p. 56～57：問17～18】

- 女性であることにより制約が課されたり困難に直面することとして「求職や就労などにおいて、選択の幅が限られる」が38.6%と最も多く、「痴漢行為やセクハラなど性的な対象として見られる」「予期せぬ妊娠や中絶を経験する」「孤立した環境での出産と子育てを強いられる」など、多面的な困難が示されています。
- 困難な問題を抱える女性について必要な支援では、「専門的な知識をもつ公的な相談所」が60.2%、「避難できる場所や居住して保護を受けられる場所」が58.7%、「適切な診療を受けられる医療施設」が43.6%など、安全性・専門性を重視する回答が多く見られます。

名字・姓に関する意識【p. 58～63：問19、問19-1、問20】

- 婚姻によって名字・姓を変えた人に「不利益はないと思う」が49.2%、「何らかの不便・不利益があると思う」が44.4%と意見が分かれています。女性は50.5%が「何らかの不便・不利益があると思う」と回答しています。
- 不便・不利益になると思う内容としては「名字・姓を変更した側のみに名義変更の負担があるなど、日常生活上の不便・不利益がある」が80.2%と圧倒的で、「仕事の実績が引き継がれないなど、職業生活上の不便・不利益がある」など社会的信用の継続性も課題です。
- 夫婦の名字・姓に関する制度について、「現在の制度である夫婦同姓制度を維持した上で、旧姓を通称として幅広く使うことができるようにする法制度を設けた方がよい」が34.4%、「選択的夫婦別姓制度」が30.8%、「現在の制度である夫婦同姓制度を維持した方がよい」が22.2%と意見が分かれています。

《暴力やハラスメントについて》

DVに関する認識と状況【p. 64～67：問21～22】

- 多くの行為が半数以上からDVと認識され、「相手の許可をえずに性的な写真や動画を公開する」「子どもの前で暴力をふるう」が82.9%で最も多くなっています。
- 回答者の20.3%がDVと思われる行為を受けた経験があり、精神的暴力の経験も一定割合存在します。

DVに関する相談の状況と意識【p.68～73：問23、問23-1、問24】

- DVに関する相談について「誰にも話さず、相談していない」が54.0%と最も多く、男性では66.7%がそう答えています。相談先としては「同僚や友人に相談した」が27.3%、「家族・親族に相談した」が23.3%となっています。
- 相談をしない理由として「相談しても無駄だと思ったから」が43.2%、「相談するほどのことではないと思ったから」が42.0%など、相談のハードルが課題となっています。
- DV等に関する悩みを相談できる窓口に配慮してほしいことは、「24時間相談ができる」「医療費、カウンセリング費用、弁護士費用などについて、無料で支援が受けられる」「匿名で相談ができる」「弁護士など、法的知識のある相談員がいる」など、安心して相談できる環境を求める声が多くなっています。

ハラスメントに関する認識と状況【p.74～95：問25～問27】

- 多くの行為が「ハラスメント」と認識され、女性では実際の被害経験も2～3割見られます。また、行為をした経験も少数ながら存在しています。
- ハラスメントに関する相談について「同僚や友人に相談した」「家族・親族に相談した」と答える人が前回と比べて増加しています。一方、「誰にも話さず、相談していない」と回答した人も30.0%見られ、相談していない理由として「相談しても無駄だと思ったから」「相談するほどのことではないと思ったから」「誰に相談してよいのかわからなかったから」が多く見られます。
- 性暴力・性犯罪をなくすためにもっと進めるべき取り組みは「法律・制度の制定や見直しを行う」「被害者のための相談窓口や保護施設を充実させる」「犯罪の取り締まりを強化する」が5割を超え、制度・環境整備を求める声が高くなっています。

《男女共同参画の推進について》

社会の各分野における男女平等感【p.96～112：問28～問29】

- 「平等である」と答えた人が多いものとして「学校教育では」が72.1%と特に多いほか、「地域活動では」が49.6%、「法律や制度の上では」が42.4%となっています。一方、「男性が優遇されている」と答えた人が多いものは「社会慣習やしきたりなどでは」「社会全体では」「雇用の機会や働く分野では」「政治・経済活用への参加では」となっています。
- 「以前に比べて、社会で女性が活躍しやすくなっている」「以前に比べて、男女とも働き続けやすい社会になっている」「男性の育児への参画が以前より進んでいる」が7～8割となるなど、社会の変化は肯定的に捉えられています。一方、「男性の介護・看護への参画が以前より進んでいる」については評価が分かれています。

男女がもっと平等になるために重要なこと【p.113～115：問30】

- 「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が33.6%と最も多く、教育や制度面の改革も求められています。性別でみると、女性は「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」、男性は「法律や制度の上での見直しを行い、性差別につながるものを改めること」を重視する傾向にあります。

行政が力を入れるべきこと【p.116～119：問31】

- 「仕事と生活のバランスがとれるよう男女ともに働き方の見直しを進める」が46.6%と最も多く、働き方改革の必要性が強く認識されています。続いて、「羽曳野市の審議会委員や管理職など、政策・方針決定の場に女性を積極的に登用する」「学校教育や生涯学習の場で男女共同参画に向けた学習を充実する」「職場において男女の均等な取扱いが図られるよう企業等に働きかける」などの順で力を入れるべきと思う人が多く見られます。

男女共同参画に関する用語の認知状況【p.120～124：問32】

- 「セクシュアル・ハラスメント」（89.7%）など、ハラスメント関連の認知度は非常に高くなっています。一方、市の条例や計画等、羽曳野市独自の施策については認知が低く、周知が課題となっています。

《自由回答意見》【p.125～126】

- 性別による優遇や不利をなくし、能力や個人の状況に応じて評価されるべきであるという意見が多く見られました。また、固定的な性別役割分担意識を見直すためには、子どもの頃からの教育や社会全体での意識改革が重要であるとの認識が共有されています。
- 家庭においては、男性の家事・育児参加の促進や仕事と家庭を両立できる環境づくりを求める声が目立ちました。

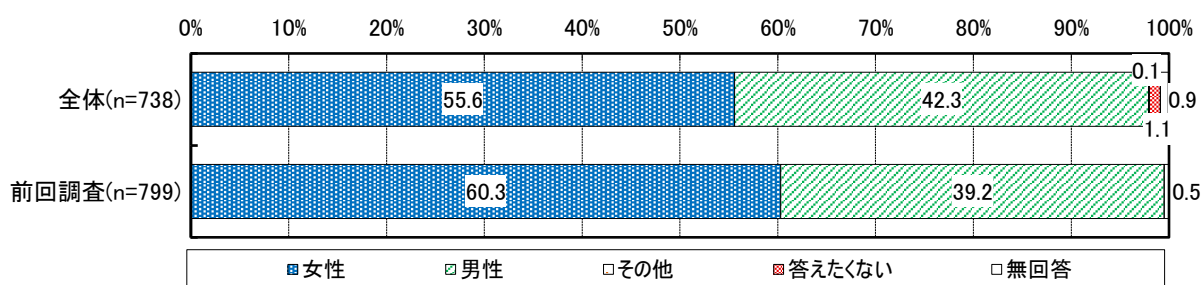
Ⅲ 調査結果

1 あなたとご家族について

F 1 あなたの性別は。(以後、ここで○をつけた性別として回答してください。)

○「女性」が55.6%、「男性」が42.3%、「答えたくない」が1.1%、「その他」が0.1%となっています。

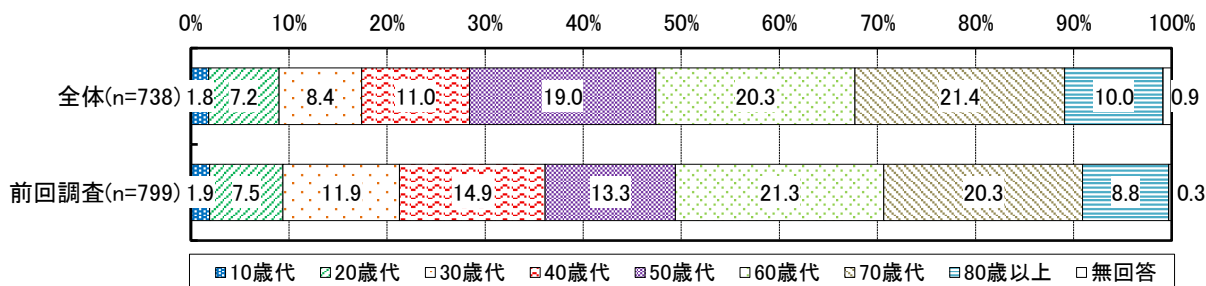
○前回の調査結果と比べると、女性の割合が低下しています。



※選択肢「その他」「答えたくない」は今回調査から設定したものです。

F 2 あなたの年齢は。

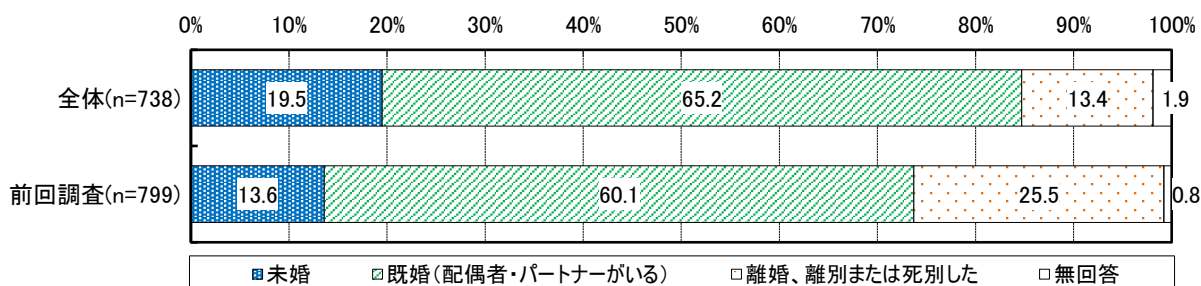
○10～30歳代が17.4%、40・50歳代が30.0%、60歳以上が51.7%となっています。



F 3 あなたは結婚（事実婚を含む）されていますか。

○「既婚（配偶者・パートナーがいる）」が65.2%、「未婚」が19.5%、「離婚、離別または死別した」が13.4%となっています。

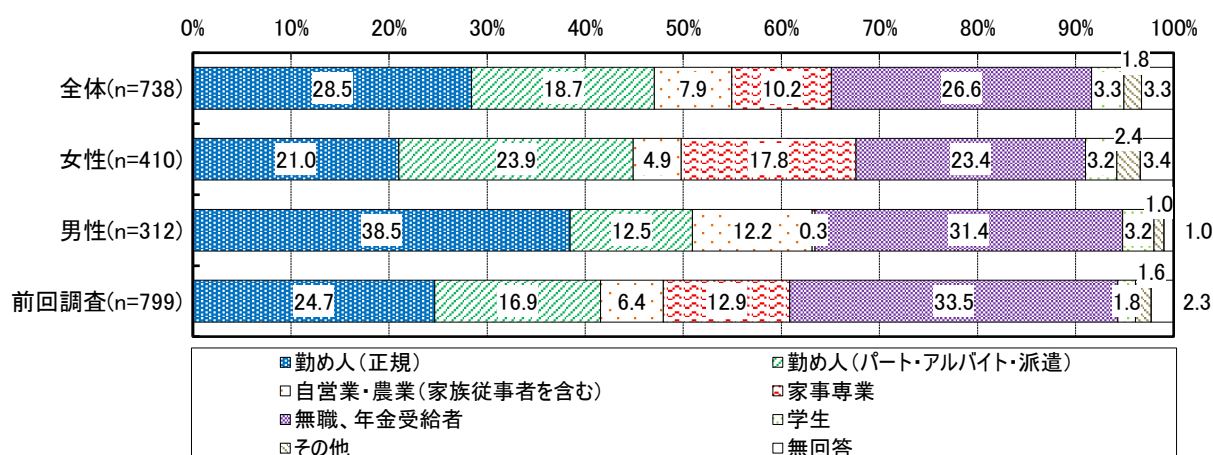
○前回の調査結果と比べると、「未婚」が増え、「離婚、離別または死別した」が減っています。



F 4 あなたとあなたの配偶者・パートナーの主な職業をお答えください。配偶者・パートナーがおられない方は、ご自身の欄だけ記入してください。(○はそれぞれ1つ)

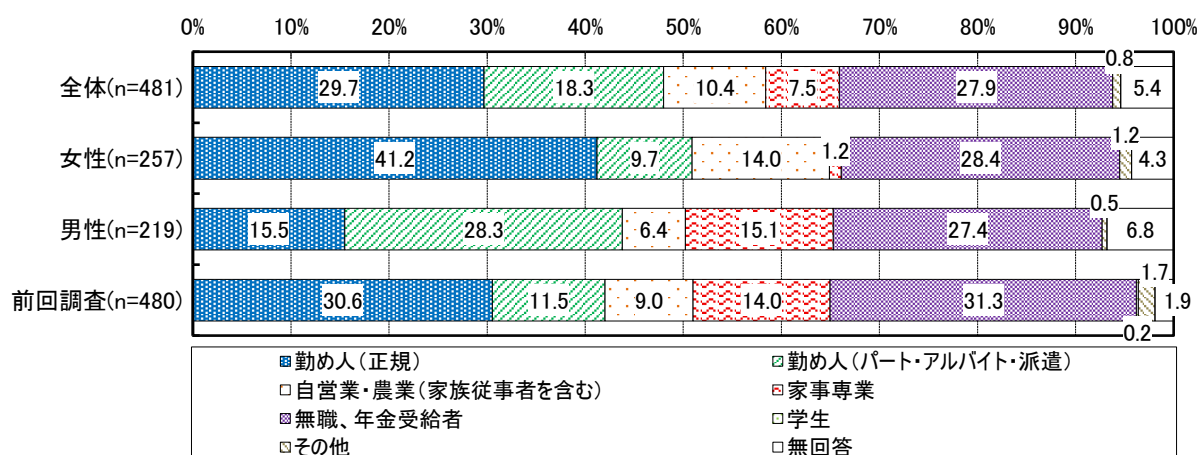
(1) あなたの職業

○回答者本人の職業は、「勤め人(正規)」が28.5%(女性 21.0%、男性 38.5%)、「無職、年金受給者」が26.6%、「勤め人(パート・アルバイト・派遣)」が18.7%、「家事専業」が10.2%、「自営業・農業(家族従事者を含む)」が7.9%などとなっています。



(2) 配偶者・パートナーの職業

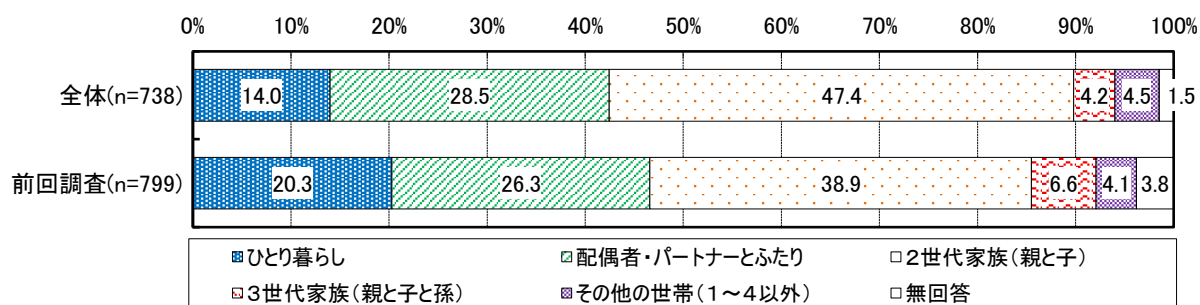
○配偶者・パートナーの職業は、「勤め人(正規)」が29.7%(女性 41.2%、男性 15.5%)、「無職、年金受給者」が27.9%、「勤め人(パート・アルバイト・派遣)」が18.3(女性 9.7%、男性 28.3%)、「自営業・農業(家族従事者を含む)」が10.4%、「家事専業」が7.5%などとなっています。



F 5 同居している家族の構成は。

○「2世代家族（親と子）」が47.4%、「配偶者・パートナーとふたり」が28.5%、「ひとり暮らし」が14.0%となっています。

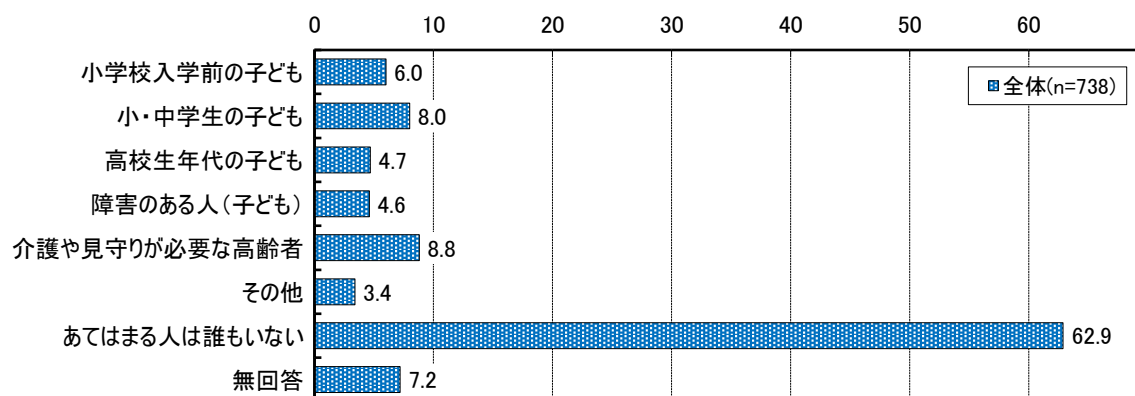
○前回の調査結果と比べると、「2世代家族（親と子）」が増え、「ひとり暮らし」が減っています。



F 6 同居している家族の中に何らかの手助けや支援を必要とする方がおられますか。

（○はいくつでも、あなたご自身も含まれます）。

○「あてはまる人は誰もいない」と無回答を除いて、何らかの手助けや支援を必要とする人がいると答える人は回答者の29.9%で、内容別には「介護や見守りが必要な高齢者」が8.8%、「小・中学生の子ども」が8.0%、「小学校入学前の子ども」が6.0%などとなっています。



2 仕事と生活のバランス、家庭での役割について

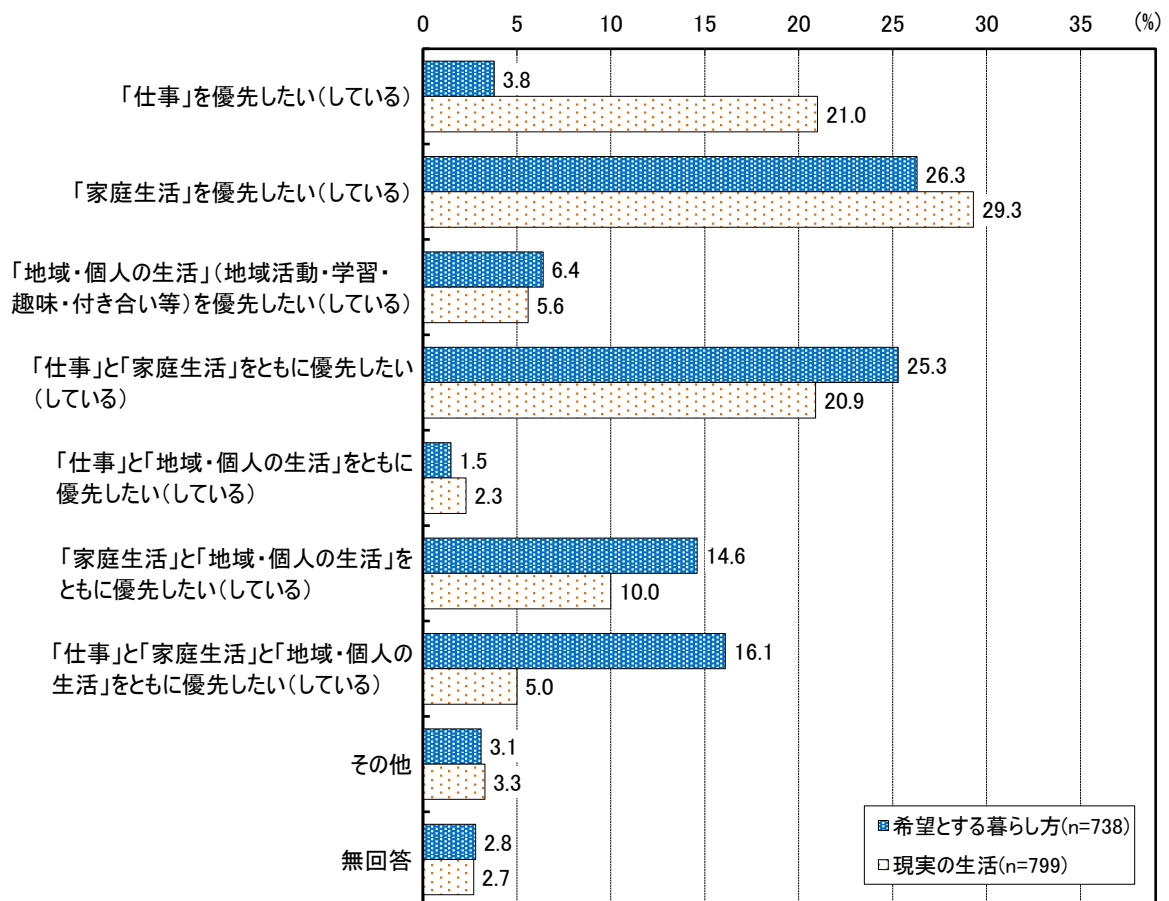
問1 あなたは、希望としてどのような暮らし方をしたいと思いますか。(〇は1つ)

問2 それでは、あなたの現実の生活に最も近いものはどれですか。(〇は1つ)

○希望とする暮らし方では、「家庭生活を優先」が26.3%（女性 27.8%、男性24.4%）、現実の生活が29.3%（女性 32.9%、男性25.0%）とそれぞれ最も多く、現実の生活が希望とする暮らし方の割合を上回っています。

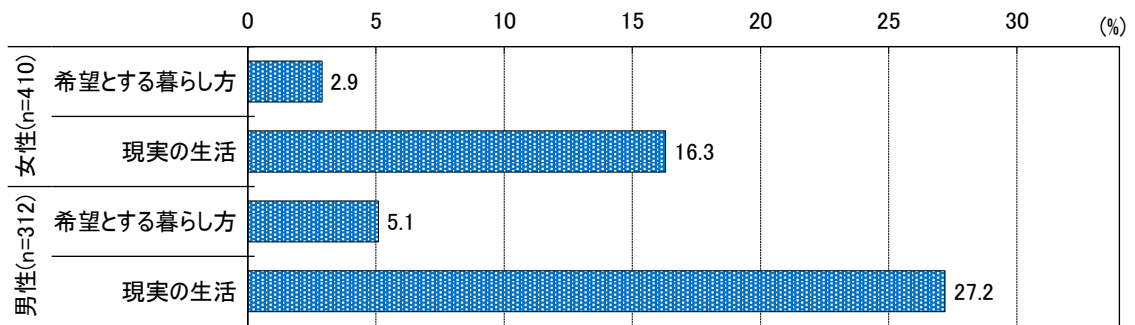
○希望とする暮らし方で2番目に多いのは「仕事と家庭生活をともに優先」で、希望とする暮らし方が25.3%（女性21.5%、男性30.8%）、現実の生活が20.9%（女性20.2%、男性22.1%）と、現実の生活が希望とする暮らし方の割合を下回っています。

○「仕事を優先したい（している）」という項目をみると、希望している人は3.8%（女性 2.9%、男性 5.1%）に対して、現実には21.0%（女性 16.3%、男性 27.2%）と、希望と現実のギャップが見られます。

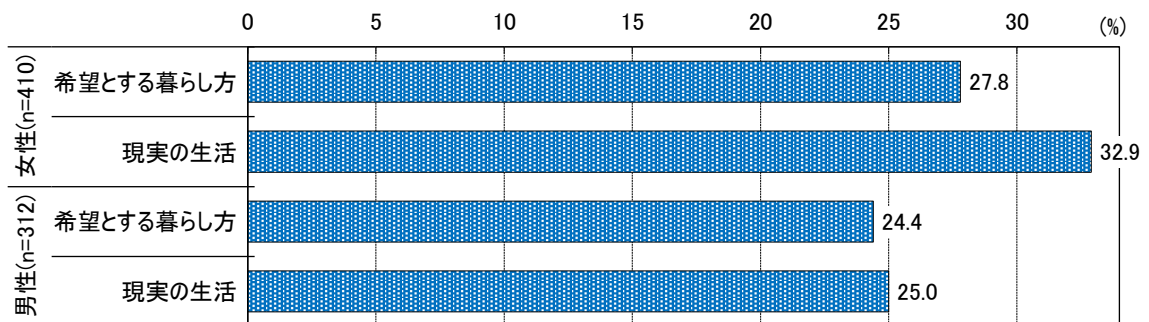


性別クロス集計

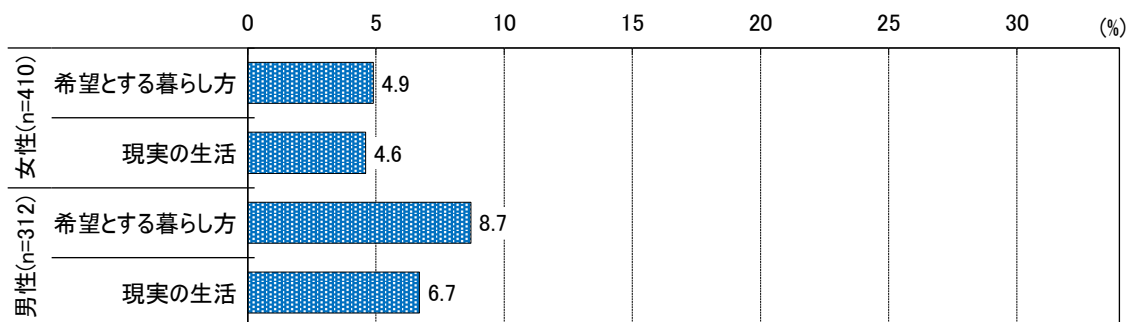
「仕事」を優先したい（している）



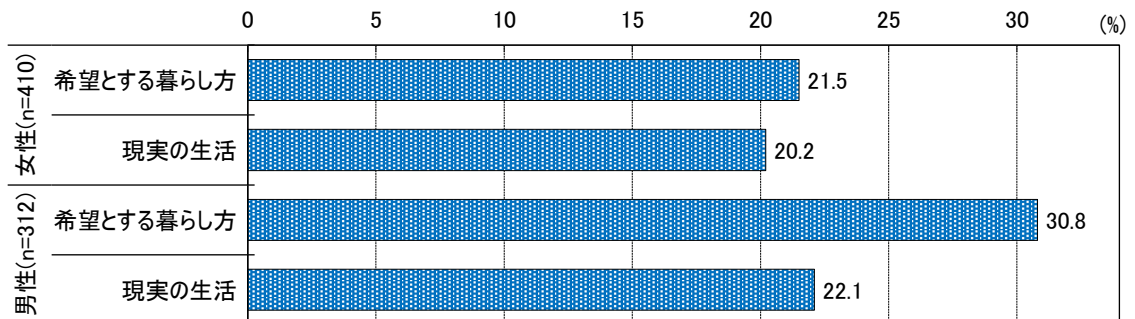
「家庭生活」を優先したい（している）



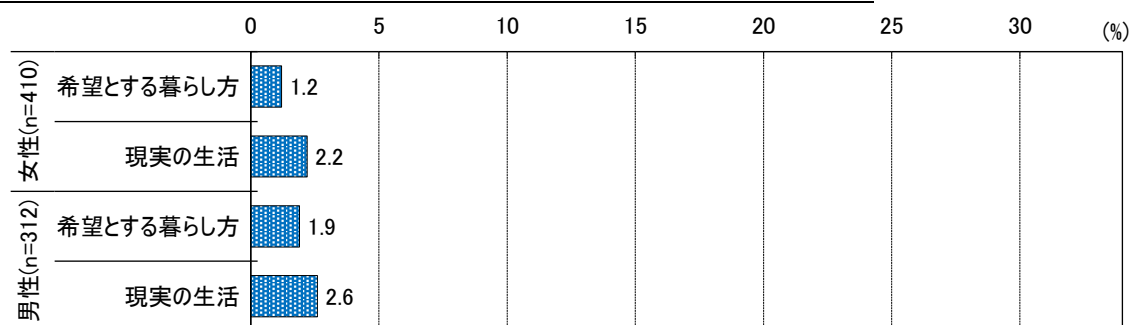
「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）を優先したい（している）



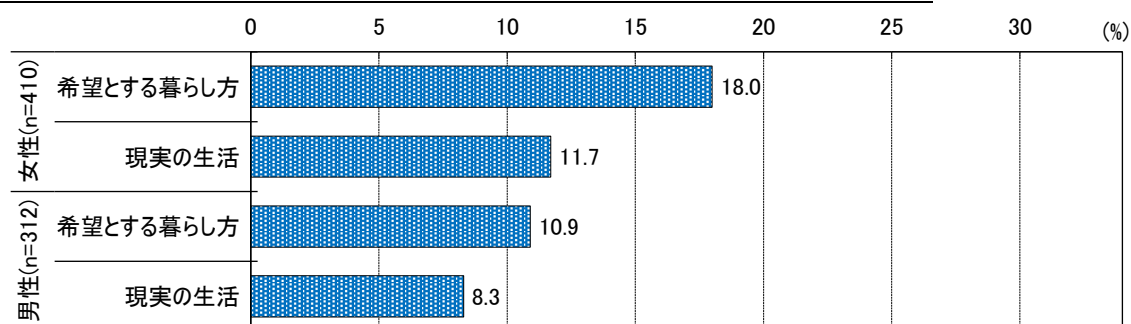
「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい（している）



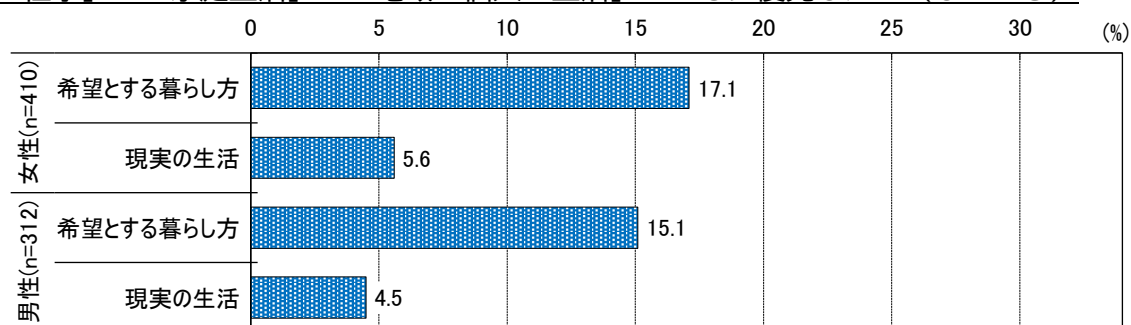
「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい（している）



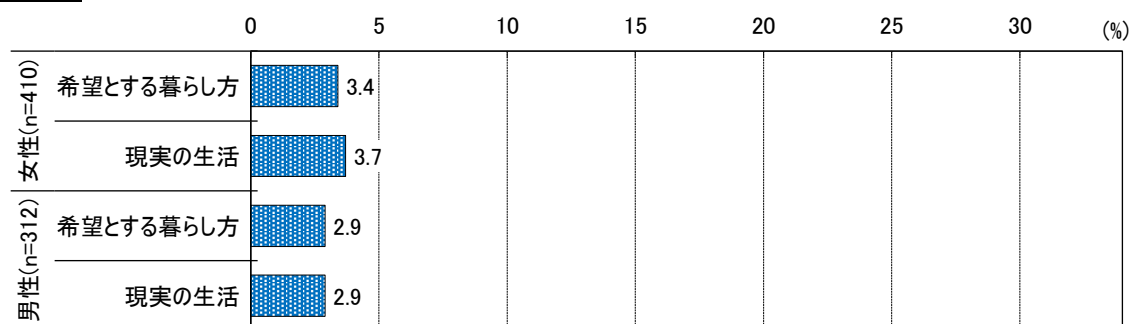
「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい（している）



「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい（している）



その他



大阪府調査との比較

希望とする暮らし方

○羽曳野市は「仕事と家庭生活」を優先したいという人が40.1%と最も多いのに対し、大阪府調査では「個人の生活」が25.9%、「仕事と個人の生活」が24.1%となっています。

(単位：%)

優先したい暮らし方	羽曳野市(n=406)	大阪府(n=656)
「仕事」	5.2	5.8
「家庭生活」	17.2	—
「家庭や地域活動」	—	4.9
「地域・個人の生活」	3.0	—
「個人の生活」	—	25.9
「仕事」と「家庭生活」	40.1	—
「仕事」と「家庭や地域活動」	—	7.5
「仕事」と「地域・個人の生活」	2.2	—
「仕事」と「個人の生活」	—	24.1
「家庭生活」と「地域・個人の生活」	7.6	—
「家庭や地域活動」と「個人の生活」	—	9.1
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」	22.9	—
「仕事」と「家庭や地域活動」と「個人の生活」	—	20.7
その他	1.2	0.0
無回答	0.5	2.0

※就労している人に限定

現実の生活

○羽曳野市は「仕事と家庭生活」が35.2%、「仕事」が34.0%であるのに対し、大阪府調査では「仕事」が38.3%となっています。

(単位：%)

現実の暮らし方	羽曳野市(n=406)	大阪府(n=656)
「仕事」	34.0	38.3
「家庭生活」	12.6	—
「家庭や地域活動」	—	5.5
「地域・個人の生活」	2.5	—
「個人の生活」	—	11.4
「仕事」と「家庭生活」	35.2	—
「仕事」と「家庭や地域活動」	—	9.1
「仕事」と「地域・個人の生活」	3.4	—
「仕事」と「個人の生活」	—	21.2
「家庭生活」と「地域・個人の生活」	3.0	—
「家庭や地域活動」と「個人の生活」	—	2.7
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」	6.9	—
「仕事」と「家庭や地域活動」と「個人の生活」	—	8.2
その他	2.0	0.5
無回答	0.5	3.0

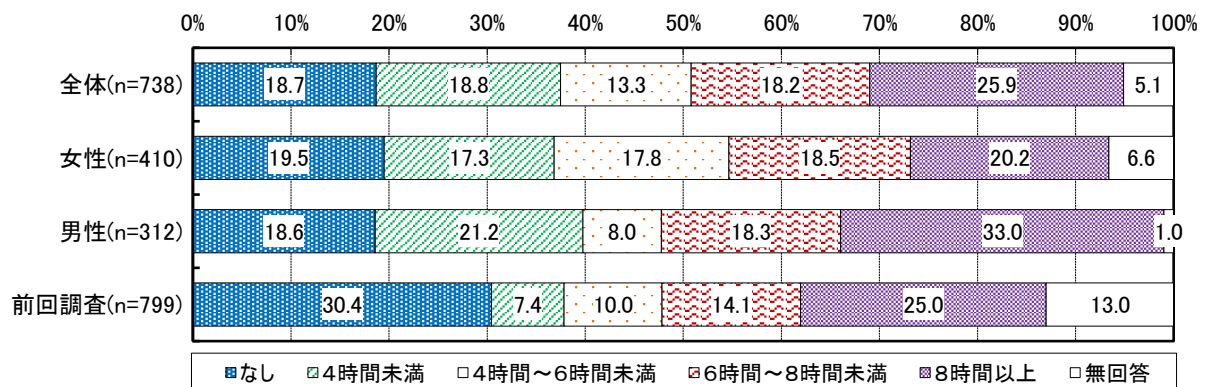
※就労している人に限定

問3 1日のうちで、あなたが仕事や家事に要する時間は、平日または仕事がある日、休日それぞれのくらいですか。

(1) 仕事に要する時間：平日または仕事がある日（○は1つ）

○平日または仕事がある日に仕事に要する時間を尋ねたところ、「8時間以上」が25.9%（女性 20.2%、男性 33.0%）、「4時間未満」が18.8%、「なし」が18.7%、「6時間～8時間未満」が18.2%となっています。

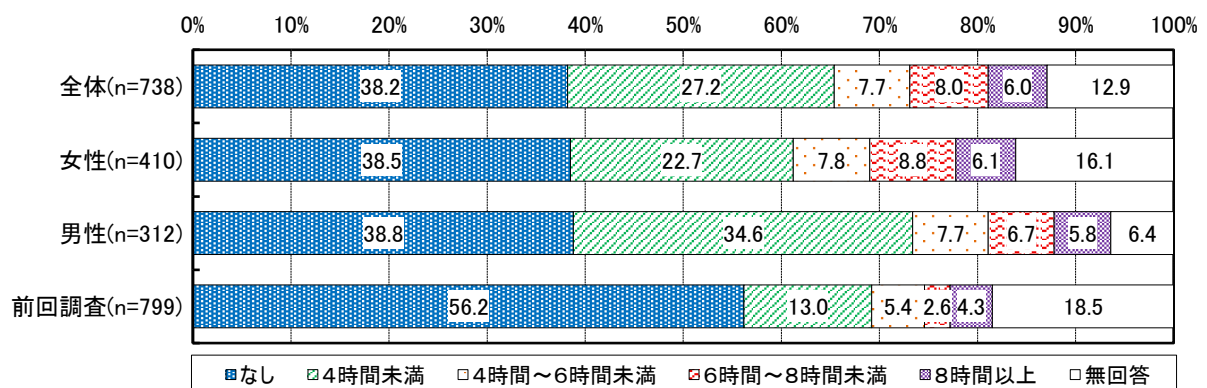
○前回の調査結果と比べると、「なし」と答える人が減っており、何らかの仕事をしている人が増えています。



(2) 仕事に要する時間：休日（○は1つ）

○休日に仕事に要する時間を尋ねたところ、「なし」が38.2%、「4時間未満」が27.2%（女性 22.7%、男性 34.6%）となっています。

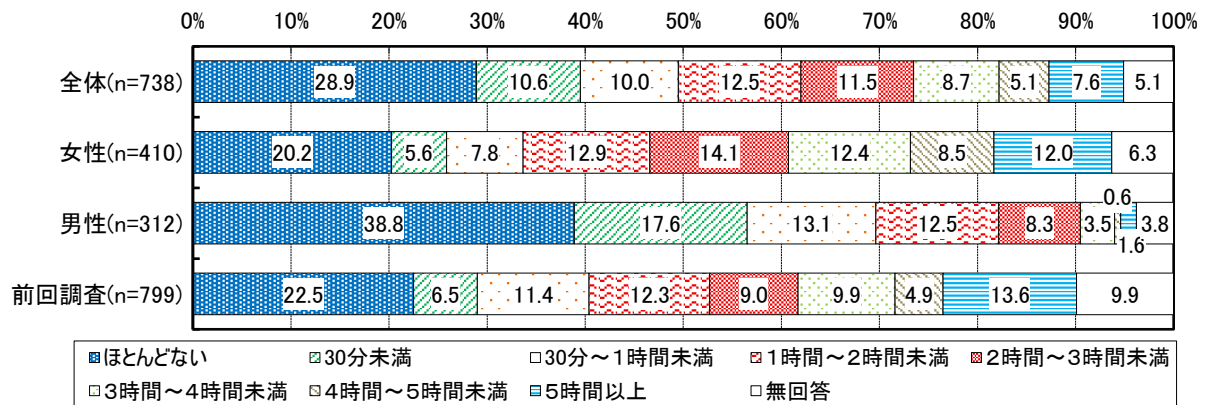
○前回の調査結果と比べると、「なし」と答える人が減っており、何らかの仕事をしている人が増えています。



(3) 家事に要する時間：平日または仕事がある日（〇は1つ）

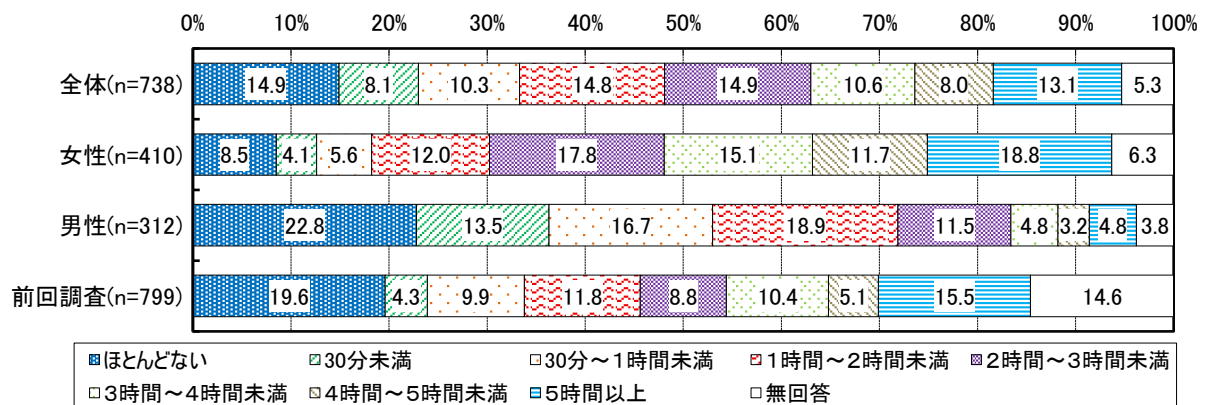
○平日または仕事がある日に家事に要する時間を尋ねたところ、「ほとんどない」が28.9%（女性 20.2%、男性 38.8%）と最も多く、次いで「1時間～2時間未満」が12.5%、「2時間～3時間未満」が11.5%などとなっています。

○前回の調査結果と比べると、「ほとんどない」と答える人が増えています。



(4) 家事に要する時間：休日（〇は1つ）

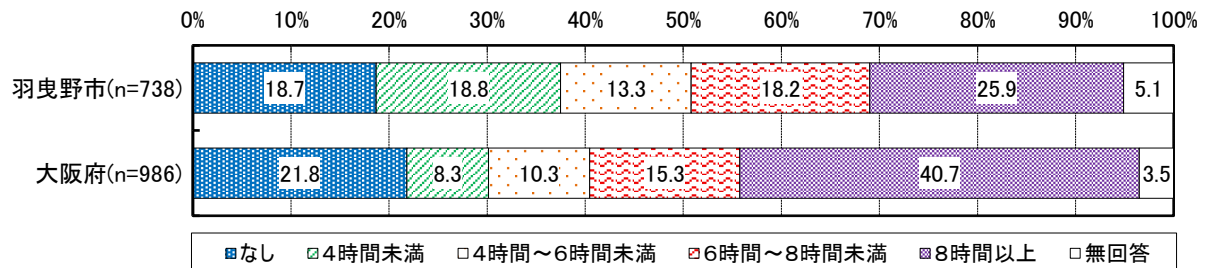
○休日に家事に要する時間を尋ねたところ、「ほとんどない」と「2時間～3時間未満」がそれぞれ14.9%、「1時間～2時間未満」が14.8%、「5時間以上」が13.1%などとなり、女性は「5時間以上」（18.8%）、男性は「ほとんどない」（22.8%）がそれぞれ最も多く見られます。



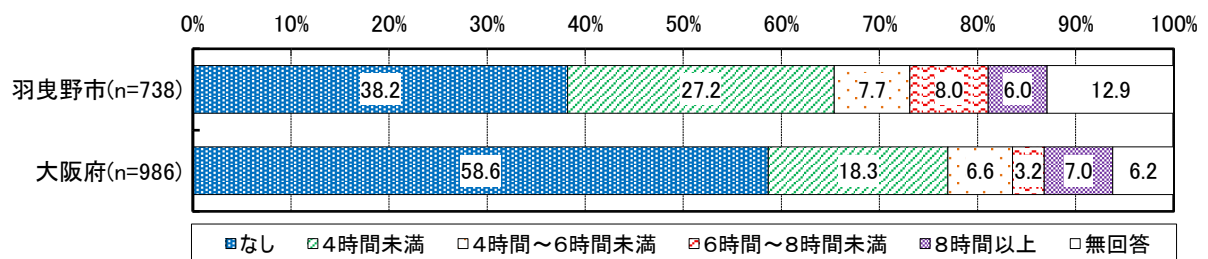
大阪府調査との比較

○大阪府調査と比べて、羽曳野市は平日に仕事に要する時間が短い一方で、休日に仕事をしている人が多く、また、平日に家事に要する時間がほとんどないという人が多く見られます。

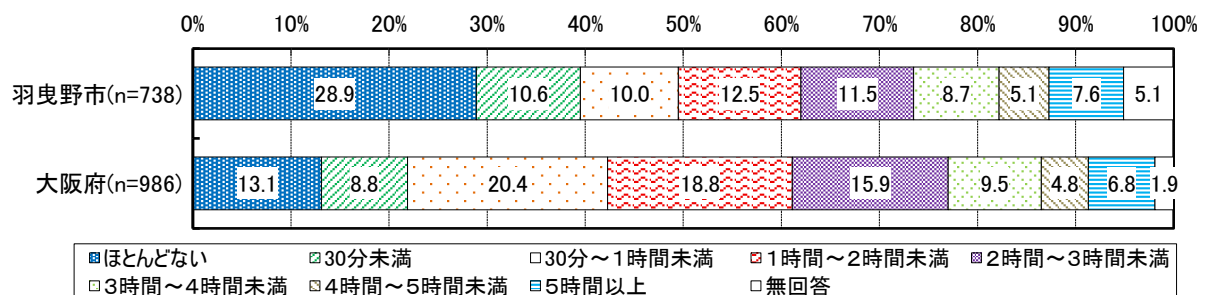
(1) 仕事に要する時間：平日または仕事がある日（○は1つ）



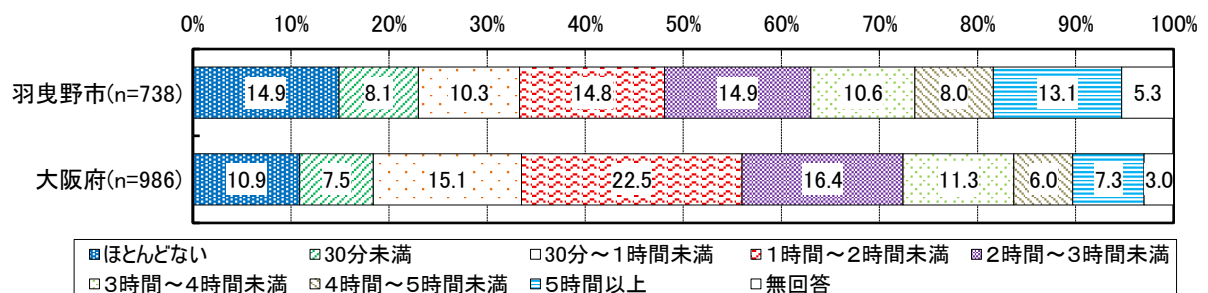
(2) 仕事に要する時間：休日（○は1つ）



(3) 家事に要する時間：平日または仕事がある日（○は1つ）



(4) 家事に要する時間：休日（○は1つ）



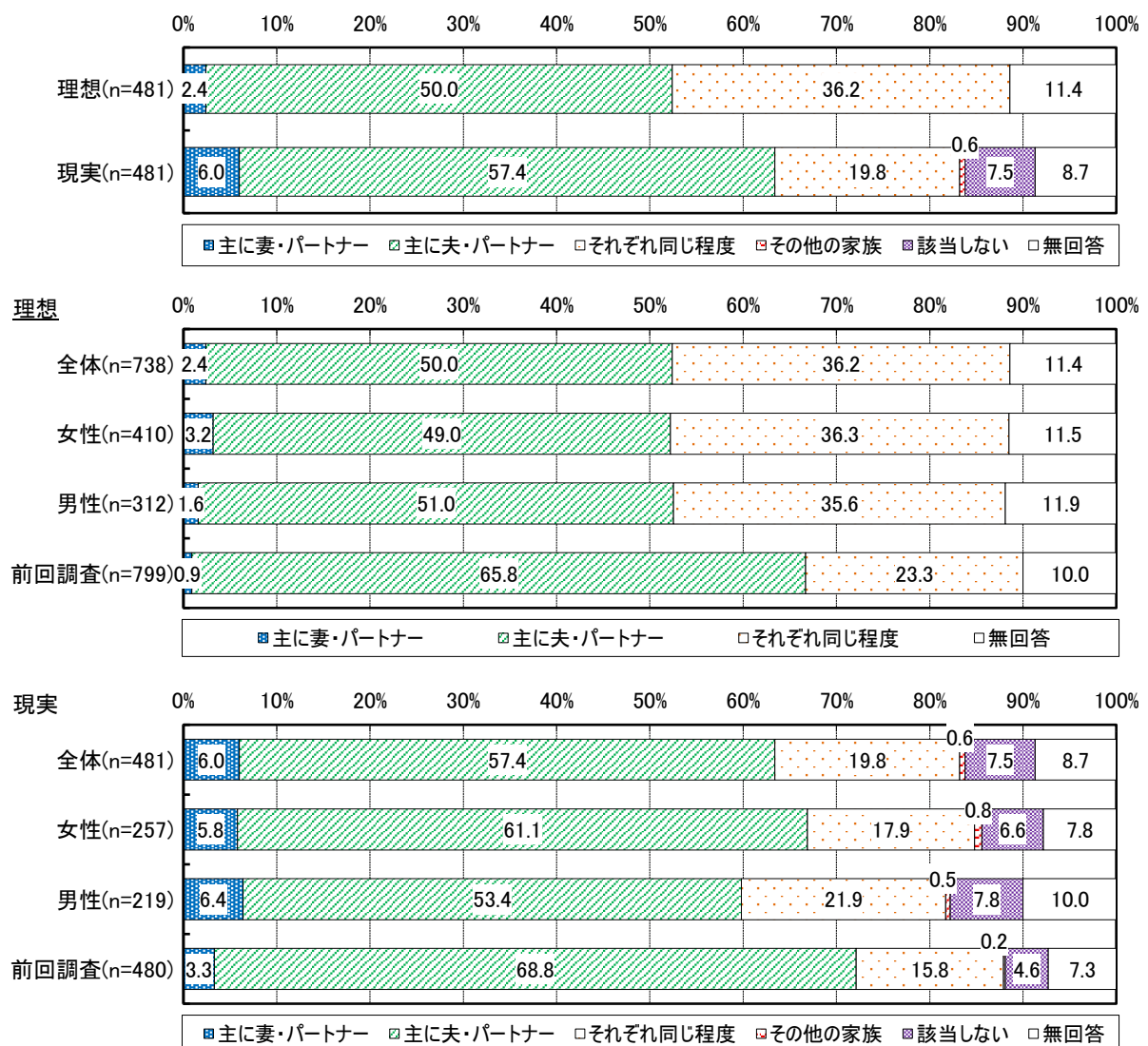
問4 家庭における役割について、あなたはどのようにするのが望ましいと思いますか。また、実際にあなたの家庭ではどのように分担していますか。(それぞれ○は1つずつ)

○家庭における役割についての『理想』を尋ねたところ、「主に妻・パートナー」と答える人が最も多いものは「炊事」(45.3%)と「洗濯」(42.8%)の2項目、「主に夫・パートナー」と答える人が最も多いものは「生活費を稼ぐ」(50.0%)のみ、残りの8項目は「それぞれ同じ程度」と答える人が最も多く見られます。

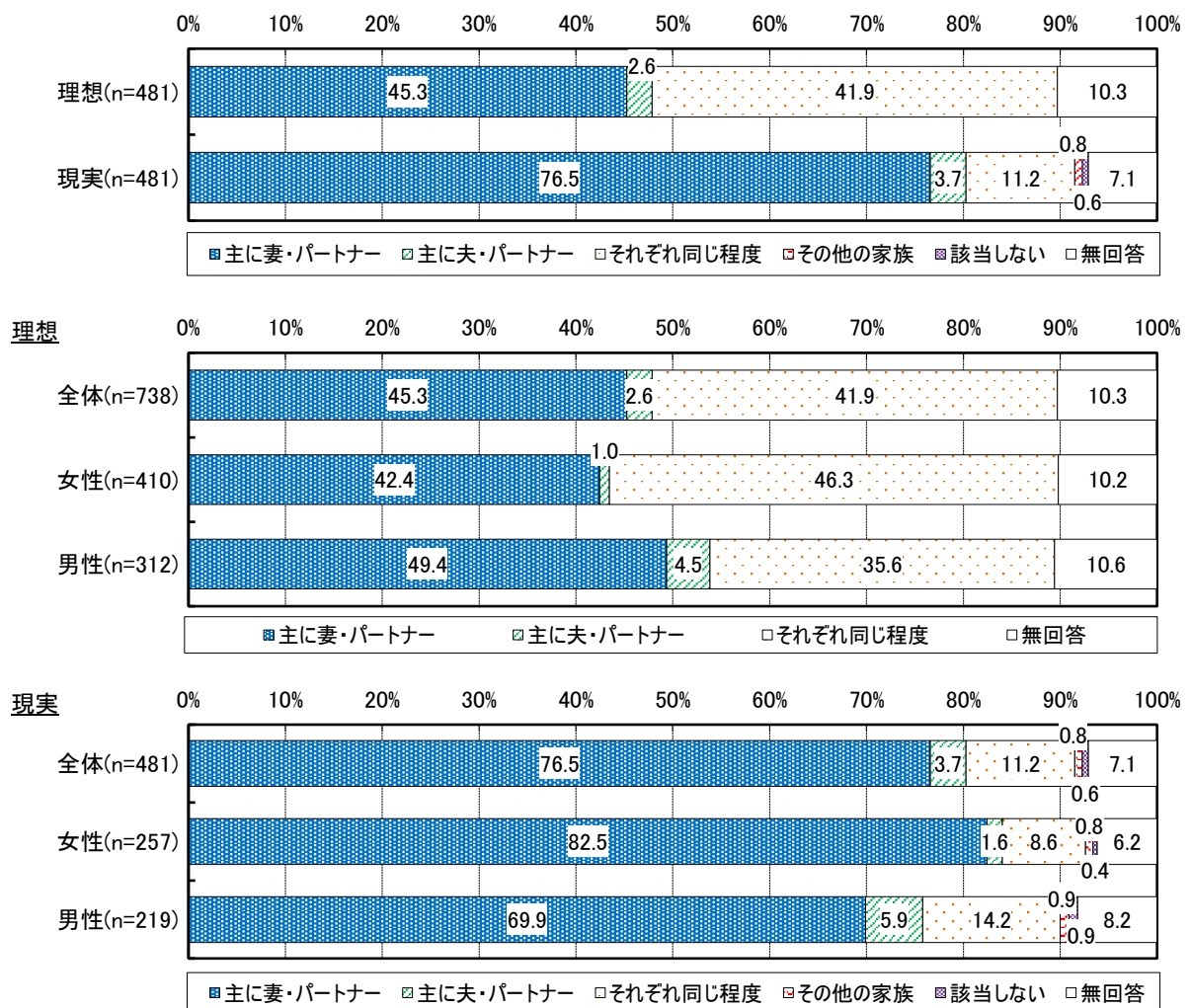
○比較可能な項目について前回の調査結果と比べると、「それぞれ同じ程度」と答える人が増えた項目は「生活費を稼ぐ」(前回23.3%→今回36.2%)、「日々の家計の管理」(30.3%→40.7%)、「育児(乳幼児の世話)」(41.3%→54.1%)などとなっています。

○家庭における役割についての『現実』を尋ねたところ、「それぞれ同じ程度」と答える人が最も多いものは「高額な物の購入の決定」(42.8%)のみ、「主に夫・パートナー」と答える人が最も多いものは「生活費を稼ぐ」(57.4%)のみ、残りの9項目は「主に妻・パートナー」と答える人が最も多く見られます。

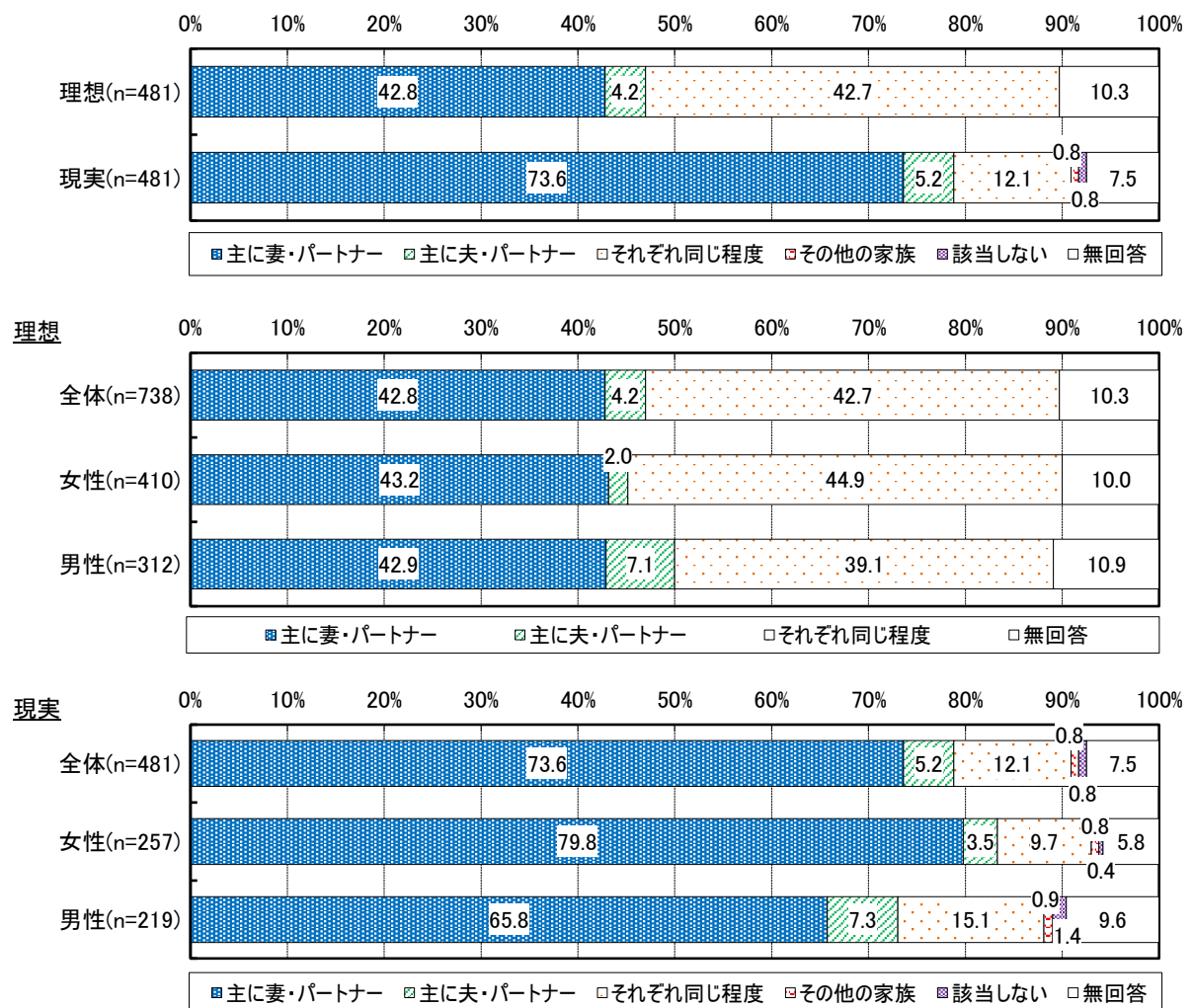
(1) 生活費を稼ぐ



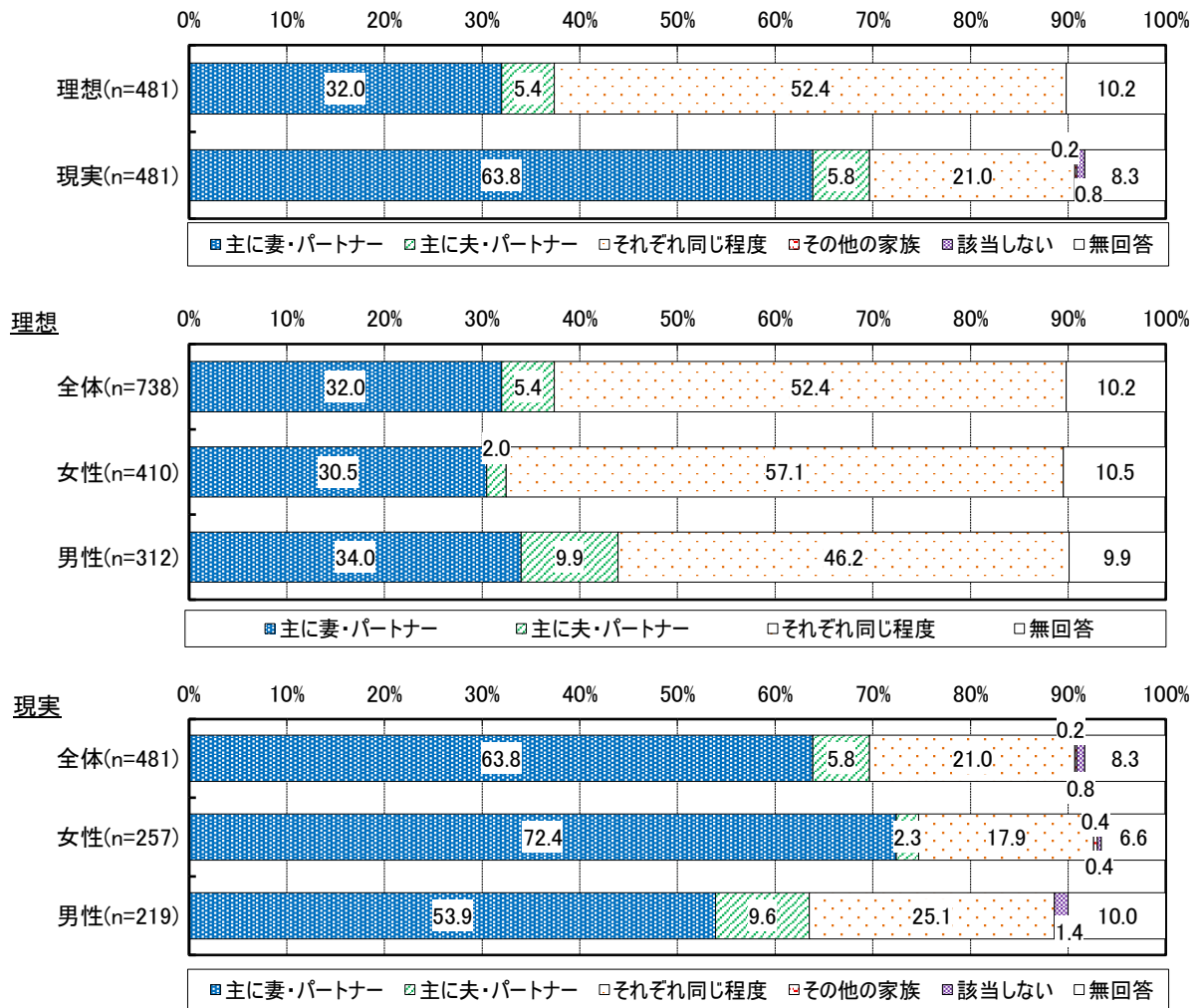
(2) 炊事



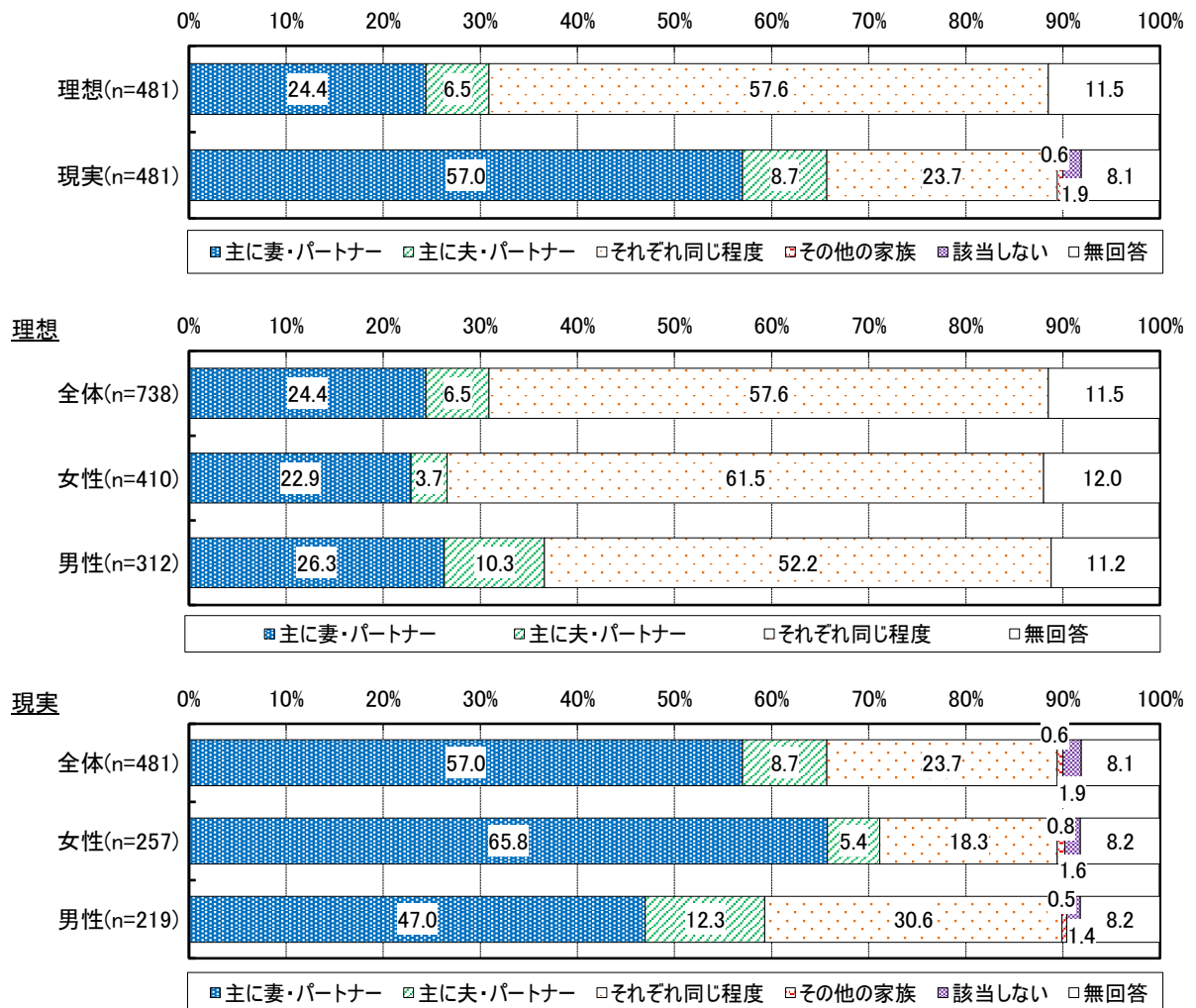
(3) 洗濯



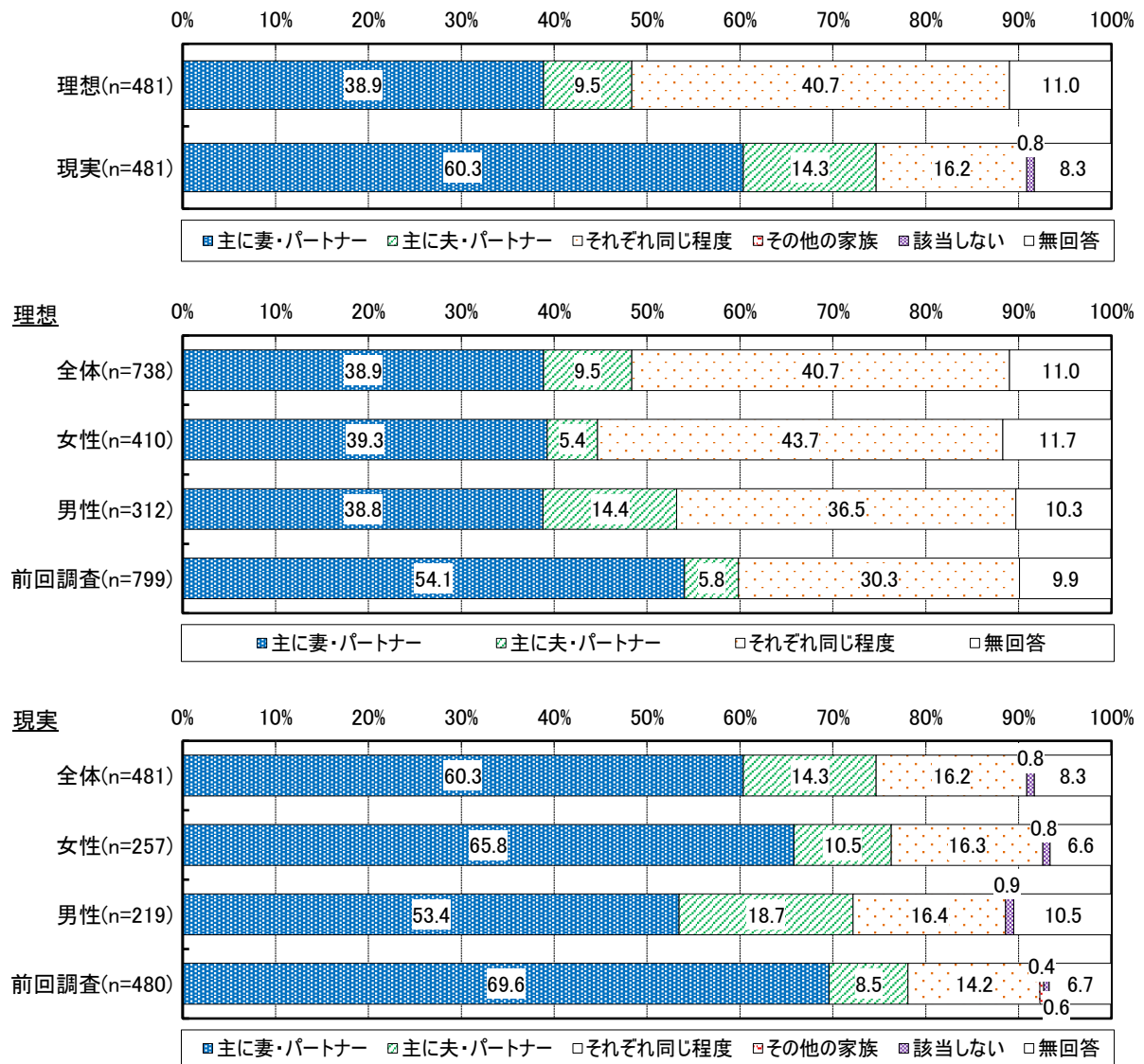
(4) 掃除



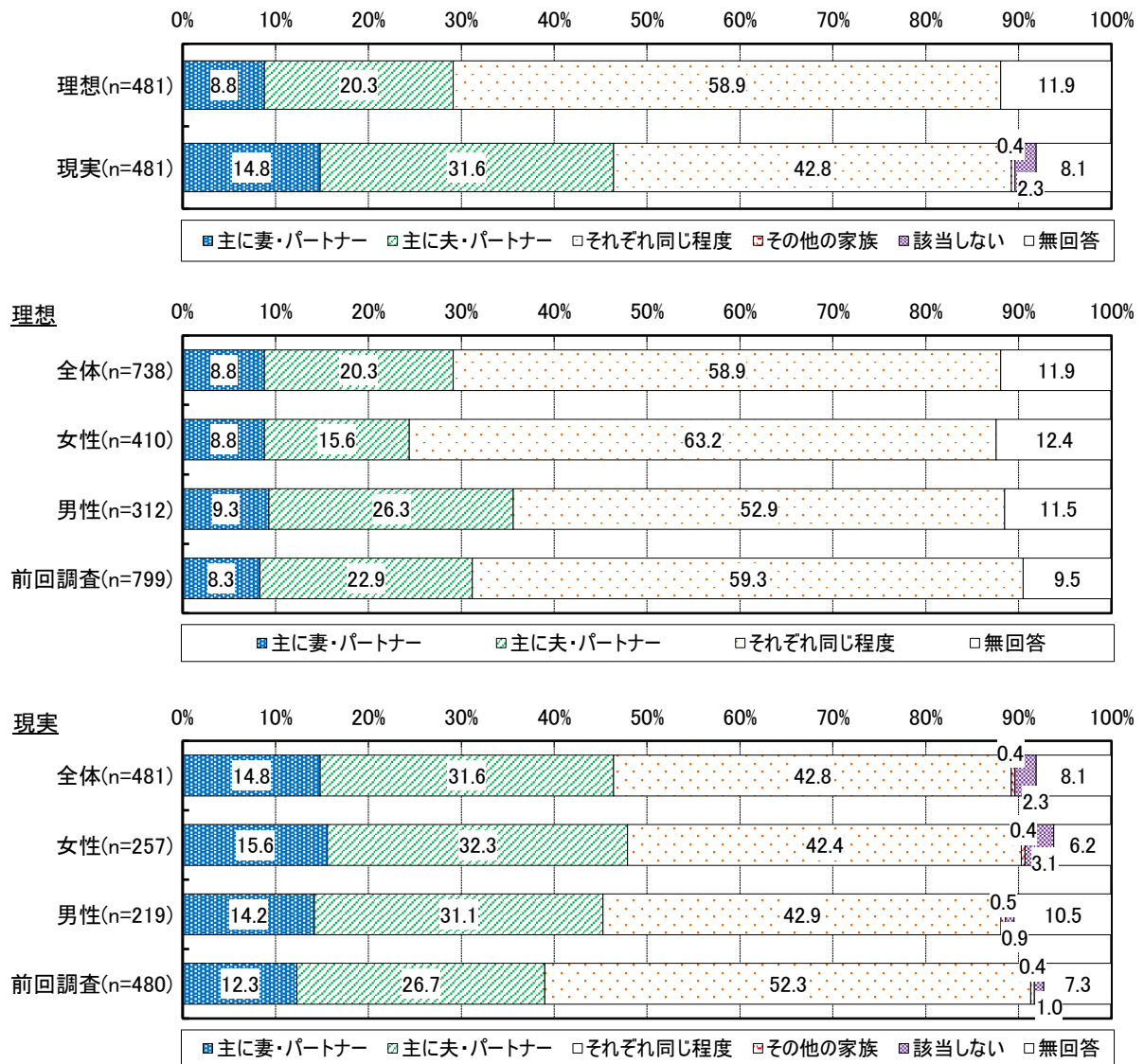
(5) その他の家事



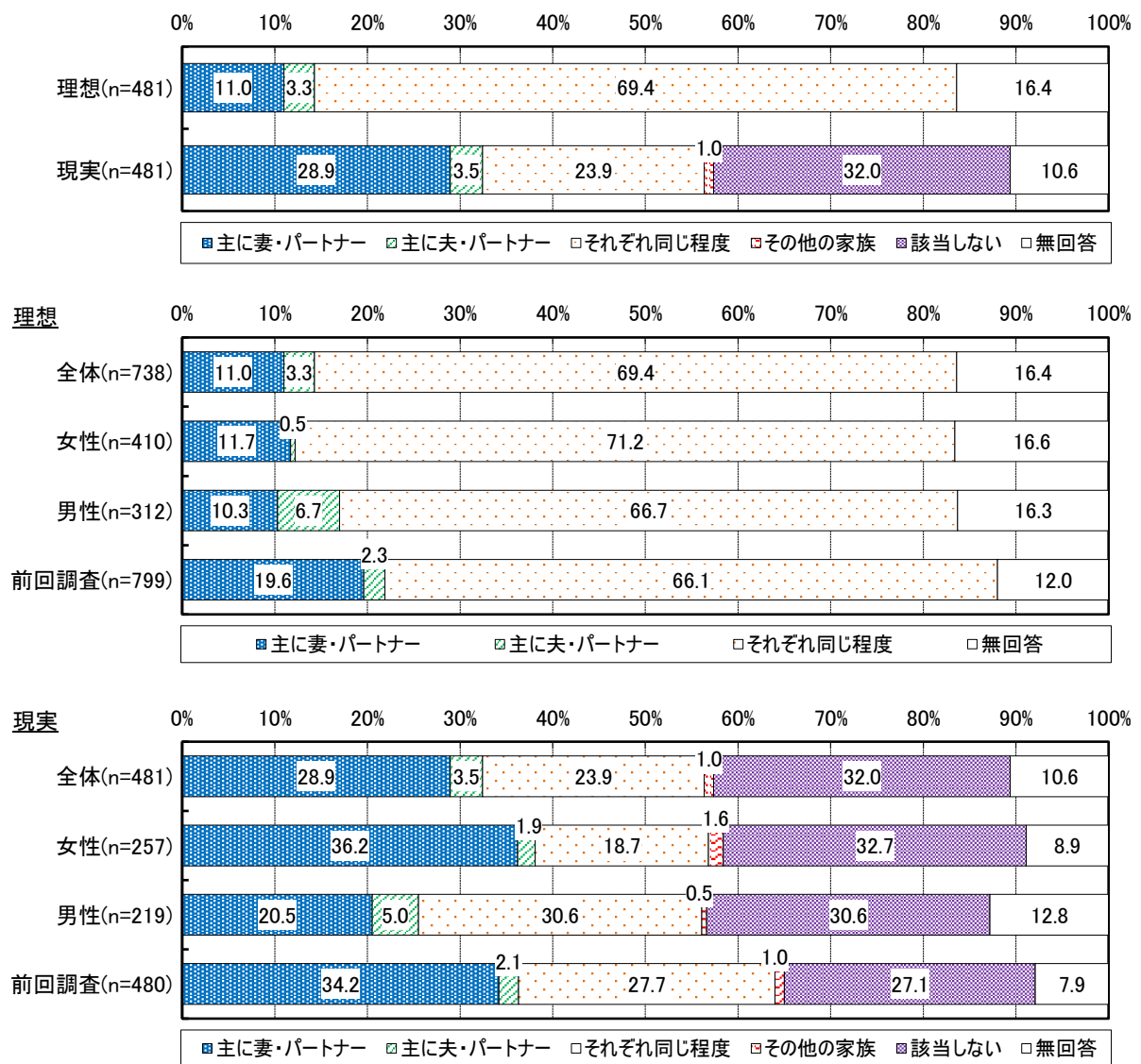
(6) 日々の家計の管理



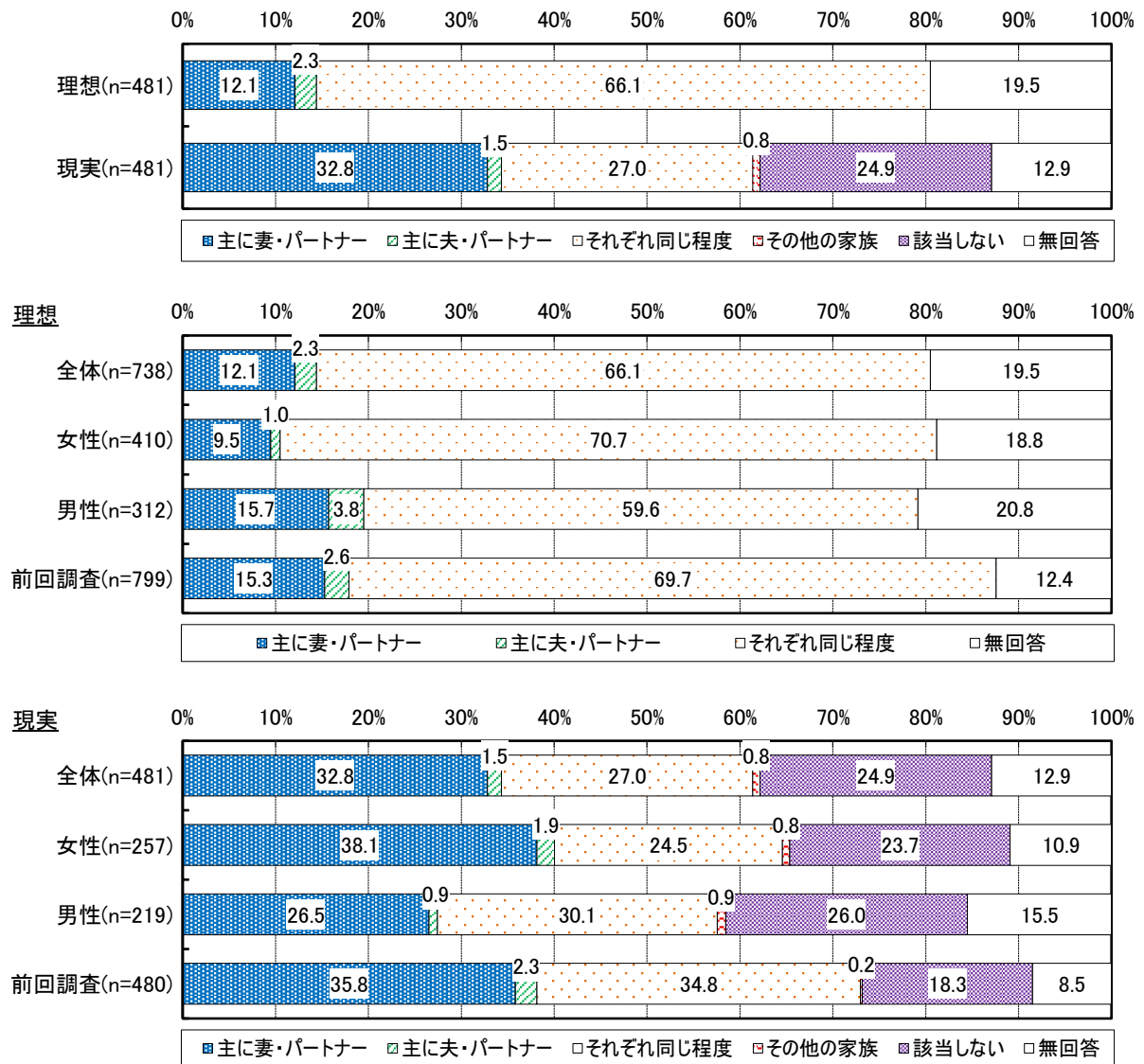
(7) 高額な物の購入の決定



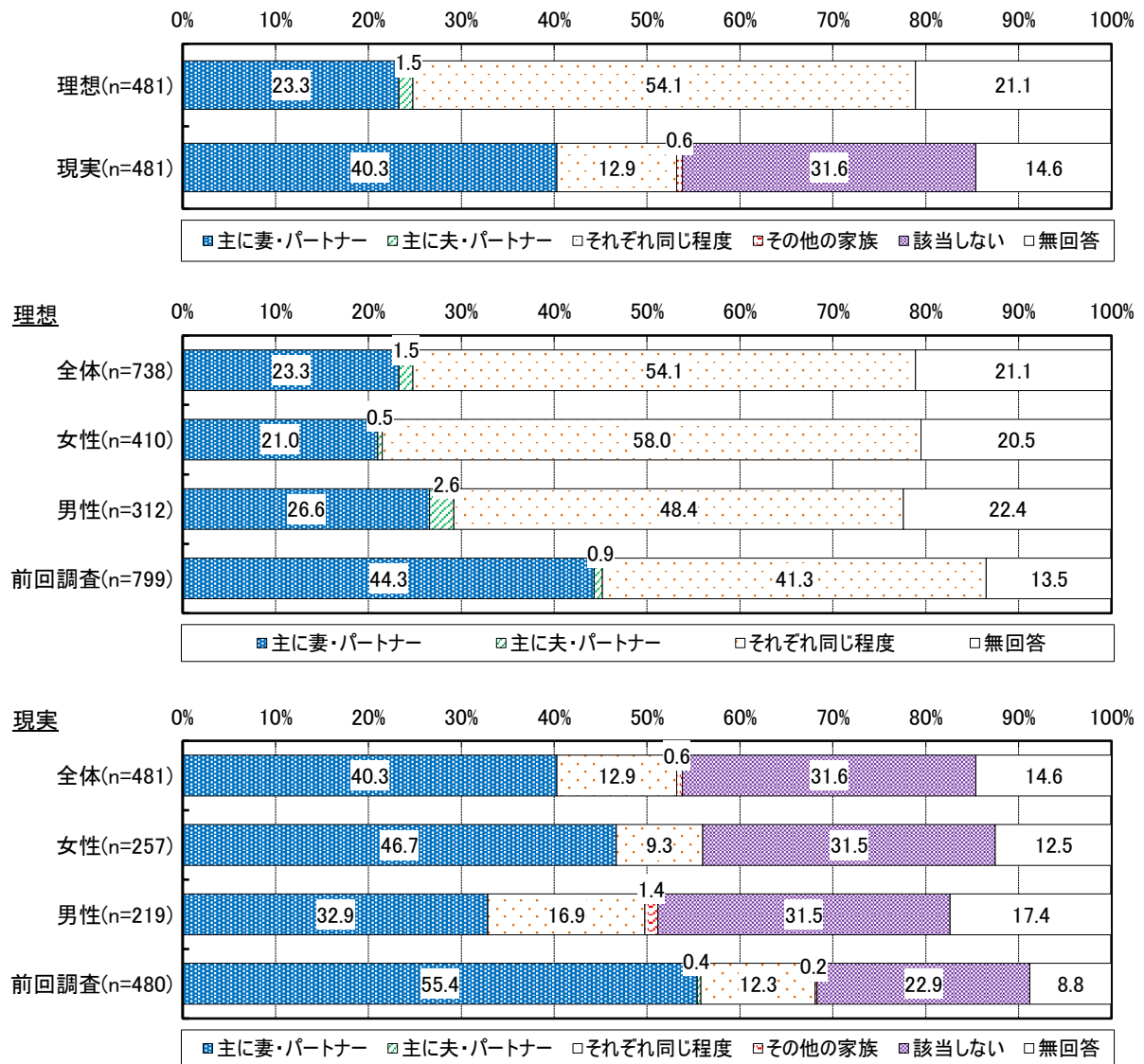
(8) 高齢者、病気の人の介護・看護



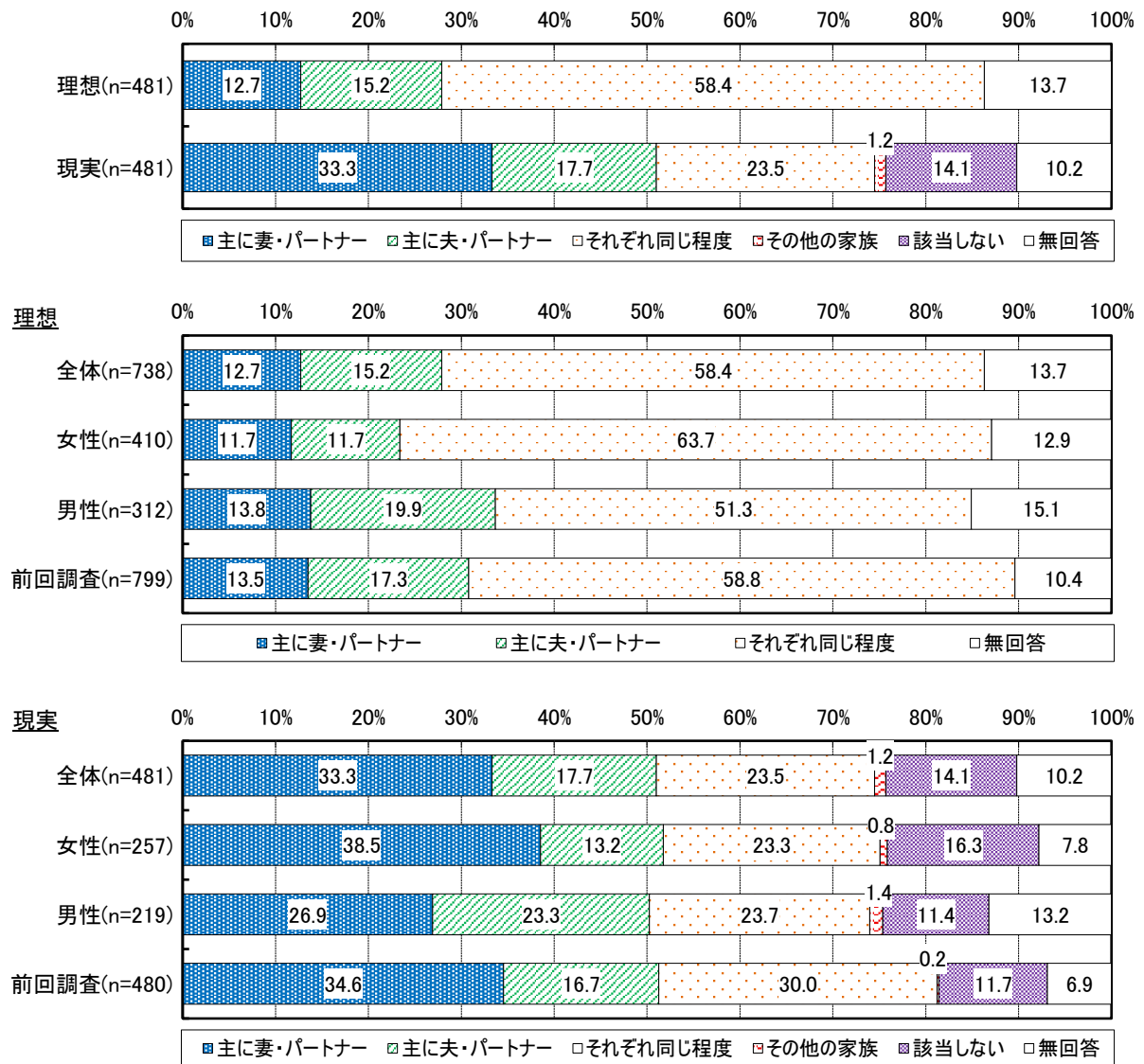
(9) 子どもの教育としつけ



(10) 育児（乳幼児の世話）

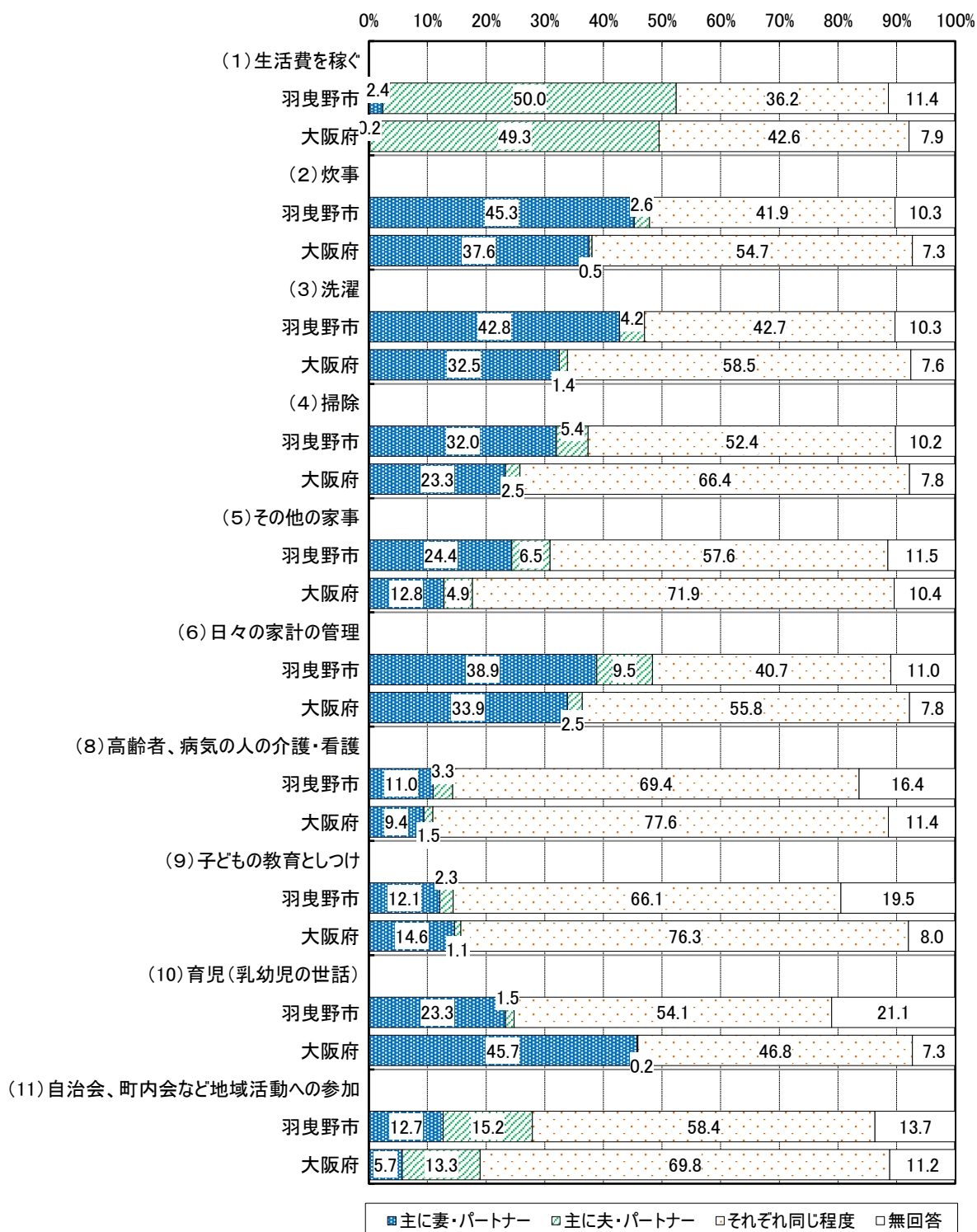


(11) 自治会、町内会など地域活動への参加



大阪府調査との比較

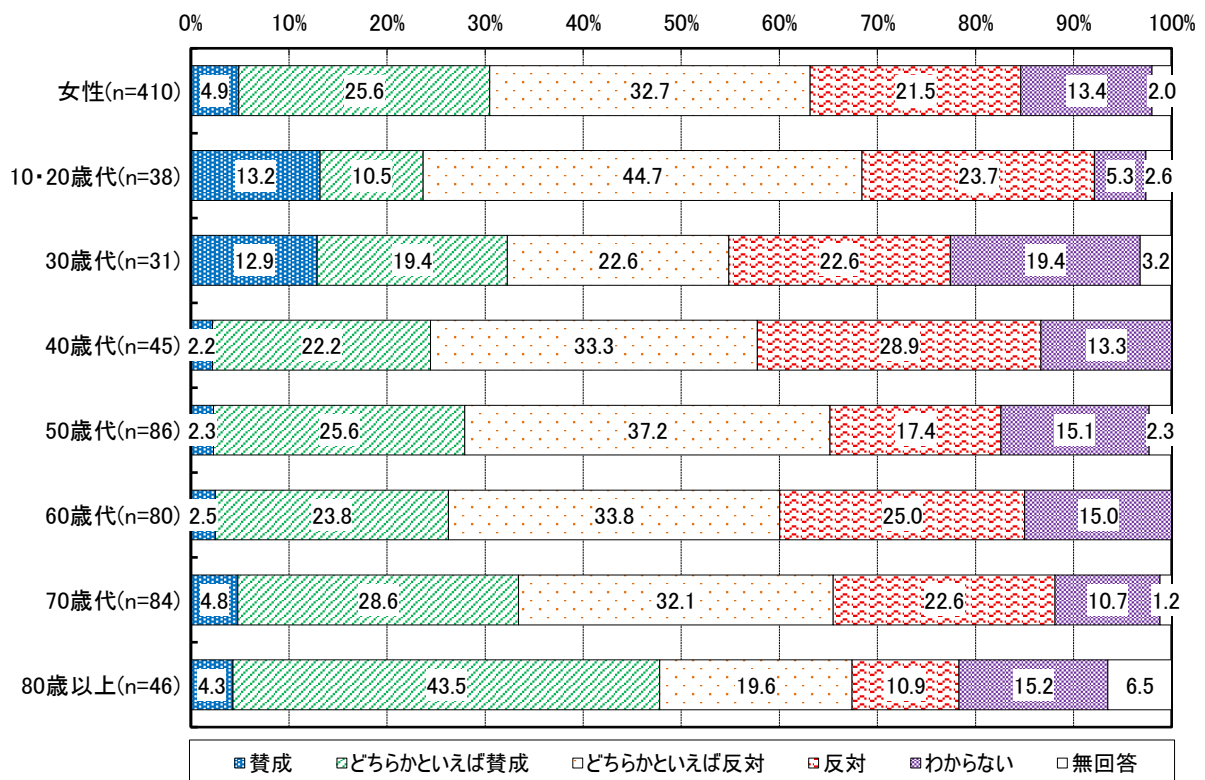
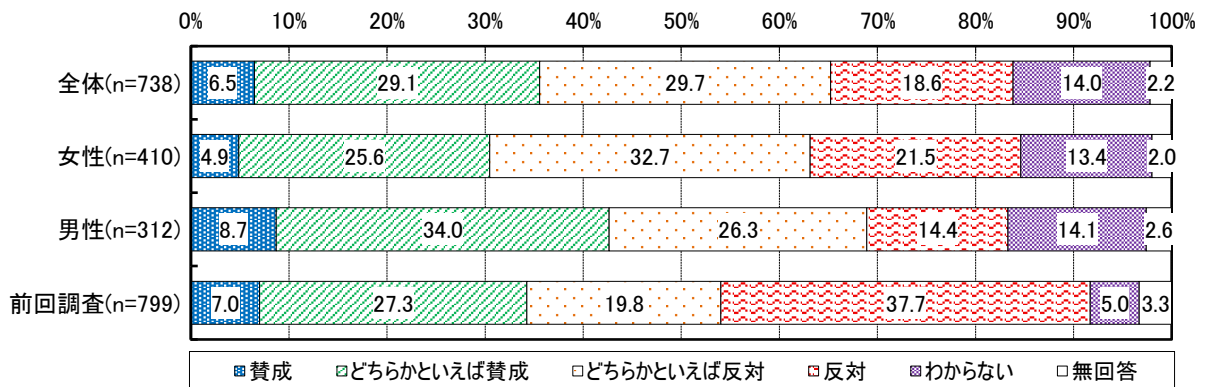
○大阪府調査と比べて、炊事・洗濯・掃除などの家事や家計の管理で女性の役割という人が多くなっています。

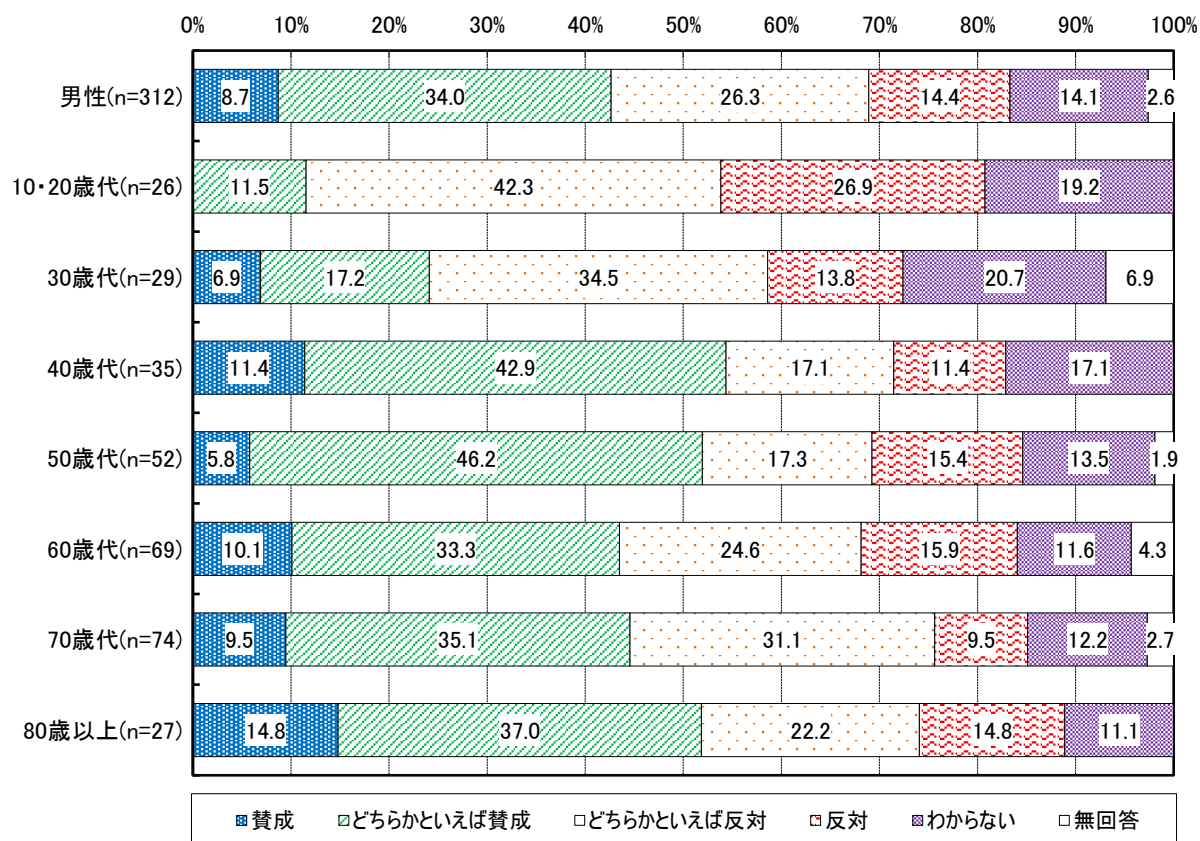


※羽曳野市(n=738)、大阪府(n=986)。大阪府の選択肢との対応は『主に妻・パートナー』＝「主に女性の役割」＋「どちらかといえば女性の役割」、『主に夫・パートナー』＝「主に男性の役割」＋「どちらかといえば男性の役割」、『それぞれ同じ程度』＝「両方同じ程度の役割」、『無回答』＝「いずれにも該当しない」＋「無回答」の順。

問5 あなたは「男は仕事、女は家庭」という考え方（性別役割分担意識）について、どう思いますか。（○は1つ）

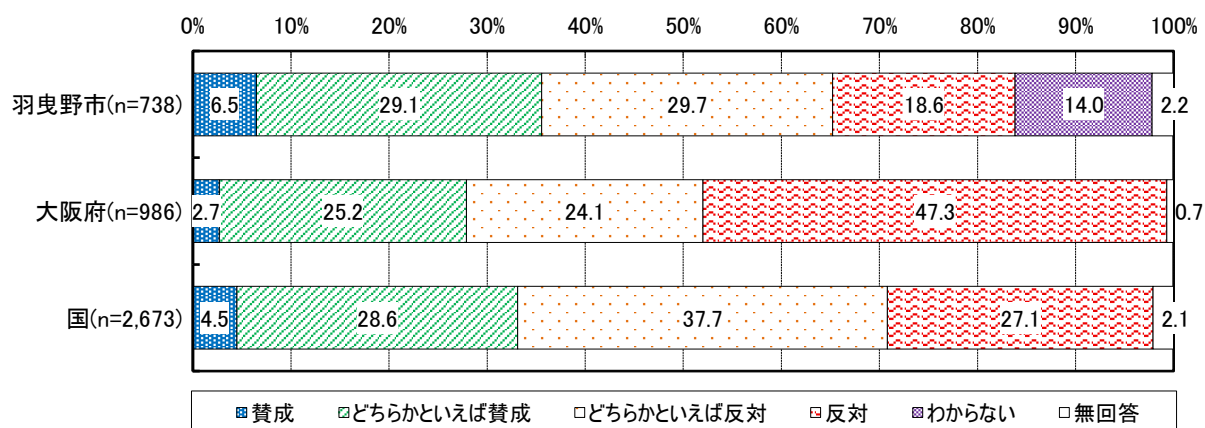
- 「反対」（18.6%）と「どちらかといえば反対」（29.7%）を合わせて性別役割分担意識について反対する人が48.3%、「賛成」（6.5%）と、「どちらかといえば賛成」（29.1%）を合わせて性別役割分担意識について賛成する人が35.6%となっています。
- 性別でみると、女性は30.5%が賛成、54.2%が反対、男性は42.7%が賛成、40.7%が反対と意見が分かれています。
- 前回の調査結果と比べると、性別役割分担意識について反対する人は前回の57.5%から今回の48.3%へ減っています。





国調査・大阪府調査との比較

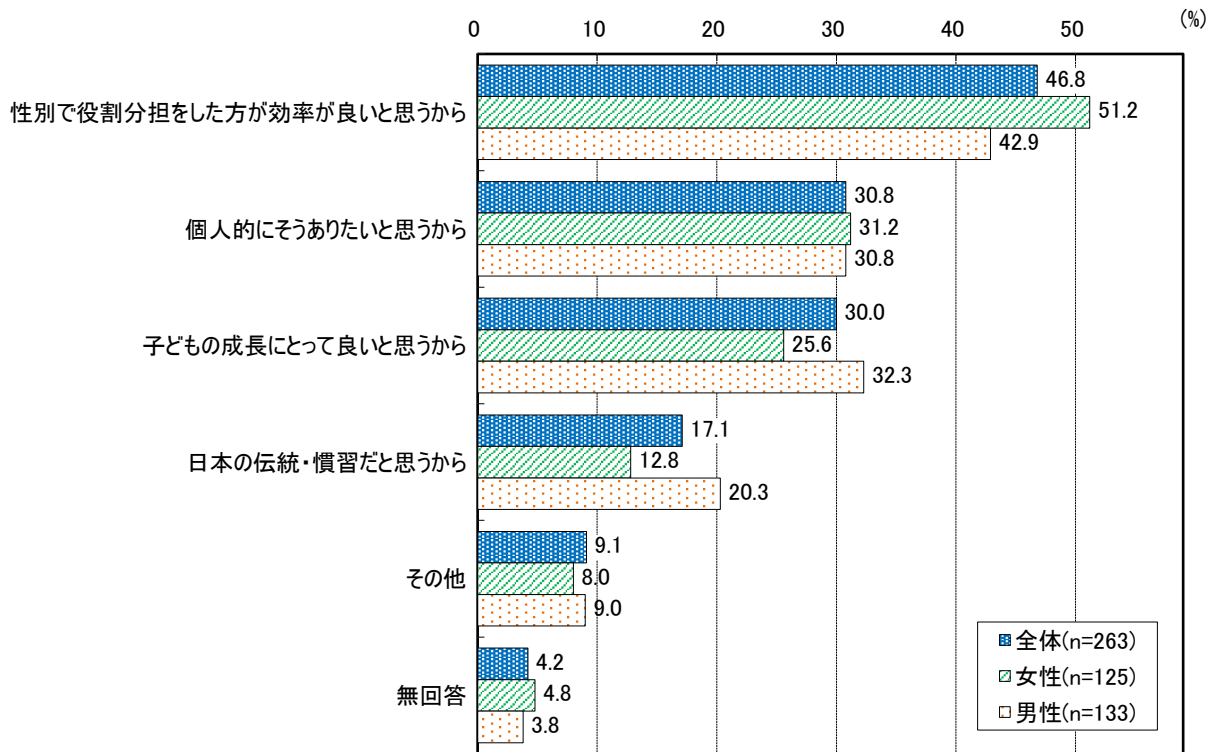
○考え方に賛同する人は大阪府や国調査より多く見られます。



※国と大阪府の選択肢は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」で「わからない」は未設定。

問5-1 賛成と思う理由を教えてください。(〇はいくつでも)

○性別役割分担意識について賛成する人にその理由を尋ねたところ、「性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから」が46.8%（女性は51.2%）と最も多く、次いで「個人的にそうありたいと思うから」が30.8%、「子どもの成長にとって良いと思うから」が30.0%となっています。

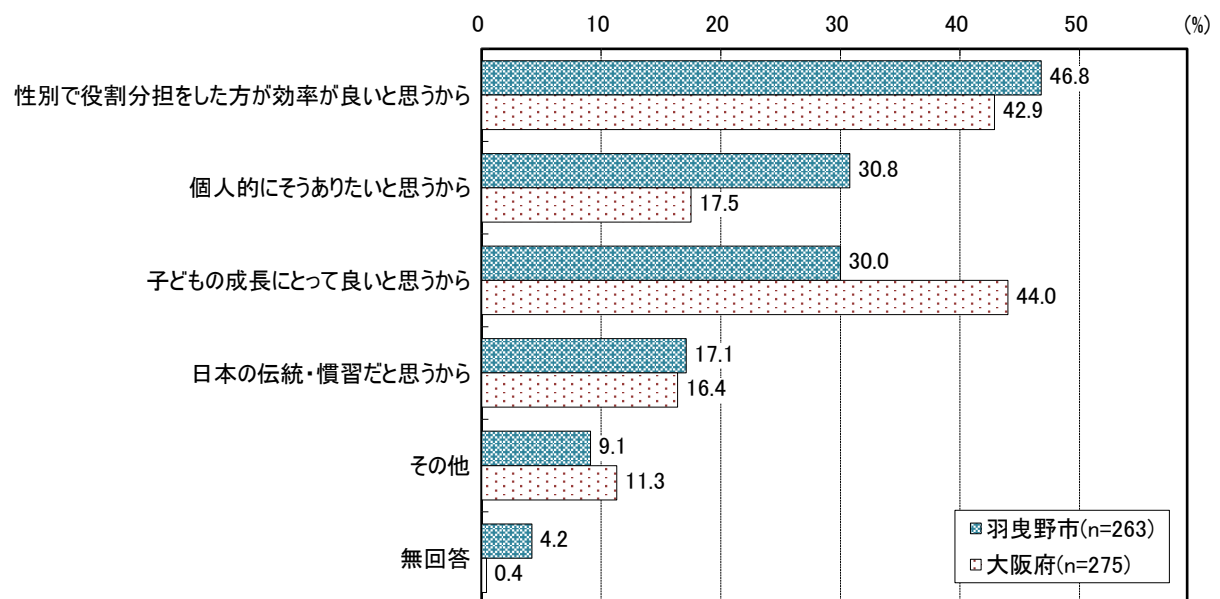


《選択肢「その他」の主な記述内容》

- ・ 男は仕事で生活を安定させ、女は家庭を守ることで安定できる。
- ・ 男女に限らず得手不得手があるのでお互い得意なことを活かせる分担が理想だと思います。
- ・ 家庭と子どもの成長には、母親の愛情が不可欠であるから。
- ・ 収入が男と女では差があるから。
- ・ 配偶者がそうありたいと望むから。

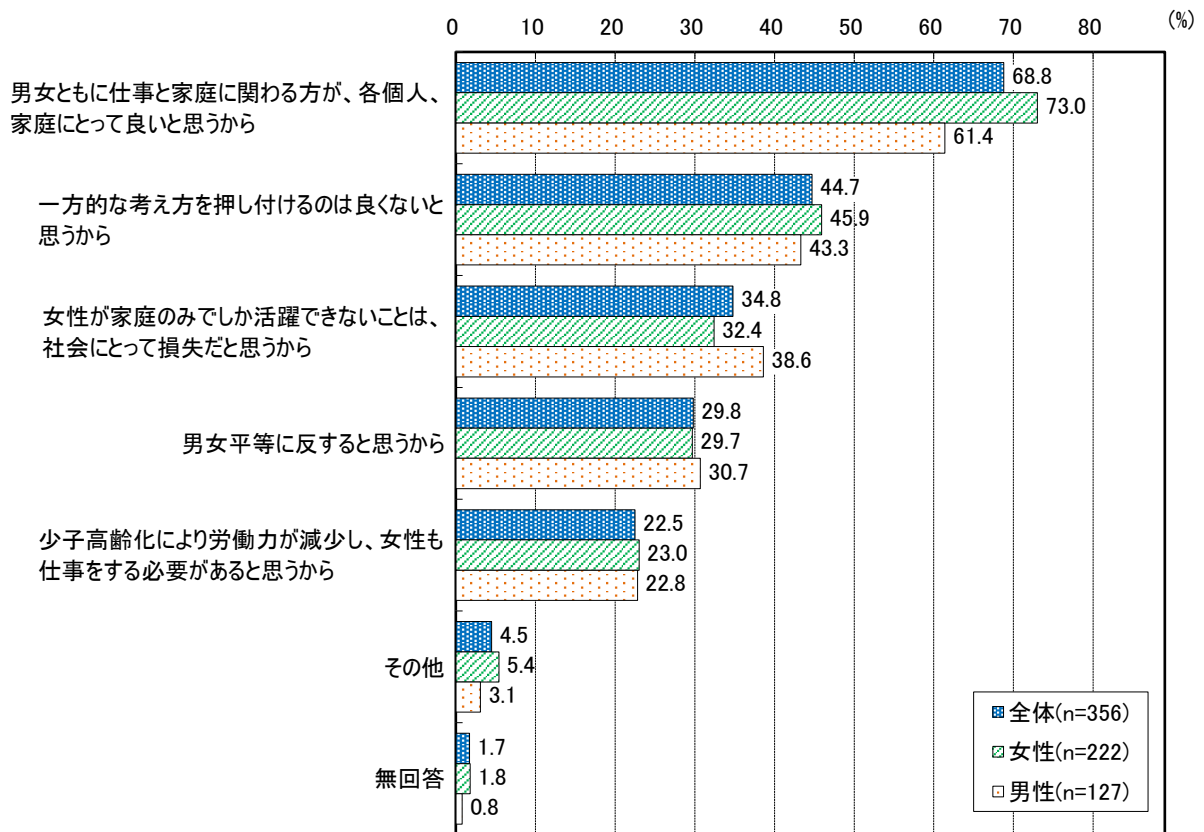
大阪府調査との比較

○大阪府調査と比べて、「個人的にそうありたいと思うから」と答える人が多く、「子どもの成長にとって良いと思うから」と答える人が少なくなっています。



問5-2 反対と思う理由を教えてください。(〇はいくつでも)

○性別役割分担意識について反対する人にその理由を尋ねたところ、「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が68.8%（女性は73.0%）と最も多く、次いで「一方的な考え方を押し付けるのは良くないと思うから」が44.7%、「女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとって損失だと思うから」が34.8%などとなっています。

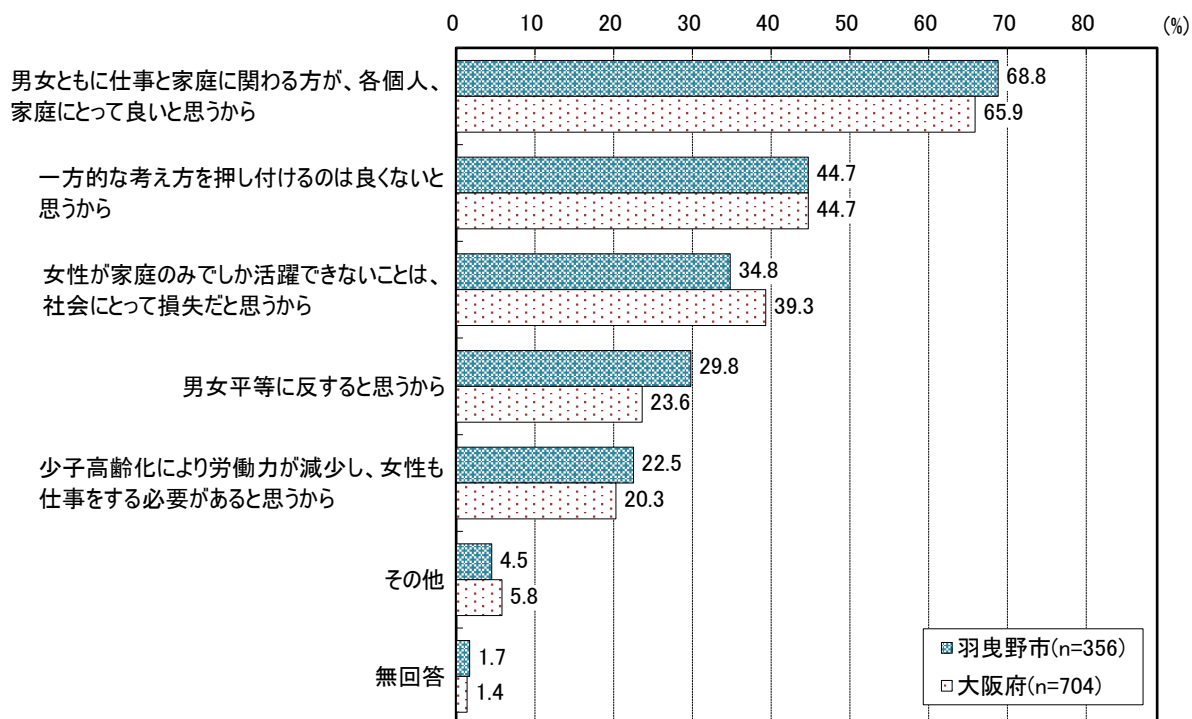


《選択肢「その他」の主な記述内容》

- ・男女ともに仕事をしている方がいいと思う。
- ・それぞれの特性を生かせば男も女も関係ないと思うから。
- ・女が仕事、男が家庭でもよいと思う。
- ・育児や仕事において女性しかできないこともあると思うから男女平等というのは難しいかもしれないけれど、男性側もいろんな面でサポートなどではできると思うから。
- ・生活費がかかりすぎるから。

大阪府調査との比較

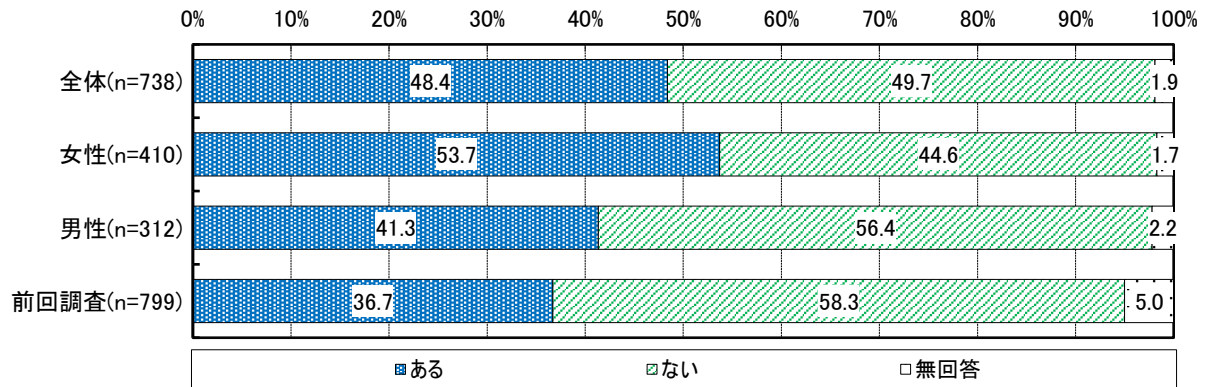
○おおむね大阪府調査と同様の傾向となっています。



問6 あなたは、家族・親族の介護をしたことがありますか。(○は1つ)

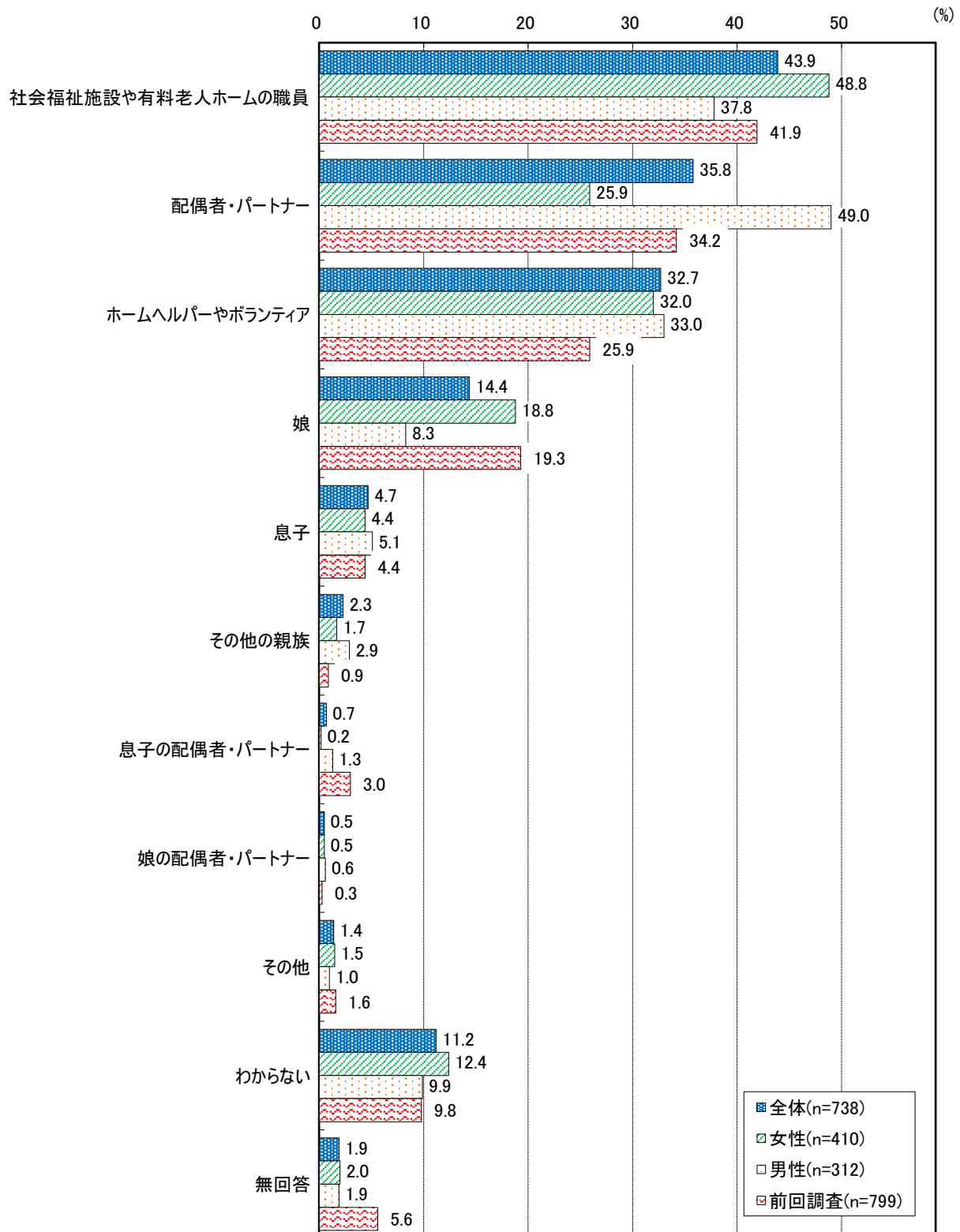
○「ある」が48.4%、「ない」が49.7%と二分されますが、性別でみると、女性は「ある」が53.7%、男性は「ない」が56.4%となっています。

○前回の調査結果と比べると、「ある」と答える人が前回の36.7%から今回の48.4%へ増えています。



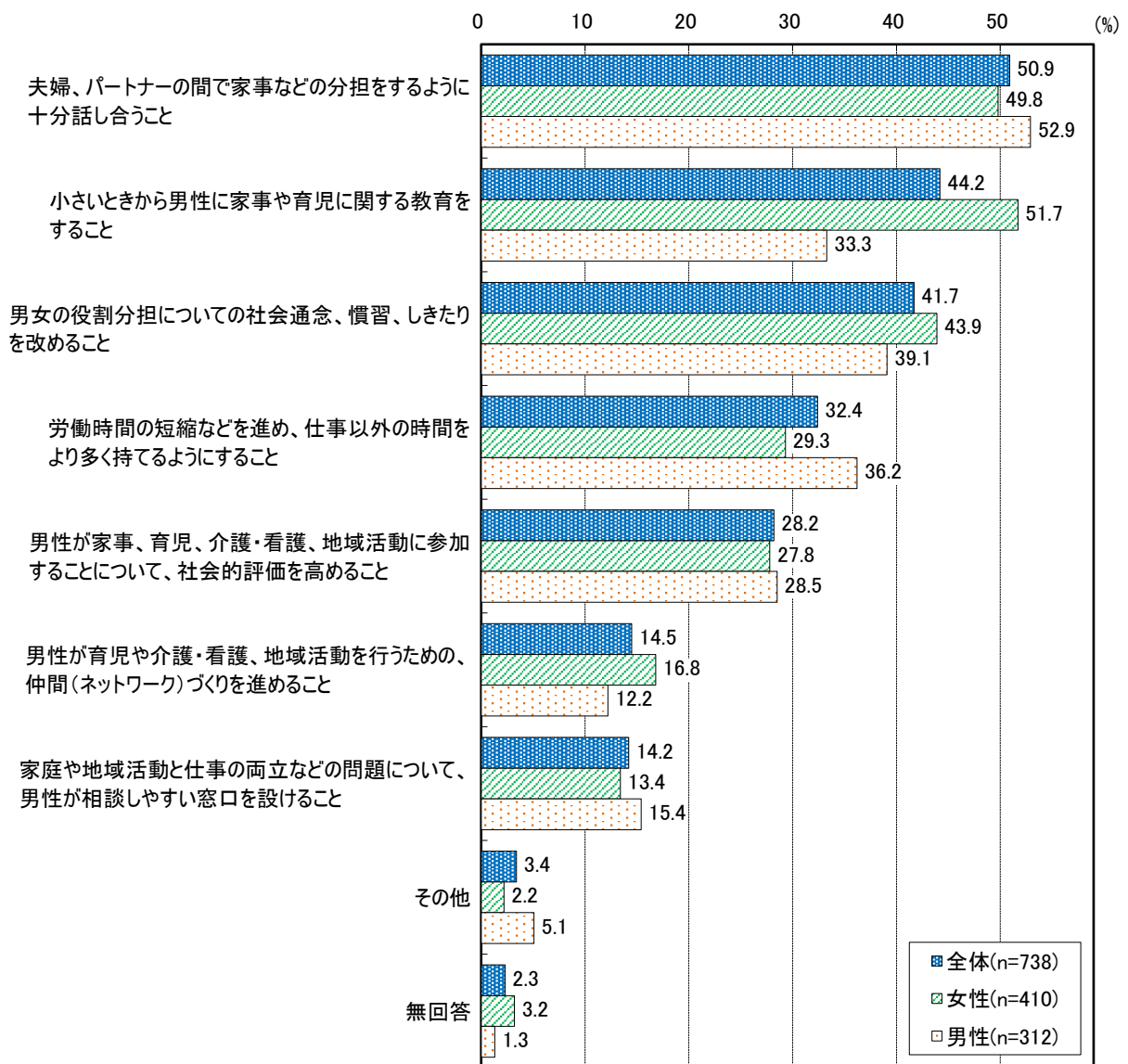
問7 あなた自身に介護が必要となった場合、誰に介護をしてほしいと思いますか。現在の状況にかかわらず、ご希望をお答えください。(〇は2つまで)

○「社会福祉施設や有料老人ホームの職員」が43.9%（女性は48.8%）と最も多く、次いで「配偶者・パートナー」が35.8%（男性は49.0%）、「ホームヘルパーやボランティア」が32.7%、「娘」が14.4%などとなっています。



問8 今後、男性が家事、育児、介護・看護、地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

○「夫婦、パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」が50.9%と最も多く、次いで「小さいときから男性に家事や育児に関する教育をすること」が44.2%（女性は51.7%）、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が41.7%、「労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が32.4%、「男性が家事、育児、介護・看護、地域活動に参加することについて、社会的評価を高めること」が28.2%などとなっています。

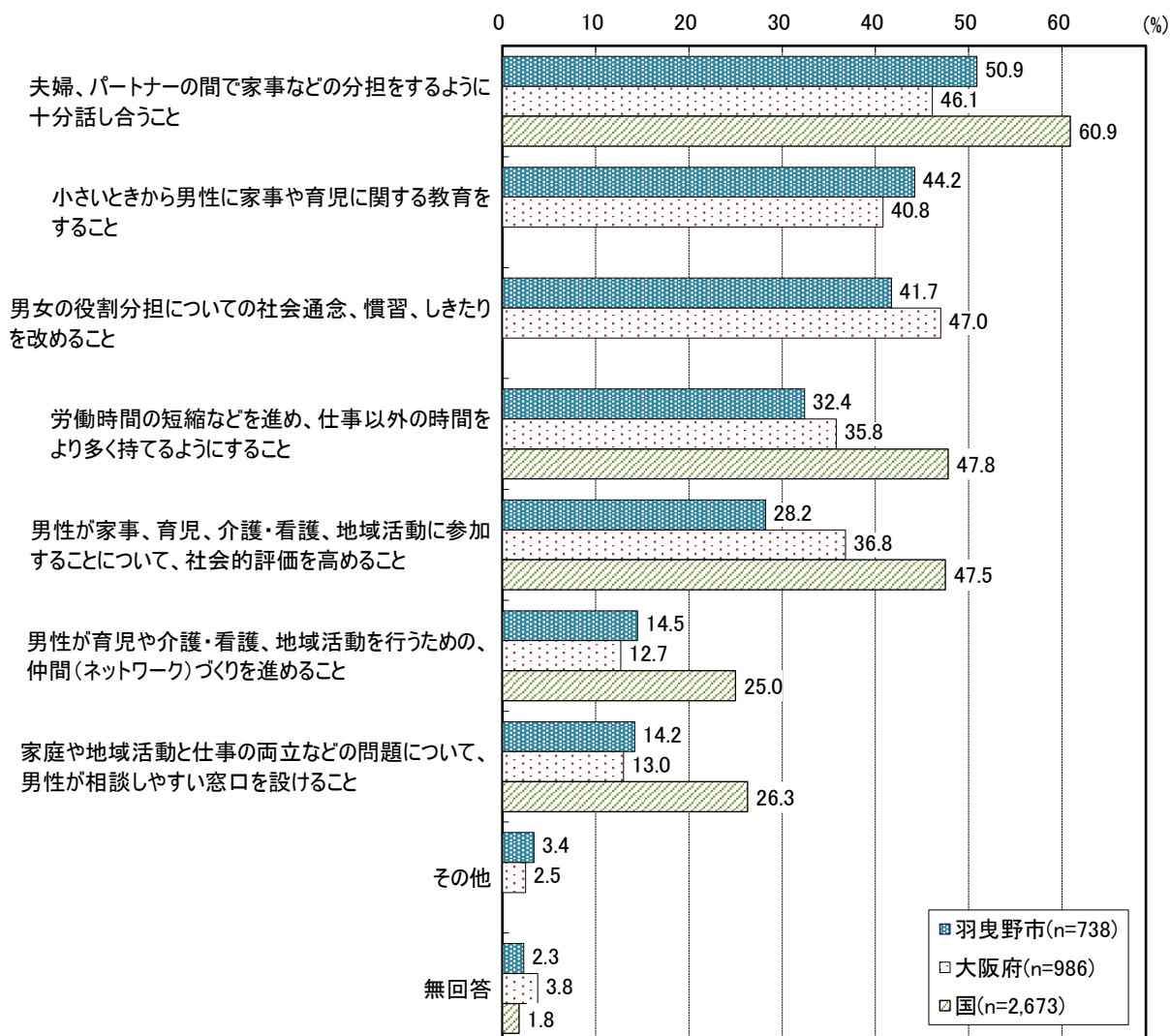


《選択肢「その他」の主な記述内容》

- ・労働時間が短くても生活できるだけの経済的余裕を持つこと。
- ・休暇が取れること、収入が保障されること。
- ・給料や会社での評価が変わらないこと。
- ・育休をきちんと取り、仕事にも戻りやすくする。
- ・男性を家事・育児するよう教育を。女がしないとイケないという男性の意識を変えること。

大阪府調査との比較

○割合の違いはありますが、おおむね国や大阪府調査と同じ傾向にあります。

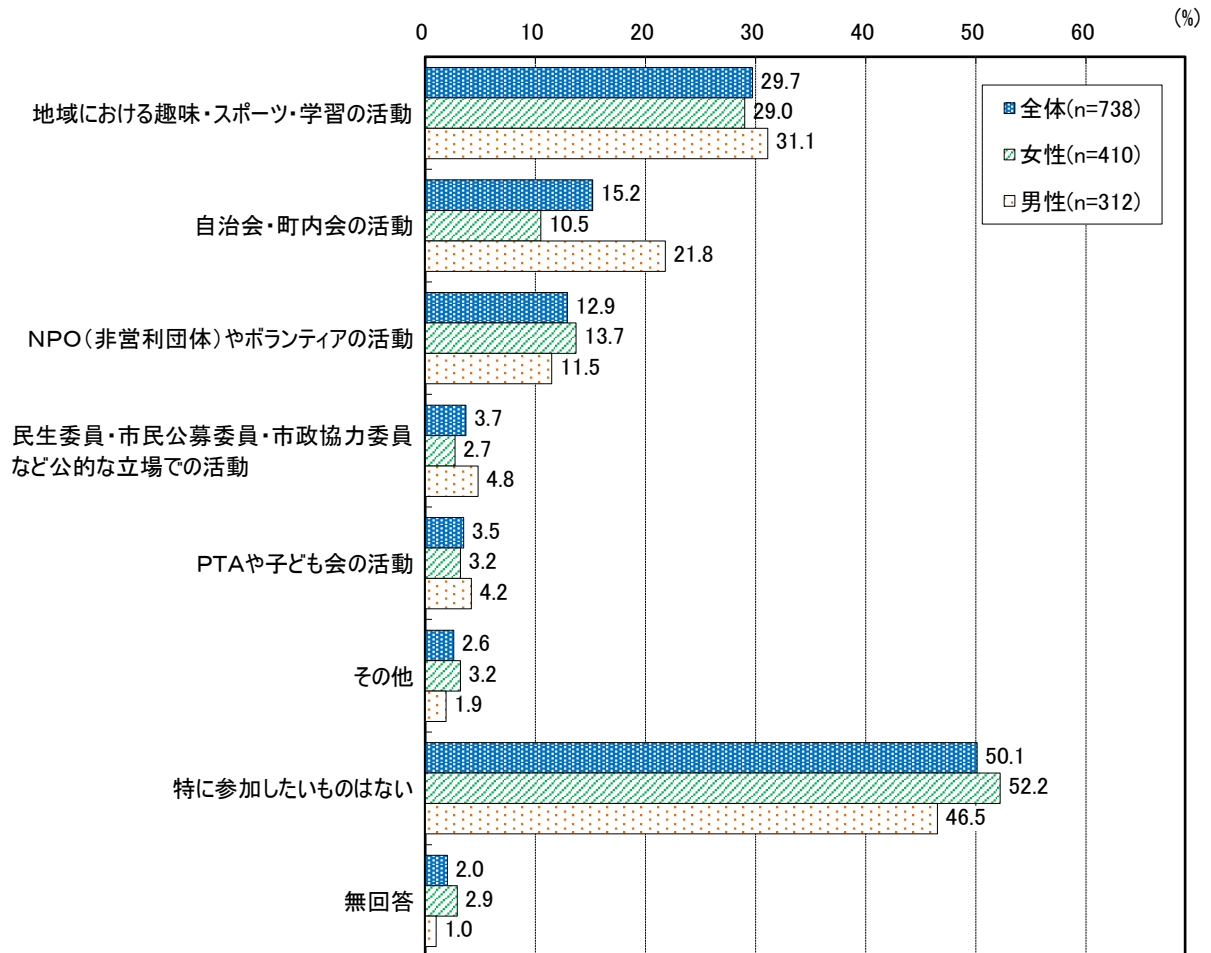


※国調査は比較可能な選択肢のみ紹介。また、国調査については回答指定数は設定していない。

問9 次の社会的な活動について今後参加したいと思うものがありますか。(〇はいくつでも)

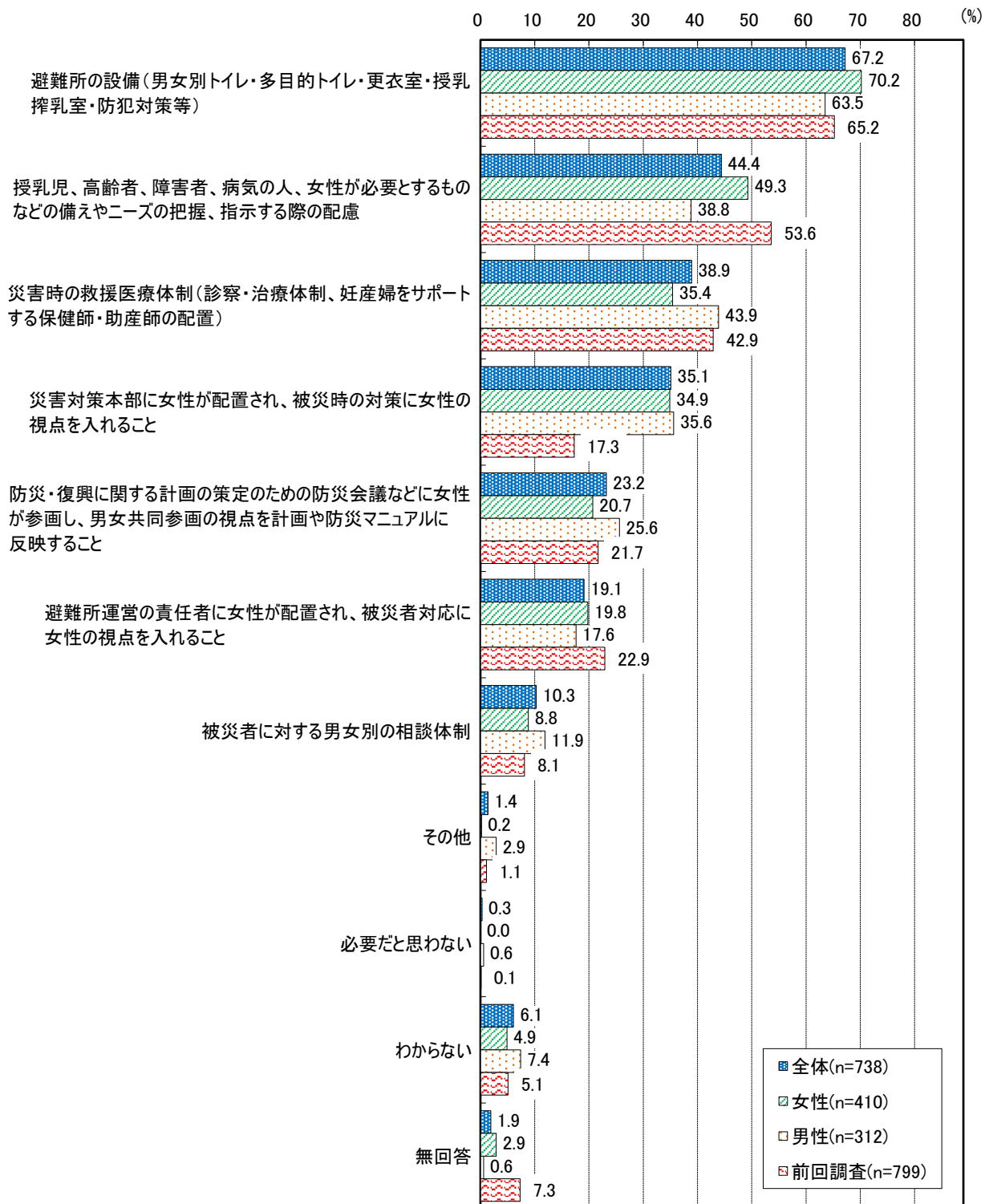
○「特に参加したいものはない」と無回答を除いて、回答者の47.9%が何らかの活動に参加したいと答えており、内容別には「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」が29.7%、「自治会・町内会の活動」が15.2%、「NPO（非営利団体）やボランティアの活動」が12.9%となっています。

○性別でみると、「自治会・町内会の活動」は男性で21.8%と多く見られます。



問10 防災・災害復興対策で、特に取り組む必要があると思うのはどれですか。(〇は3つまで)

○「避難所の設備（男女別トイレ・多目的トイレ・更衣室・授乳搾乳室・防犯対策等）」が67.2%と最も多く、次いで「授乳児、高齢者、障害者、病気の人、女性が必要とするものなどの備えやニーズの把握、指示する際の配慮」が44.4%、「災害時の救援医療体制（診察・治療体制、妊産婦をサポートする保健師・助産師の配置）」が38.9%、「災害対策本部に女性が配置され、被災時の対策に女性の視点を入れること」が35.1%などとなっています。



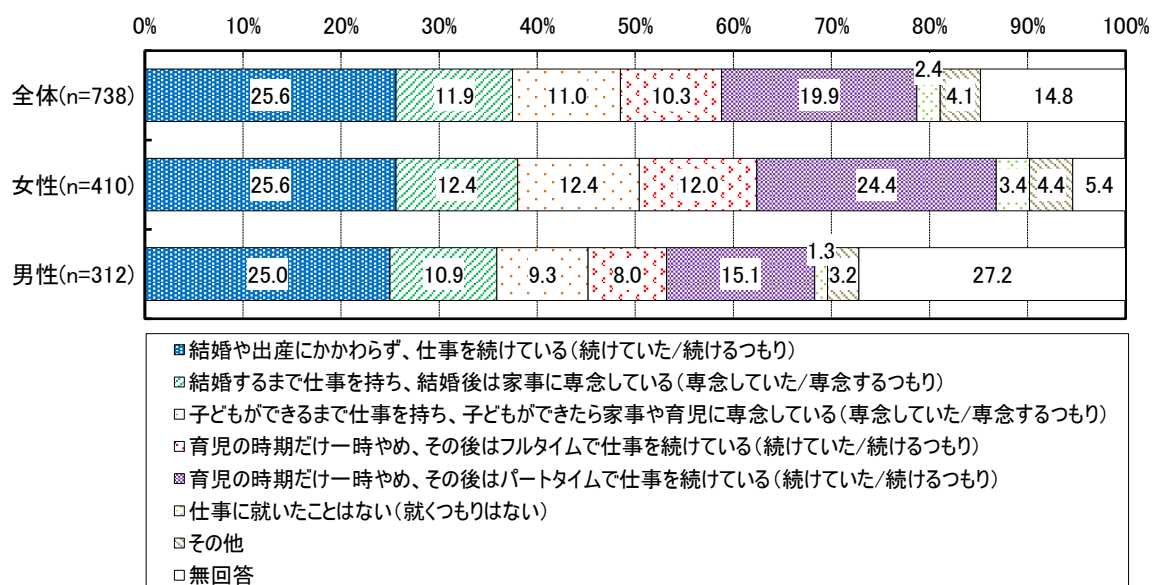
- 性別でみると、女性で「避難所の設備」や「授乳児、高齢者、障害者、病気の人、女性が必要とするものなどの備えやニーズの把握、指示する際の配慮」、男性で「災害時の救援医療体制」と答える人が多く見られます。
- 前回の調査結果と比べると、「災害対策本部に女性が配置され、被災時の対策に女性の視点を入れること」は前回の17.3%から今回の35.1%へと大幅に増えています。

3 職業生活や女性の活躍、困難支援などについて

問11 女性の働き方についてお尋ねします。現在の状況、経験したこと、これからの希望も含めて、あてはまるものをお尋ねします。(○は1つだけ)

○「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている(続けていた/続けるつもり)」が25.6%と最も多く、次いで「育児の時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けている(続けていた/続けるつもり)」が19.9%、「結婚するまで仕事を持ち、結婚後は家事に専念している(専念していた/専念するつもり)」が11.9%、「子どもができるまで仕事を持ち、子どもができたなら家事や育児に専念している(専念していた/専念するつもり)」が11.0%の順となっています。

○性別でみると、「育児の時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けている(続けていた/続けるつもり)」は女性で24.4%と多く見られます。



○性年齢別でみると、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている（続けていた/続けるつもり）」は10～30歳代の女性や30・40歳代の男性、「育児の時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けている（続けていた/続けるつもり）」は40・60歳代の女性、「結婚するまで仕事を持ち、結婚後は家事に専念している（専念していた/専念するつもり）」は80歳以上の女性や70歳以上の男性、「子どもができるまで仕事を持ち、子どもができたなら家事や育児に専念している（専念していた/専念するつもり）」は30歳代と80歳以上の女性、「育児の時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続けている（続けていた/続けるつもり）」は10・20歳代の女性でそれぞれ多く見られます。

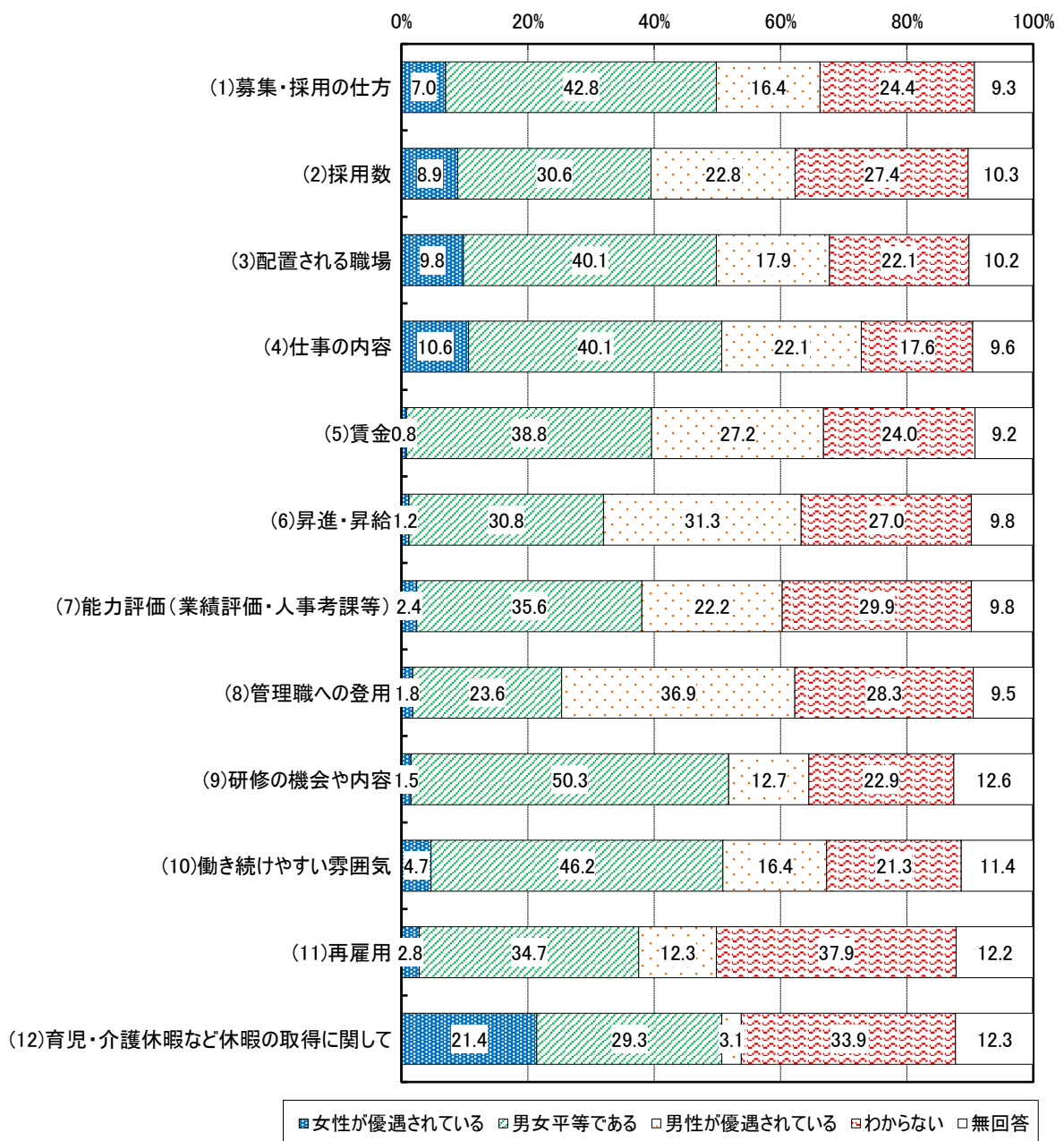
(単位：%)

	結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている	結婚するまで仕事を持ち、結婚後は家事に専念している	子どもができるまで仕事を持ち、子どもができたなら家事や育児に専念している	育児の時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続けている	育児の時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けている	仕事に就いたことはない	その他	無回答
全体 (n=738)	25.6	11.9	11.0	10.3	19.9	2.4	4.1	14.8
女性 (n=410)	25.6	12.4	12.4	12.0	24.4	3.4	4.4	5.4
10・20歳代 (n=38)	39.5	7.9	7.9	23.7	10.5	7.9	0.0	2.6
30歳代 (n=31)	38.7	12.9	22.6	6.5	19.4	0.0	0.0	0.0
40歳代 (n=45)	26.7	4.4	6.7	11.1	28.9	6.7	11.1	4.4
50歳代 (n=86)	27.9	12.8	14.0	12.8	23.3	1.2	4.7	3.5
60歳代 (n=80)	23.8	10.0	6.3	15.0	33.8	3.8	3.8	3.8
70歳代 (n=84)	22.6	16.7	13.1	7.1	25.0	1.2	6.0	8.3
80歳以上 (n=46)	8.7	19.6	21.7	8.7	19.6	6.5	2.2	13.0
男性 (n=312)	25.0	10.9	9.3	8.0	15.1	1.3	3.2	27.2
10・20歳代 (n=26)	7.7	3.8	3.8	7.7	11.5	0.0	0.0	65.4
30歳代 (n=29)	31.0	0.0	6.9	13.8	10.3	0.0	13.8	24.1
40歳代 (n=35)	34.3	2.9	11.4	8.6	17.1	0.0	2.9	22.9
50歳代 (n=52)	25.0	9.6	11.5	7.7	19.2	1.9	1.9	23.1
60歳代 (n=69)	21.7	11.6	10.1	7.2	20.3	2.9	2.9	23.2
70歳代 (n=74)	28.4	18.9	10.8	8.1	12.2	0.0	1.4	20.3
80歳以上 (n=27)	22.2	18.5	3.7	3.7	7.4	3.7	3.7	37.0

※濃い網かけは全体構成比より10ポイント以上、薄い網かけは5ポイント以上高いもの

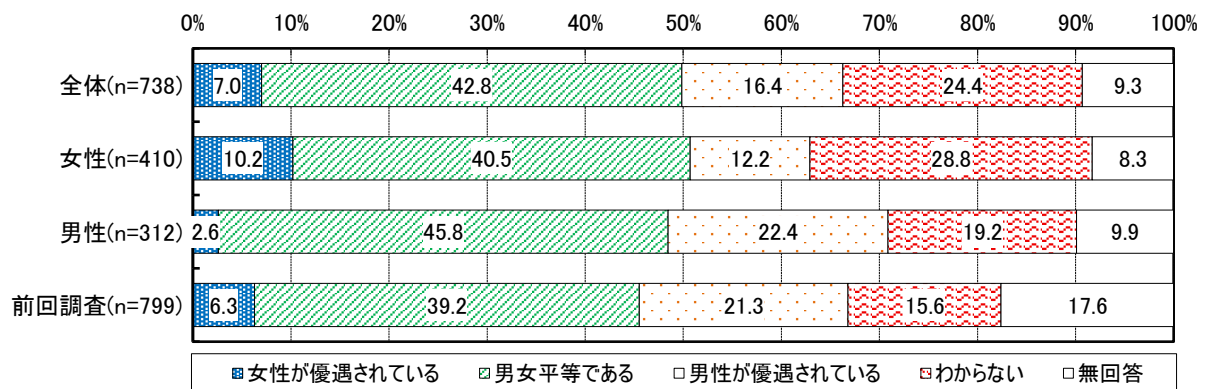
問12 これまでに雇用されて働いたこと（家族従事者も含む）がある方におたずねします。あなたの職場ではどのような状況ですか。

- 「わからない」と無回答を除いて、「男女平等である」という人が最も多いのは、「研修の機会や内容」が50.3%、「働き続けやすい雰囲気」が46.2%、「募集・採用の仕方」が42.8%、「配置される職場」が40.1%、「仕事の内容」が40.1%、「賃金」が38.8%などとなっており、前回の調査結果と比べて各項目で割合が高くなっています。
- 「男性が優遇されている」という人が最も多いのは、「管理職への登用」が36.9%、「昇進・昇給」が31.3%となっており、前回の調査結果と比べて各項目で割合が低くなっています。



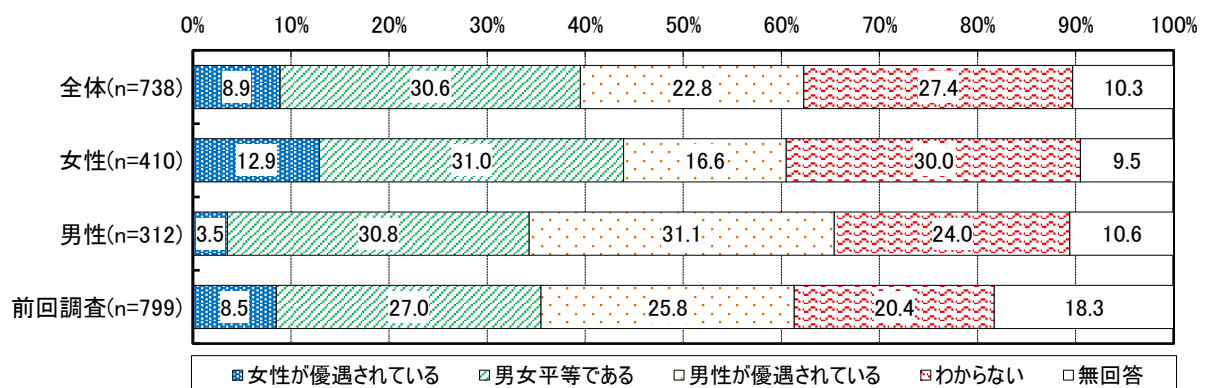
(1) 募集・採用の仕方

○前回の調査結果と比べて「男女平等である」という回答が増えています。性別でみると、女性よりも男性が「男性のほうが優遇されている」と回答しています。



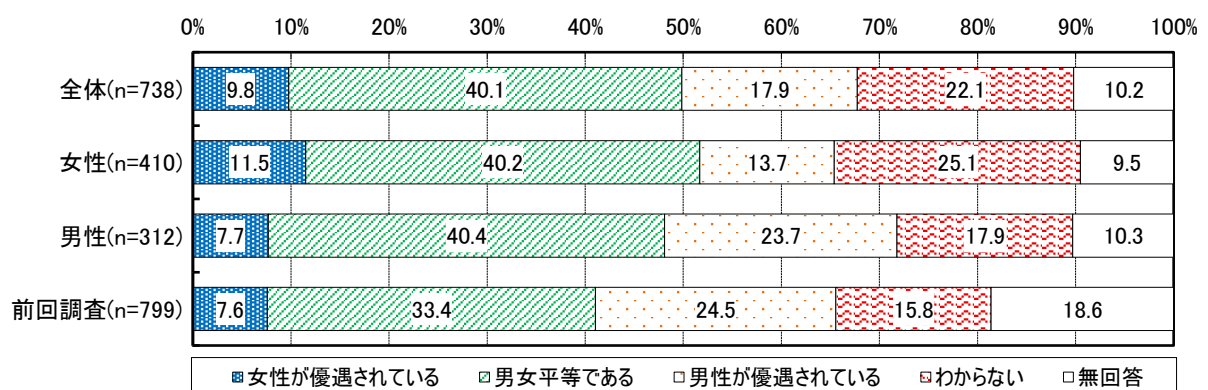
(2) 採用数

○前回の調査結果と比べて「男女平等である」という回答が増えています。性別でみると、女性よりも男性が「男性のほうが優遇されている」と回答しています。



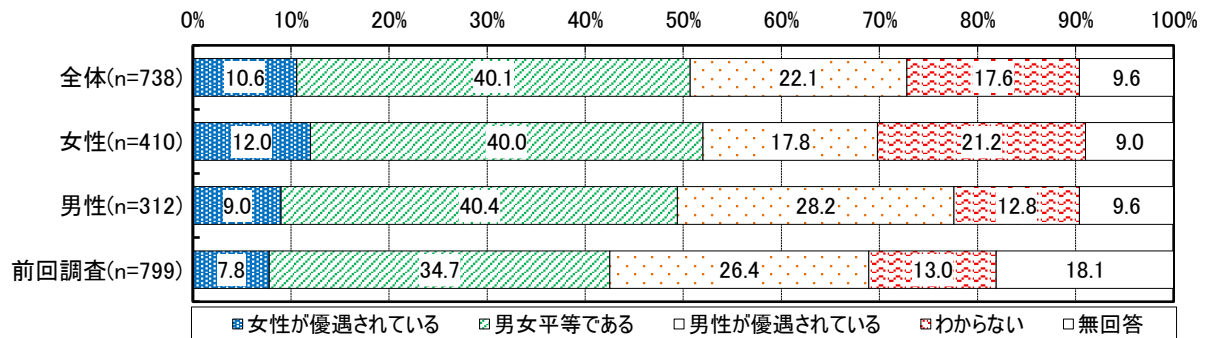
(3) 配置される職場

○前回の調査結果と比べて「男女平等である」という回答がかなり増えています。性別でみると、女性よりも男性が「男性のほうが優遇されている」と回答しています。



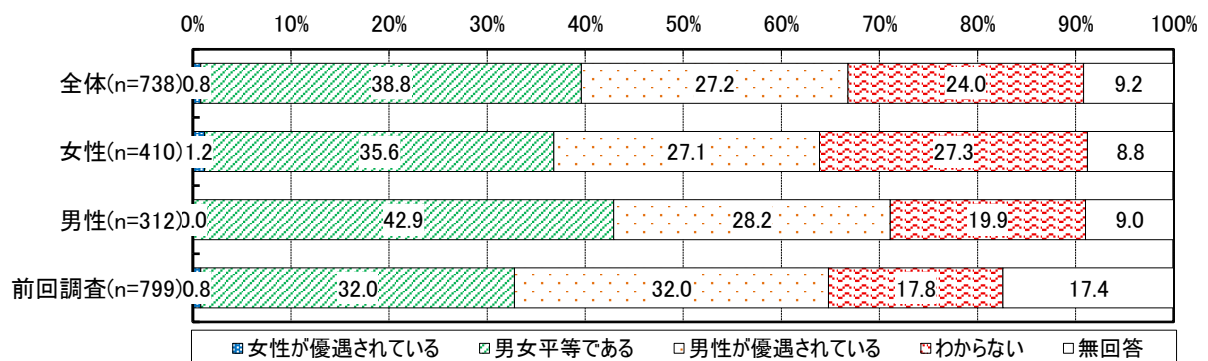
(4) 仕事の内容

○前回の調査結果と比べて「男女平等である」という回答が増えており、約40%の人が男女平等であると感じています。性別でみると、女性よりも男性が「男性のほうが優遇されている」と回答しています。



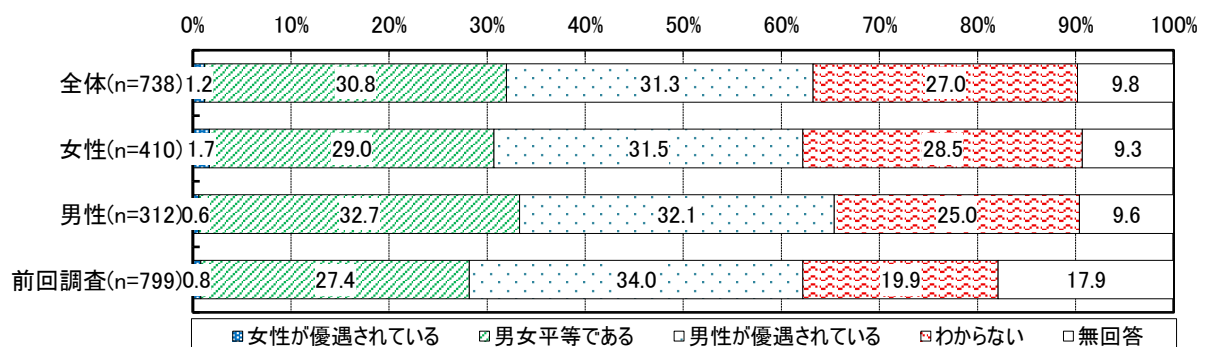
(5) 賃金

○前回の調査結果と比べて「男女平等である」という回答が増えています。性別でみると、女性よりも男性が「男女平等である」と回答しており、前回の調査結果でも同様に男性の「男女平等」意識が高くみられます。



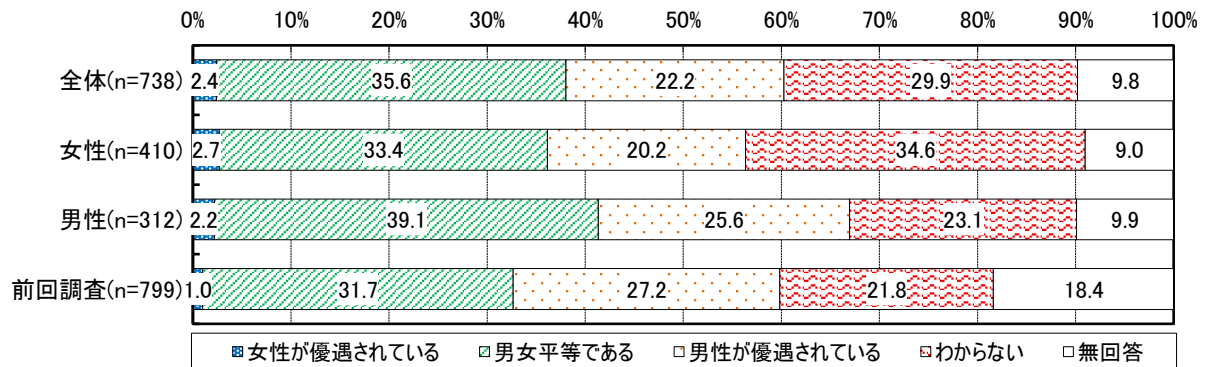
(6) 昇進・昇給

○前回の調査結果と同様に「女性が優遇されている」という回答はごくわずかで、「男女平等である」「男性が優遇されている」という回答がそれぞれ約30%を占め、前回の調査結果からその傾向はあまり変わっていません。



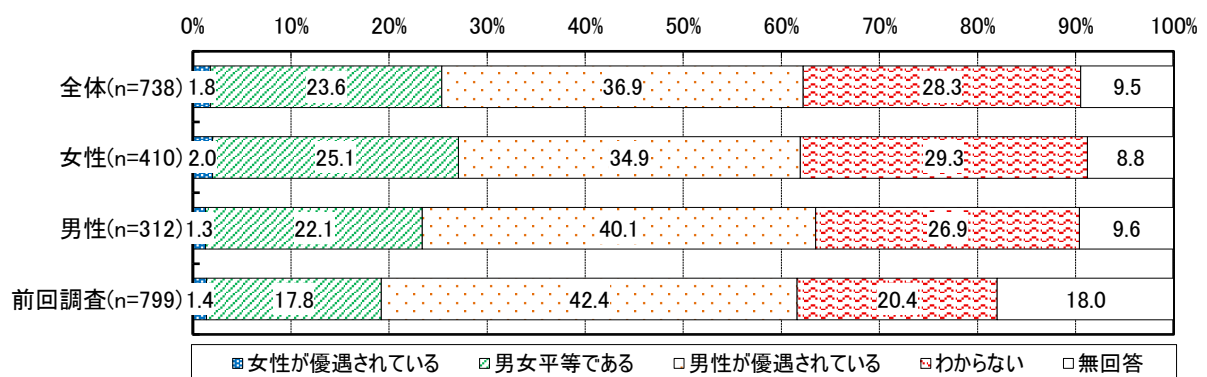
(7) 能力評価（業績評価・人事考課等）

○前回の調査結果と同様に「女性が優遇されている」という回答はごくわずかで、「男女平等である」という回答が男女ともに30%以上を占めています。また、「男性が優遇されている」と感じているのは男性の方が多くみられます。



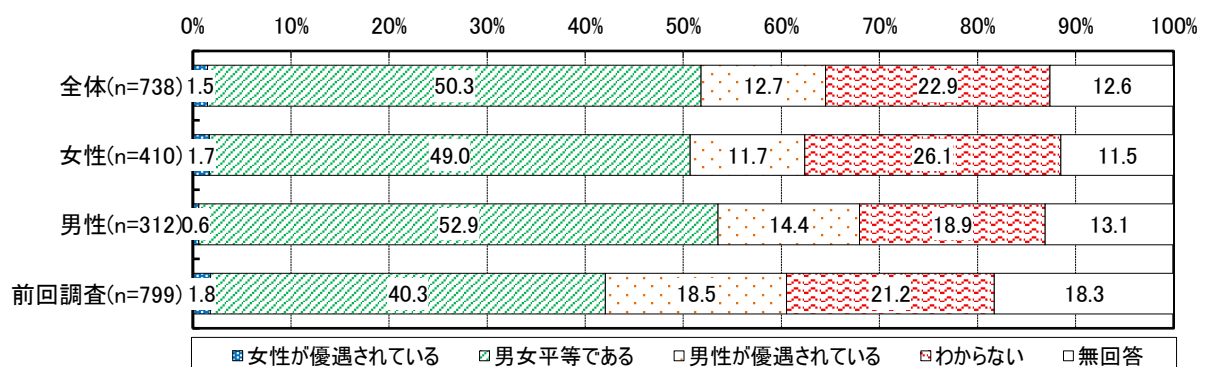
(8) 管理職への登用

○前回の調査結果より「男女平等である」という回答が減っており、「男性が優遇されている」と感じている人が多くみられます。



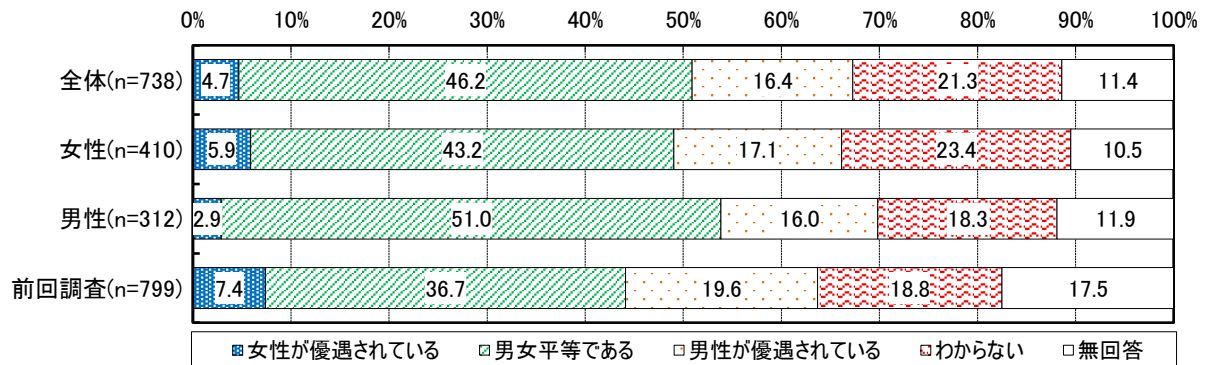
(9) 研修の機会や内容

○「男女平等である」と回答した人が50%を占めており、「わからない」「無回答」を除くと「男性のほうが優遇されている」と回答している割合が高くなっています。



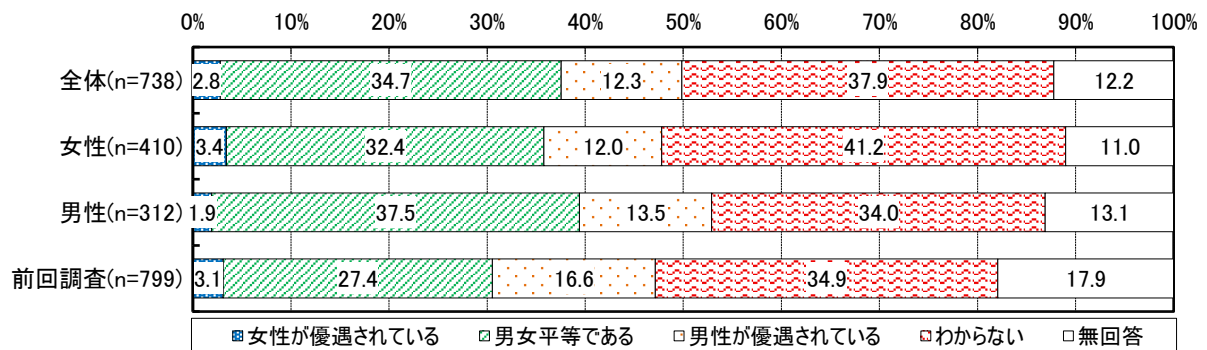
(10) 働き続けやすい雰囲気

○性別でみると、男性は50%以上が「男女平等である」と回答しています。また、前回の調査結果と比べると「女性が優遇されている」と回答した人は減っています。



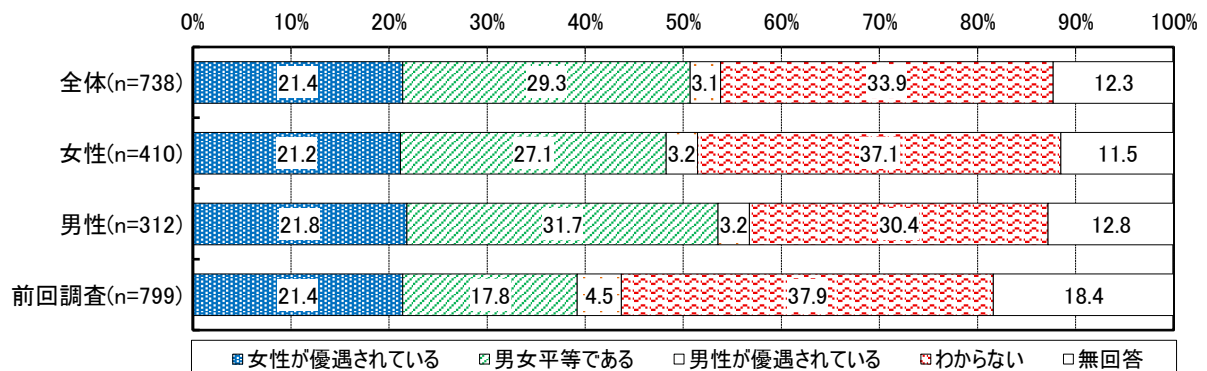
(11) 再雇用

○性別でみると、男性の方が「男女平等である」と回答している割合が高くなっています。また、前回の調査結果と比べて「わからない」という回答が増えています。



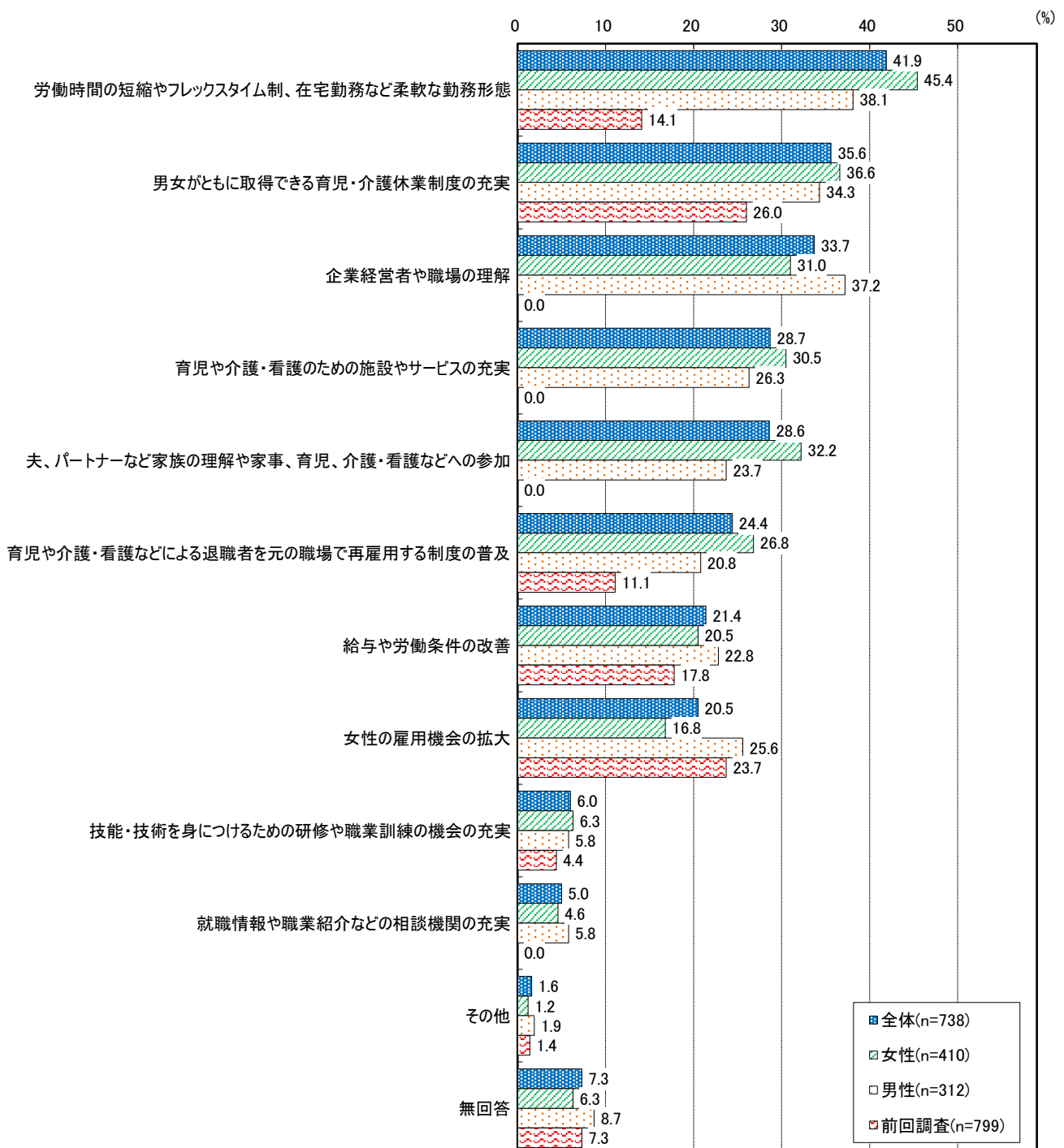
(12) 育児・介護休暇など休暇の取得に関して

○「女性が優遇されている」と回答した人は前回の調査結果から変わらず約20%となっています。また、「男女平等である」という回答が前回の調査結果より増えており、「わからない」という回答は減少しています。



問13 女性が働き続けるため、また一旦仕事を辞めた女性が再就職を希望する場合、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

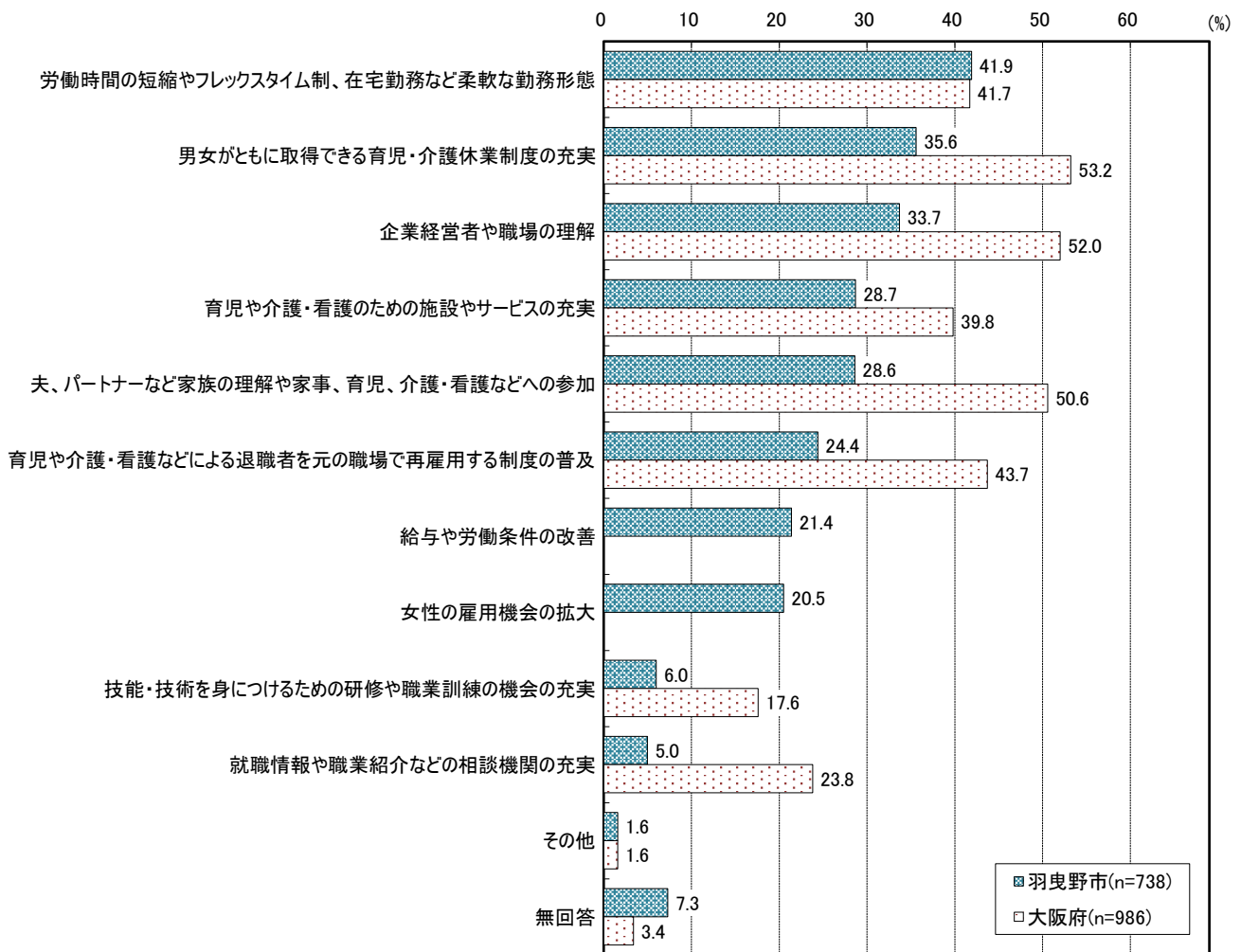
○「労働時間の短縮やフレックスタイム制、在宅勤務など柔軟な勤務形態」が41.9%と最も多く、次いで「男女がともに取得できる育児・介護休業制度の充実」が35.6%、「企業経営者や職場の理解」が33.7%、「育児や介護・看護のための施設やサービスの充実」が28.7%、「夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、介護・看護などへの参加」が28.6%、「育児や介護・看護などによる退職者を元の職場で再雇用する制度の普及」が24.4%などとなっています。



○性別でみると、「労働時間の短縮やフレックスタイム制、在宅勤務など柔軟な勤務形態」や「夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、介護・看護などへの参加」は女性、「企業経営者や職場の理解」や「女性の雇用機会の拡大」（全体20.5％）は男性でそれぞれ多く見られます。

大阪府調査との比較

○大阪府調査と比べて、「男女がともに取得できる育児・介護休業制度の充実」「企業経営者や職場の理解」「夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、介護・看護などへの参加」「育児や介護・看護などによる退職者を元の職場で再雇用する制度の普及」などで割合が低くなっています。

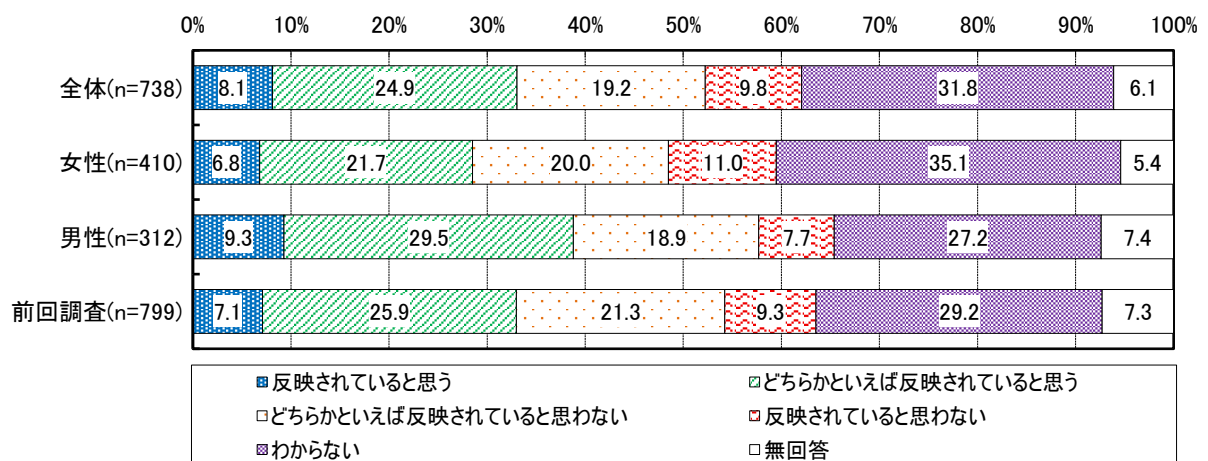


※比較可能な選択肢のみ掲載。大阪府の結果は女性が働き続けるために必要なこと。

問14 地域・職場などにおいて、政策などの立案や方針決定において女性の意見が反映されていると思いますか。(〇は1つ)

○「反映されていると思う」と「どちらかといえば反映されていると思う」を合わせて政策立案や方針決定において女性の意見が反映されていると思う人は33.0%、「反映されていると思わない」と「どちらかといえば反映されていると思わない」を合わせて女性の意見が反映されていると思わない人が29.0%、「わからない」が31.8%と意見が分かれています。

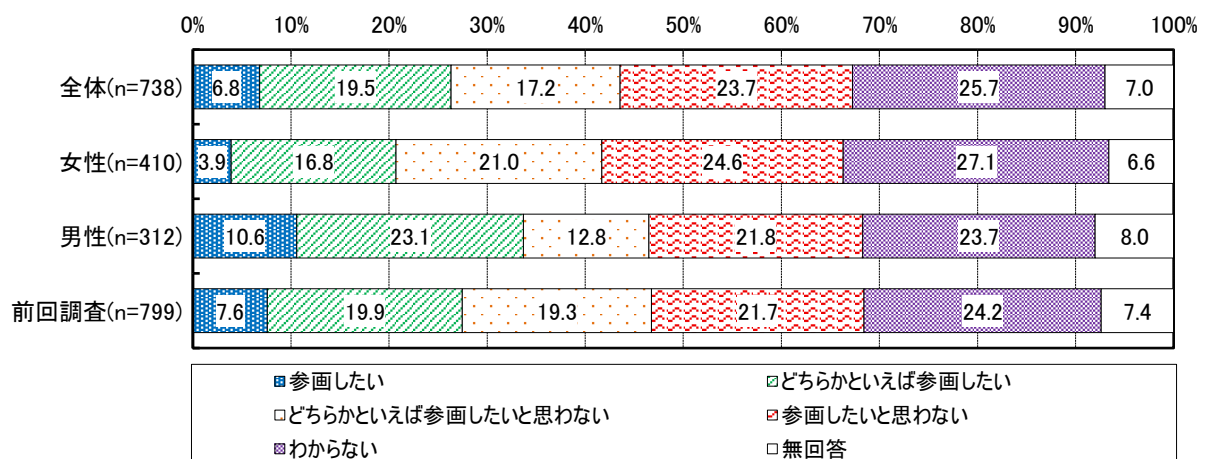
○前回の調査結果と比べても回答傾向の変化はほぼありません。



問15 あなたは、地域・職場などにおいて、政策などの立案や方針決定の場へ参画したいと思いますか。(〇は1つ)

○「参画したい」が6.8%、「どちらかといえば参画したい」が19.5%と合わせて26.3%の人が政策立案や方針決定の場へ参画したいと答えており、性別でみると男性が33.7%、女性が20.7%と意識差が見られます。

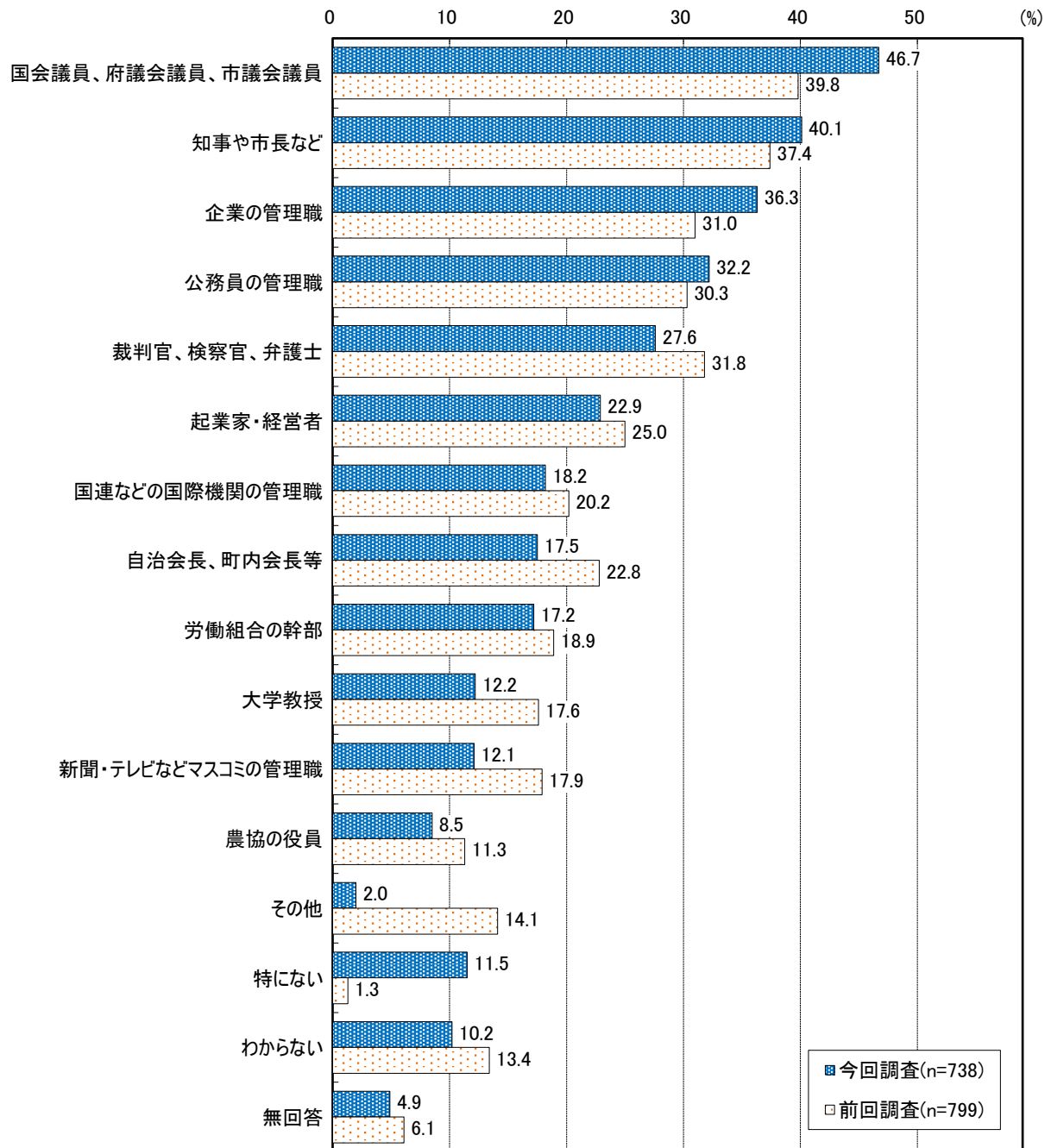
○前回の調査結果と比べても回答傾向の変化はほぼありません。

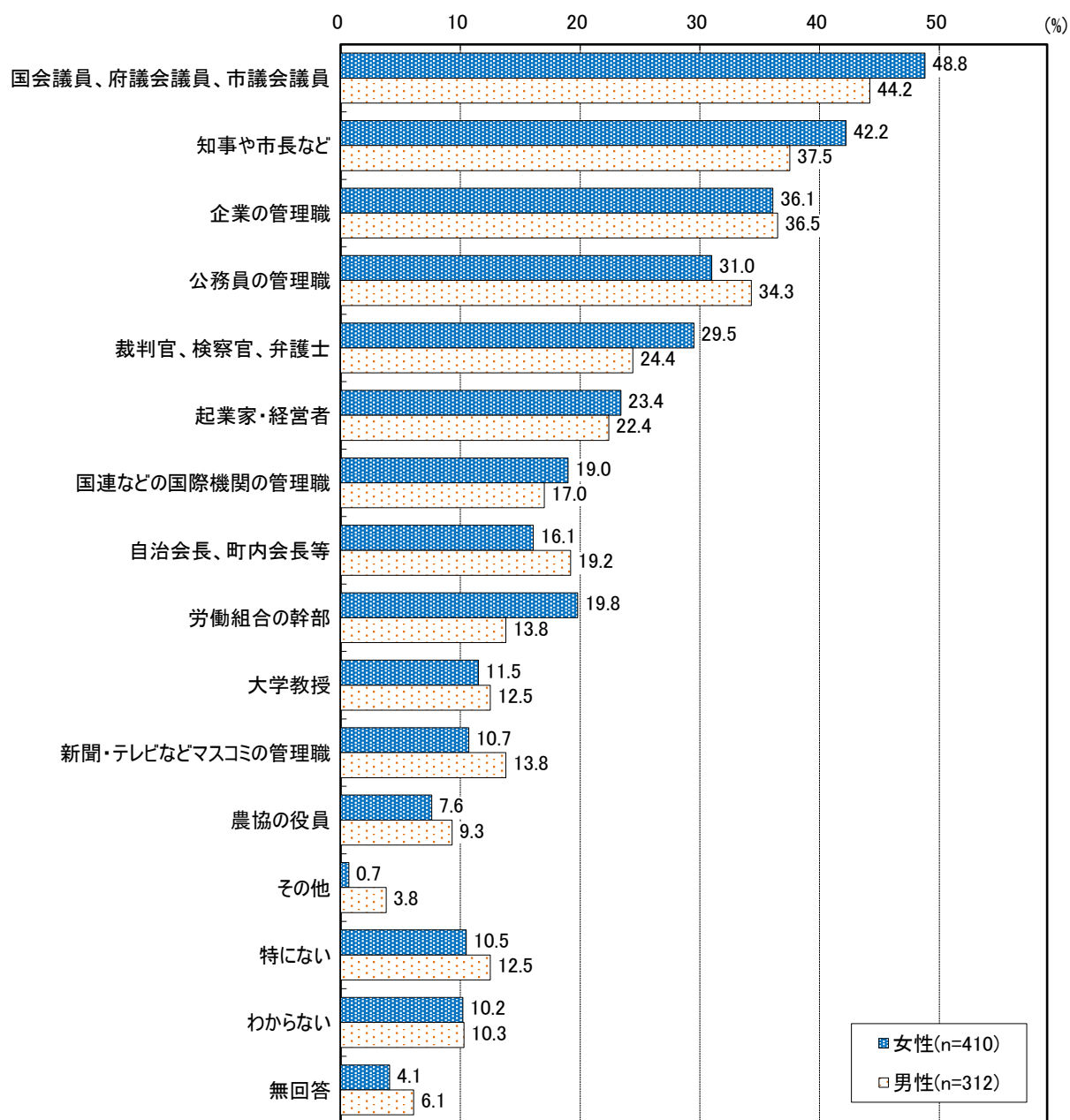


問16 あなたが、次にあげるような職業や役職において、今後女性がもっと増える方がよいと思うのはどれですか。(〇はいくつでも)

○「国会議員、府議会議員、市議会議員」が46.7%と最も多く、次いで「知事や市長など」が40.1%、「企業の管理職」が36.3%、「公務員の管理職」が32.2%、「裁判官、検察官、弁護士」が27.6%、「起業家・経営者」が22.9%などとなっています。

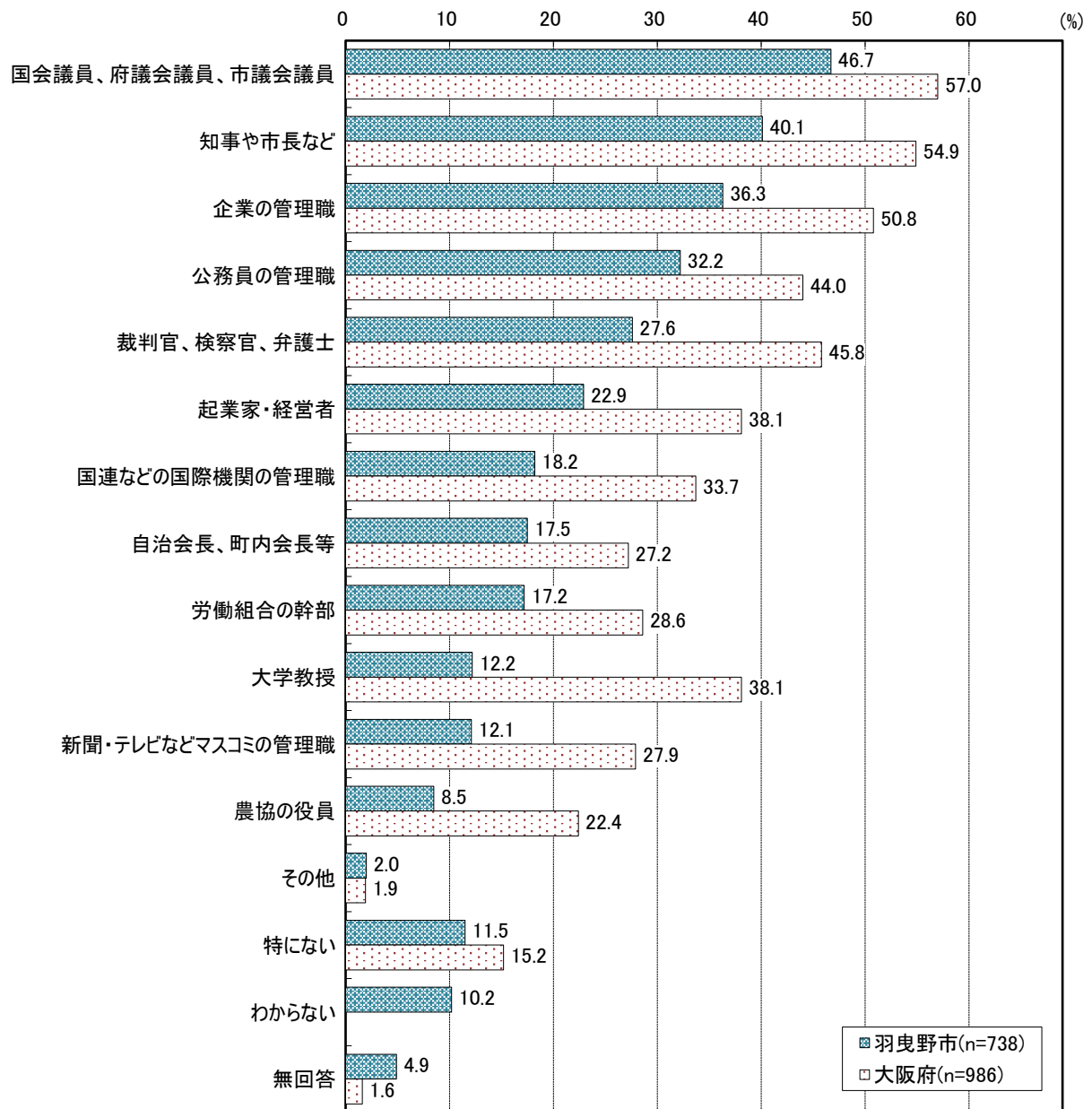
○前回の調査結果と比べると、「国会議員、府議会議員、市議会議員」が前回の39.8%から今回の46.7%へ、「企業の管理職」が前回の31.0%から今回の36.3%へ増えています。





大阪府調査との比較

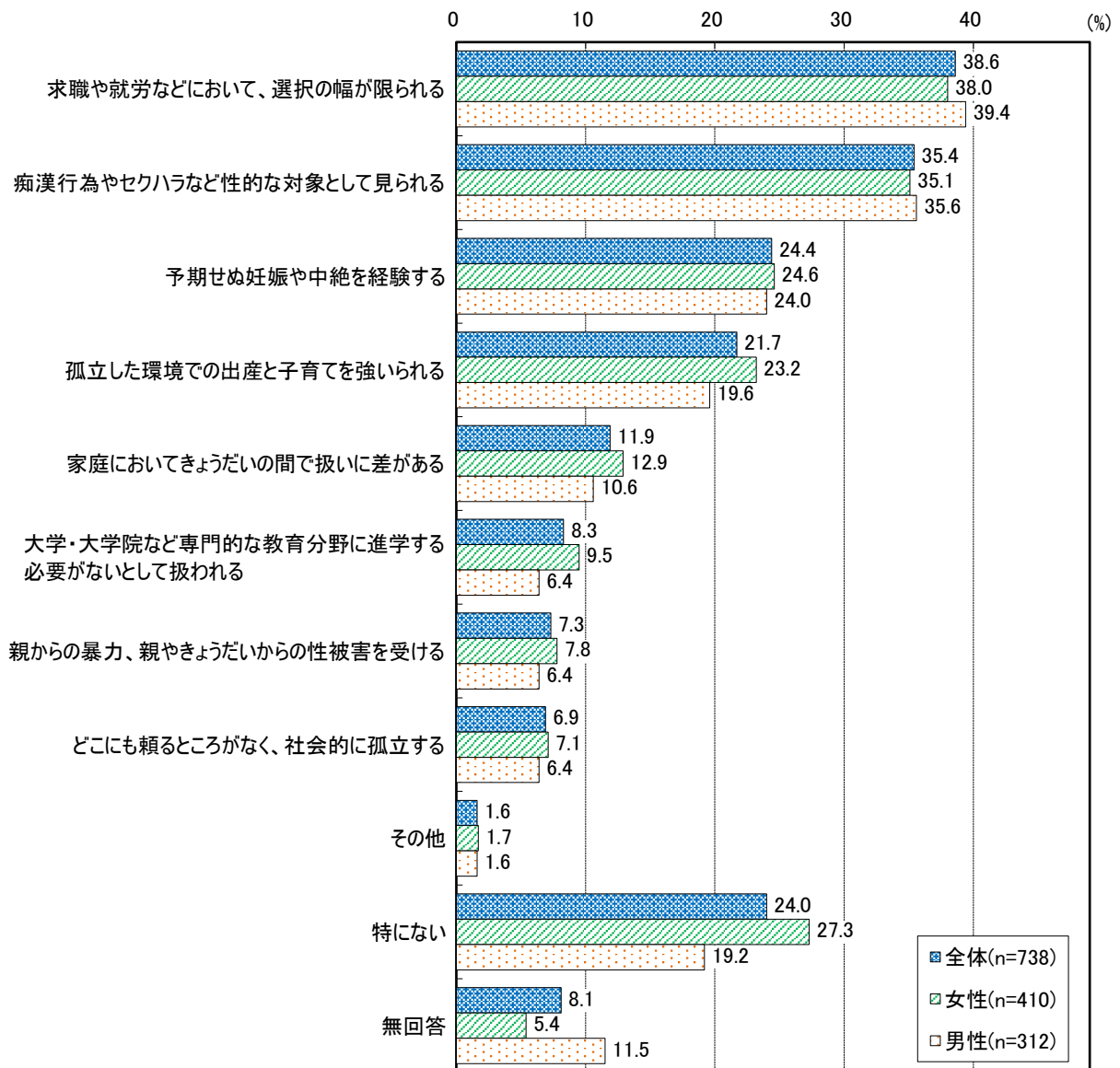
○割合の違いはありますが、おおむね大阪府調査と同じ傾向にあります。



※比較可能な選択肢のみ掲載。

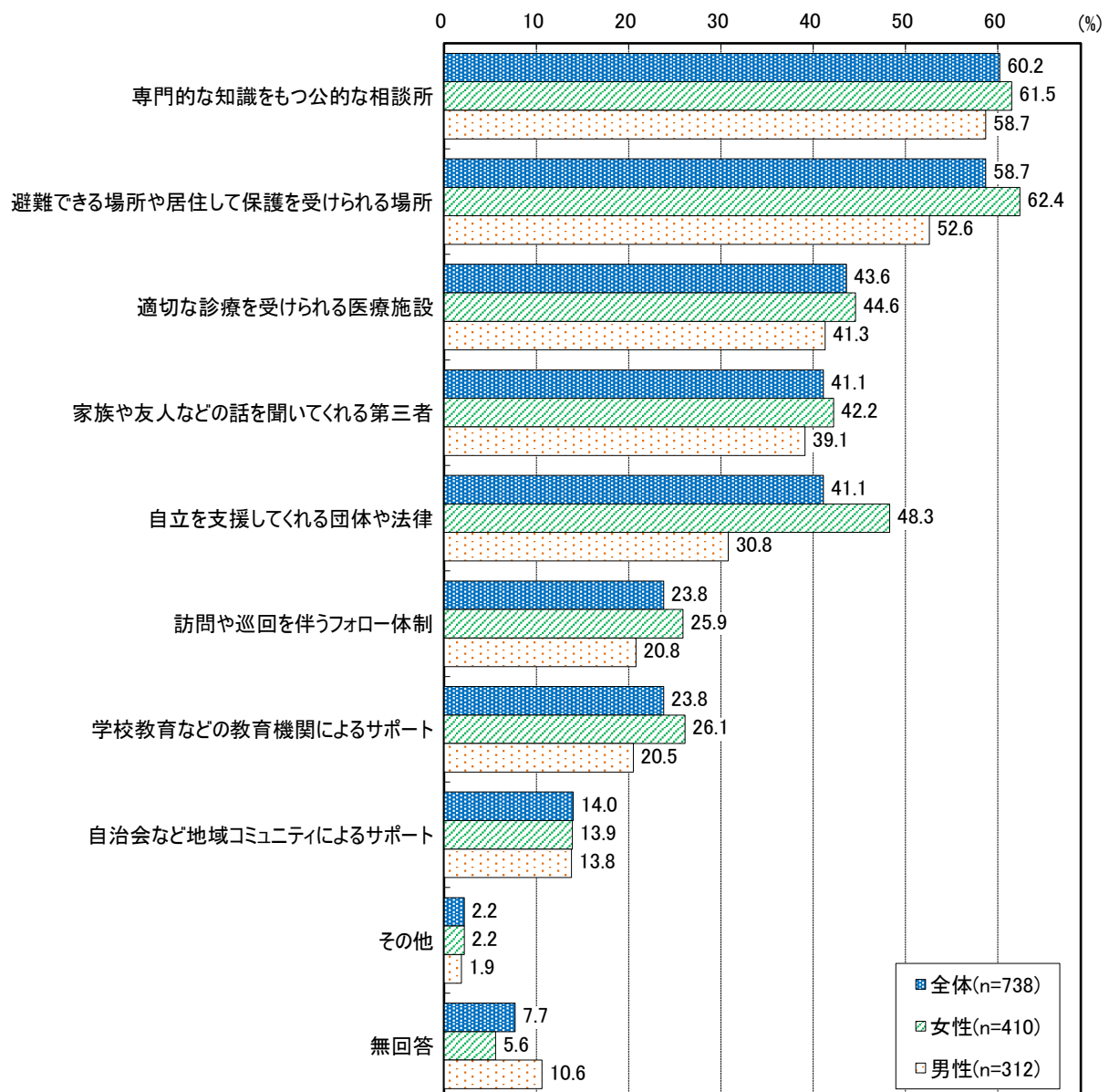
問17 日常生活や社会生活を送るうえで、女性であることにより様々な制約が課されたり、困難に直面していると思うのはどれですか。（○はいくつでも）

○「求職や就労などにおいて、選択の幅が限られる」が38.6%と最も多く、次いで「痴漢行為やセクハラなど性的な対象として見られる」が35.4%、「予期せぬ妊娠や中絶を経験する」が24.4%、「孤立した環境での出産と子育てを強いられる」が21.7%などとなっています。



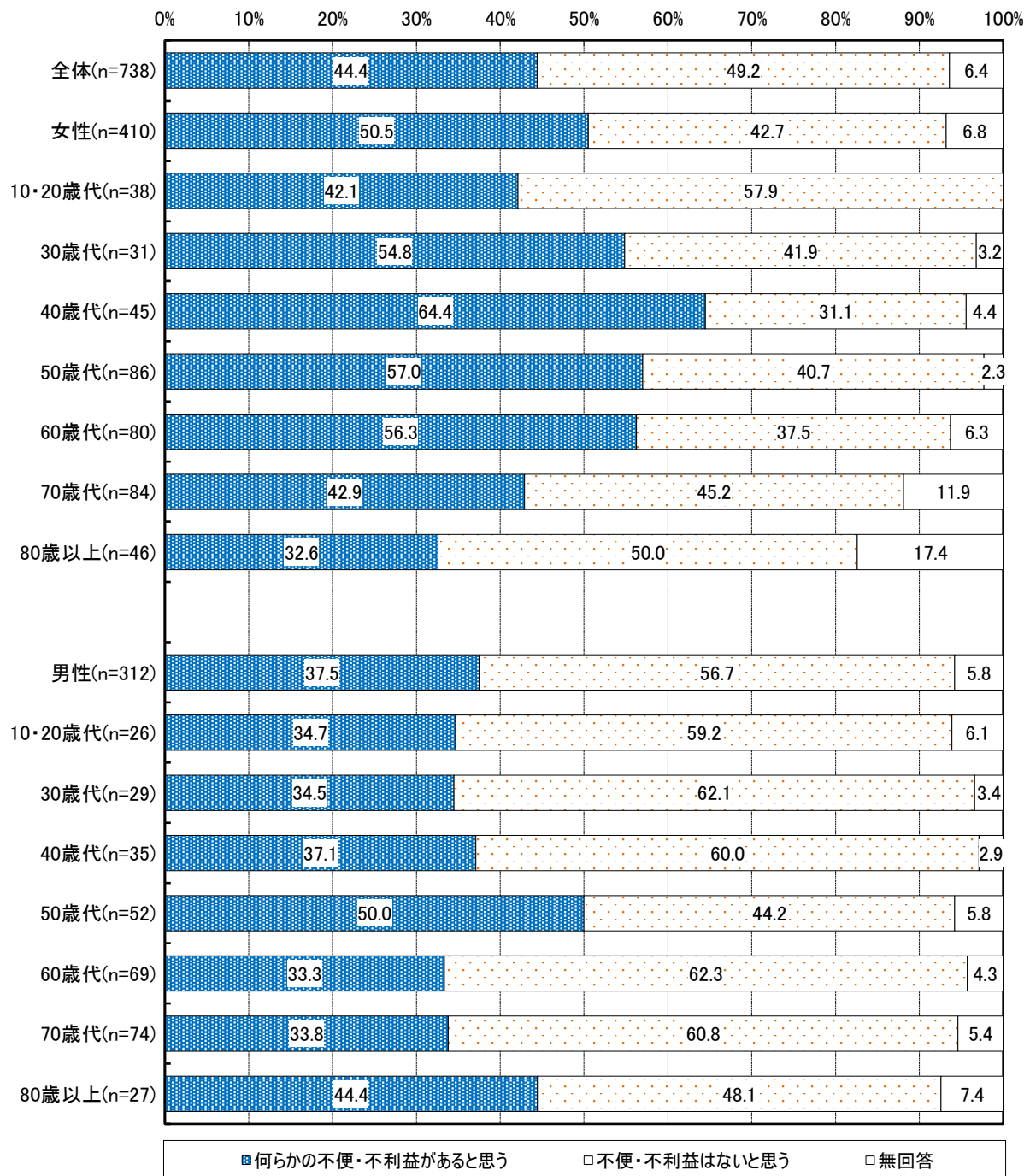
問18 性的な被害、家庭の状況、地域社会との関係性、その他の様々な事情により日常生活や社会生活で困難な問題を抱える女性について、あなたはどのような支援が必要だと思いますか（〇はいくつでも）

○「専門的な知識をもつ公的な相談所」が60.2%と最も多く、次いで「避難できる場所や居住して保護を受けられる場所」が58.7%、「適切な診療を受けられる医療施設」が43.6%、「家族や友人などの話を聞いてくれる第三者」と「自立を支援してくれる団体や法律」がそれぞれ41.1%（「自立を支援してくれる団体や法律」は女性で48.3%）となっています。



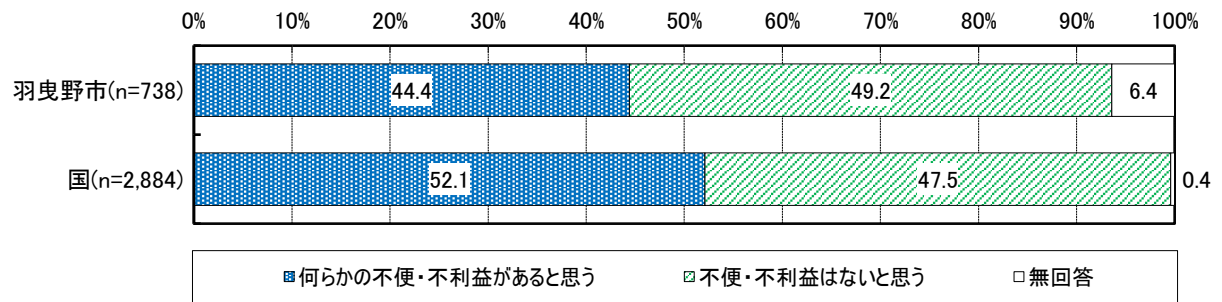
問19 現在の制度では、婚姻によって、夫婦のどちらかが必ず名字・姓を変えなければならないことになっています。あなたは、このことにより、名字・姓を変えた人に何らかの不便・不利益があると思いますか。(〇は1つ)

○「不便・不利益はないと思う」が49.2%、「何らかの不便・不利益があると思う」が44.4%となっていますが、性別でみると女性は50.5%が「何らかの不便・不利益があると思う」と答えており、特に40歳代の女性では64.4%と高い割合となっています。



国調査との比較

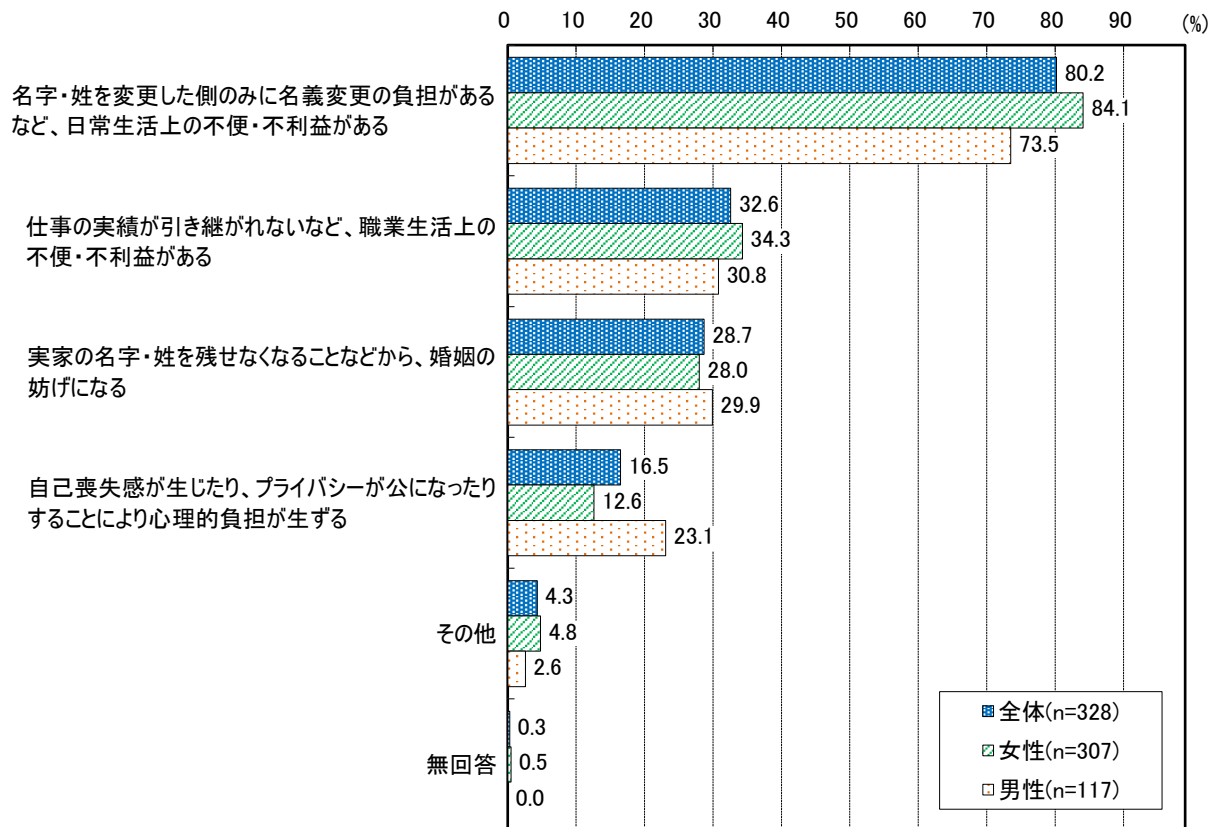
○「何らかの不便・不利益があると思う」と答えた人は国調査より少ない状況です。



※国調査：家族の法制に関する世論調査（令和３年12月調査）

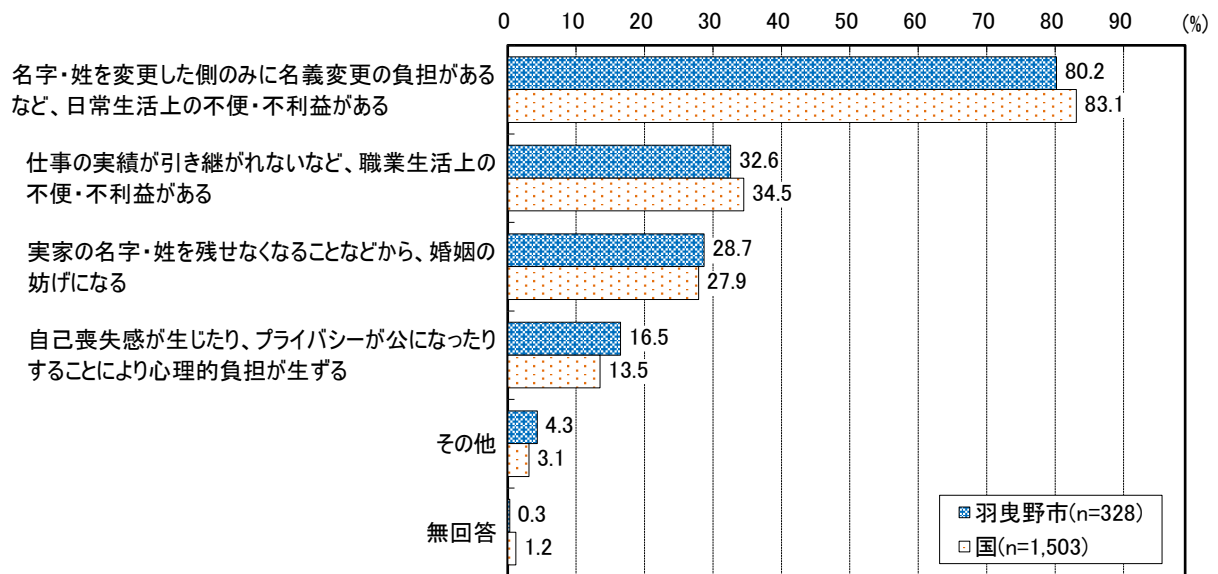
問19-1 不便・不利益になると思うものを選んでください。(〇はいくつでも)

○名字・姓を変えた人にとって不便・不利益になると思うものを尋ねたところ、「名字・姓を変更した側のみに名義変更の負担があるなど、日常生活上の不便・不利益がある」が80.2%ととりわけ多く、次いで「仕事の実績が引き継がれないなど、職業生活上の不便・不利益がある」が32.6%、「実家の名字・姓を残せなくなることなどから、婚姻の妨げになる」が28.7%などとなっています。



国調査との比較

○おおむね国調査と同じ傾向にあります。

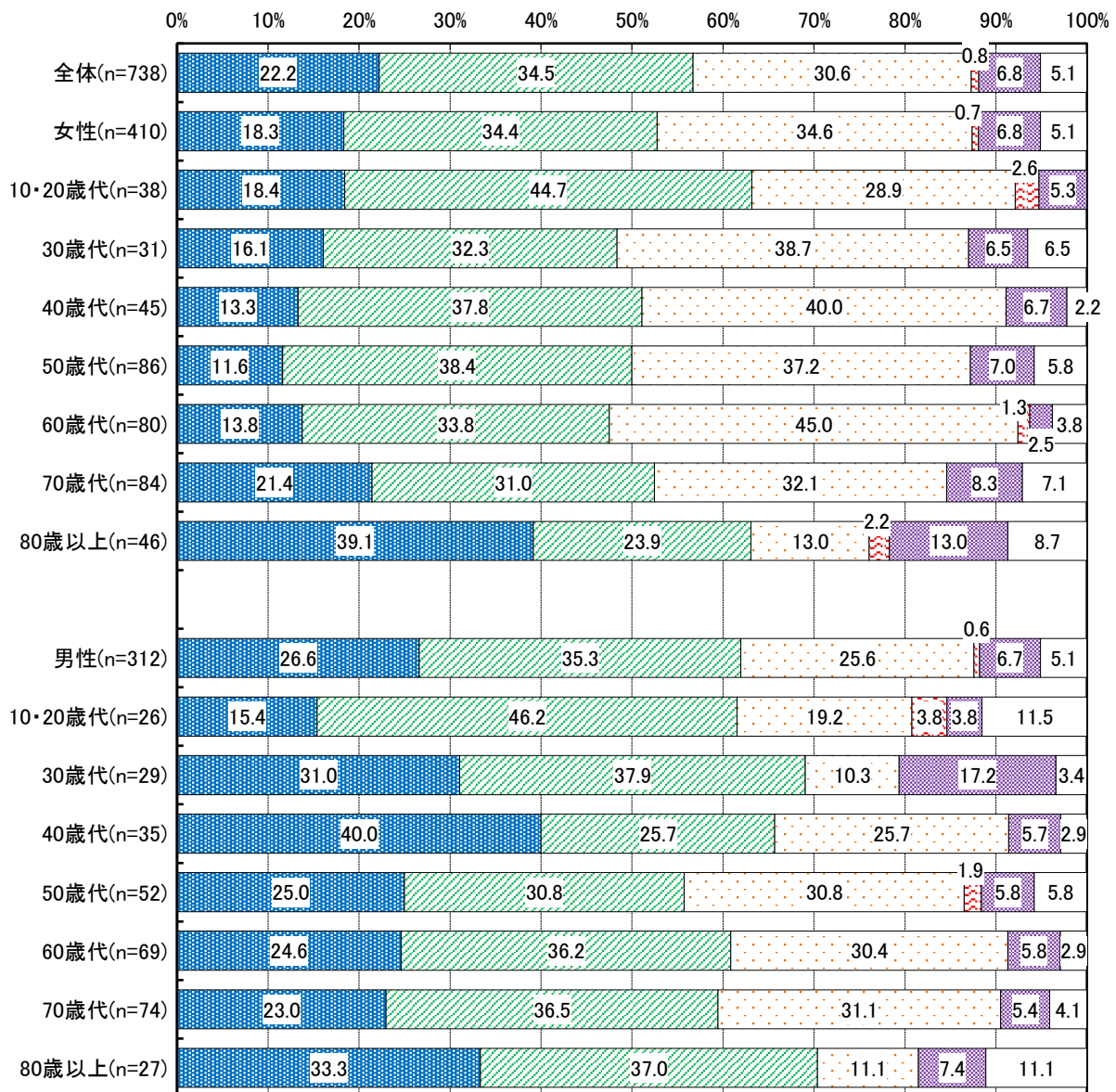


※国調査：家族の法制に関する世論調査（令和３年12月調査）

問20 夫婦の名字・姓に関する制度のあり方をめぐる議論について、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

○「現在の制度である夫婦同姓制度を維持した上で、旧姓を通称として幅広く使うことができるようにする法制度を設けた方がよい」が34.4%、「選択的夫婦別姓制度（夫婦は同じ名字・姓を名乗るか、それぞれの婚姻前の名字・姓を選べるようにする制度）を導入した方がよい」が30.8%、「現在の制度である夫婦同姓制度を維持した方がよい」が22.2%と意見が分かれています。

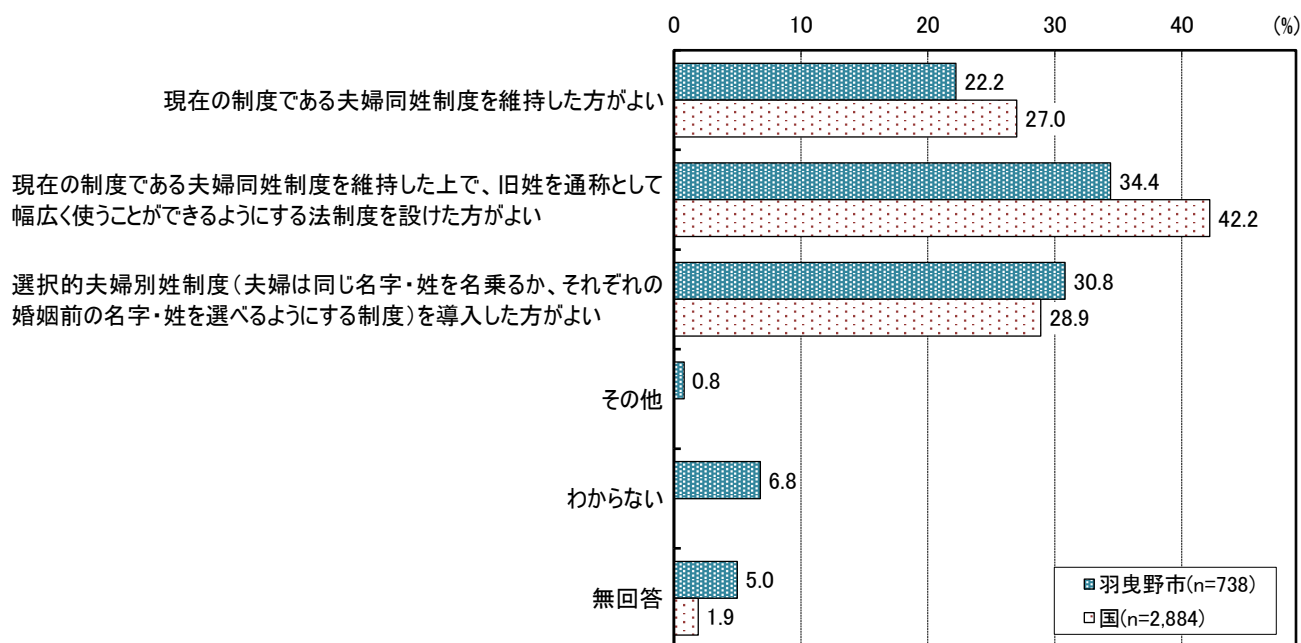
○性別でみると、女性は「選択的夫婦別姓制度を導入した方がよい」、男性は「現在の制度である夫婦同姓制度を維持した方がよい」と答える人が多く見られます。



- 現在の制度である夫婦同姓制度を維持した方がよい
- 現在の制度である夫婦同姓制度を維持した上で、旧姓を通称として幅広く使うことができるようにする法制度を設けた方がよい
- 選択的夫婦別姓制度（夫婦は同じ名字・姓を名乗るか、それぞれの婚姻前の名字・姓を選べるようにする制度）を導入した方がよい
- その他
- わからない
- 無回答

国調査との比較

○国調査と比べて、現在の制度を維持した方がよい、旧姓を通称として使うことができる法制度を設けた方がよいと答える人が少なくなっています。



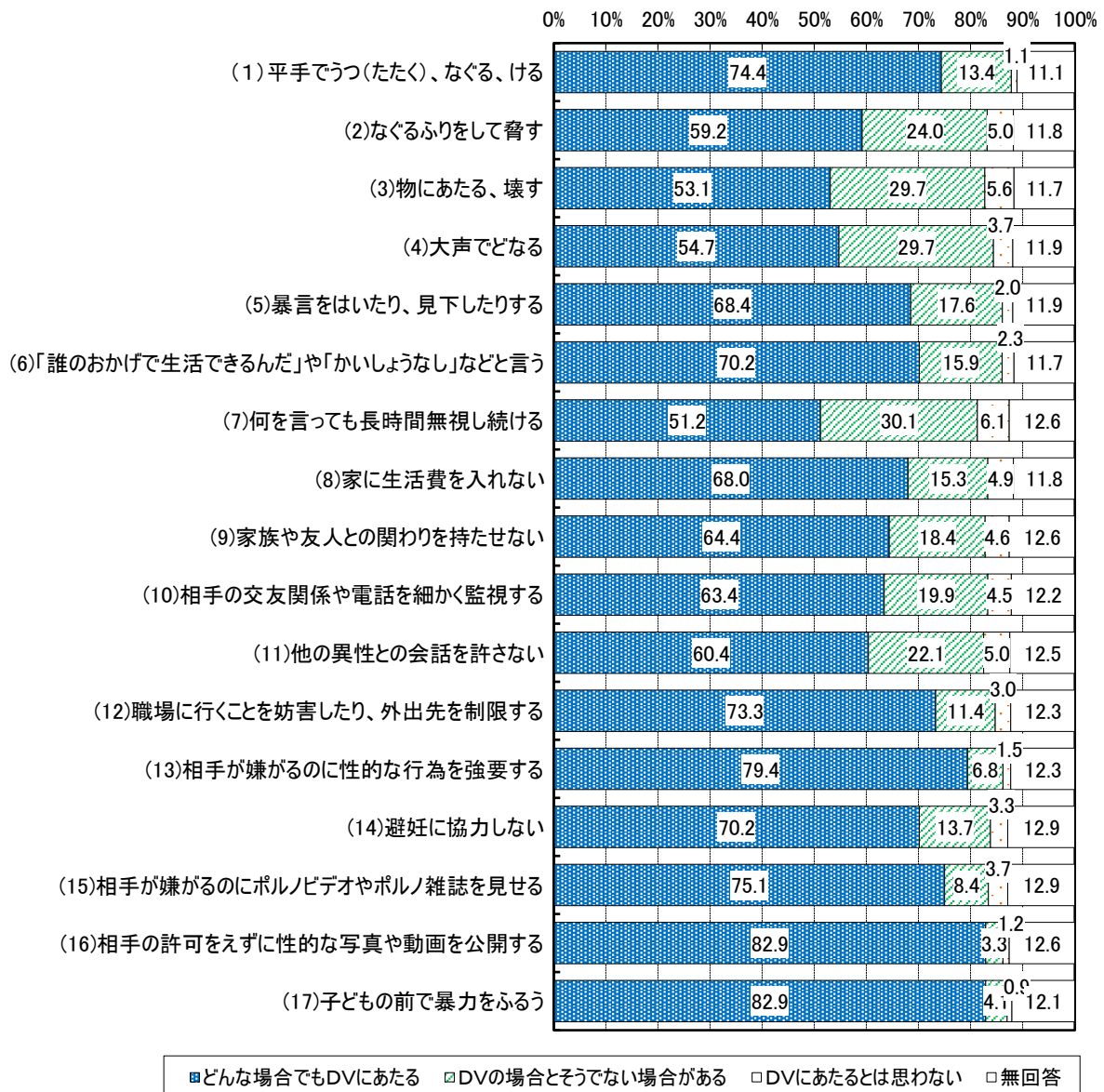
※国：家族の法制に関する世論調査（令和３年12月調査）

4 暴力やハラスメントについて

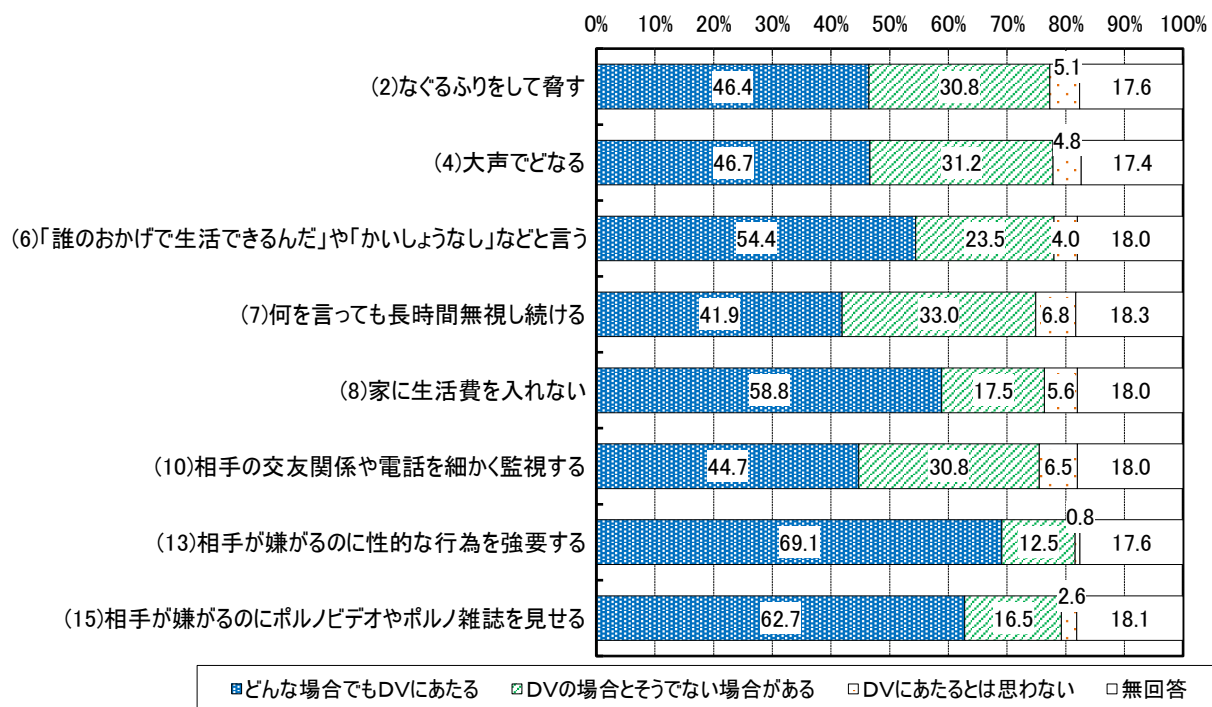
問21 次の行為を配偶者・パートナー等から受けることは、ドメスティック・バイオレンス（DV：配偶者等からの暴力）だと思いますか。

○「どんな場合でもDVにあたる」と答える人が多いものは、「相手の許可をえずに性的な写真や動画を公開する」と「子どもの前で暴力をふるう」がそれぞれ82.9%と最も多く、次いで「相手が嫌がるのに性的な行為を強要する」が79.4%、「相手が嫌がるのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」が75.1%、「平手でうつ（たたく）、なぐる、ける」が74.4%、「職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する」が73.3%、「『誰のおかげで生活できるんだ』や『かいしょうなし』などと言う」と「避妊に協力しない」が70.2%の順となっています。

○なお、最も少ない「何を言っても長時間無視し続ける」も51.2%と17項目すべてが半数以上となっています。



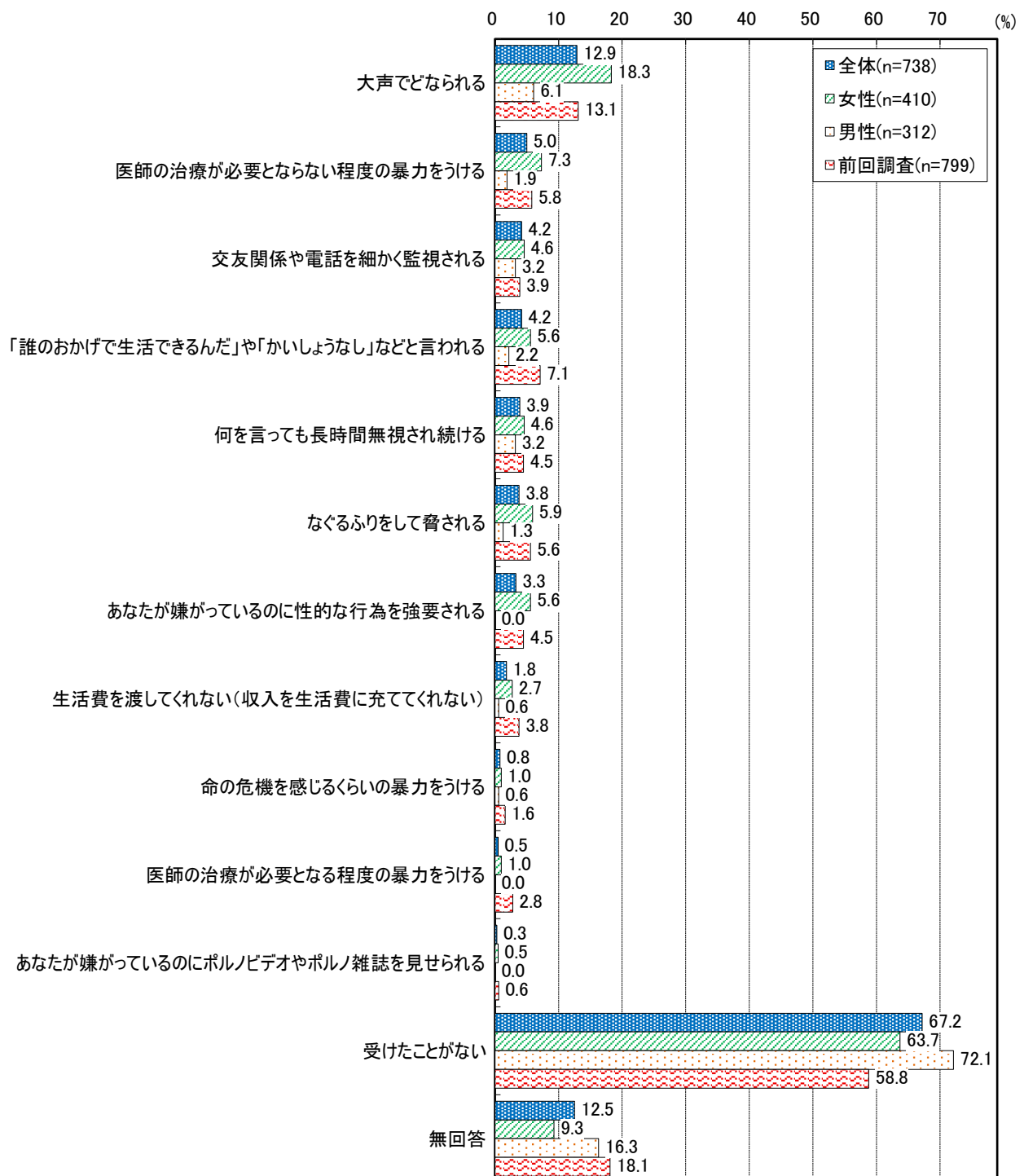
前回の調査結果



※比較可能な選択肢のみ掲載。

問22 配偶者・パートナーや元配偶者・元パートナー、恋人等から次のような行為を一度でも受けたことがありますか。(〇はいくつでも)

- 「受けたことがない」と無回答を除き、回答者の20.3%がドメスティック・バイオレンスと思われる何らかの行為を受けたことがあると答えており、内容別には「大声でどなられる」が12.9%、「医師の治療が必要とならない程度の暴力をうける」が5.0%、「交友関係や電話を細かく監視される」と『『誰のおかげで生活できるんだ』や『かいしょうなし』などと言われる』がそれぞれ4.2%となっています。
- 性別でみると、女性で「大声でどなられる」が18.3%と多く見られます。



○性年齢別でみると、「受けたことがない」は10・20歳代の女性と10～40・60～70歳代の男性、「大声でどなられる」は30～60歳代の女性で多く見られます。

(単位：%)

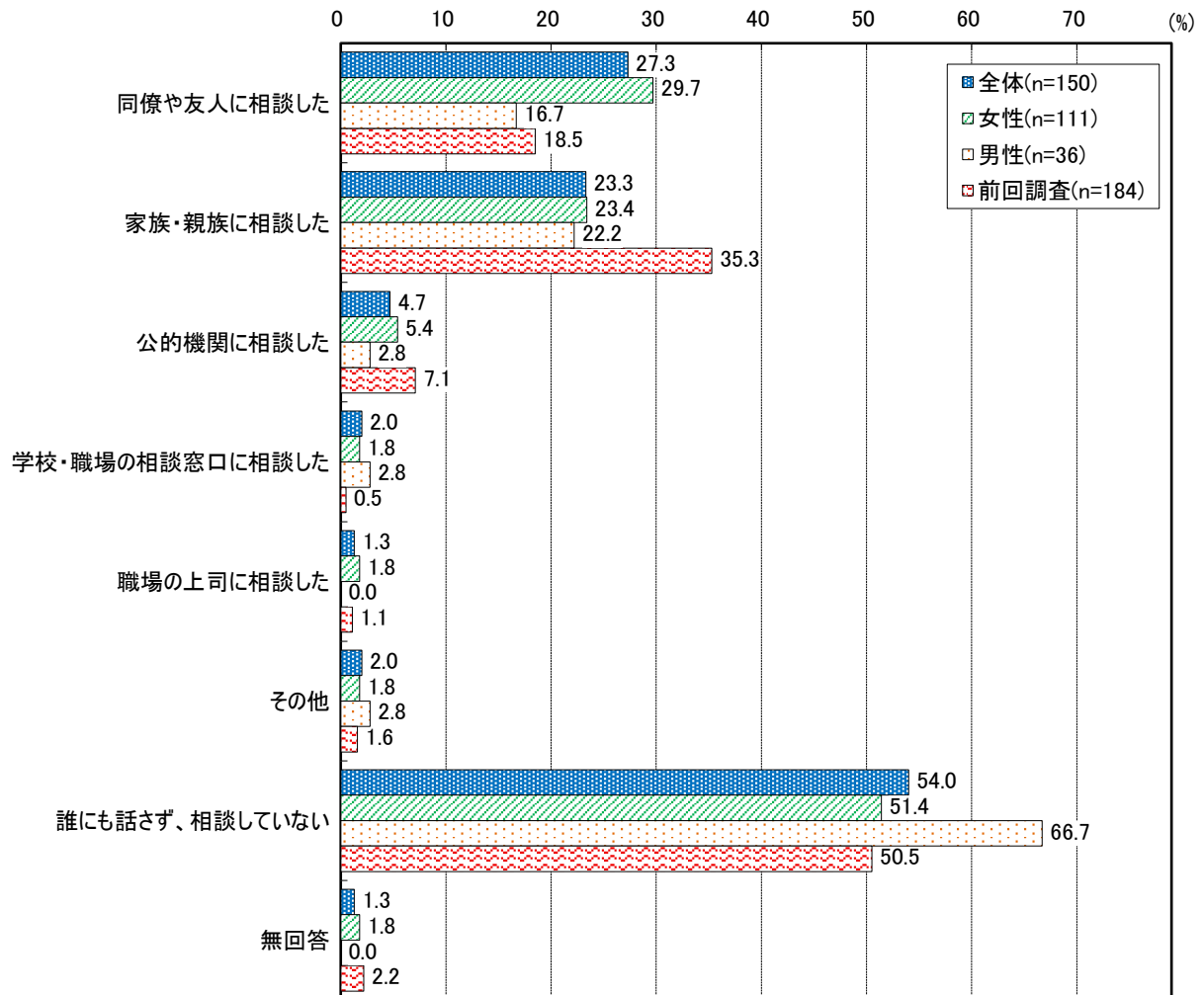
	大声でどなられる	医師の治療が必要とならない程度の暴力をうける	交友関係や電話を細かく監視される	「誰のおかげで生活できるんだ」や「かいしようなし」などと言われる	何を言っても長時間無視され続ける	なぐるふりをして脅される	あなたが嫌がっているのに性的な行為を強要される	生活費を渡してくれない(収入を生活費に充ててくれない)	命の危機を感じるくらいの暴力をうける	医師の治療が必要となる程度の暴力をうける	あなたが嫌がっているのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる	受けたことがない	無回答
全体 (n=738)	12.9	5.0	4.2	4.2	3.9	3.8	3.3	1.8	0.8	0.5	0.3	67.2	12.5
女性 (n=410)	18.3	7.3	4.6	5.6	4.6	5.9	5.6	2.7	1.0	1.0	0.5	63.7	9.3
10・20歳代 (n=38)	10.5	2.6	5.3	2.6	2.6	5.3	5.3	2.6	0.0	0.0	0.0	84.2	0.0
30歳代 (n=31)	29.0	19.4	6.5	6.5	12.9	16.1	16.1	0.0	3.2	6.5	0.0	51.6	3.2
40歳代 (n=45)	28.9	8.9	13.3	4.4	4.4	2.2	6.7	2.2	0.0	0.0	0.0	60.0	6.7
50歳代 (n=86)	23.3	9.3	2.3	7.0	3.5	9.3	7.0	3.5	1.2	1.2	1.2	61.6	8.1
60歳代 (n=80)	18.8	6.3	6.3	8.8	2.5	5.0	2.5	3.8	0.0	1.3	1.3	65.0	7.5
70歳代 (n=84)	14.3	4.8	1.2	4.8	7.1	2.4	4.8	2.4	1.2	0.0	0.0	60.7	15.5
80歳以上 (n=46)	4.3	4.3	2.2	2.2	2.2	4.3	2.2	2.2	2.2	0.0	0.0	65.2	17.4
男性 (n=312)	6.1	1.9	3.2	2.2	3.2	1.3	0.0	0.6	0.6	0.0	0.0	72.1	16.3
10・20歳代 (n=26)	7.7	0.0	7.7	3.8	0.0	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	73.1	15.4
30歳代 (n=29)	3.4	0.0	3.4	3.4	0.0	0.0	0.0	3.4	0.0	0.0	0.0	72.4	17.2
40歳代 (n=35)	11.4	2.9	5.7	0.0	8.6	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0	74.3	8.6
50歳代 (n=52)	5.8	5.8	1.9	1.9	5.8	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	67.3	21.2
60歳代 (n=69)	7.2	1.4	4.3	2.9	1.4	0.0	0.0	1.4	1.4	0.0	0.0	78.3	10.1
70歳代 (n=74)	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	74.3	20.3
80歳以上 (n=27)	11.1	0.0	0.0	3.7	7.4	7.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	55.6	22.2

※濃い網かけは全体構成比より10ポイント以上、薄い網かけは5ポイント以上高いもの

問23 配偶者・パートナー等からいずれかの行為を受けたことについて、誰かに話したり、相談しましたか。(〇はいくつでも)

○ドメスティック・バイオレンスと思われる何らかの行為を受けたことがあると答えた人に相談対応の状況を尋ねたところ、「同僚や友人に相談した」が27.3%、「家族・親族に相談した」が23.3%となっています。

○性別でみると、「同僚や友人に相談した」は女性で29.7%、「誰にも話さず、相談していない」は男性で66.7%とそれぞれ多く見られます。



○性年齢別でみると、「同僚や友人に相談した」と答えた人は30～50歳代の女性や10・20・40歳代の男性、「家族・親族に相談した」と答えた人は10・20・70歳代の女性や10～40歳代・80歳以上の男性で多く見られます。

(単位：％)

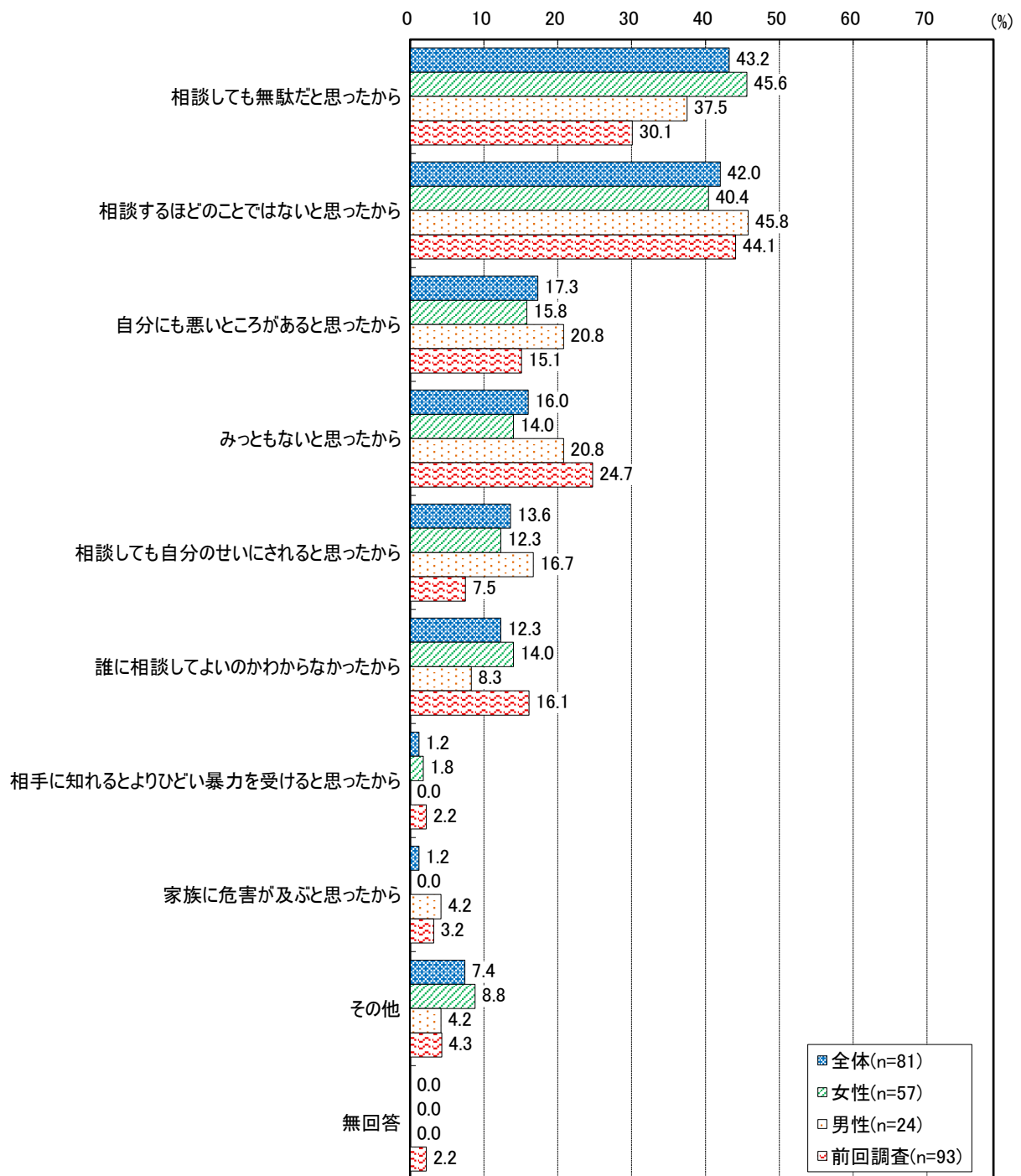
	家族・親族に相談した	同僚や友人に相談した	職場の上司に相談した	学校・職場の相談窓口 に相談した	公的機関に相談した	その他	誰にも話さず、相談 していない	無回答
女性(n=111)	23.4	29.7	1.8	1.8	5.4	1.8	51.4	1.8
10・20歳代(n=6)	33.3	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0
30歳代(n=14)	14.3	50.0	0.0	0.0	7.1	0.0	50.0	0.0
40歳代(n=15)	20.0	40.0	0.0	6.7	6.7	0.0	53.3	0.0
50歳代(n=26)	23.1	34.6	3.8	3.8	15.4	3.8	46.2	0.0
60歳代(n=22)	18.2	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	63.6	4.5
70歳代(n=20)	35.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
80歳以上(n=8)	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	12.5	25.0	12.5
男性(n=36)	22.2	16.7	0.0	2.8	2.8	2.8	66.7	0.0
10・20歳代(n=3)	33.3	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	66.7	0.0
30歳代(n=3)	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0
40歳代(n=6)	33.3	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
50歳代(n=6)	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	83.3	0.0
60歳代(n=8)	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	12.5	75.0	0.0
70歳代(n=4)	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0	0.0
80歳以上(n=6)	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0

※本集計は各属性のサンプル数が非常に少ないため、結果は参考値。

問23-1 相談しなかったのは、どのような理由からですか。(〇はいくつでも)

○「誰にも話さず、相談していない」と答えた人にその理由を尋ねたところ、「相談しても無駄だと思ったから」が43.2%、「相談するほどのことではないと思ったから」が42.0%となっています。

○性別でみると、「誰にも話さず、相談していない」は女性で45.6%、「相談するほどのことではないと思ったから」は男性で45.8%とそれぞれ多く見られます。また、前回の調査結果と比べると、「誰にも話さず、相談していない」は前回の30.1%から今回の43.2%へと増加しています。



○性年齢別でみると、「相談しても無駄だと思ったから」と答えた人は40～60歳代の女性、「相談するほどのことではないと思ったから」は50～70歳代の女性で多い結果となっています。

	誰に相談してよいかわからなかったから	みつともないと思ったから	相談しても無駄だと思ったから	相談しても自分のせいになれると思ったから	相手に知れるとよりひどい暴力を受けると思ったから	自分にも悪いところがあると思ったから	相談するほどのことではないと思ったから	家族に危害が及ぶと思ったから	その他	無回答
女性 (n=57)	8人	8人	26人	7人	1人	9人	23人	-	5人	-
10・20歳代 (n=4)	-	1人	1人	-	-	1人	1人	-	1人	-
30歳代 (n=7)	-	-	1人	-	-	1人	4人	-	2人	-
40歳代 (n=8)	1人	1人	7人	2人	1人	-	2人	-	-	-
50歳代 (n=12)	4人	4人	5人	1人	-	3人	5人	-	1人	-
60歳代 (n=14)	2人	1人	8人	1人	-	-	5人	-	1人	-
70歳代 (n=10)	1人	1人	3人	2人	-	4人	6人	-	-	-
80歳以上 (n=8)	-	-	1人	1人	-	-	-	-	-	-
男性 (n=24)	2人	5人	9人	4人	-	5人	11人	1人	1人	-
10・20歳代 (n=2)	-	-	1人	1人	-	-	2人	-	-	-
30歳代 (n=2)	1人	-	-	-	-	-	1人	-	-	-
40歳代 (n=3)	-	-	1人	-	-	1人	1人	-	-	-
50歳代 (n=5)	-	2人	1人	1人	-	1人	2人	-	1人	-
60歳代 (n=6)	-	2人	3人	1人	-	2人	3人	1人	-	-
70歳代 (n=3)	1人	1人	2人	1人	-	-	1人	-	-	-
80歳以上 (n=3)	-	-	1人	-	-	1人	1人	-	-	-

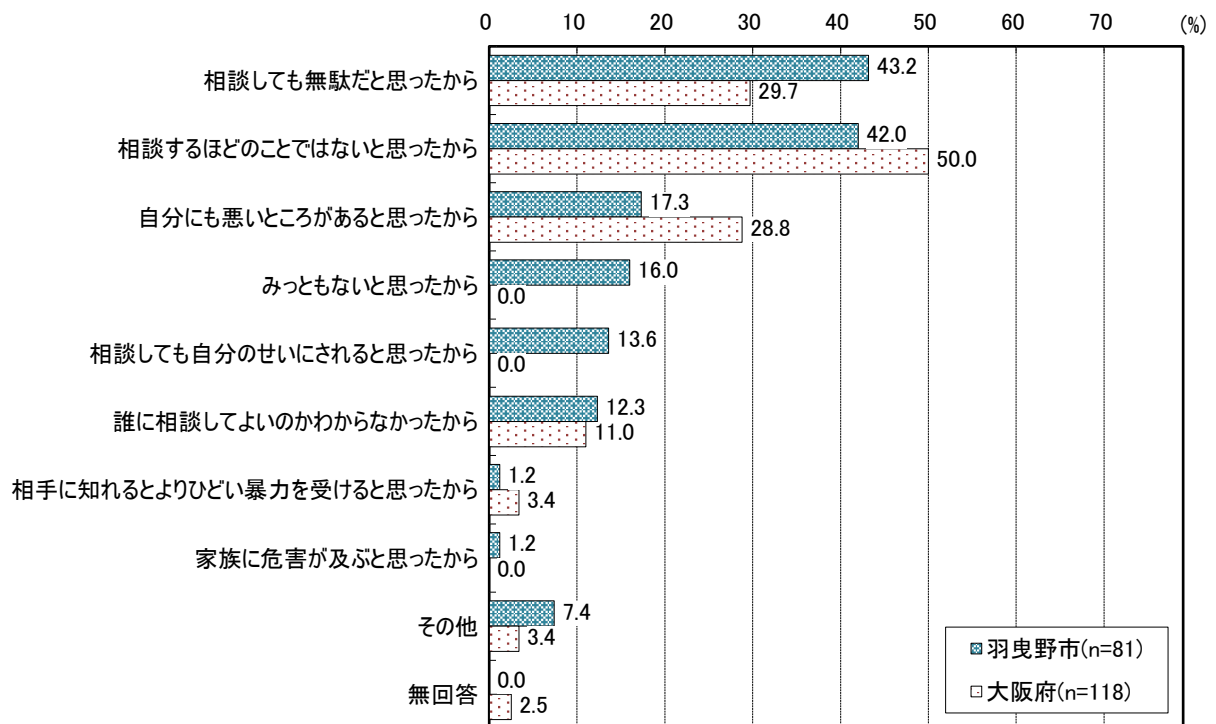
※本集計は各属性のサンプル数が非常に少ないため、結果は参考値。構成比ではなく実数で表記した

《選択肢「その他」の主な記述内容》

- ・お互いに話し合い解決したから。
- ・自分で対処したから。
- ・許している。
- ・大人になり両親もストレスがあったとわかったから。
- ・やりかえた。

大阪府調査との比較

○大阪府調査と比べて、「相談しても無駄だ」と答える人が多く、「相談するほどのことではない」「自分にも悪いところがある」と答える人が少なくなっています。

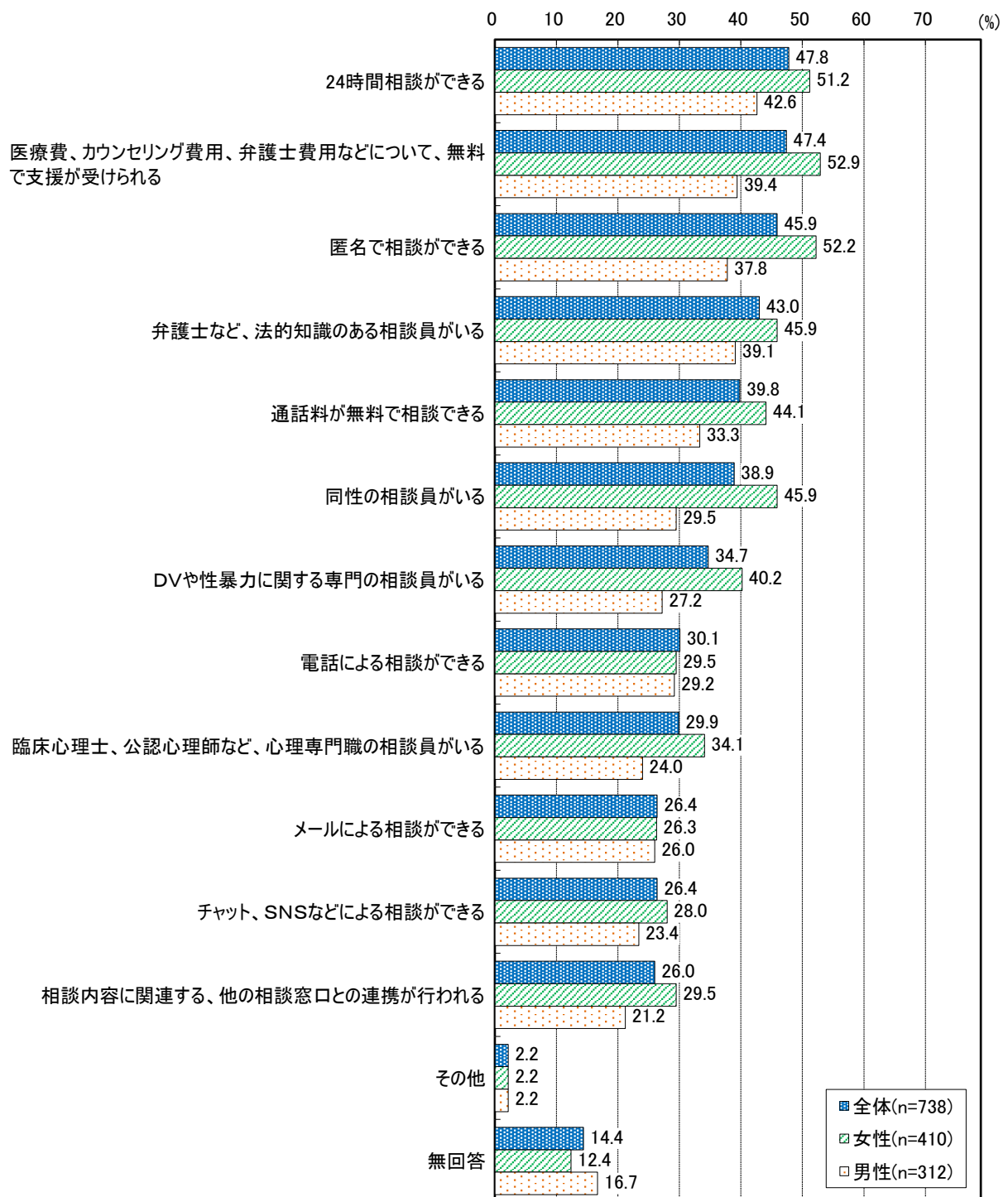


※比較可能な選択肢のみ掲載。大阪府は配偶者からの暴力（DV）の場合のみ。

問24 あなたは、DVや性暴力の被害、それに関する悩みを相談できる窓口などで配慮してほしいと思うことは何ですか。(〇はいくつでも)

○「24時間相談ができる」が47.8%と最も多く、次いで「医療費、カウンセリング費用、弁護士費用などについて、無料で支援が受けられる」が47.4%、「匿名で相談ができる」が45.9%、「弁護士など、法的知識のある相談員がいる」が43.0%、「通話料が無料で相談できる」が39.8%、「同性の相談員がいる」が38.9%、「DVや性暴力に関する専門の相談員がいる」が34.7%の順となっています。

○性別でみると、おおむね各選択肢で女性の割合が男性より高くなっています。

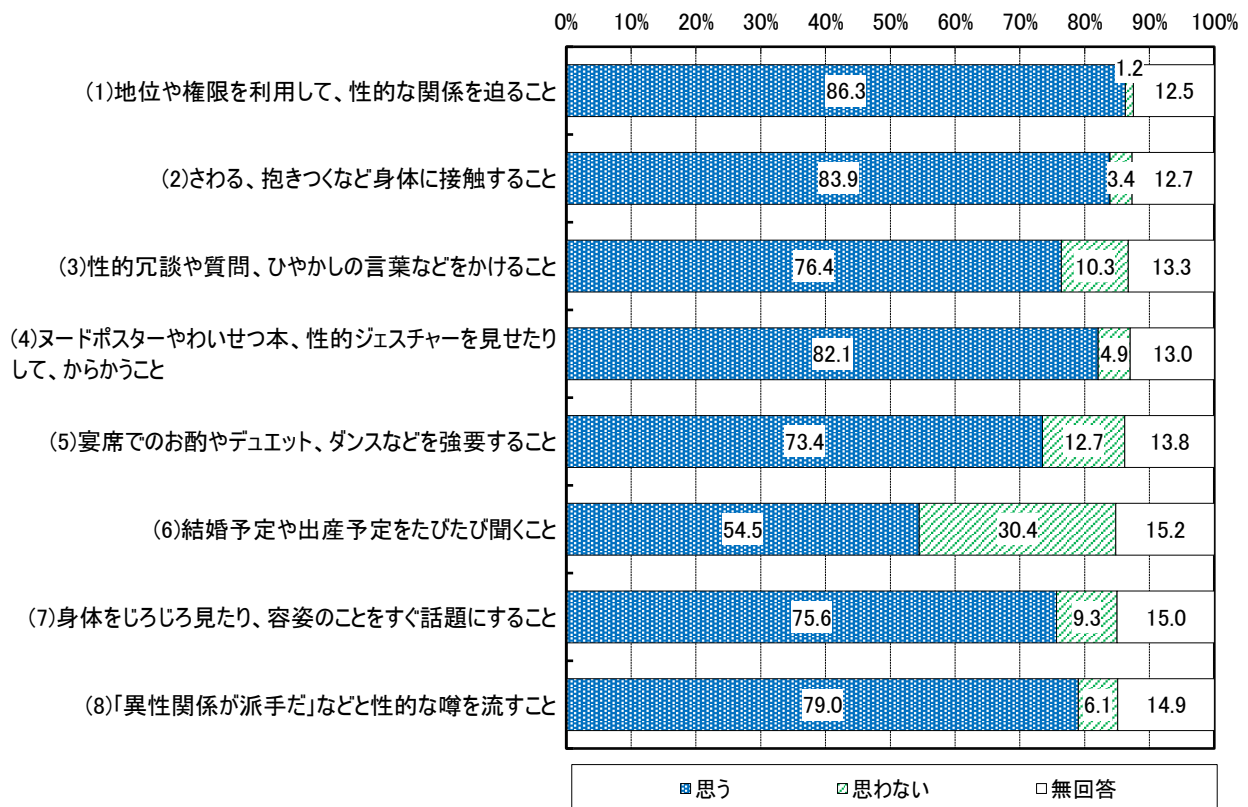


問25 次の行為について、ハラスメント（相手に対して不適切な言動を行い、精神的・身体的に苦痛や不利益を与える行為）だと思いますか。また、そのような行為を受けたことや、したことがありますか。該当する行為に○をしてください。

《セクシャル・ハラスメント》

ハラスメントだと思うか

○ハラスメントと思う人が多いものは、「地位や権限を利用して、性的な関係を迫ること」が86.3%（女性 87.1%、男性 85.3%）、「さわる、抱きつくなど身体に接触すること」が83.9%（女性 85.4%、男性 81.7%）、「ヌードポスターやわいせつ本、性的ジェスチャーを見せたりして、からかうこと」が82.1%（女性 82.7%、男性 81.4%）、「『異性関係が派手だ』などと性的な噂を流すこと」が79.0%（女性 80.5%、男性 77.9%）、「性的冗談や質問、ひやかしの言葉などをかけること」が76.4%（女性 78.5%、男性 73.4%）などとなっています。

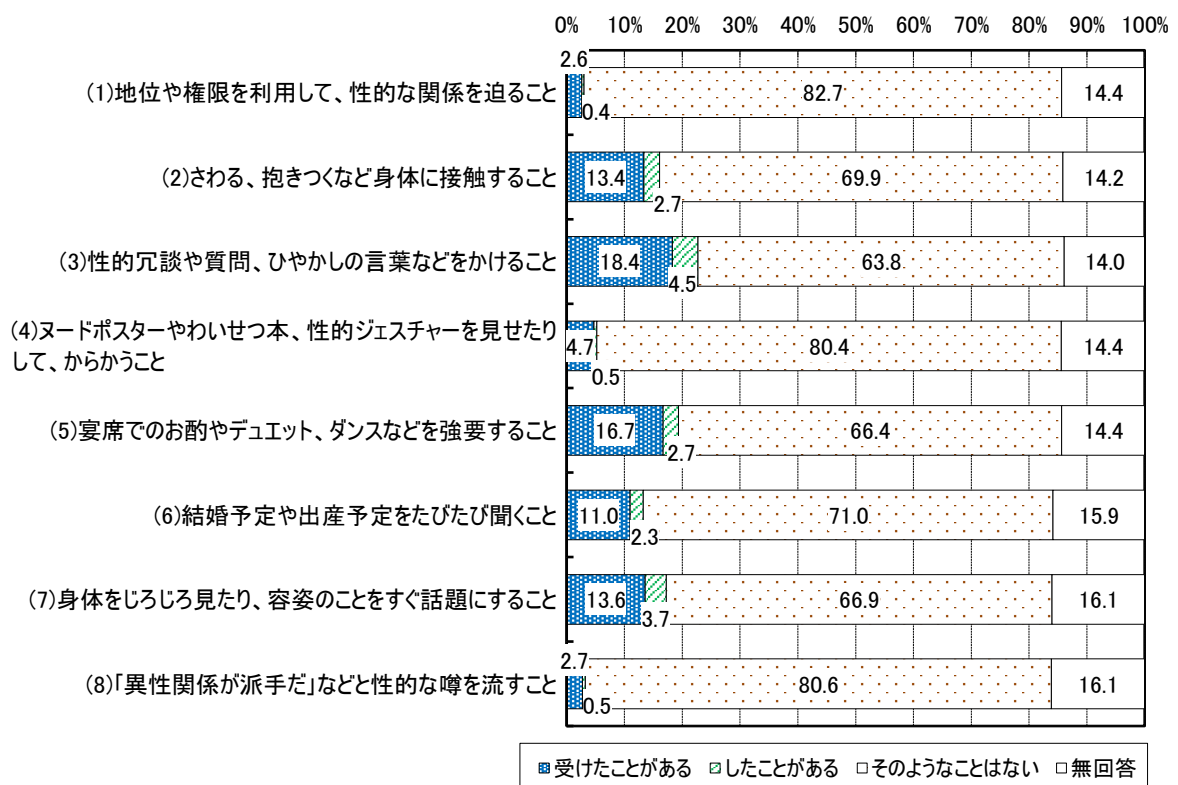


受けたことがあるか

○「性的冗談や質問、ひやかしの言葉などをかけること」が18.4%（女性 28.0%、男性 5.8%）、「宴席でのお酌やデュエット、ダンスなどを強要すること」が16.7%（女性 25.6%、男性 4.8%）、「身体をじろじろ見たり、容姿のことをすぐ話題にすること」が13.6%（女性 21.7%、男性 2.9%）、「さわる、抱きつくなど身体に接触すること」が13.4%（女性 22.7%、男性 1.3%）、「結婚予定や出産予定をたびたび聞くこと」が11.0%（女性 16.8%、男性 2.9%）などとなっており、総じて女性の割合が高くなっています。

自分がしたことがあるか

○「性的冗談や質問、ひやかしの言葉などをかけること」が4.5%（女性 0.5%、男性 9.6%）、「身体をじろじろ見たり、容姿のことをすぐ話題にすること」が3.7%（女性 1.5%、男性 6.7%）、「宴席でのお酌やデュエット、ダンスなどを強要すること」が2.7%（女性 1.5%、男性 4.5%）、「さわる、抱きつくなど身体に接触すること」がそれぞれ2.7%（女性 0.2%、男性 6.1%）などとなっており、総じて男性の割合が高くなっています。



(1) 地位や権限を利用して、性的な関係を迫ること

(単位：%)

	ハラスメントと思うか			経験があるか			
	思う	思わない	無回答	受けたことがある	したことがある	そのようなことはない	無回答
女 性 (n=410)	87.1	1.0	12.0	4.1	0.0	83.7	12.2
10・20歳代 (n=38)	97.4	2.6	0.0	2.6	0.0	97.4	0.0
30歳代 (n=31)	100.0	0.0	0.0	3.2	0.0	96.8	0.0
40歳代 (n=45)	93.3	0.0	6.7	6.7	0.0	82.2	11.1
50歳代 (n=86)	96.5	0.0	3.5	5.8	0.0	87.2	7.0
60歳代 (n=80)	92.5	1.3	6.3	8.8	0.0	81.3	10.0
70歳代 (n=84)	73.8	2.4	23.8	0.0	0.0	81.0	19.0
80歳以上 (n=46)	60.9	0.0	39.1	0.0	0.0	67.4	32.6
男 性 (n=312)	85.3	1.6	13.1	0.6	1.0	81.7	16.7
10・20歳代 (n=26)	100.0	0.0	0.0	0.0	3.8	88.5	7.7
30歳代 (n=29)	93.1	0.0	6.9	0.0	0.0	93.1	6.9
40歳代 (n=35)	94.3	2.9	2.9	2.9	0.0	88.6	8.6
50歳代 (n=52)	82.7	1.9	15.4	1.9	0.0	78.8	19.2
60歳代 (n=69)	88.4	4.3	7.2	0.0	2.9	84.1	13.0
70歳代 (n=74)	75.7	0.0	24.3	0.0	0.0	74.3	25.7
80歳以上 (n=27)	74.1	0.0	25.9	0.0	0.0	74.1	25.9

(2) さわる、抱きつくなど身体に接触すること

(単位：%)

	ハラスメントと思うか			経験があるか			
	思う	思わない	無回答	受けたことがある	したことがある	そのようなことはない	無回答
女 性 (n=410)	85.4	2.2	12.4	22.7	0.2	65.4	11.7
10・20歳代 (n=38)	97.4	2.6	0.0	15.8	0.0	84.2	0.0
30歳代 (n=31)	100.0	0.0	0.0	25.8	0.0	74.2	0.0
40歳代 (n=45)	91.1	2.2	6.7	44.4	0.0	46.7	8.9
50歳代 (n=86)	93.0	3.5	3.5	27.9	0.0	65.1	7.0
60歳代 (n=80)	91.3	2.5	6.3	23.8	0.0	66.3	10.0
70歳代 (n=84)	72.6	2.4	25.0	15.5	1.2	65.5	17.9
80歳以上 (n=46)	58.7	0.0	41.3	6.5	0.0	60.9	32.6
男 性 (n=312)	81.7	5.1	13.1	1.3	6.1	76.3	17.0
10・20歳代 (n=26)	96.2	3.8	0.0	0.0	3.8	88.5	7.7
30歳代 (n=29)	82.8	10.3	6.9	6.9	6.9	82.8	6.9
40歳代 (n=35)	94.3	2.9	2.9	0.0	2.9	88.6	8.6
50歳代 (n=52)	78.8	5.8	15.4	3.8	5.8	73.1	19.2
60歳代 (n=69)	82.6	10.1	7.2	0.0	8.7	76.8	14.5
70歳代 (n=74)	75.7	0.0	24.3	0.0	6.8	67.6	25.7
80歳以上 (n=27)	70.4	3.7	25.9	0.0	3.7	70.4	25.9

(3) 性的冗談や質問、ひやかしの言葉などをかけること

(単位：％)

	ハラスメントと思うか			経験があるか			
	思う	思わない	無回答	受けたことがある	したことがある	そのようなことはない	無回答
女 性 (n=410)	78.5	8.5	12.9	28.0	0.5	59.8	11.7
10・20歳代 (n=38)	89.5	10.5	0.0	23.7	0.0	76.3	0.0
30歳代 (n=31)	87.1	12.9	0.0	45.2	0.0	54.8	0.0
40歳代 (n=45)	84.4	8.9	6.7	42.2	2.2	46.7	8.9
50歳代 (n=86)	87.2	9.3	3.5	32.6	0.0	60.5	7.0
60歳代 (n=80)	88.8	3.8	7.5	30.0	1.3	60.0	8.8
70歳代 (n=84)	64.3	9.5	26.2	16.7	0.0	65.5	17.9
80歳以上 (n=46)	50.0	8.7	41.3	15.2	0.0	50.0	34.8
男 性 (n=312)	73.4	12.8	13.8	5.8	9.6	69.9	16.3
10・20歳代 (n=26)	84.6	15.4	0.0	3.8	3.8	84.6	7.7
30歳代 (n=29)	86.2	6.9	6.9	17.2	3.4	75.9	6.9
40歳代 (n=35)	85.7	11.4	2.9	8.6	11.4	77.1	8.6
50歳代 (n=52)	73.1	11.5	15.4	5.8	9.6	67.3	19.2
60歳代 (n=69)	75.4	17.4	7.2	4.3	11.6	72.5	13.0
70歳代 (n=74)	64.9	10.8	24.3	4.1	12.2	58.1	25.7
80歳以上 (n=27)	51.9	14.8	33.3	0.0	7.4	70.4	22.2

(4) ノードポスターやわいせつ本、性的ジェスチャーを見せたりして、からかうこと

(単位：％)

	ハラスメントと思うか			経験があるか			
	思う	思わない	無回答	受けたことがある	したことがある	そのようなことはない	無回答
女 性 (n=410)	82.7	4.6	12.7	8.0	0.2	79.3	12.4
10・20歳代 (n=38)	94.7	5.3	0.0	7.9	0.0	92.1	0.0
30歳代 (n=31)	93.5	3.2	3.2	12.9	0.0	83.9	3.2
40歳代 (n=45)	84.4	8.9	6.7	11.1	2.2	77.8	8.9
50歳代 (n=86)	90.7	5.8	3.5	12.8	0.0	80.2	7.0
60歳代 (n=80)	90.0	3.8	6.3	7.5	0.0	81.3	11.3
70歳代 (n=84)	71.4	3.6	25.0	3.6	0.0	77.4	19.0
80歳以上 (n=46)	56.5	2.2	41.3	2.2	0.0	65.2	32.6
男 性 (n=312)	81.4	5.1	13.5	0.6	1.0	82.1	16.3
10・20歳代 (n=26)	92.3	7.7	0.0	0.0	0.0	92.3	7.7
30歳代 (n=29)	89.7	3.4	6.9	3.4	0.0	89.7	6.9
40歳代 (n=35)	91.4	5.7	2.9	0.0	2.9	88.6	8.6
50歳代 (n=52)	82.7	1.9	15.4	1.9	0.0	78.8	19.2
60歳代 (n=69)	82.6	10.1	7.2	0.0	1.4	85.5	13.0
70歳代 (n=74)	71.6	4.1	24.3	0.0	1.4	73.0	25.7
80歳以上 (n=27)	70.4	0.0	29.6	0.0	0.0	77.8	22.2

(5) 宴席でのお酌やデュエット、ダンスなどを強要すること

(単位：%)

	ハラスメントと思うか			経験があるか			
	思う	思わない	無回答	受けたことがある	したことがある	そのようなことはない	無回答
女 性 (n=410)	70.7	15.6	13.7	25.6	1.5	60.5	12.4
10・20歳代 (n=38)	73.7	26.3	0.0	7.9	0.0	92.1	0.0
30歳代 (n=31)	83.9	12.9	3.2	35.5	3.2	58.1	3.2
40歳代 (n=45)	75.6	17.8	6.7	20.0	2.2	66.7	11.1
50歳代 (n=86)	75.6	18.6	5.8	38.4	2.3	52.3	7.0
60歳代 (n=80)	82.5	10.0	7.5	32.5	1.3	55.0	11.3
70歳代 (n=84)	61.9	13.1	25.0	22.6	1.2	57.1	19.0
80歳以上 (n=46)	41.3	15.2	43.5	8.7	0.0	60.9	30.4
男 性 (n=312)	76.6	9.3	14.1	4.8	4.5	74.7	16.3
10・20歳代 (n=26)	92.3	3.8	3.8	0.0	0.0	92.3	7.7
30歳代 (n=29)	86.2	6.9	6.9	13.8	0.0	79.3	6.9
40歳代 (n=35)	85.7	11.4	2.9	11.4	2.9	80.0	8.6
50歳代 (n=52)	78.8	5.8	15.4	7.7	1.9	71.2	19.2
60歳代 (n=69)	76.8	15.9	7.2	2.9	8.7	75.4	13.0
70歳代 (n=74)	66.2	9.5	24.3	1.4	8.1	64.9	25.7
80歳以上 (n=27)	63.0	3.7	33.3	0.0	0.0	77.8	22.2

(6) 結婚予定や出産予定をたびたび聞くこと

(単位：%)

	ハラスメントと思うか			経験があるか			
	思う	思わない	無回答	受けたことがある	したことがある	そのようなことはない	無回答
女 性 (n=410)	51.0	35.1	13.9	16.8	1.5	69.8	12.2
10・20歳代 (n=38)	52.6	47.4	0.0	13.2	0.0	86.8	0.0
30歳代 (n=31)	48.4	48.4	3.2	38.7	0.0	61.3	0.0
40歳代 (n=45)	68.9	24.4	6.7	24.4	2.2	64.4	8.9
50歳代 (n=86)	46.5	47.7	5.8	26.7	2.3	64.0	8.1
60歳代 (n=80)	63.8	27.5	8.8	10.0	2.5	78.8	8.8
70歳代 (n=84)	46.4	28.6	25.0	6.0	0.0	73.8	20.2
80歳以上 (n=46)	28.3	28.3	43.5	10.9	2.2	54.3	32.6
男 性 (n=312)	60.6	22.8	16.7	2.9	3.5	73.4	20.2
10・20歳代 (n=26)	76.9	19.2	3.8	3.8	0.0	80.8	15.4
30歳代 (n=29)	79.3	17.2	3.4	10.3	0.0	86.2	3.4
40歳代 (n=35)	68.6	22.9	8.6	2.9	0.0	85.7	11.4
50歳代 (n=52)	57.7	23.1	19.2	3.8	3.8	69.2	23.1
60歳代 (n=69)	63.8	26.1	10.1	2.9	5.8	76.8	14.5
70歳代 (n=74)	47.3	24.3	28.4	0.0	5.4	62.2	32.4
80歳以上 (n=27)	48.1	18.5	33.3	0.0	3.7	66.7	29.6

(7) 身体をじろじろ見たり、容姿のことをすぐ話題にすること

(単位：%)

	ハラスメントと思うか			経験があるか			
	思う	思わない	無回答	受けたことがある	したことがある	そのようなことはない	無回答
女 性 (n=410)	77.6	8.8	13.7	21.7	1.5	64.6	12.4
10・20歳代 (n=38)	84.2	15.8	0.0	26.3	0.0	73.7	0.0
30歳代 (n=31)	90.3	6.5	3.2	41.9	3.2	51.6	3.2
40歳代 (n=45)	86.7	6.7	6.7	33.3	2.2	55.6	8.9
50歳代 (n=86)	82.6	11.6	5.8	25.6	2.3	67.4	5.8
60歳代 (n=80)	86.3	3.8	10.0	23.8	1.3	63.8	11.3
70歳代 (n=84)	67.9	8.3	23.8	8.3	1.2	69.0	21.4
80歳以上 (n=46)	47.8	10.9	41.3	6.5	0.0	63.0	30.4
男 性 (n=312)	73.1	10.3	16.7	2.9	6.7	70.2	20.5
10・20歳代 (n=26)	76.9	19.2	3.8	7.7	3.8	73.1	15.4
30歳代 (n=29)	86.2	13.8	0.0	6.9	6.9	89.7	0.0
40歳代 (n=35)	85.7	5.7	8.6	0.0	11.4	77.1	11.4
50歳代 (n=52)	75.0	5.8	19.2	1.9	7.7	67.3	23.1
60歳代 (n=69)	75.4	14.5	10.1	4.3	8.7	69.6	17.4
70歳代 (n=74)	63.5	6.8	29.7	1.4	5.4	60.8	32.4
80歳以上 (n=27)	55.6	11.1	33.3	0.0	0.0	70.4	29.6

(8) 「異性関係が派手だ」などと性的な噂を流すこと

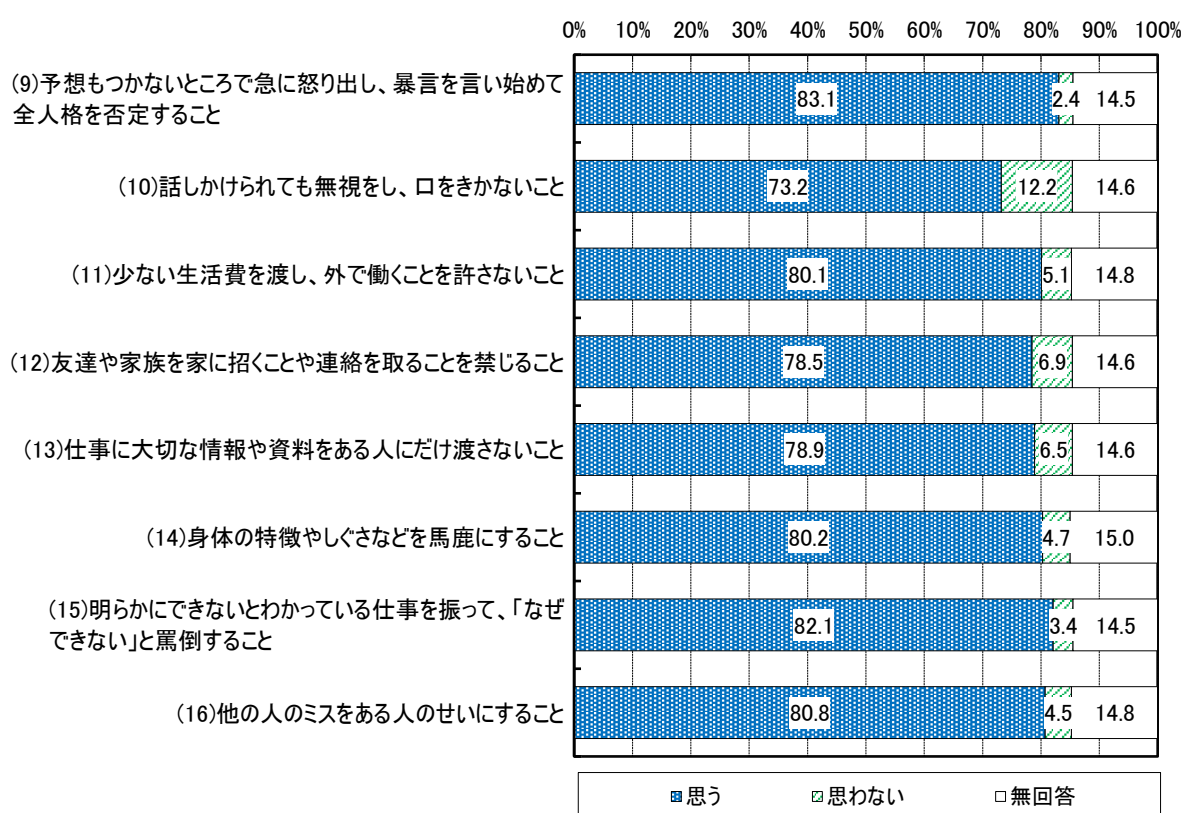
(単位：%)

	ハラスメントと思うか			経験があるか			
	思う	思わない	無回答	受けたことがある	したことがある	そのようなことはない	無回答
女 性 (n=410)	80.5	5.4	14.1	4.4	0.0	82.7	12.9
10・20歳代 (n=38)	89.5	10.5	0.0	7.9	0.0	92.1	0.0
30歳代 (n=31)	90.3	6.5	3.2	12.9	0.0	83.9	3.2
40歳代 (n=45)	80.0	13.3	6.7	6.7	0.0	82.2	11.1
50歳代 (n=86)	89.5	3.5	7.0	3.5	0.0	90.7	5.8
60歳代 (n=80)	86.3	1.3	12.5	5.0	0.0	82.5	12.5
70歳代 (n=84)	73.8	4.8	21.4	0.0	0.0	79.8	20.2
80歳以上 (n=46)	52.2	4.3	43.5	2.2	0.0	65.2	32.6
男 性 (n=312)	77.9	6.4	15.7	0.6	1.3	78.2	19.9
10・20歳代 (n=26)	84.6	11.5	3.8	0.0	0.0	84.6	15.4
30歳代 (n=29)	93.1	6.9	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
40歳代 (n=35)	85.7	8.6	5.7	0.0	0.0	88.6	11.4
50歳代 (n=52)	76.9	3.8	19.2	1.9	1.9	73.1	23.1
60歳代 (n=69)	84.1	7.2	8.7	1.4	2.9	79.7	15.9
70歳代 (n=74)	64.9	6.8	28.4	0.0	1.4	67.6	31.1
80歳以上 (n=27)	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	70.4	29.6

《モラル・ハラスメント》

ハラスメントだと思うか

○ハラスメントと思う人が多いものは、「予想もつかないところで急に怒り出し、暴言を言い始めて全人格を否定すること」が83.1%（女性 83.7%、男性 82.7%）、「明らかにできないとわかっている仕事を振って、『なぜできない』と罵倒すること」が82.1%（女性 84.4%、男性 79.2%）、「他の人のミスをおある人のせいにするこゝ」が80.8%（女性 82.7%、男性 79.2%）、「身体の特徴やしぐさなどを馬鹿にすること」が80.2%（女性 81.5%、男性 79.2%）、「少ない生活費を渡し、外で働くことを許さないこと」が80.1%（女性 82.4%、男性 77.9%）などとなっており、総じて女性の割合がやや高くなっています。

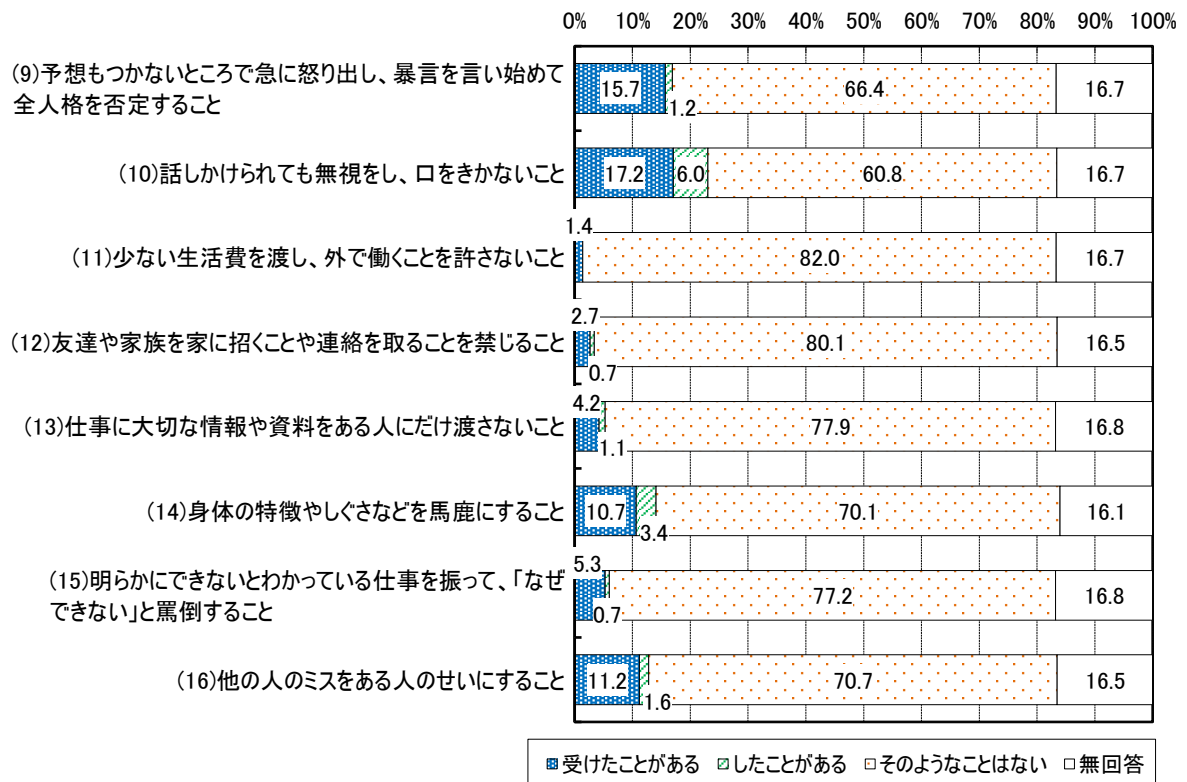


受けたことがあるか

○「話しかけられても無視をし、口をきかないこと」が17.2%（女性 24.9%、男性 6.7%）、「予想もつかないところで急に怒り出し、暴言を言い始めて全人格を否定すること」が15.7%（女性 21.2%、男性 8.0%）、「他の人のミスがある人のせいにするこ
と」が11.2%（女性 14.9%、男性 6.4%）、「身体の特徴やしぐさなどを馬鹿にすること」が10.7%（女性 14.9%、男性 5.4%）などとなっており、総じて女性の割合が高くなっています。

自分がしたことがあるか

○「話しかけられても無視をし、口をきかないこと」が6.0%（女性 4.1%、男性 8.7%）、「身体の特徴やしぐさなどを馬鹿にすること」が3.4%（女性 1.7%、男性 5.8%）などとなっており、総じて男性の割合がやや高くなっています。



(9) 予想もつかないところで急に怒り出し、暴言を言い始めて全人格を否定すること

(単位：％)

	ハラスメントと思うか			経験があるか			
	思う	思わない	無回答	受けたことがある	したことがある	そのようなことはない	無回答
女 性 (n=410)	83.7	2.4	13.9	21.2	0.7	64.4	13.7
10・20歳代 (n=38)	97.4	2.6	0.0	21.1	0.0	78.9	0.0
30歳代 (n=31)	93.5	3.2	3.2	38.7	0.0	58.1	3.2
40歳代 (n=45)	93.3	0.0	6.7	33.3	0.0	55.6	11.1
50歳代 (n=86)	95.3	1.2	3.5	30.2	1.2	60.5	8.1
60歳代 (n=80)	85.0	2.5	12.5	16.3	1.3	70.0	12.5
70歳代 (n=84)	72.6	3.6	23.8	9.5	1.2	70.2	19.0
80歳以上 (n=46)	52.2	4.3	43.5	10.9	0.0	52.2	37.0
男 性 (n=312)	82.7	2.2	15.1	8.0	1.9	70.2	19.9
10・20歳代 (n=26)	96.2	0.0	3.8	7.7	3.8	73.1	15.4
30歳代 (n=29)	96.6	3.4	0.0	24.1	0.0	75.9	0.0
40歳代 (n=35)	88.6	2.9	8.6	11.4	2.9	74.3	11.4
50歳代 (n=52)	78.8	3.8	17.3	13.5	1.9	63.5	21.2
60歳代 (n=69)	88.4	2.9	8.7	5.8	1.4	76.8	15.9
70歳代 (n=74)	71.6	1.4	27.0	1.4	2.7	64.9	31.1
80歳以上 (n=27)	70.4	0.0	29.6	0.0	0.0	66.7	33.3

(10) 話しかけられても無視をし、口をきかないこと

(単位：％)

	ハラスメントと思うか			経験があるか			
	思う	思わない	無回答	受けたことがある	したことがある	そのようなことはない	無回答
女 性 (n=410)	75.1	10.7	14.1	24.9	4.1	58.8	13.4
10・20歳代 (n=38)	84.2	15.8	0.0	31.6	2.6	65.8	0.0
30歳代 (n=31)	87.1	9.7	3.2	35.5	6.5	58.1	3.2
40歳代 (n=45)	86.7	6.7	6.7	31.1	8.9	48.9	11.1
50歳代 (n=86)	86.0	8.1	5.8	33.7	3.5	55.8	9.3
60歳代 (n=80)	85.0	2.5	12.5	23.8	5.0	61.3	11.3
70歳代 (n=84)	58.3	17.9	23.8	17.9	2.4	61.9	19.0
80歳以上 (n=46)	41.3	17.4	41.3	4.3	2.2	58.7	34.8
男 性 (n=312)	71.5	13.5	15.1	6.7	8.7	64.1	20.5
10・20歳代 (n=26)	84.6	11.5	3.8	0.0	7.7	76.9	15.4
30歳代 (n=29)	93.1	6.9	0.0	27.6	3.4	69.0	0.0
40歳代 (n=35)	80.0	11.4	8.6	8.6	8.6	71.4	11.4
50歳代 (n=52)	75.0	7.7	17.3	7.7	7.7	61.5	23.1
60歳代 (n=69)	72.5	18.8	8.7	5.8	10.1	68.1	15.9
70歳代 (n=74)	60.8	12.2	27.0	2.7	10.8	54.1	32.4
80歳以上 (n=27)	44.4	25.9	29.6	0.0	7.4	59.3	33.3

(11) 少ない生活費を渡し、外で働くことを許さないこと

(単位：%)

	ハラスメントと思うか			経験があるか			
	思う	思わない	無回答	受けたことがある	したことがある	そのようなことはない	無回答
女 性 (n=410)	82.4	3.4	14.1	2.2	0.0	83.9	13.9
10・20歳代 (n=38)	97.4	2.6	0.0	2.6	0.0	97.4	0.0
30歳代 (n=31)	96.8	0.0	3.2	3.2	0.0	93.5	3.2
40歳代 (n=45)	88.9	4.4	6.7	0.0	0.0	88.9	11.1
50歳代 (n=86)	88.4	3.5	8.1	2.3	0.0	89.5	8.1
60歳代 (n=80)	86.3	1.3	12.5	3.8	0.0	83.8	12.5
70歳代 (n=84)	73.8	3.6	22.6	2.4	0.0	77.4	20.2
80歳以上 (n=46)	52.2	8.7	39.1	0.0	0.0	63.0	37.0
男 性 (n=312)	77.9	6.7	15.4	0.3	0.0	79.8	19.9
10・20歳代 (n=26)	92.3	3.8	3.8	0.0	0.0	84.6	15.4
30歳代 (n=29)	93.1	6.9	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
40歳代 (n=35)	82.9	8.6	8.6	0.0	0.0	88.6	11.4
50歳代 (n=52)	78.8	3.8	17.3	1.9	0.0	75.0	23.1
60歳代 (n=69)	81.2	10.1	8.7	0.0	0.0	85.5	14.5
70歳代 (n=74)	66.2	5.4	28.4	0.0	0.0	68.9	31.1
80歳以上 (n=27)	63.0	7.4	29.6	0.0	0.0	66.7	33.3

(12) 話しかけられても無視をし、口をきかないこと

(単位：%)

	ハラスメントと思うか			経験があるか			
	思う	思わない	無回答	受けたことがある	したことがある	そのようなことはない	無回答
女 性 (n=410)	79.8	6.3	13.9	3.4	0.5	82.2	13.9
10・20歳代 (n=38)	92.1	7.9	0.0	2.6	0.0	97.4	0.0
30歳代 (n=31)	96.8	0.0	3.2	9.7	0.0	87.1	3.2
40歳代 (n=45)	86.7	6.7	6.7	8.9	0.0	80.0	11.1
50歳代 (n=86)	87.2	5.8	7.0	2.3	2.3	87.2	8.1
60歳代 (n=80)	83.8	2.5	13.8	3.8	0.0	83.8	12.5
70歳代 (n=84)	70.2	8.3	21.4	1.2	0.0	78.6	20.2
80歳以上 (n=46)	47.8	13.0	39.1	0.0	0.0	63.0	37.0
男 性 (n=312)	77.2	7.4	15.4	1.3	1.0	78.2	19.6
10・20歳代 (n=26)	92.3	3.8	3.8	3.8	0.0	80.8	15.4
30歳代 (n=29)	96.6	3.4	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
40歳代 (n=35)	88.6	2.9	8.6	0.0	0.0	88.6	11.4
50歳代 (n=52)	75.0	7.7	17.3	5.8	0.0	73.1	21.2
60歳代 (n=69)	81.2	10.1	8.7	0.0	1.4	84.1	14.5
70歳代 (n=74)	63.5	8.1	28.4	0.0	1.4	67.6	31.1
80歳以上 (n=27)	59.3	11.1	29.6	0.0	3.7	63.0	33.3

(13) 仕事に大切な情報や資料をある人にだけ渡さないこと

(単位：％)

	ハラスメントと思うか			経験があるか			
	思う	思わない	無回答	受けたことがある	したことがある	そのようなことはない	無回答
女 性 (n=410)	81.0	5.4	13.7	6.1	0.5	79.0	14.4
10・20歳代 (n=38)	92.1	7.9	0.0	2.6	0.0	97.4	0.0
30歳代 (n=31)	93.5	3.2	3.2	12.9	0.0	83.9	3.2
40歳代 (n=45)	88.9	4.4	6.7	8.9	2.2	77.8	11.1
50歳代 (n=86)	90.7	3.5	5.8	5.8	0.0	83.7	10.5
60歳代 (n=80)	80.0	6.3	13.8	10.0	1.3	76.3	12.5
70歳代 (n=84)	72.6	6.0	21.4	2.4	0.0	77.4	20.2
80歳以上 (n=46)	54.3	6.5	39.1	2.2	0.0	60.9	37.0
男 性 (n=312)	76.6	7.7	15.7	1.6	1.9	76.9	19.6
10・20歳代 (n=26)	96.2	0.0	3.8	0.0	3.8	80.8	15.4
30歳代 (n=29)	93.1	6.9	0.0	6.9	3.4	89.7	0.0
40歳代 (n=35)	82.9	8.6	8.6	0.0	0.0	88.6	11.4
50歳代 (n=52)	80.8	1.9	17.3	1.9	0.0	76.9	21.2
60歳代 (n=69)	79.7	11.6	8.7	2.9	1.4	81.2	14.5
70歳代 (n=74)	62.2	8.1	29.7	0.0	1.4	67.6	31.1
80歳以上 (n=27)	55.6	14.8	29.6	0.0	7.4	59.3	33.3

(14) 身体の特徴やしぐさなどを馬鹿にすること

(単位：％)

	ハラスメントと思うか			経験があるか			
	思う	思わない	無回答	受けたことがある	したことがある	そのようなことはない	無回答
女 性 (n=410)	81.5	4.4	14.1	14.9	1.7	70.5	13.4
10・20歳代 (n=38)	89.5	10.5	0.0	21.1	0.0	78.9	0.0
30歳代 (n=31)	96.8	0.0	3.2	19.4	3.2	74.2	3.2
40歳代 (n=45)	86.7	6.7	6.7	28.9	0.0	62.2	8.9
50歳代 (n=86)	90.7	3.5	5.8	20.9	3.5	68.6	8.1
60歳代 (n=80)	86.3	1.3	12.5	11.3	2.5	75.0	12.5
70歳代 (n=84)	70.2	8.3	21.4	4.8	1.2	73.8	20.2
80歳以上 (n=46)	54.3	0.0	45.7	6.5	0.0	58.7	34.8
男 性 (n=312)	79.2	4.8	16.0	5.4	5.8	69.6	19.2
10・20歳代 (n=26)	84.6	11.5	3.8	3.8	7.7	73.1	15.4
30歳代 (n=29)	93.1	6.9	0.0	3.4	3.4	93.1	0.0
40歳代 (n=35)	88.6	2.9	8.6	5.7	11.4	74.3	8.6
50歳代 (n=52)	78.8	3.8	17.3	7.7	5.8	65.4	21.2
60歳代 (n=69)	84.1	5.8	10.1	8.7	7.2	69.6	14.5
70歳代 (n=74)	68.9	1.4	29.7	2.7	2.7	63.5	31.1
80歳以上 (n=27)	63.0	7.4	29.6	3.7	3.7	59.3	33.3

(15) 明らかにできないとわかっている仕事を振って、「なぜできない」と罵倒すること

(単位：％)

	ハラスメントと思うか			経験があるか			
	思う	思わない	無回答	受けたことがある	したことがある	そのようなことはない	無回答
女 性 (n=410)	84.4	2.2	13.4	6.3	0.7	78.5	14.4
10・20歳代 (n=38)	97.4	2.6	0.0	15.8	0.0	84.2	0.0
30歳代 (n=31)	96.8	0.0	3.2	12.9	0.0	83.9	3.2
40歳代 (n=45)	88.9	4.4	6.7	6.7	2.2	80.0	11.1
50歳代 (n=86)	93.0	2.3	4.7	10.5	0.0	81.4	8.1
60歳代 (n=80)	88.8	0.0	11.3	3.8	1.3	82.5	12.5
70歳代 (n=84)	73.8	3.6	22.6	0.0	1.2	77.4	21.4
80歳以上 (n=46)	56.5	2.2	41.3	2.2	0.0	58.7	39.1
男 性 (n=312)	79.2	5.1	15.7	4.2	0.6	75.6	19.6
10・20歳代 (n=26)	88.5	7.7	3.8	3.8	3.8	76.9	15.4
30歳代 (n=29)	89.7	10.3	0.0	20.7	0.0	79.3	0.0
40歳代 (n=35)	88.6	2.9	8.6	0.0	0.0	88.6	11.4
50歳代 (n=52)	76.9	5.8	17.3	5.8	0.0	73.1	21.2
60歳代 (n=69)	88.4	2.9	8.7	2.9	1.4	81.2	14.5
70歳代 (n=74)	66.2	4.1	29.7	1.4	0.0	67.6	31.1
80歳以上 (n=27)	63.0	7.4	29.6	0.0	0.0	66.7	33.3

(16) 他の人のミスをおある人のせいにする

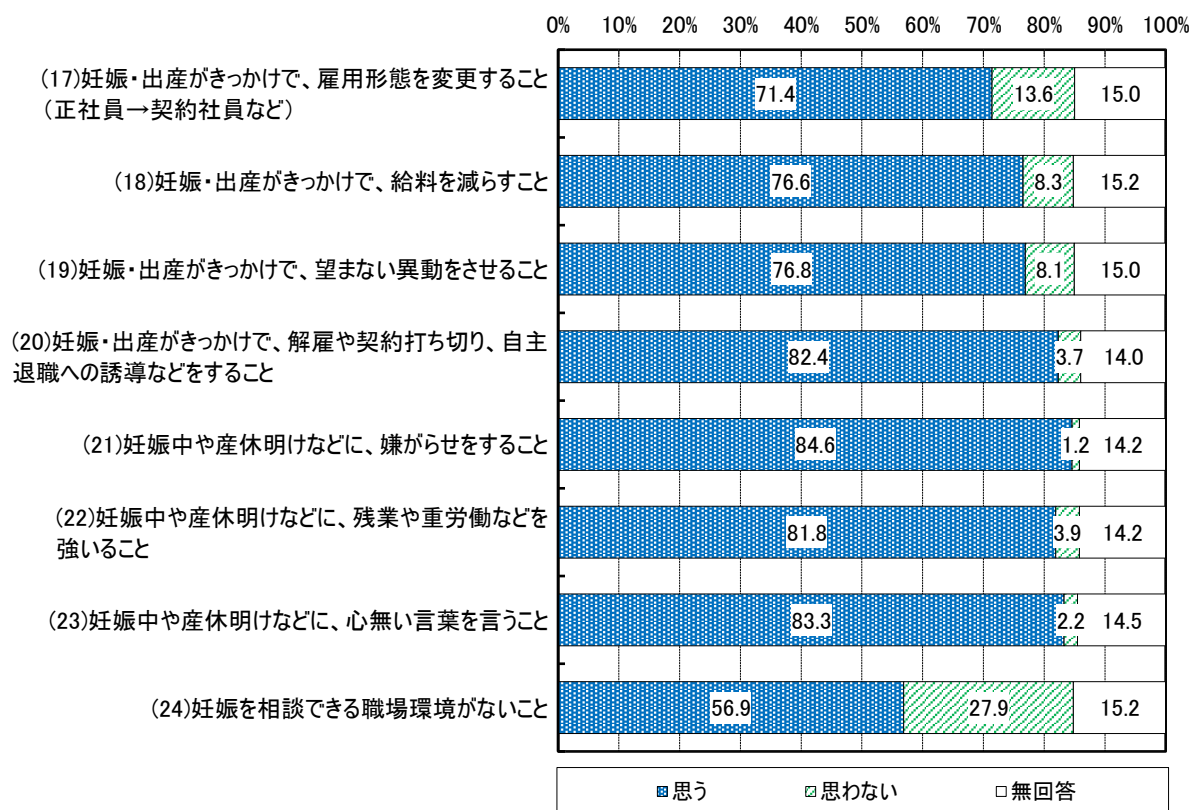
(単位：％)

	ハラスメントと思うか			経験があるか			
	思う	思わない	無回答	受けたことがある	したことがある	そのようなことはない	無回答
女 性 (n=410)	82.7	3.9	13.4	14.9	1.2	70.2	13.9
10・20歳代 (n=38)	94.7	5.3	0.0	21.1	0.0	78.9	0.0
30歳代 (n=31)	96.8	0.0	3.2	19.4	0.0	77.4	3.2
40歳代 (n=45)	88.9	4.4	6.7	22.2	0.0	66.7	11.1
50歳代 (n=86)	93.0	1.2	5.8	22.1	1.2	68.6	8.1
60歳代 (n=80)	86.3	1.3	12.5	15.0	3.8	71.3	11.3
70歳代 (n=84)	71.4	7.1	21.4	3.6	0.0	75.0	21.4
80歳以上 (n=46)	52.2	8.7	39.1	6.5	2.2	54.3	37.0
男 性 (n=312)	79.2	4.8	16.0	6.4	2.2	71.8	19.6
10・20歳代 (n=26)	88.5	7.7	3.8	7.7	7.7	69.2	15.4
30歳代 (n=29)	96.6	3.4	0.0	20.7	0.0	79.3	0.0
40歳代 (n=35)	82.9	8.6	8.6	8.6	5.7	74.3	11.4
50歳代 (n=52)	78.8	3.8	17.3	3.8	0.0	75.0	21.2
60歳代 (n=69)	84.1	5.8	10.1	7.2	1.4	76.8	14.5
70歳代 (n=74)	67.6	2.7	29.7	2.7	2.7	63.5	31.1
80歳以上 (n=27)	66.7	3.7	29.6	0.0	0.0	66.7	33.3

《マタニティ・ハラスメント》

ハラスメントだと思うか

○ハラスメントと思う人が多いものは、「妊娠中や産休明けなどに、嫌がらせをすること」が84.6%（女性 85.6%、男性 83.3%）、「妊娠中や産休明けなどに、心無い言葉を言うこと」が83.3%（女性 %、男性 %）、「妊娠・出産がきっかけで、解雇や契約打ち切り、自主退職への誘導などをする事」が82.4%（女性 84.4%、男性 82.1%）、「妊娠中や産休明けなどに、残業や重労働などを強いること」が81.8%（女性 83.2%、男性 80.1%）、「妊娠・出産がきっかけで、望まない異動をさせること」が76.8%（女性 76.6%、男性 76.9%）などとなっており、項目によっては女性の割合がわずかに高くなっています。

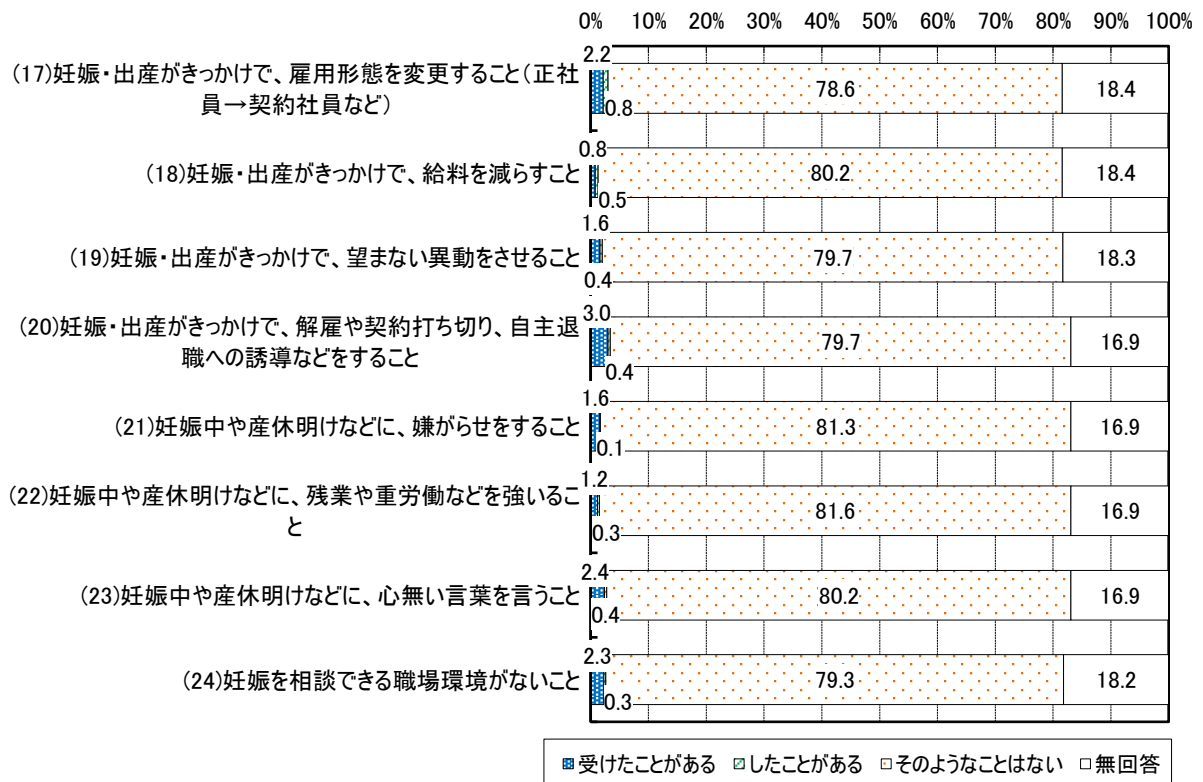


受けたことがあるか

○最も多い「妊娠・出産がきっかけで、解雇や契約打ち切り、自主退職への誘導などをする事」が3.0%（女性 4.6%、男性 0.5%）となっています。

自分がしたことがあるか

○1.0%を超える項目はありませんでした。



(17) 妊娠・出産がきっかけで、雇用形態を変更すること（正社員→契約社員など）

(単位：％)

	ハラスメントと思うか			経験があるか			
	思う	思わない	無回答	受けたことがある	したことがある	そのようなことはない	無回答
女 性 (n=410)	71.2	14.9	13.9	3.2	0.5	80.7	15.6
10・20歳代 (n=38)	89.5	10.5	0.0	2.6	0.0	97.4	0.0
30歳代 (n=31)	67.7	29.0	3.2	6.5	0.0	90.3	3.2
40歳代 (n=45)	73.3	17.8	8.9	4.4	2.2	84.4	8.9
50歳代 (n=86)	77.9	17.4	4.7	5.8	0.0	83.7	10.5
60歳代 (n=80)	75.0	15.0	10.0	1.3	1.3	85.0	12.5
70歳代 (n=84)	67.9	9.5	22.6	2.4	0.0	76.2	21.4
80歳以上 (n=46)	43.5	10.9	45.7	0.0	0.0	52.2	47.8
男 性 (n=312)	71.8	11.9	16.3	1.0	1.3	76.0	21.8
10・20歳代 (n=26)	88.5	7.7	3.8	0.0	0.0	84.6	15.4
30歳代 (n=29)	82.8	17.2	0.0	6.9	3.4	89.7	0.0
40歳代 (n=35)	71.4	20.0	8.6	0.0	0.0	88.6	11.4
50歳代 (n=52)	71.2	11.5	17.3	0.0	0.0	75.0	25.0
60歳代 (n=69)	79.7	10.1	10.1	1.4	1.4	79.7	17.4
70歳代 (n=74)	63.5	6.8	29.7	0.0	2.7	64.9	32.4
80歳以上 (n=27)	48.1	18.5	33.3	0.0	0.0	59.3	40.7

(18) 妊娠・出産がきっかけで、給料を減らすこと

(単位：％)

	ハラスメントと思うか			経験があるか			
	思う	思わない	無回答	受けたことがある	したことがある	そのようなことはない	無回答
女 性 (n=410)	76.6	9.0	14.4	1.0	0.0	83.7	15.4
10・20歳代 (n=38)	94.7	5.3	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
30歳代 (n=31)	87.1	9.7	3.2	3.2	0.0	93.5	3.2
40歳代 (n=45)	84.4	6.7	8.9	4.4	0.0	86.7	8.9
50歳代 (n=86)	80.2	14.0	5.8	1.2	0.0	88.4	10.5
60歳代 (n=80)	82.5	6.3	11.3	0.0	0.0	87.5	12.5
70歳代 (n=84)	67.9	8.3	23.8	0.0	0.0	78.6	21.4
80歳以上 (n=46)	45.7	10.9	43.5	0.0	0.0	54.3	45.7
男 性 (n=312)	76.3	7.7	16.0	0.6	1.3	76.0	22.1
10・20歳代 (n=26)	92.3	3.8	3.8	0.0	0.0	80.8	19.2
30歳代 (n=29)	89.7	10.3	0.0	3.4	3.4	93.1	0.0
40歳代 (n=35)	77.1	14.3	8.6	0.0	0.0	88.6	11.4
50歳代 (n=52)	69.2	13.5	17.3	0.0	1.9	73.1	25.0
60歳代 (n=69)	88.4	1.4	10.1	1.4	1.4	79.7	17.4
70歳代 (n=74)	64.9	5.4	29.7	0.0	1.4	66.2	32.4
80歳以上 (n=27)	59.3	11.1	29.6	0.0	0.0	59.3	40.7

(19) 妊娠・出産がきっかけで、望まない異動をさせること

(単位：％)

	ハラスメントと思うか			経験があるか			
	思う	思わない	無回答	受けたことがある	したことがある	そのようなことはない	無回答
女 性 (n=410)	76.6	9.3	14.1	2.0	0.2	82.4	15.4
10・20歳代 (n=38)	89.5	10.5	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
30歳代 (n=31)	80.6	16.1	3.2	6.5	0.0	90.3	3.2
40歳代 (n=45)	82.2	8.9	8.9	6.7	0.0	84.4	8.9
50歳代 (n=86)	82.6	12.8	4.7	2.3	0.0	87.2	10.5
60歳代 (n=80)	82.5	5.0	12.5	1.3	1.3	85.0	12.5
70歳代 (n=84)	69.0	8.3	22.6	0.0	0.0	78.6	21.4
80歳以上 (n=46)	50.0	6.5	43.5	0.0	0.0	54.3	45.7
男 性 (n=312)	76.9	7.1	16.0	1.3	0.6	76.3	21.8
10・20歳代 (n=26)	88.5	7.7	3.8	0.0	0.0	84.6	15.4
30歳代 (n=29)	86.2	13.8	0.0	6.9	0.0	93.1	0.0
40歳代 (n=35)	80.0	11.4	8.6	0.0	0.0	88.6	11.4
50歳代 (n=52)	69.2	13.5	17.3	0.0	1.9	73.1	25.0
60歳代 (n=69)	89.9	0.0	10.1	2.9	0.0	79.7	17.4
70歳代 (n=74)	66.2	4.1	29.7	0.0	1.4	66.2	32.4
80歳以上 (n=27)	63.0	7.4	29.6	0.0	0.0	59.3	40.7

(20) 妊娠・出産がきっかけで、解雇や契約打ち切り、自主退職への誘導などを行うこと（出産告知後・産休中・産休明け1年以内）

(単位：％)

	ハラスメントと思うか			経験があるか			
	思う	思わない	無回答	受けたことがある	したことがある	そのようなことはない	無回答
女 性 (n=410)	83.9	3.2	12.9	4.6	0.0	81.5	13.9
10・20歳代 (n=38)	94.7	5.3	0.0	2.6	0.0	97.4	0.0
30歳代 (n=31)	90.3	6.5	3.2	6.5	0.0	90.3	3.2
40歳代 (n=45)	93.3	0.0	6.7	11.1	0.0	80.0	8.9
50歳代 (n=86)	88.4	5.8	5.8	8.1	0.0	83.7	8.1
60歳代 (n=80)	91.3	0.0	8.8	1.3	0.0	85.0	13.8
70歳代 (n=84)	75.0	3.6	21.4	3.6	0.0	76.2	20.2
80歳以上 (n=46)	56.5	2.2	41.3	0.0	0.0	63.0	37.0
男 性 (n=312)	80.4	4.5	15.1	0.6	1.0	77.9	20.5
10・20歳代 (n=26)	96.2	0.0	3.8	0.0	0.0	84.6	15.4
30歳代 (n=29)	93.1	6.9	0.0	3.4	0.0	96.6	0.0
40歳代 (n=35)	82.9	8.6	8.6	0.0	0.0	88.6	11.4
50歳代 (n=52)	78.8	5.8	15.4	0.0	0.0	78.8	21.2
60歳代 (n=69)	87.0	2.9	10.1	1.4	1.4	79.7	17.4
70歳代 (n=74)	68.9	2.7	28.4	0.0	2.7	66.2	31.1
80歳以上 (n=27)	66.7	7.4	25.9	0.0	0.0	63.0	37.0

(21) 妊娠中や産休明けなどに、嫌がらせをすること

(単位：％)

	ハラスメントと思うか			経験があるか			
	思う	思わない	無回答	受けたことがある	したことがある	そのようなことはない	無回答
女 性 (n=410)	85.6	1.2	13.2	2.4	0.0	83.9	13.7
10・20歳代 (n=38)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
30歳代 (n=31)	93.5	3.2	3.2	6.5	0.0	90.3	3.2
40歳代 (n=45)	91.1	0.0	8.9	8.9	0.0	84.4	6.7
50歳代 (n=86)	95.3	1.2	3.5	0.0	0.0	93.0	7.0
60歳代 (n=80)	90.0	0.0	10.0	2.5	0.0	85.0	12.5
70歳代 (n=84)	75.0	3.6	21.4	2.4	0.0	77.4	20.2
80歳以上 (n=46)	56.5	0.0	43.5	0.0	0.0	58.7	41.3
男 性 (n=312)	83.3	1.3	15.4	0.6	0.3	78.2	20.8
10・20歳代 (n=26)	96.2	0.0	3.8	0.0	0.0	84.6	15.4
30歳代 (n=29)	96.6	3.4	0.0	3.4	0.0	96.6	0.0
40歳代 (n=35)	88.6	2.9	8.6	0.0	0.0	88.6	11.4
50歳代 (n=52)	84.6	0.0	15.4	0.0	0.0	78.8	21.2
60歳代 (n=69)	89.9	0.0	10.1	1.4	0.0	81.2	17.4
70歳代 (n=74)	70.3	1.4	28.4	0.0	1.4	67.6	31.1
80歳以上 (n=27)	66.7	3.7	29.6	0.0	0.0	59.3	40.7

(22) 妊娠中や産休明けなどに、残業や重労働などを強いること

(単位：％)

	ハラスメントと思うか			経験があるか			
	思う	思わない	無回答	受けたことがある	したことがある	そのようなことはない	無回答
女 性 (n=410)	83.2	3.9	12.9	1.7	0.0	84.4	13.9
10・20歳代 (n=38)	94.7	5.3	0.0	5.3	0.0	94.7	0.0
30歳代 (n=31)	87.1	9.7	3.2	3.2	0.0	93.5	3.2
40歳代 (n=45)	86.7	6.7	6.7	2.2	0.0	88.9	8.9
50歳代 (n=86)	94.2	2.3	3.5	1.2	0.0	91.9	7.0
60歳代 (n=80)	86.3	3.8	10.0	1.3	0.0	86.3	12.5
70歳代 (n=84)	76.2	2.4	21.4	0.0	0.0	79.8	20.2
80歳以上 (n=46)	54.3	2.2	43.5	2.2	0.0	56.5	41.3
男 性 (n=312)	80.1	4.2	15.7	0.6	0.6	78.2	20.5
10・20歳代 (n=26)	88.5	3.8	7.7	0.0	0.0	84.6	15.4
30歳代 (n=29)	93.1	6.9	0.0	6.9	0.0	93.1	0.0
40歳代 (n=35)	82.9	5.7	11.4	0.0	0.0	88.6	11.4
50歳代 (n=52)	78.8	5.8	15.4	0.0	0.0	78.8	21.2
60歳代 (n=69)	85.5	4.3	10.1	0.0	1.4	81.2	17.4
70歳代 (n=74)	68.9	2.7	28.4	0.0	1.4	67.6	31.1
80歳以上 (n=27)	74.1	0.0	25.9	0.0	0.0	63.0	37.0

(23) 妊娠中や産休明けなどに、心無い言葉を言うこと

(単位：％)

	ハラスメントと思うか			経験があるか			
	思う	思わない	無回答	受けたことがある	したことがある	そのようなことはない	無回答
女 性 (n=410)	84.4	2.4	13.2	3.4	0.0	82.9	13.7
10・20歳代 (n=38)	97.4	2.6	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
30歳代 (n=31)	93.5	3.2	3.2	12.9	0.0	83.9	3.2
40歳代 (n=45)	91.1	0.0	8.9	13.3	0.0	80.0	6.7
50歳代 (n=86)	93.0	3.5	3.5	1.2	0.0	91.9	7.0
60歳代 (n=80)	90.0	0.0	10.0	2.5	0.0	85.0	12.5
70歳代 (n=84)	73.8	4.8	21.4	1.2	0.0	78.6	20.2
80歳以上 (n=46)	54.3	2.2	43.5	0.0	0.0	58.7	41.3
男 性 (n=312)	82.1	1.9	16.0	1.0	1.0	77.2	20.8
10・20歳代 (n=26)	96.2	0.0	3.8	0.0	0.0	84.6	15.4
30歳代 (n=29)	96.6	3.4	0.0	10.3	0.0	89.7	0.0
40歳代 (n=35)	85.7	5.7	8.6	0.0	0.0	88.6	11.4
50歳代 (n=52)	82.7	1.9	15.4	0.0	0.0	78.8	21.2
60歳代 (n=69)	88.4	1.4	10.1	0.0	2.9	79.7	17.4
70歳代 (n=74)	70.3	0.0	29.7	0.0	1.4	67.6	31.1
80歳以上 (n=27)	63.0	3.7	33.3	0.0	0.0	59.3	40.7

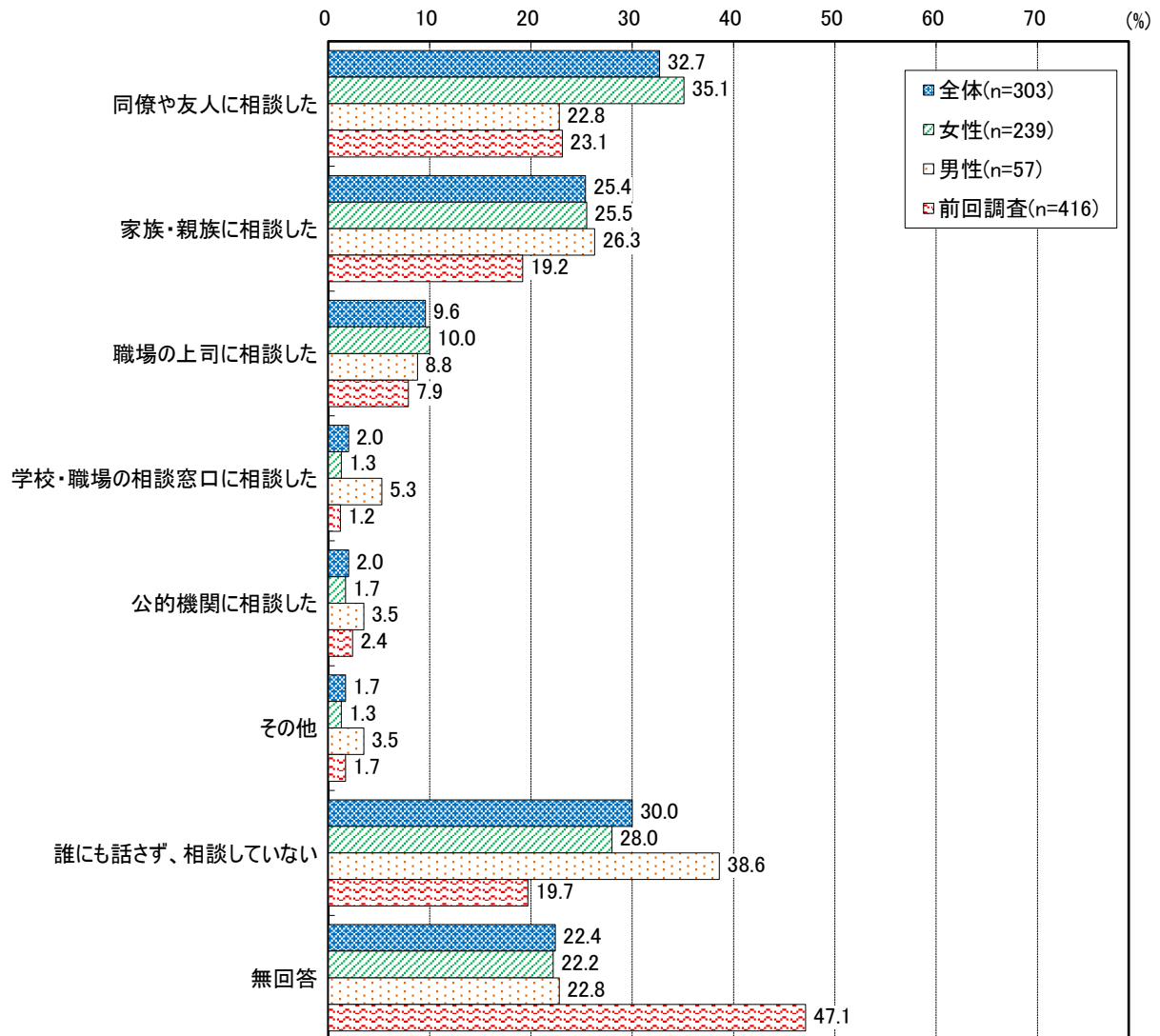
(24) 妊娠を相談できる職場環境がないこと

(単位：％)

	ハラスメントと思うか			経験があるか			
	思う	思わない	無回答	受けたことがある	したことがある	そのようなことはない	無回答
女 性 (n=410)	56.1	30.0	13.9	3.7	0.0	81.5	14.9
10・20歳代 (n=38)	73.7	26.3	0.0	5.3	0.0	94.7	0.0
30歳代 (n=31)	51.6	41.9	6.5	9.7	0.0	83.9	6.5
40歳代 (n=45)	60.0	31.1	8.9	8.9	0.0	82.2	8.9
50歳代 (n=86)	60.5	33.7	5.8	4.7	0.0	88.4	7.0
60歳代 (n=80)	66.3	23.8	10.0	2.5	0.0	83.8	13.8
70歳代 (n=84)	44.0	34.5	21.4	0.0	0.0	78.6	21.4
80歳以上 (n=46)	37.0	19.6	43.5	0.0	0.0	56.5	43.5
男 性 (n=312)	58.7	24.7	16.7	0.6	0.6	76.6	22.1
10・20歳代 (n=26)	61.5	23.1	15.4	0.0	0.0	80.8	19.2
30歳代 (n=29)	69.0	31.0	0.0	3.4	0.0	96.6	0.0
40歳代 (n=35)	65.7	25.7	8.6	0.0	0.0	88.6	11.4
50歳代 (n=52)	61.5	23.1	15.4	0.0	0.0	78.8	21.2
60歳代 (n=69)	60.9	29.0	10.1	1.4	1.4	78.3	18.8
70歳代 (n=74)	52.7	17.6	29.7	0.0	1.4	64.9	33.8
80歳以上 (n=27)	40.7	29.6	29.6	0.0	0.0	59.3	40.7

問26 ハラスメントを受けていることについて誰かに話したり、相談しましたか。(〇はいくつでも)

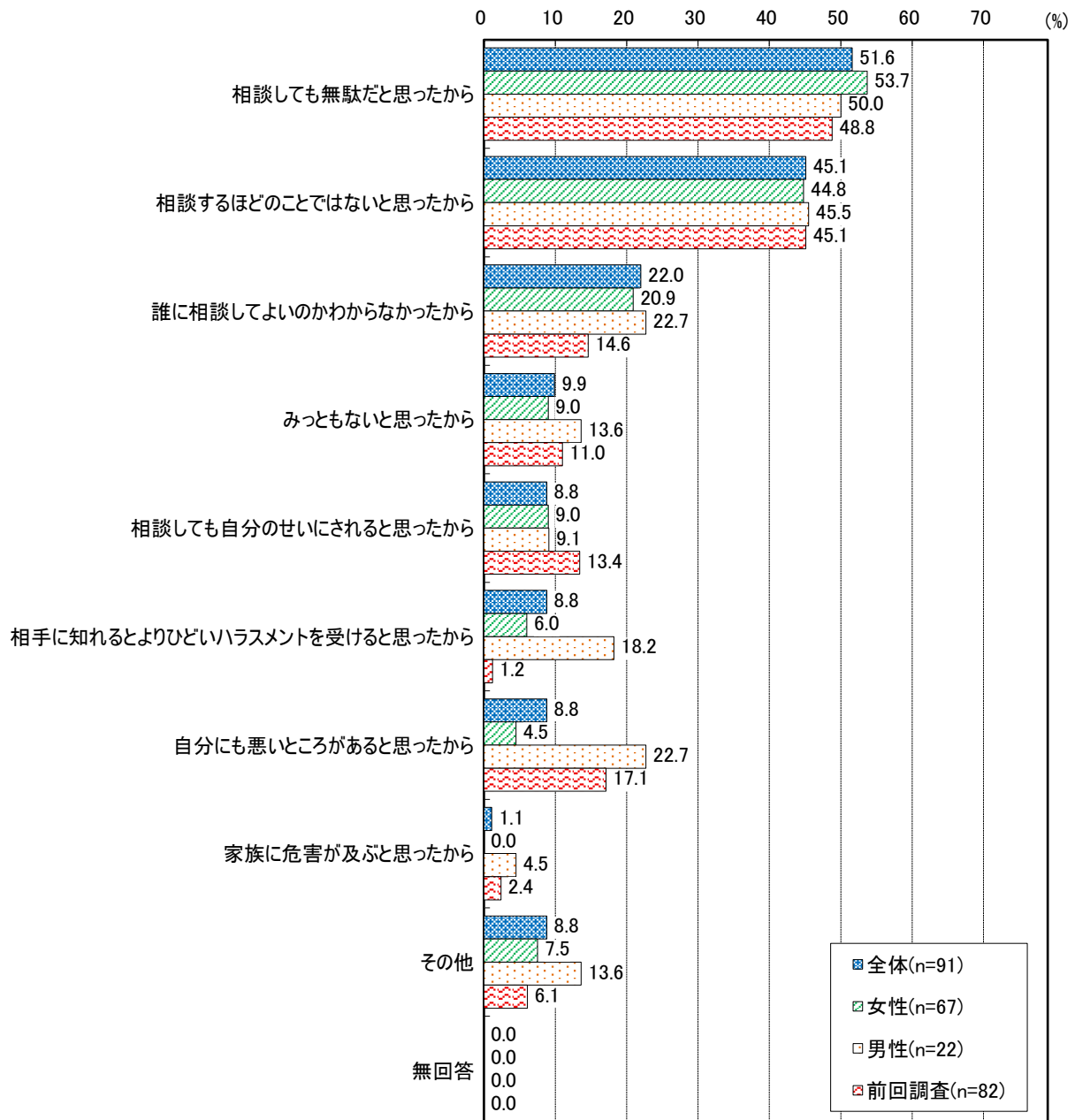
○何らかのハラスメントを受けたことがあると答えた人に相談対応の状況を尋ねたところ、「同僚や友人に相談した」が32.7%、「家族・親族に相談した」が25.4%となっており、前回の調査結果と比べてそれぞれ多く見られます。



問26-1 相談しなかったのは、どのような理由からですか。(〇はいくつでも)

○「誰にも話さず、相談していない」と答えた人にその理由を尋ねたところ、「相談しても無駄だと思ったから」が51.6%、「相談するほどのことではないと思ったから」が45.1%、「誰に相談してよいのかわからなかったから」が22.0%となっています。

○前回の調査結果と比べると、「誰に相談してよいのかわからなかったから」が前回の14.6%から今回の22.0%へと増えています。

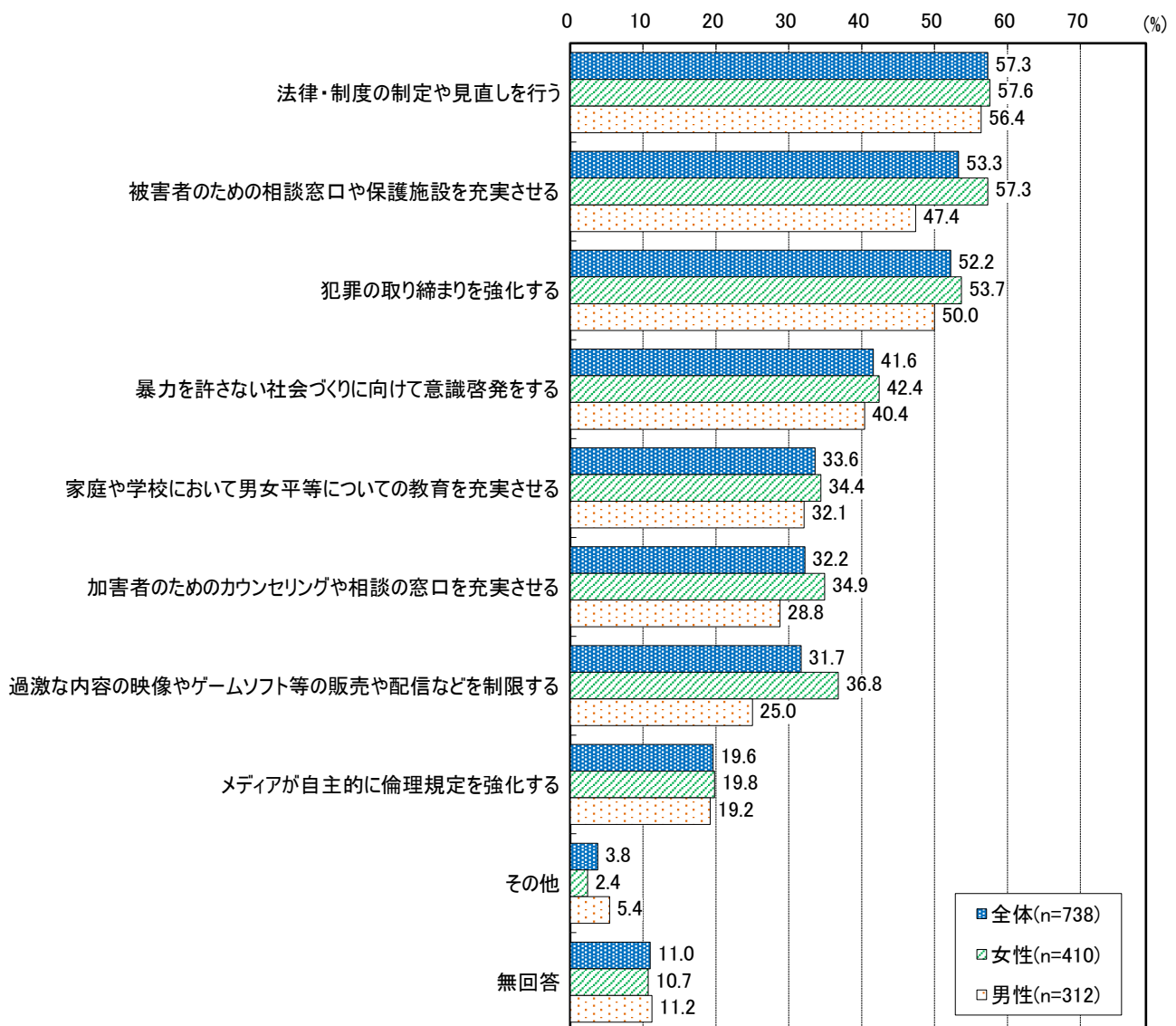


《選択肢「その他」の主な記述内容》

- ・人に話すのが苦手。
- ・あまり気にしていないから。
- ・私の先生だったから。尊敬している部分もあったから。

問27 性暴力・性犯罪（配偶者等からの暴力、セクシュアル・ハラスメントなど）をなくすために、もっと取り組みを進める必要があるのはどのようなことですか。（〇はいくつでも）

○「法律・制度の制定や見直しを行う」が57.3%と最も多く、次いで「被害者のための相談窓口や保護施設を充実させる」が53.3%、「犯罪の取り締まりを強化する」が52.2%、「暴力を許さない社会づくりに向けて意識啓発をする」が41.6%などとなっています。

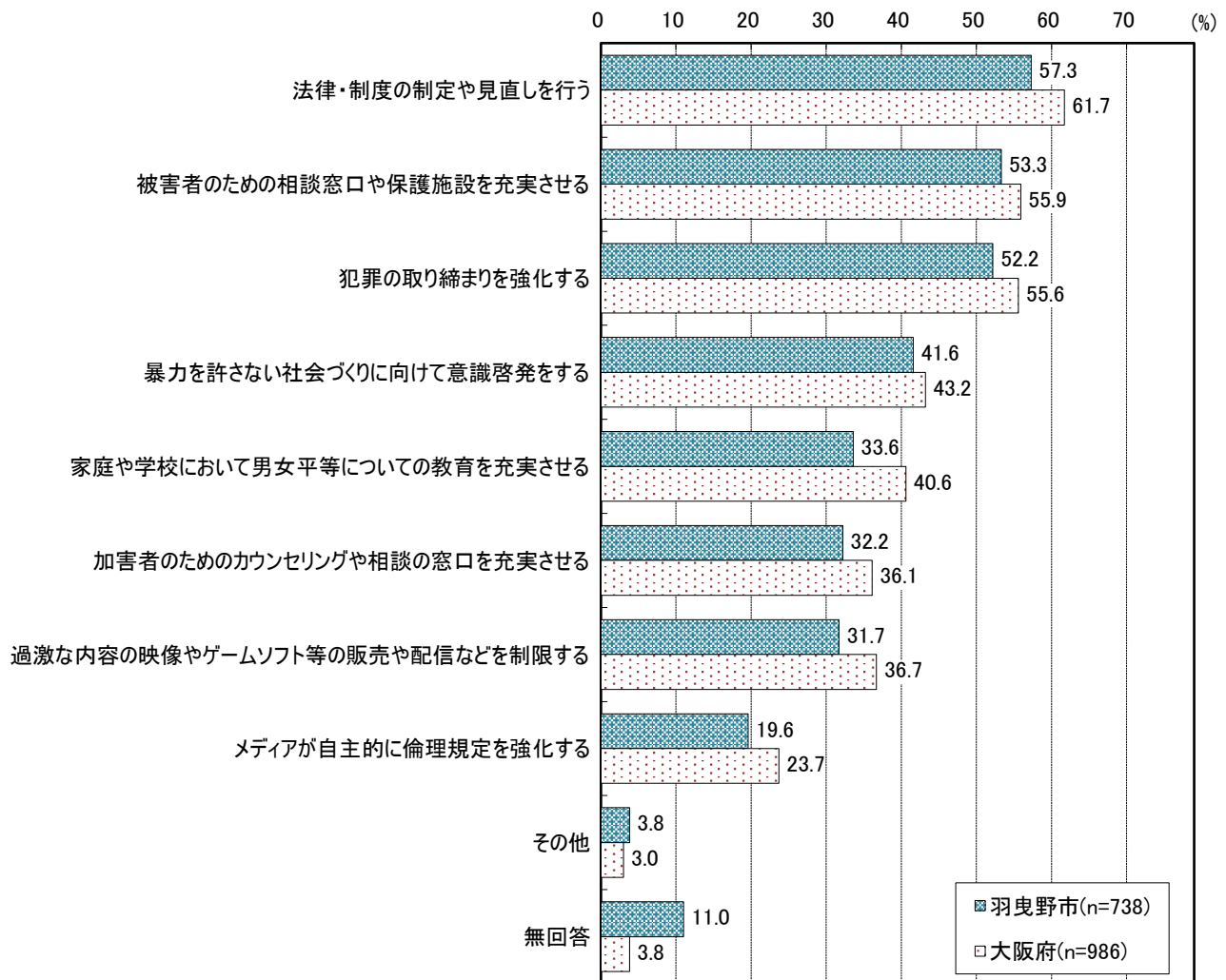


《選択肢「その他」の主な記述内容》

- ・ ケースバイケースで警察や保護施設が真剣に向き合うこと。
- ・ 刑罰をもっと重くしてほしい。
- ・ 性犯罪者の徹底管理、監視。
- ・ どこからがハラスメントになるのかの講習を加害者になる前に行い理解度を深める。

大阪府調査との比較

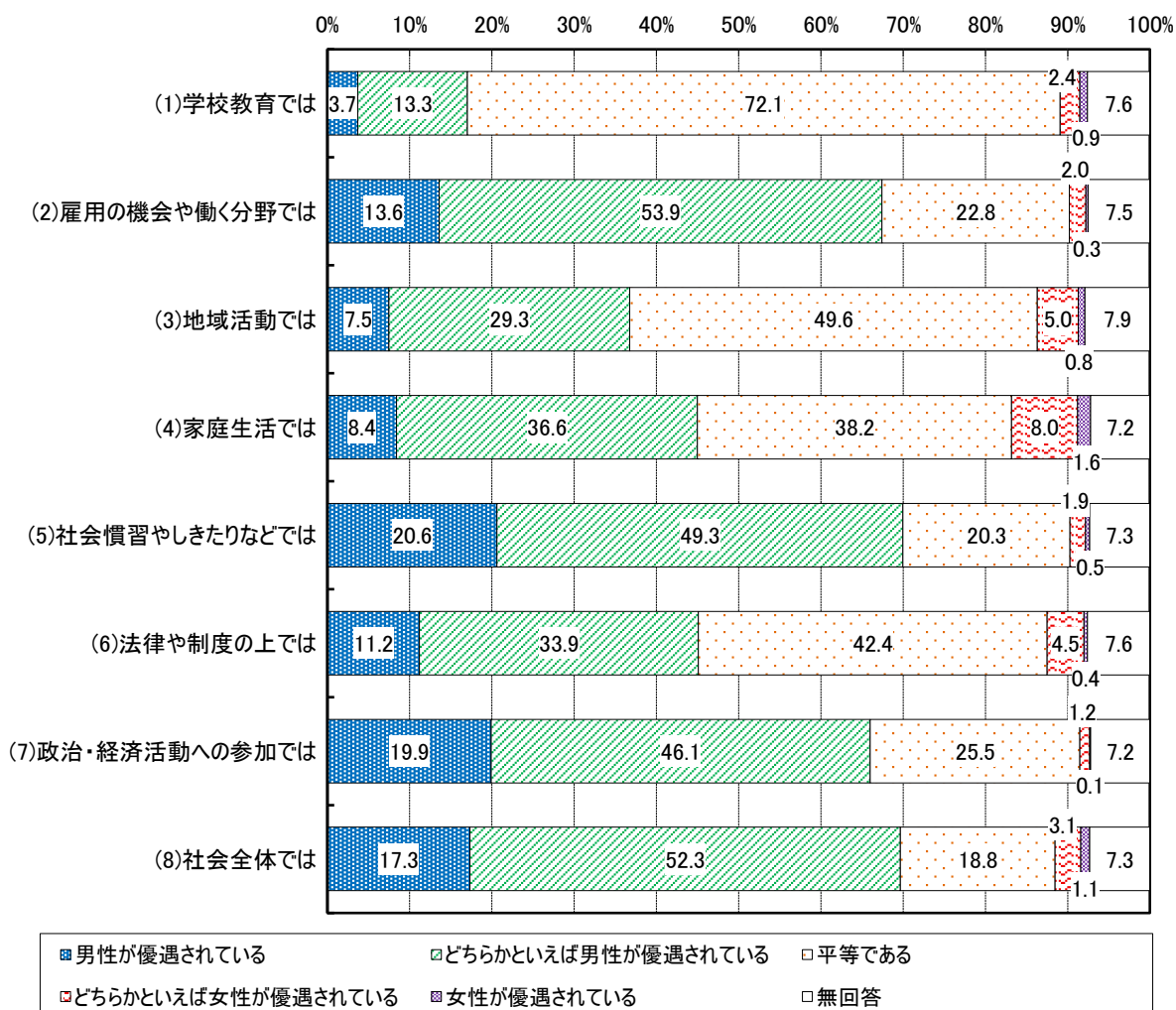
○おおむね大阪府調査と同じ傾向にあります。



5 男女共同参画の推進について

問28 現在、日本の社会のいろいろな分野において、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。（それぞれ〇は1つつつ）

- 「平等である」と答えた人が多いものは、「学校教育では」が72.1%、「地域活動では」が49.6%、「法律や制度の上では」が42.4%となっています。
- 「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせて『男性が優遇』と答えた人が多いものは、「社会慣習やしきたりなどでは」が69.9%、「社会全体では」が69.6%、「雇用の機会や働く分野では」が67.5%、「政治・経済活動への参加では」が66.0%となっています。
- 前回の調査結果と比べると、「雇用の機会や働く分野では」で『男性が優遇』と答えた人が79.4%から今回の67.5%へ減少しています。



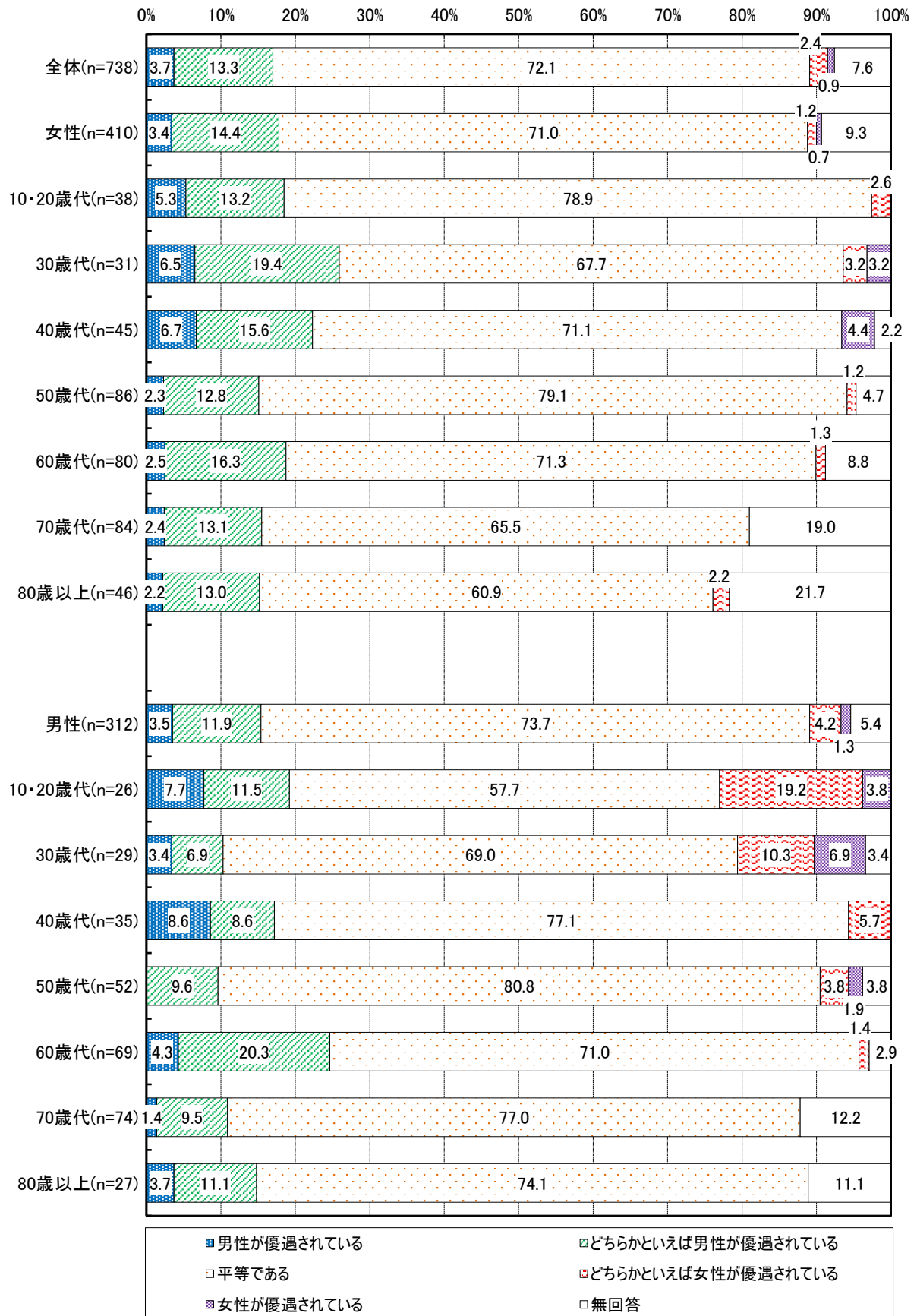
国調査・大阪府調査との比較

○国や大阪府調査と比べると、地域活動、法律や制度の上で平等であると答える人が比較的多く見られます。

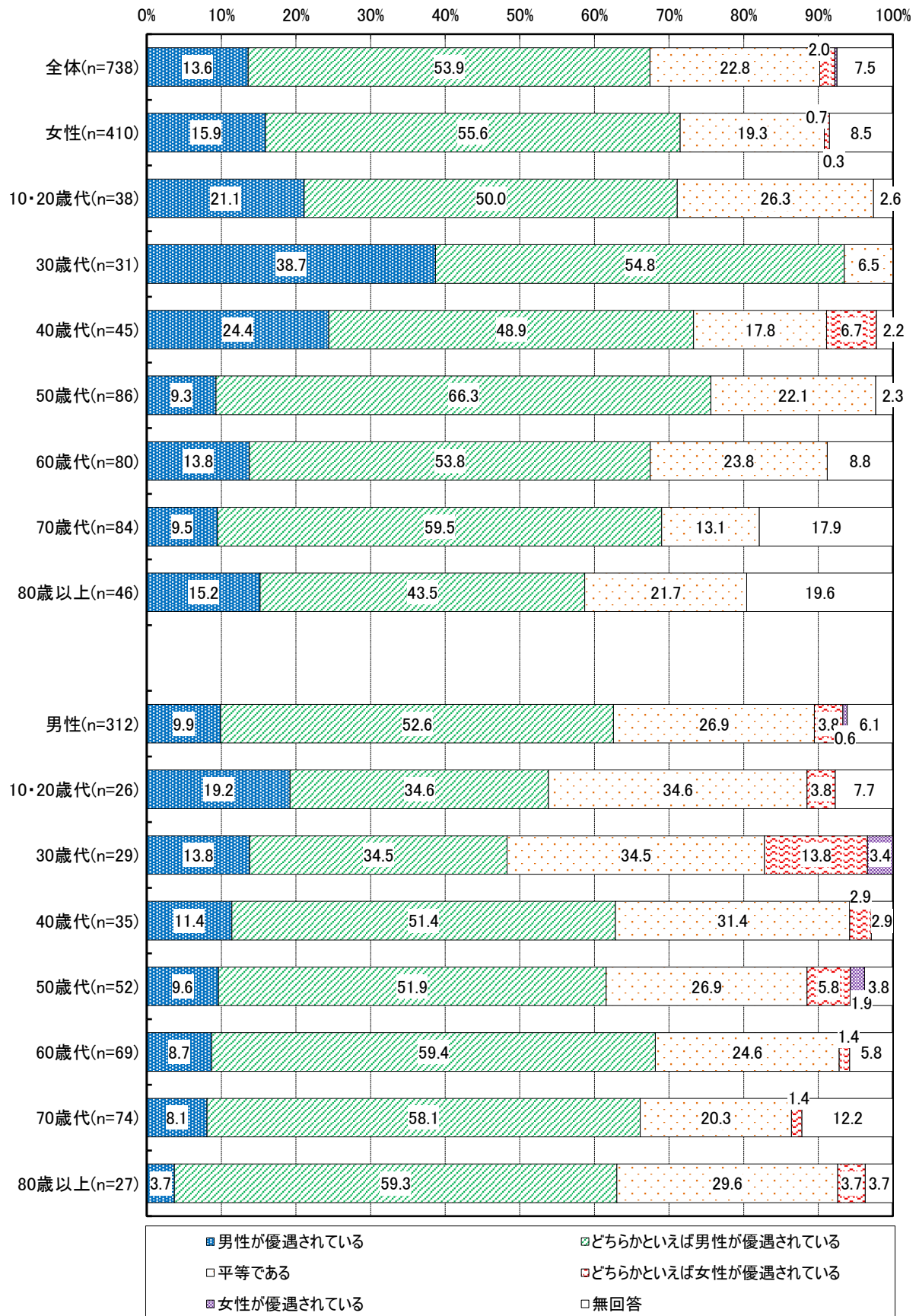
		男性が優遇	平等	女性が優遇	無回答
(1)学校教育では	羽曳野市	17.0%	72.1%	3.3%	7.6%
	大阪府(n=763)	26.7%	62.3%	4.0%	7.0%
	国	21.9%	70.4%	6.0%	1.6%
(2)雇用の機会や働く分野では	羽曳野市	67.5%	22.8%	2.3%	7.5%
	大阪府(n=892)	54.3%	32.7%	7.7%	5.3%
	国	63.8%	25.8%	9.2%	1.2%
(3)地域活動では	羽曳野市	36.8%	49.6%	5.8%	7.9%
	大阪府(n=763)	45.1%	41.6%	8.8%	4.5%
	国	47.0%	40.3%	10.5%	2.2%
(4)家庭生活では	羽曳野市	45.0%	38.2%	9.6%	7.2%
	大阪府(n=923)	49.1%	40.4%	8.8%	1.6%
	国	60.7%	30.0%	9.0%	0.3%
(5)社会慣習やしきたりなどでは	羽曳野市	69.9%	20.3%	2.4%	7.3%
	大阪府(n=900)	80.8%	11.9%	4.5%	2.7%
	国	78.2%	16.3%	3.9%	1.6%
(6)法律や制度の上では	羽曳野市	45.1%	42.4%	4.9%	7.6%
	大阪府(n=851)	60.7%	28.6%	7.1%	3.5%
	国	50.3%	38.2%	10.8%	0.6%
(7)政治・経済活動への参加では	羽曳野市	66.0%	25.5%	1.3%	7.2%
	大阪府(n=906)	84.3%	10.1%	1.4%	4.1%
	国	87.9%	9.4%	2.2%	0.6%
(8)社会全体では	羽曳野市	69.6%	18.8%	4.2%	7.3%
	大阪府(n=905)	74.4%	17.6%	4.5%	3.3%
	国	74.7%	16.7%	6.8%	1.7%

※羽曳野市(n=738)、国(n=2,673)。大阪府の結果は選択肢「わからない」と答えた人を除いた割合で羽曳野市で算出。「(7)政治・経済活動への参加では」の国・大阪府の結果は「政治の場」に対するもの。

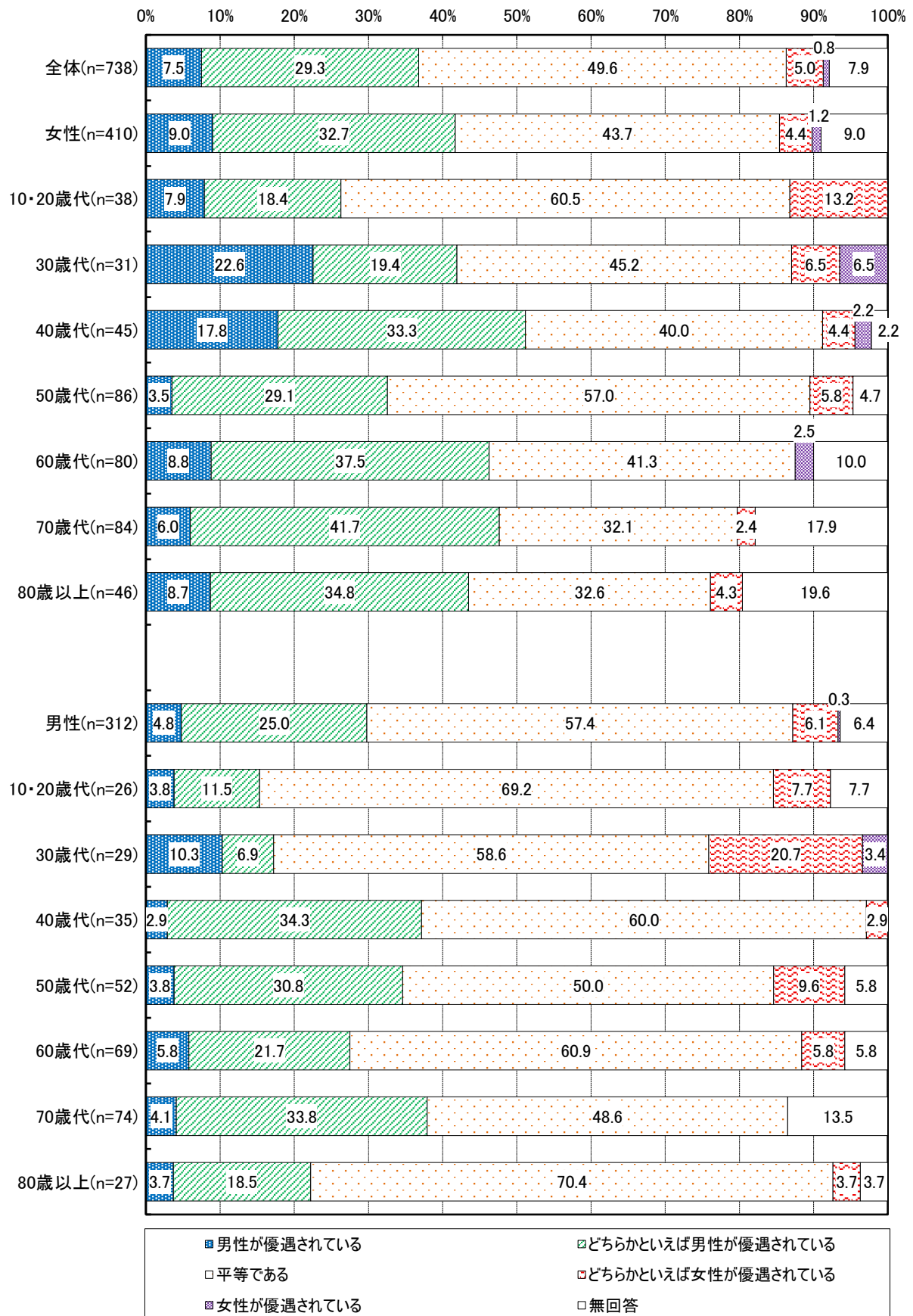
(1) 学校教育では



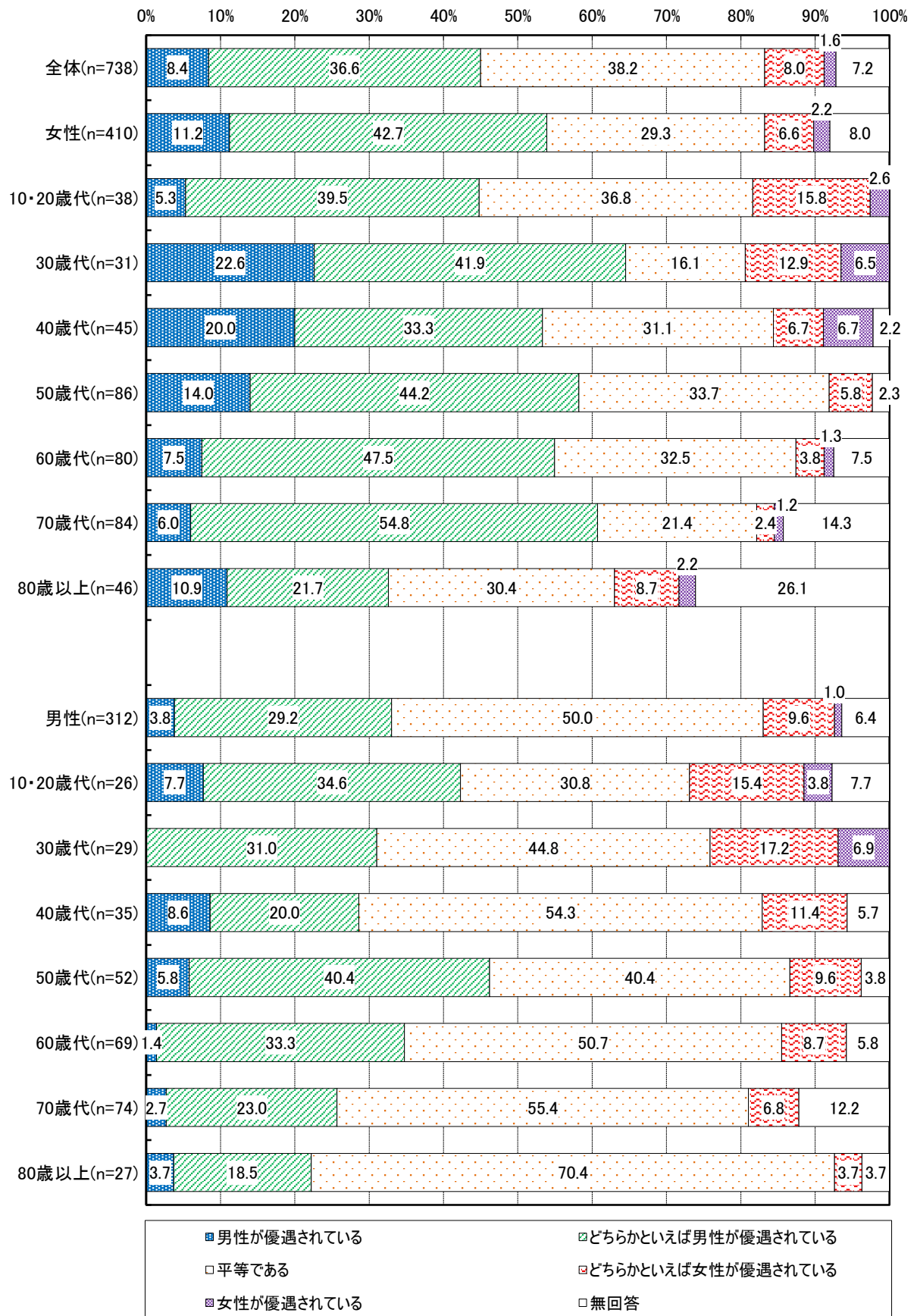
(2) 雇用の機会や働く分野では



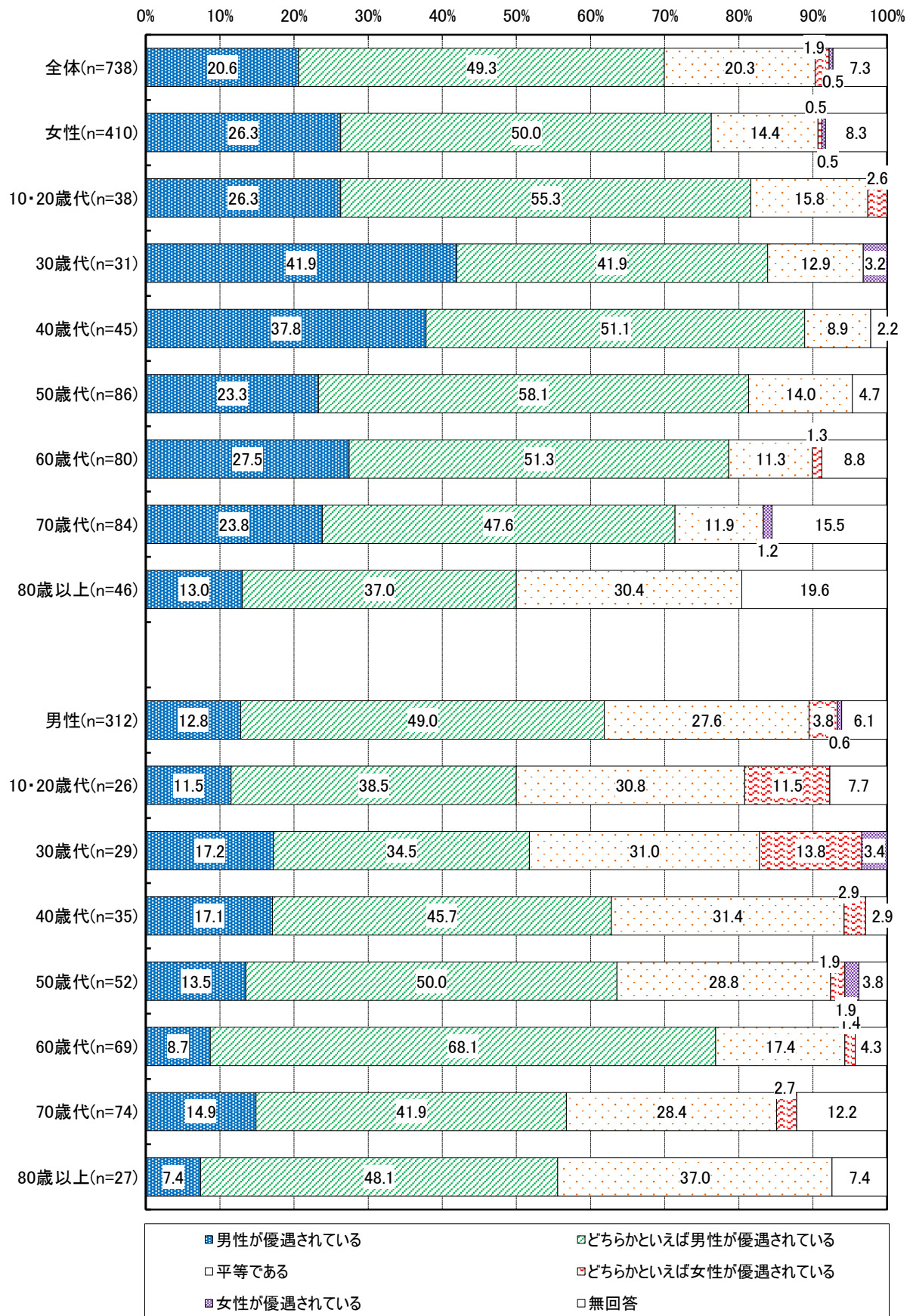
(3) 地域活動では



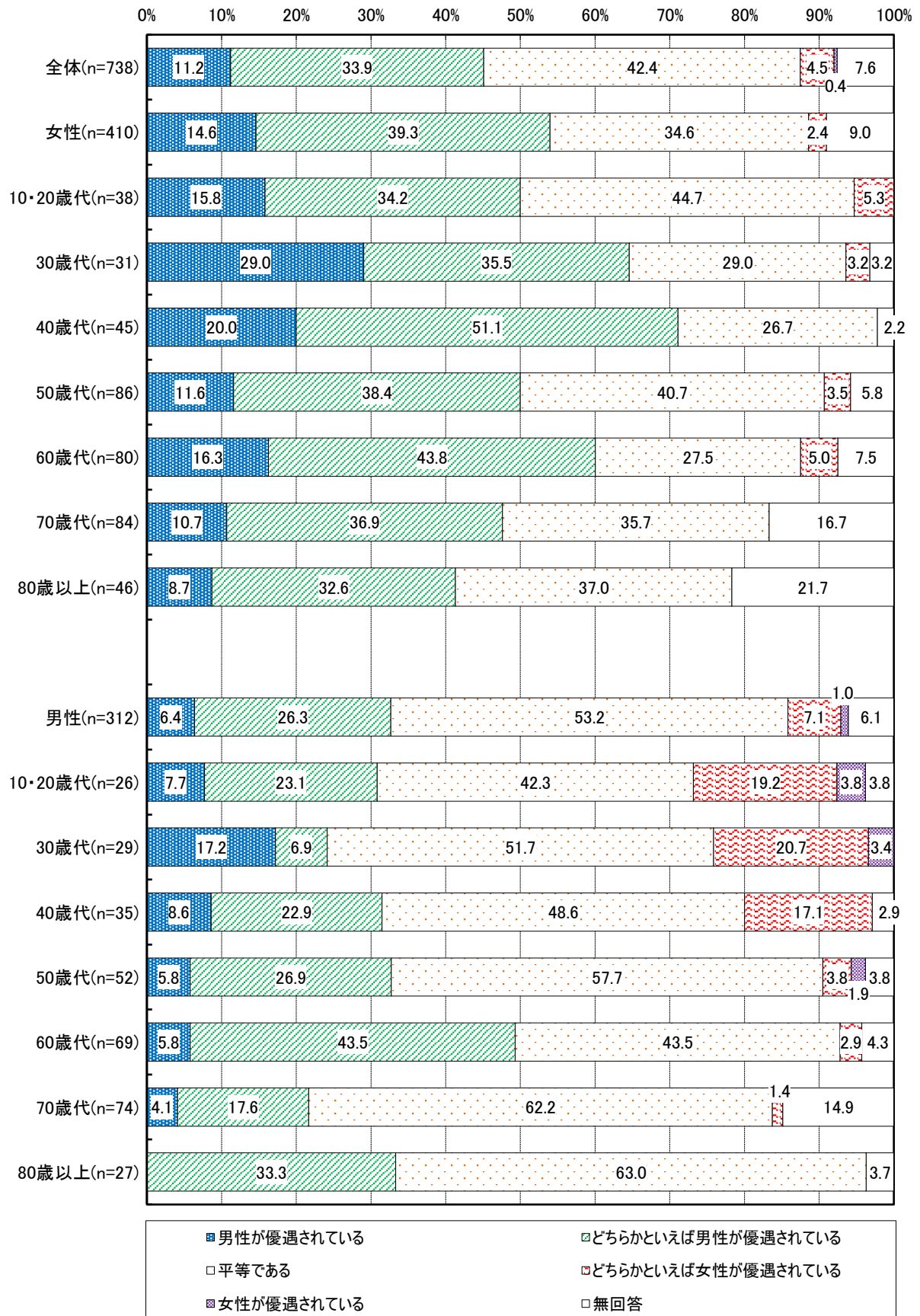
(4) 家庭生活では



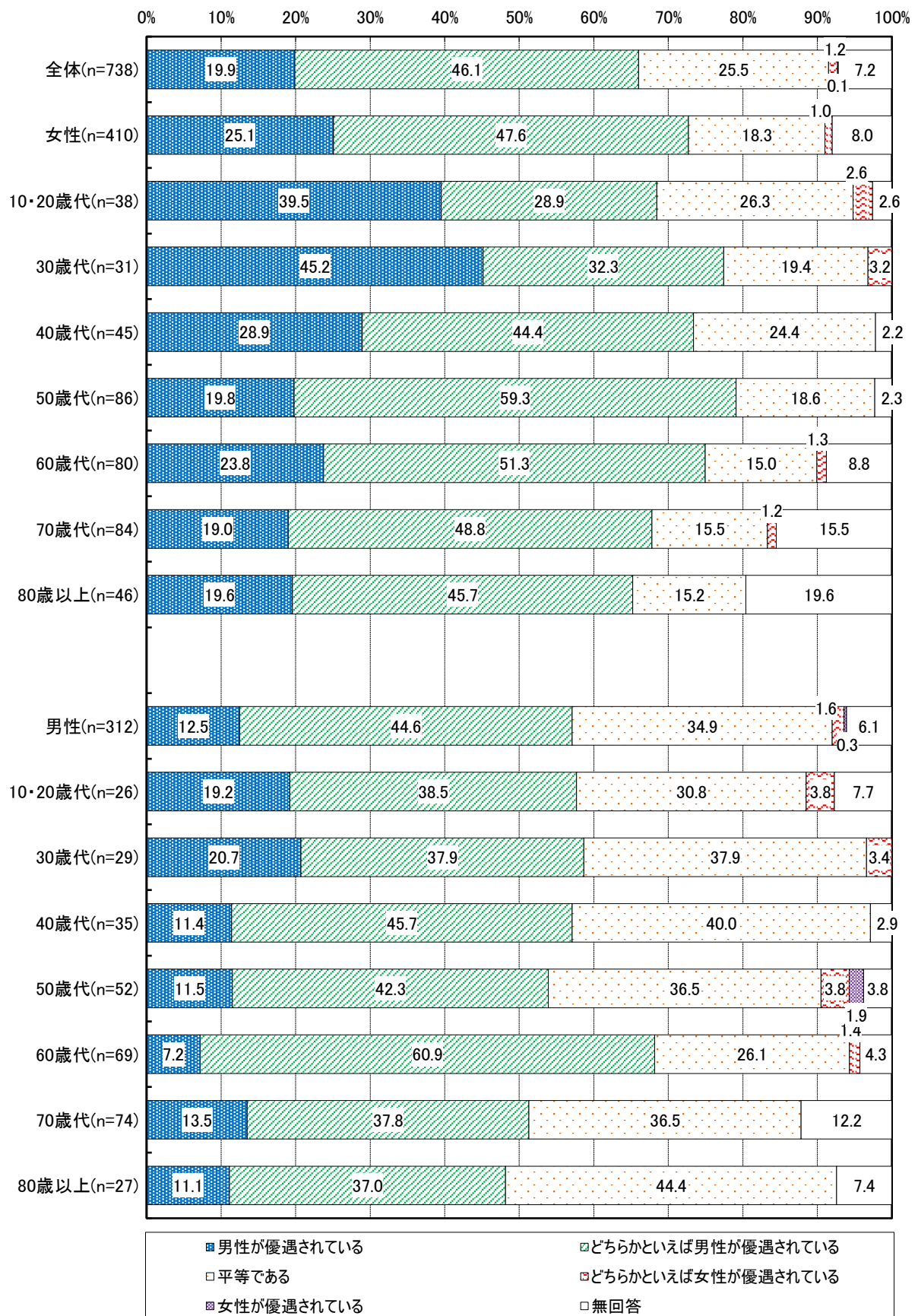
(5) 社会慣習やしきたりなどでは



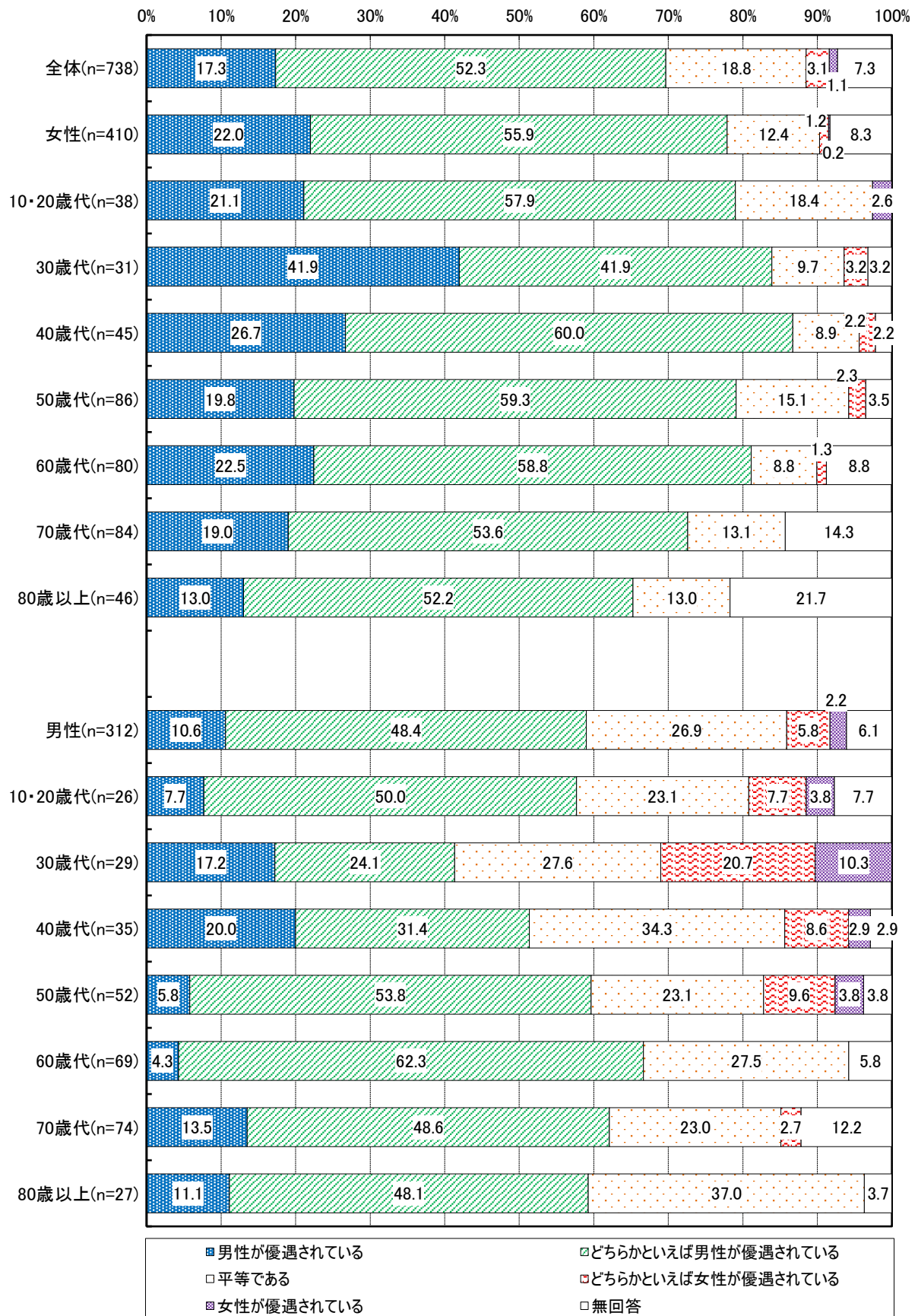
(6) 法律や制度の上では



(7) 政治・経済活動への参加では

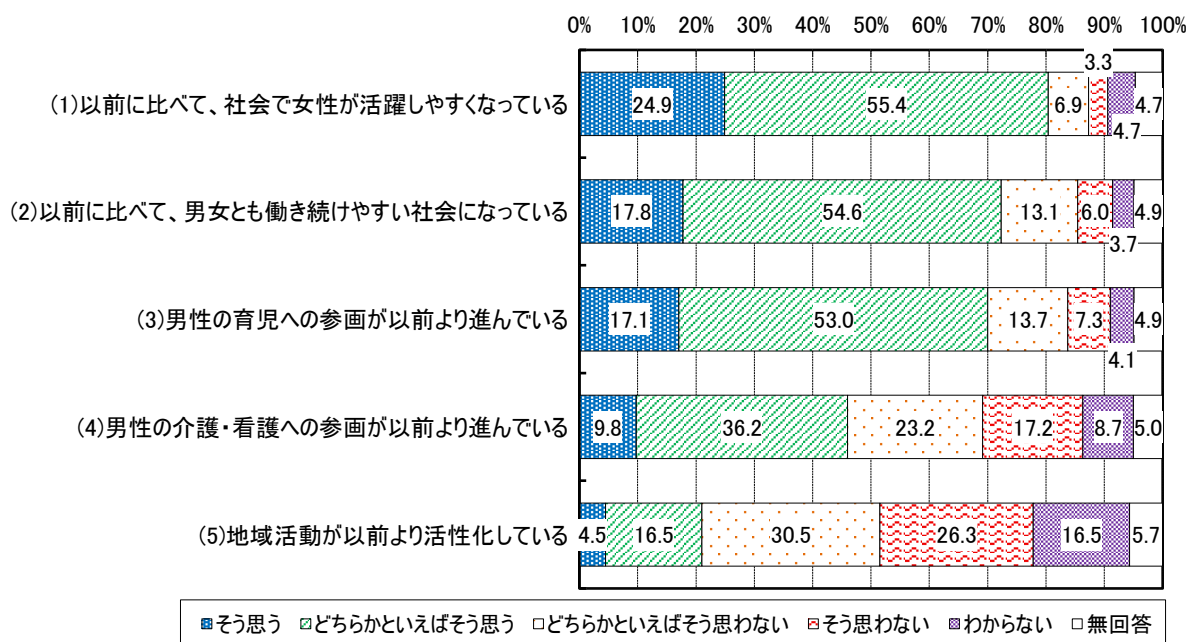


(8) 社会全体では



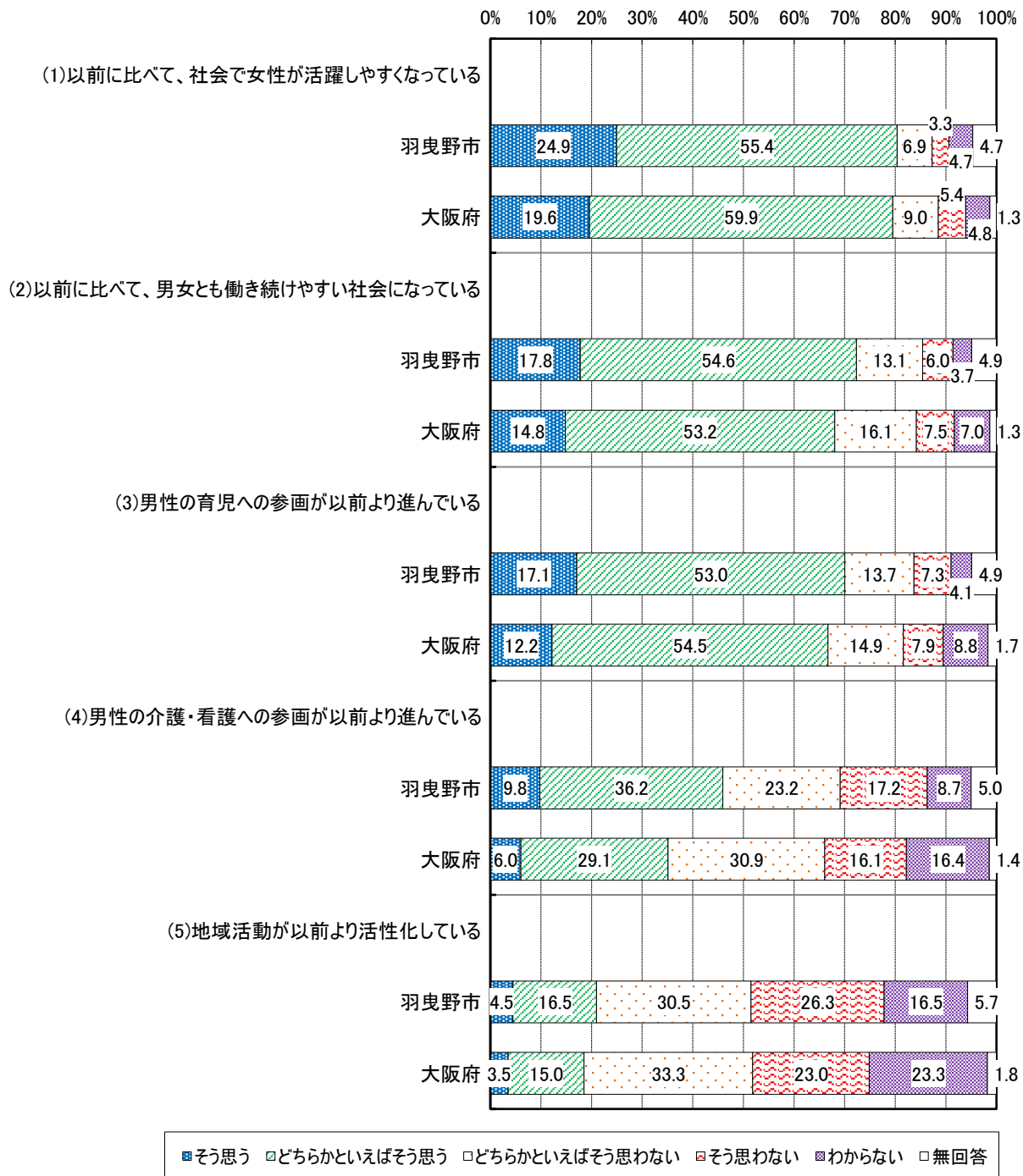
問29 あなたご自身の経験に照らして、あなたのお考えに最も近いと思われるものを選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

- 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせて賛同する人が多いものは、「以前に比べて、社会で女性が活躍しやすくなっている」(80.3%)、「以前に比べて、男女とも働き続けやすい社会になっている」(72.4%)、「(3) 男性の育児への参画が以前より進んでいる」が70.1%となっています。
- 「男性の介護・看護への参画が以前より進んでいる」は賛同する人が46.0%、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせて賛同しない人が40.4%と意見が分かれています。また、「地域活動が以前より活性化している」については賛同しない人が56.8%となっています。
- 性別でみると、「以前に比べて、社会で女性が活躍しやすくなっている」と「以前に比べて、男女とも働き続けやすい社会になっている」について男性で「そう思う」と答える人が多く見られるほか、「男性の介護・看護への参画が以前より進んでいる」については男性の56.7%が賛同しているのに対し、女性は47.8%が賛同していません。



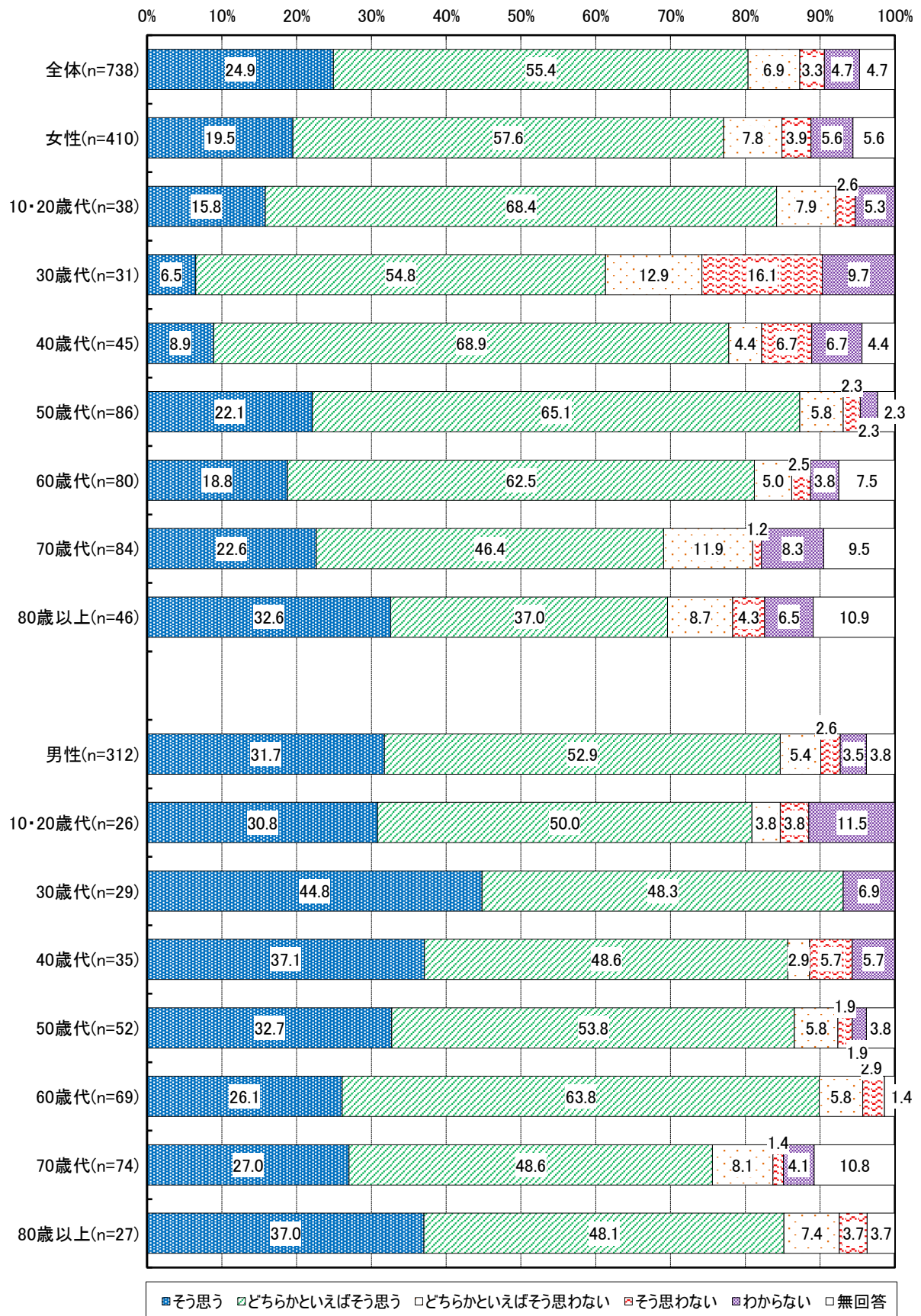
大阪府調査との比較

○おおむね大阪府調査と同じ傾向にありますが、羽曳野市の方が全般に「そう思う」と答える人が多く、「男性の介護・看護への参画が以前より進んでいる」については大阪府調査より賛同する人が多く見られます。

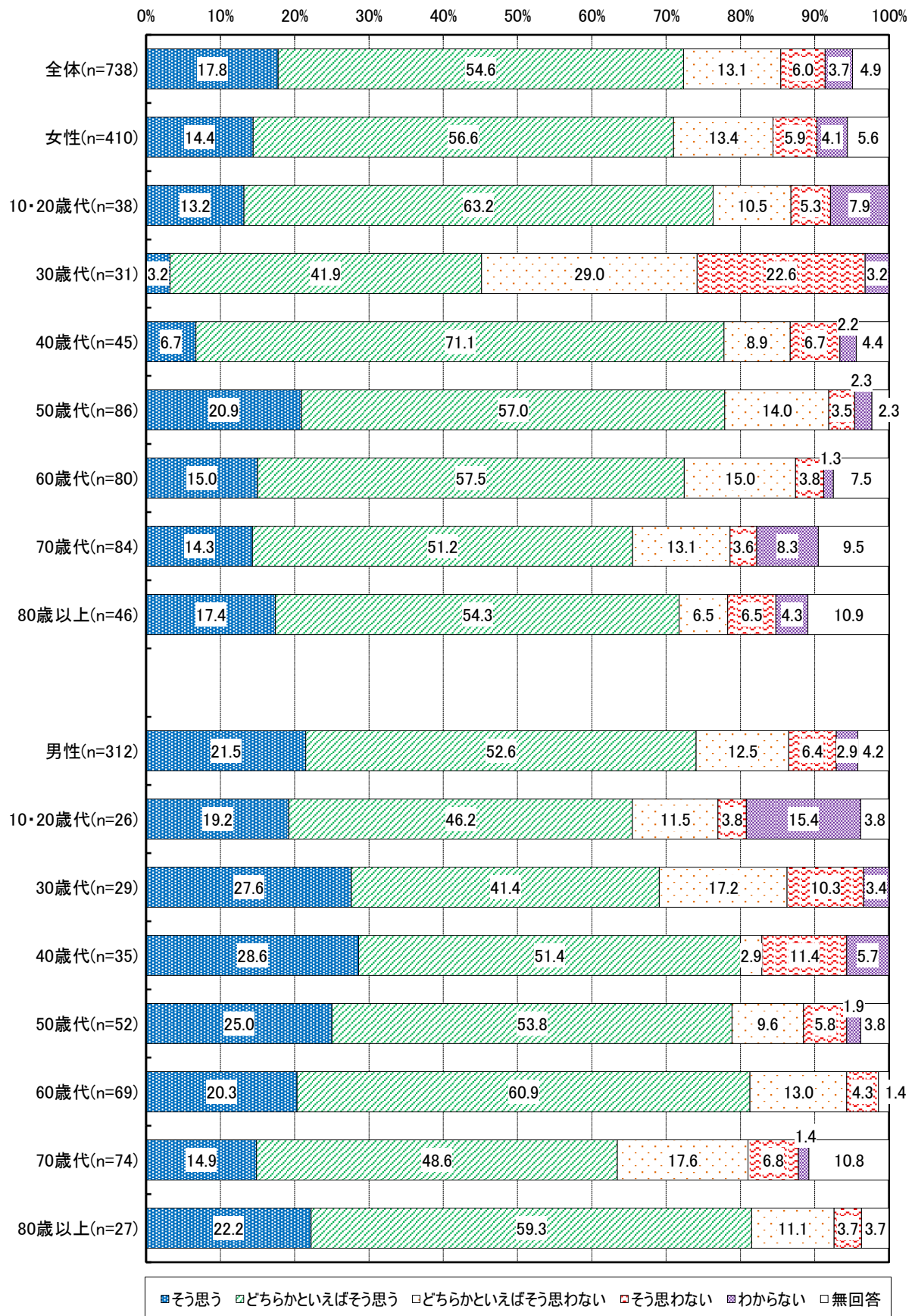


※羽曳野市(n=738)、大阪府(n=986)

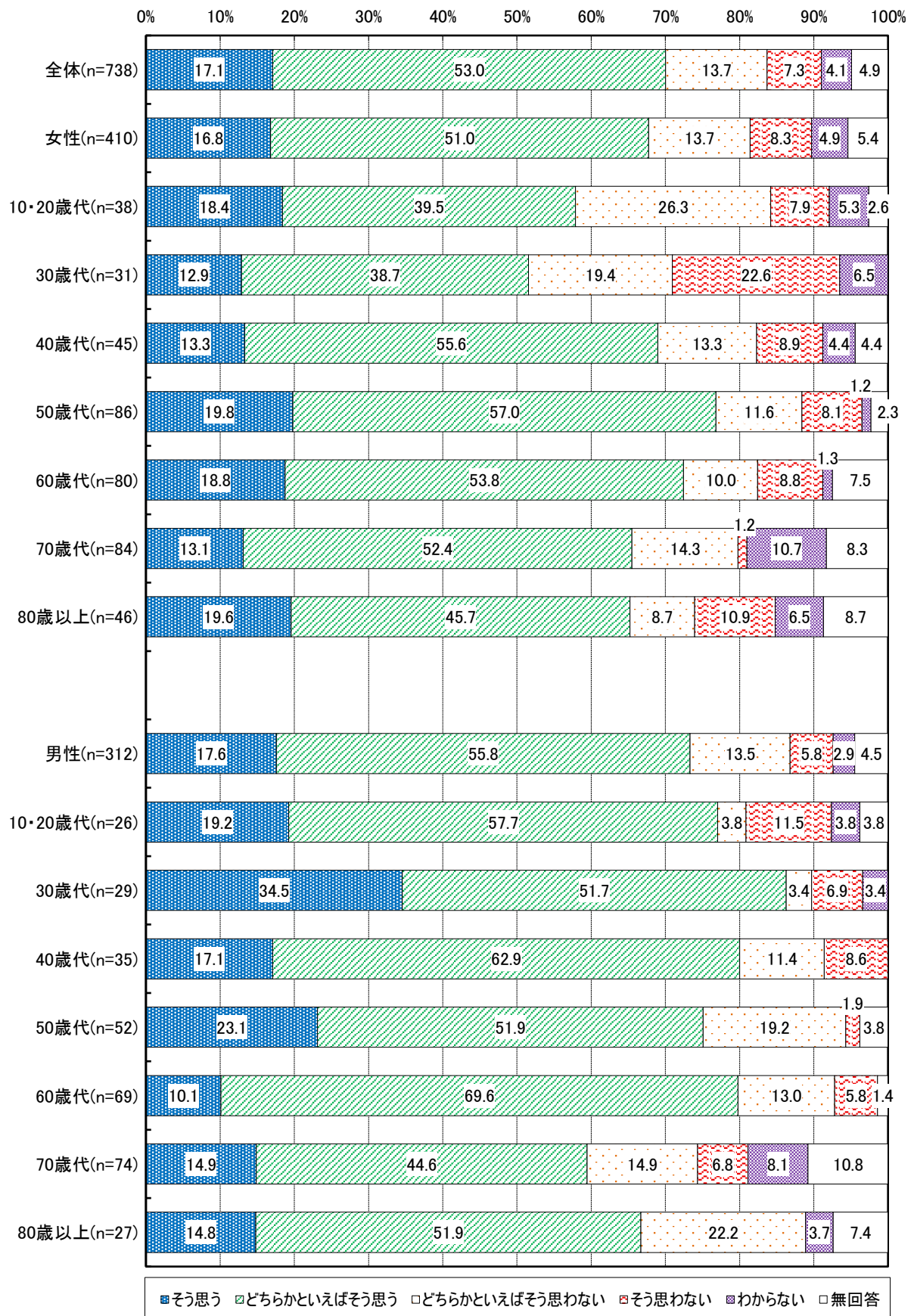
(1) 以前に比べて、社会で女性が活躍しやすくなっている



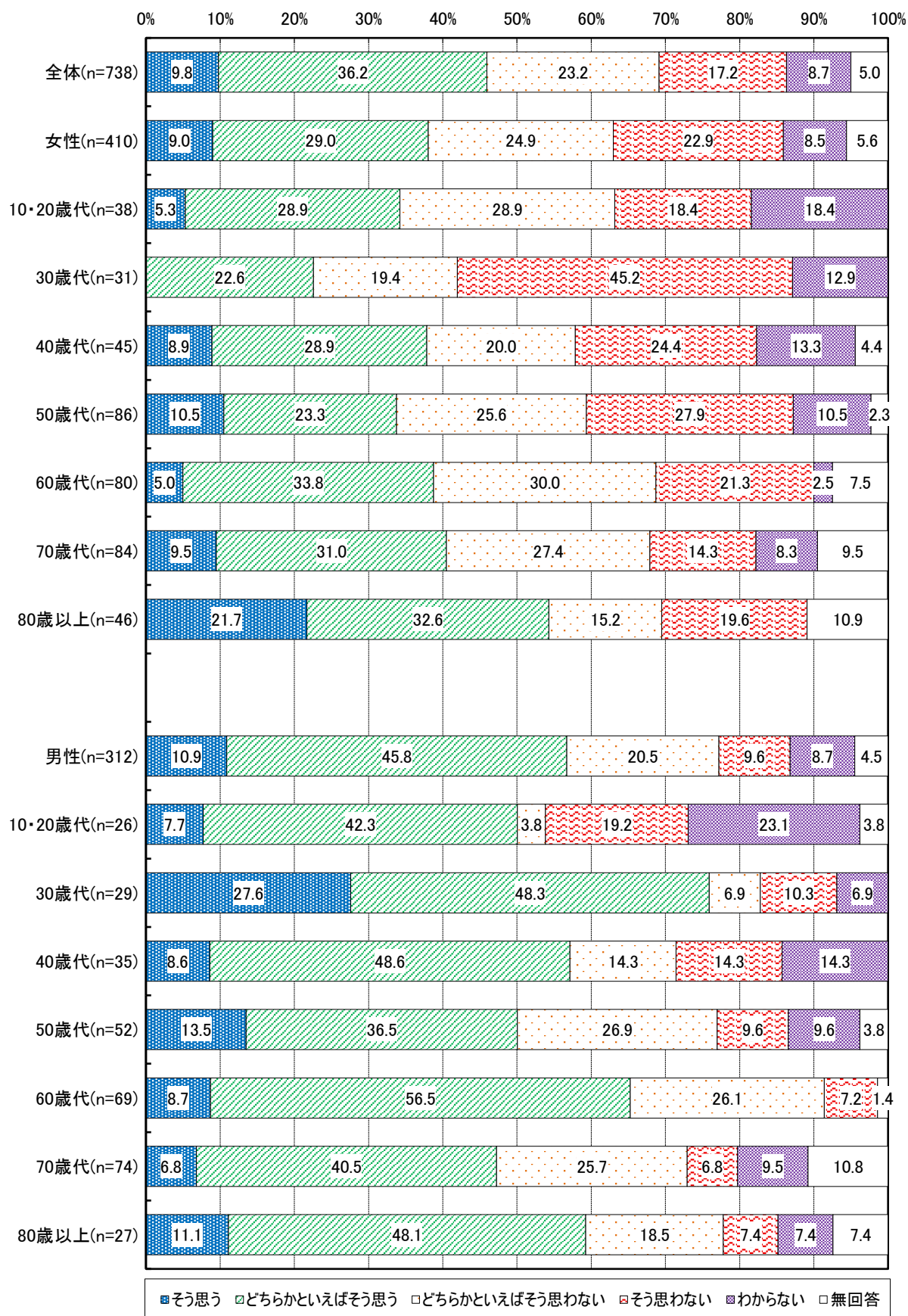
(2) 以前に比べて、男女とも働き続けやすい社会になっている



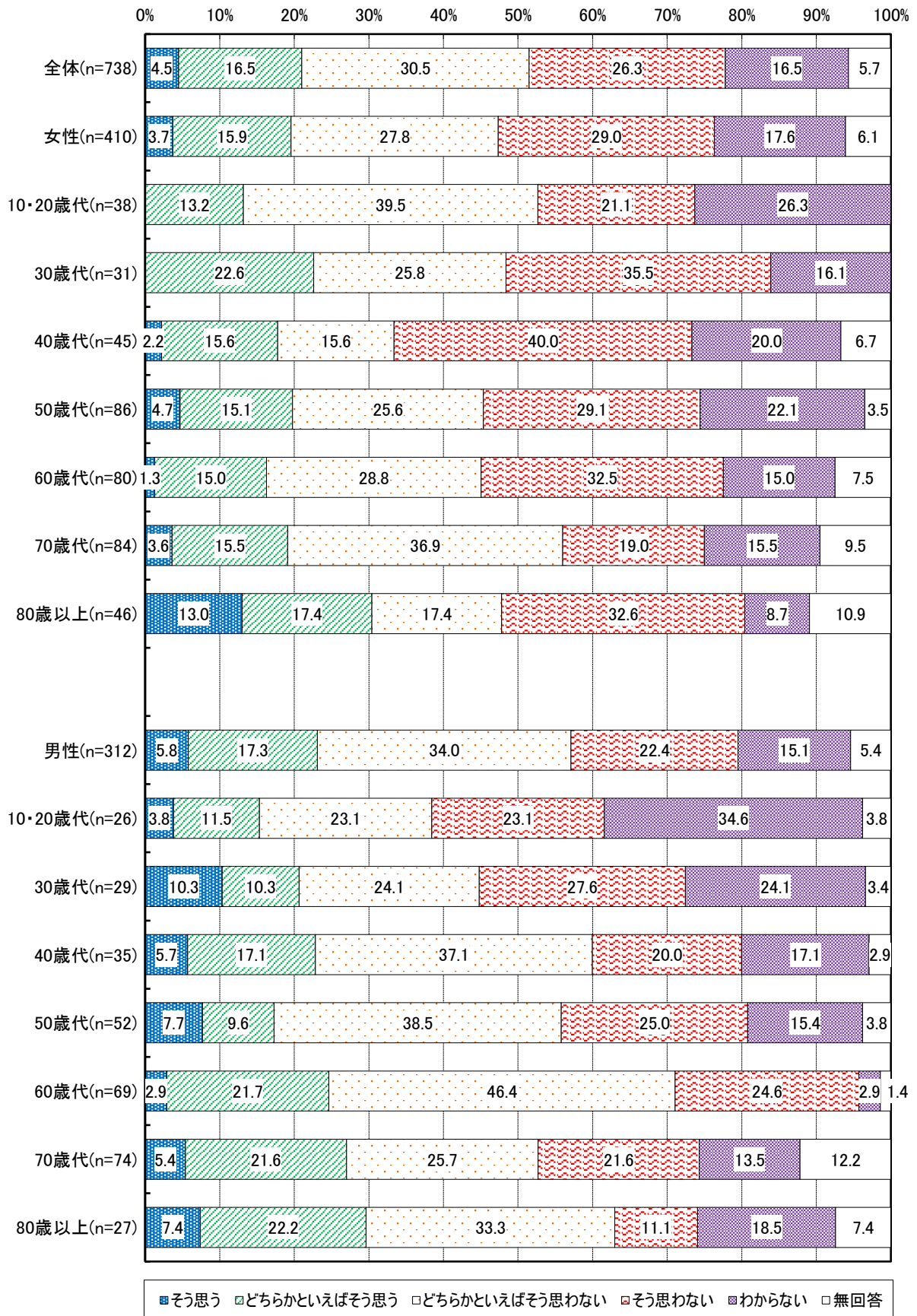
(3) 男性の育児への参画が以前より進んでいる



(4) 男性の介護・看護への参画が以前より進んでいる



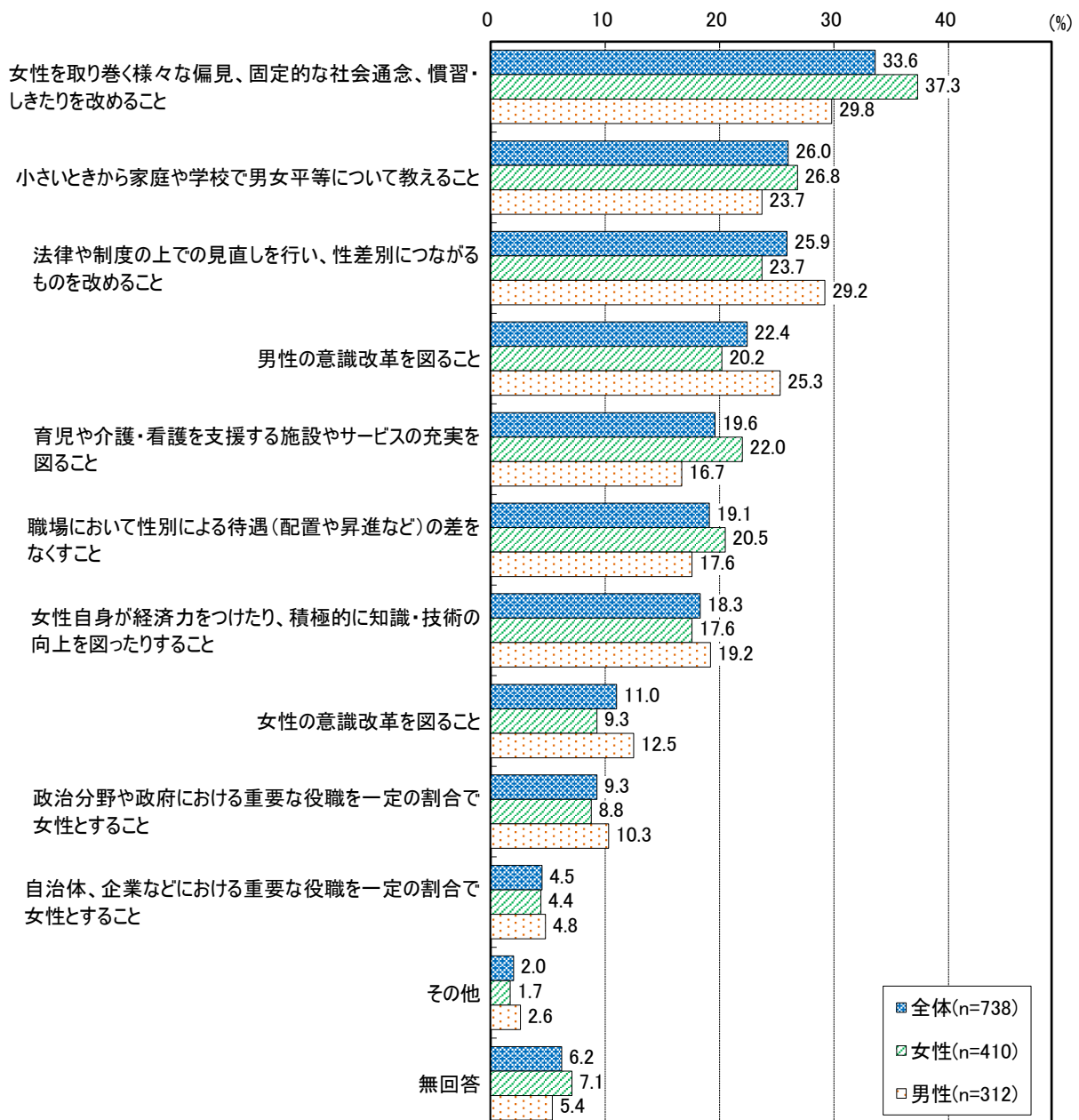
(5) 地域活動が以前より活性化している



問30 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために、最も重要と思われるものは何ですか。(〇は2つまで)

○「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が33.6%と最も多く、次いで「小さいときから家庭や学校で男女平等について教えること」が26.0%、「法律や制度の上での見直しを行い、性差別につながるものを改めること」が25.9%、「男性の意識改革を図ること」が22.4%、「育児や介護・看護を支援する施設やサービスの充実を図ること」が19.6%、「職場において性別による待遇（配置や昇進など）の差をなくすこと」が19.1%などとなっています。

○性別でみると、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」は女性で37.3%、「法律や制度の上での見直しを行い、性差別につながるものを改めること」は男性で29.2%と多く見られます。



○性年齢別でみると、50・70歳代の女性や60歳代の男性で「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」、50歳代の女性や80歳以上の男性で「小さいときから家庭や学校で男女平等について教えること」、50・60歳代の男性で「法律や制度の上での見直しを行い、性差別につながるものを改めること」、30・50歳代の女性や10～40・70歳代の男性で「男性の意識改革を図ること」がそれぞれ多く見られるほか、10・20歳代の女性で「職場において性別による待遇（配置や昇進など）の差をなくすこと」が30%以上となっています。

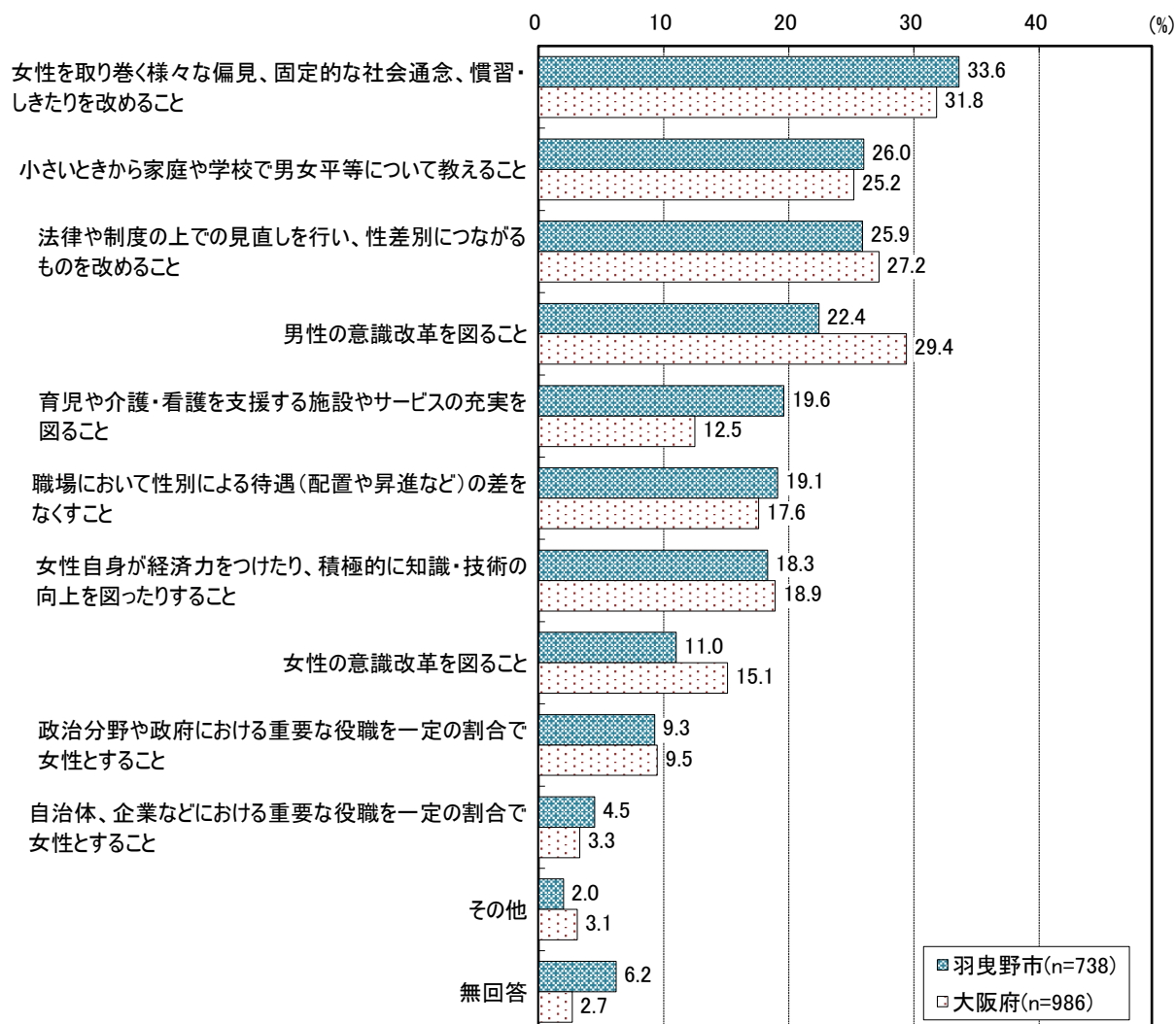
(単位：%)

	女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること	法律や制度の上での見直しを行い、性差別につながるものを改めること	小さいときから家庭や学校で男女平等について教えること	男性の意識改革を図ること	育児や介護・看護を支援する施設やサービスの実施を図ること	職場において性別による待遇（配置や昇進など）の差をなくすこと	女性自身が経済力をつけたり、積極的に知識・技術の向上を図ったりすること	女性の意識改革を図ること	政治分野や政府における重要な役職を一定の割合で女性とすること	自治体、企業などにおける重要な役職を一定の割合で女性とすること	その他	無回答
全体 (n=738)	33.6	26.0	25.9	22.4	19.6	19.1	18.3	11.0	9.3	4.5	2.0	6.2
女性 (n=410)	37.3	23.7	26.8	20.2	22.0	20.5	17.6	9.3	8.8	4.4	1.7	7.1
10・20歳代 (n=38)	36.8	26.3	26.3	10.5	23.7	31.6	15.8	2.6	5.3	2.6	0.0	0.0
30歳代 (n=31)	32.3	19.4	25.8	29.0	25.8	16.1	9.7	12.9	12.9	6.5	3.2	0.0
40歳代 (n=45)	28.9	24.4	22.2	20.0	28.9	11.1	20.0	6.7	4.4	4.4	4.4	11.1
50歳代 (n=86)	50.0	27.9	33.7	31.4	15.1	16.3	18.6	14.0	5.8	3.5	2.3	2.3
60歳代 (n=80)	35.0	27.5	28.8	18.8	21.3	22.5	17.5	6.3	12.5	3.8	1.3	6.3
70歳代 (n=84)	39.3	19.0	20.2	19.0	20.2	22.6	16.7	8.3	11.9	7.1	1.2	11.9
80歳以上 (n=46)	26.1	17.4	28.3	6.5	28.3	23.9	21.7	13.0	6.5	2.2	0.0	15.2
男性 (n=312)	29.8	29.2	23.7	25.3	16.7	17.6	19.2	12.5	10.3	4.8	2.6	5.4
10・20歳代 (n=26)	26.9	26.9	26.9	30.8	7.7	23.1	23.1	7.7	3.8	3.8	0.0	3.8
30歳代 (n=29)	27.6	27.6	24.1	34.5	10.3	17.2	13.8	27.6	3.4	0.0	0.0	3.4
40歳代 (n=35)	17.1	28.6	20.0	31.4	25.7	17.1	11.4	17.1	11.4	0.0	2.9	0.0
50歳代 (n=52)	25.0	34.6	23.1	17.3	19.2	25.0	23.1	13.5	5.8	1.9	5.8	7.7
60歳代 (n=69)	42.0	31.9	21.7	23.2	11.6	11.6	17.4	11.6	13.0	5.8	4.3	4.3
70歳代 (n=74)	32.4	24.3	23.0	32.4	18.9	13.5	20.3	8.1	14.9	9.5	1.4	9.5
80歳以上 (n=27)	22.2	29.6	33.3	3.7	22.2	25.9	25.9	7.4	11.1	7.4	0.0	3.7

※濃い網かけは全体構成比より10ポイント以上、薄い網かけは5ポイント以上高いもの

大阪府調査との比較

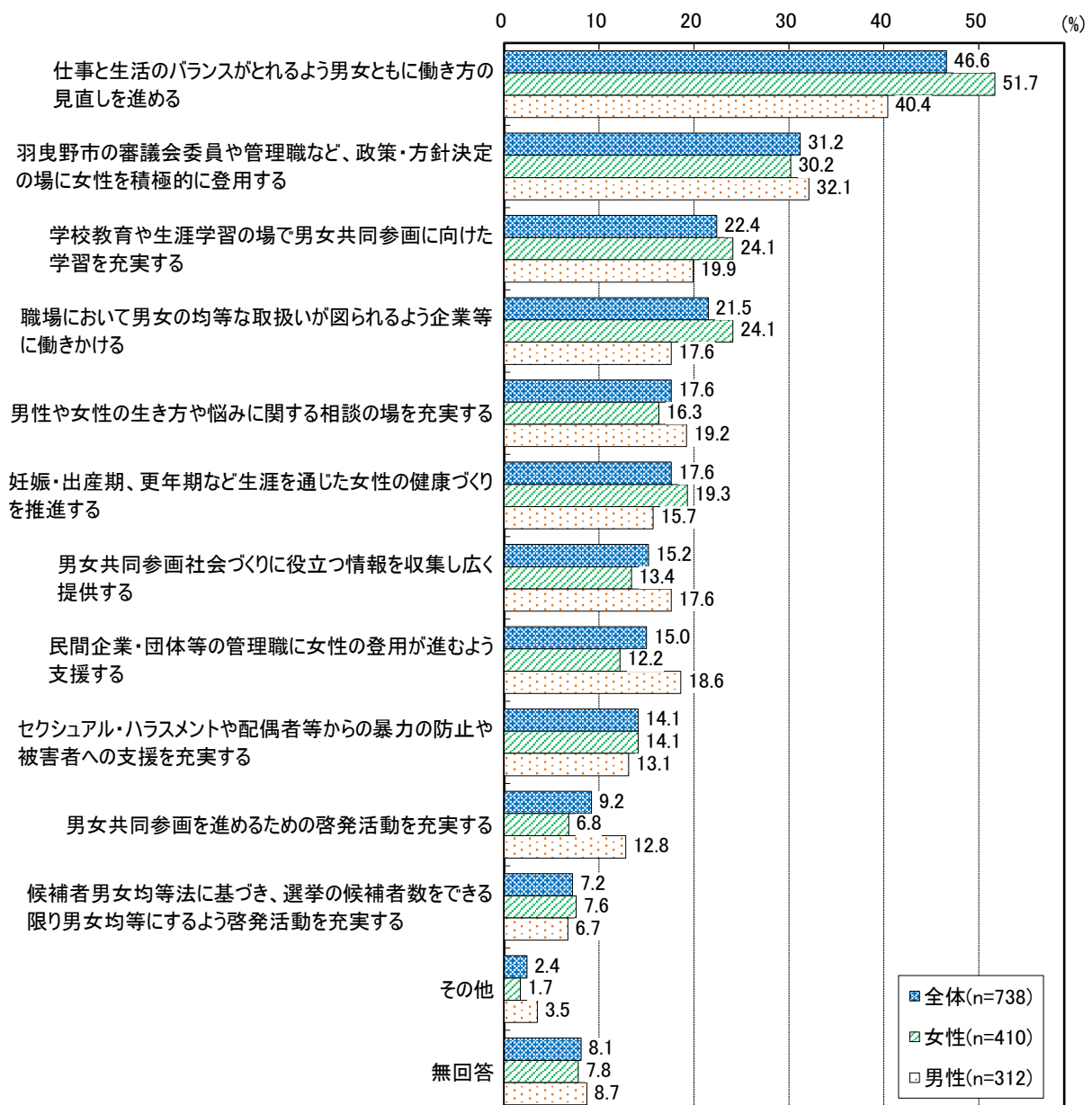
○一部を除いて、おおむね大阪府調査と同じ傾向にあります。



問31 今後、男女共同参画社会を推進するために、羽曳野市はどのようなことに力を入れていくべきですか（〇は3つまで）

○「仕事と生活のバランスがとれるよう男女ともに働き方の見直しを進める」が46.6%と最も多く、次いで「羽曳野市の審議会委員や管理職など、政策・方針決定の場に女性を積極的に登用する」が31.2%、「学校教育や生涯学習の場で男女共同参画に向けた学習を充実する」が22.4%、「職場において男女の均等な取扱いが図られるよう企業等に働きかける」が21.5%、「男性や女性の生き方や悩みに関する相談の場を充実する」と「妊娠・出産期、更年期など生涯を通じた女性の健康づくりを推進する」がそれぞれ17.6%となっています。

○性別でみると、女性で「仕事と生活のバランスがとれるよう男女ともに働き方の見直しを進める」が51.7%、「職場において男女の均等な取扱いが図られるよう企業等に働きかける」が24.1%と男性より多くみられます。



○さらに性年齢別でみると、30～50歳代の女性と40歳代の男性で「仕事と生活のバランスがとれるよう男女ともに働き方の見直しを進める」、60歳以上の男性と70歳代の女性で「羽曳野市の審議会委員や管理職など、政策・方針決定の場に女性を積極的に登用する」、30歳代の男女や60歳代の女性で「学校教育や生涯学習の場で男女共同参画に向けた学習を充実する」、10～30歳代の女性と30・50歳代の男性で「職場において男女の均等な取扱いが図られるよう企業等に働きかける」がそれぞれ多く見られるほか、10・20歳代の女性では「セクシュアル・ハラスメントや配偶者等からの暴力の防止や被害者への支援を充実する」や「妊娠・出産期、更年期など生涯を通じた女性の健康づくりを推進する」が30%以上となっています。

(単位：%)

	仕事と生活のバランスがとれるよう男女ともに働き方の見直しを進める	羽曳野市の審議会委員や管理職など、政策・方針決定の場に女性を積極的に登用する	学校教育や生涯学習の場で男女共同参画に向けた学習を充実する	職場において男女の均等な取扱いが図られるよう企業等に働きかける	男性や女性の生き方や悩みに関する相談の場を充実する	妊娠・出産期、更年期など生涯を通じた女性の健康づくりを推進する	男女共同参画社会づくりに役立つ情報を収集し広く提供する	民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する	セクシュアル・ハラスメントや配偶者等からの暴力の防止や被害者への支援を充実する	男女共同参画を進めるための啓発活動を充実する	候補者男女均等法に基づき、選挙の候補者数をできる限り男女均等にしよう啓発活動を充実する	その他	無回答
全体 (n=738)	46.6	31.2	22.4	21.5	17.6	17.6	15.2	15.0	14.1	9.2	7.2	2.4	8.1
女性 (n=410)	51.7	30.2	24.1	24.1	16.3	19.3	13.4	12.2	14.1	6.8	7.6	1.7	7.8
10・20歳代 (n=38)	44.7	26.3	18.4	39.5	23.7	31.6	5.3	5.3	34.2	7.9	2.6	2.6	0.0
30歳代 (n=31)	54.8	29.0	29.0	29.0	12.9	22.6	3.2	19.4	12.9	3.2	9.7	3.2	3.2
40歳代 (n=45)	57.8	33.3	24.4	11.1	17.8	13.3	17.8	13.3	11.1	2.2	6.7	2.2	11.1
50歳代 (n=86)	61.6	29.1	25.6	24.4	14.0	22.1	10.5	9.3	8.1	7.0	5.8	2.3	4.7
60歳代 (n=80)	51.3	27.5	31.3	22.5	15.0	17.5	11.3	17.5	21.3	12.5	6.3	0.0	6.3
70歳代 (n=84)	44.0	36.9	19.0	23.8	16.7	14.3	22.6	11.9	10.7	6.0	9.5	1.2	11.9
80歳以上 (n=46)	45.7	26.1	19.6	23.9	17.4	19.6	15.2	8.7	6.5	4.3	13.0	2.2	15.2
男性 (n=312)	40.4	32.1	19.9	17.6	19.2	15.7	17.6	18.6	13.1	12.8	6.7	3.5	8.7
10・20歳代 (n=26)	42.1	7.9	15.8	7.9	26.3	18.4	10.5	2.6	10.5	7.9	0.0	2.6	5.3
30歳代 (n=29)	37.9	10.3	27.6	27.6	17.2	24.1	13.8	10.3	13.8	17.2	0.0	3.4	10.3
40歳代 (n=35)	54.3	22.9	11.4	11.4	20.0	22.9	14.3	14.3	20	8.6	0.0	5.7	2.9
50歳代 (n=52)	36.5	30.8	11.5	26.9	7.7	15.4	7.7	23.1	11.5	7.7	3.8	5.8	13.5
60歳代 (n=69)	36.2	46.4	17.4	11.6	20.3	13.0	15.9	27.5	20.3	8.7	13.0	4.3	5.8
70歳代 (n=74)	39.2	36.5	27	17.6	21.6	9.5	25.7	17.6	5.4	17.6	9.5	1.4	9.5
80歳以上 (n=27)	25.9	40.7	22.2	18.5	14.8	11.1	29.6	18.5	7.4	22.2	11.1	0.0	11.1

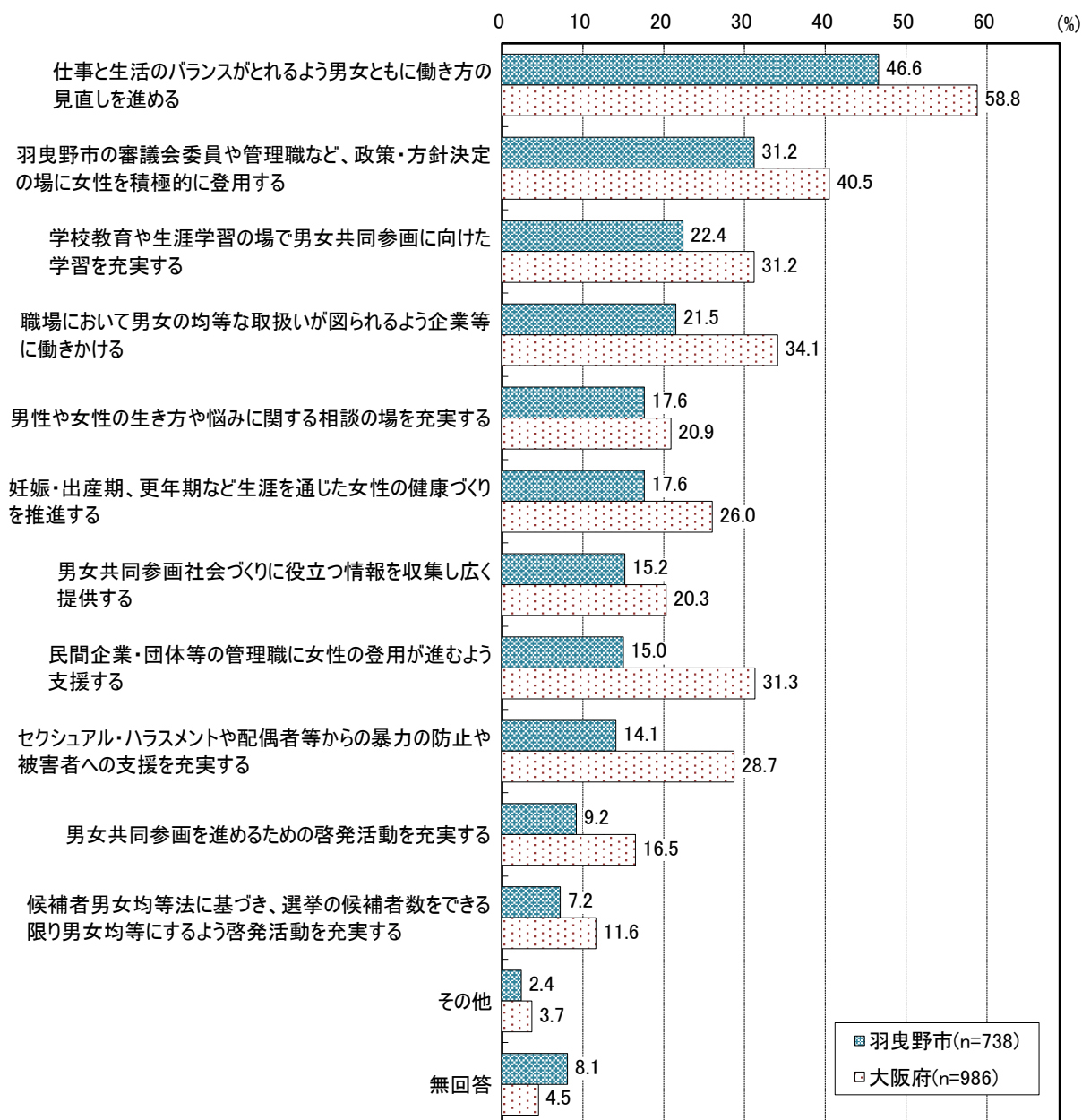
※濃い網かけは全体構成比より10ポイント以上、薄い網かけは5ポイント以上高いもの

《選択肢「その他」の主な記述内容》

- ・女性が生きたいように生きられる、そういう意識を男性がもてるような意識づくり。
- ・女性が笑顔になれる施策をすべて行うこと。
- ・人と人とのあり方や理解しあう場をつくるべき。男女の違いばかりに気持ちがいきすぎ。
- ・窓口に置いている申請書や婚姻届動画の記載例が、筆頭者・世帯主・婚姻後に名乗る氏が男性になっていたりするので、小さな細々したところのジェンダーバイアスを無くす。ご主人様などの差別につながる用語を使わないように市職員全員が気をつける。

大阪府調査との比較

○割合の違いはありますが、おおむね大阪府調査と同じ傾向にあります。



※大阪府調査は回答指定数を設定していない。

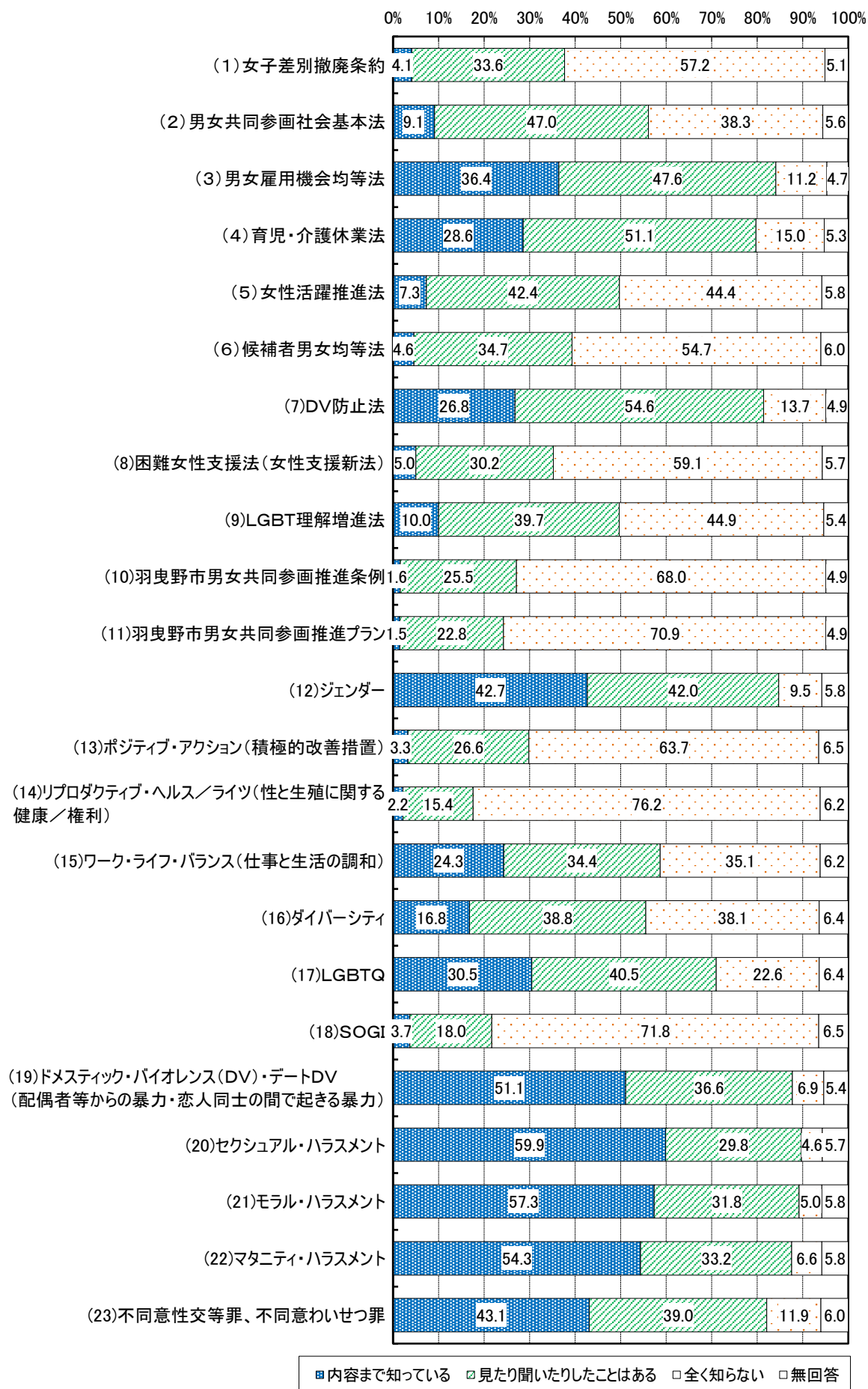
問32 次の「ことば」や「ことがら」についてご存知ですか。（それぞれ○は1つずつ）

○23項目の「ことば」「ことがら」について『内容まで知っている』『見たり聞いたりしたことはある』を合わせて見聞きしたことがあるという人は、「セクシュアル・ハラスメント」（89.7%）、「モラル・ハラスメント」（89.1%）、「ドメスティック・バイオレンス（DV）・デートDV（配偶者等からの暴力・恋人同士の間で起きる暴力）」（87.7%）、「マタニティ・ハラスメント」（87.5%）、「ジェンダー」（84.7%）、「男女雇用機会均等法」（84.0%）、「不同意性交等罪、不同意わいせつ罪」（82.1%）、「DV防止法」（81.4%）、「育児・介護休業法」（79.7%）、「LGBTQ」（71.0%）などの順となっています。

○『内容まで知っている』と答えた人に限ってみると、「セクシュアル・ハラスメント」（59.9%）、「モラル・ハラスメント」（57.3%）、「マタニティ・ハラスメント」（54.3%）、「ドメスティック・バイオレンス・デートDV」（51.1%）、「不同意性交等罪、不同意わいせつ罪」（43.1%）、「ジェンダー」（42.7%）、「男女雇用機会均等法」（36.4%）の順となっています。

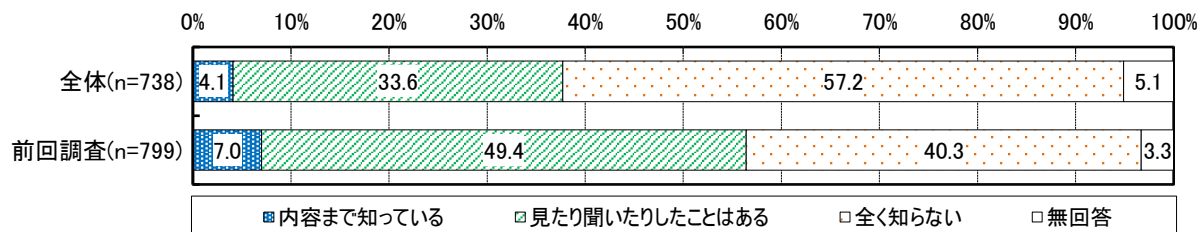
○一方、「ことば」「ことがら」について『全く知らない』という人が多いものは、「リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康／権利）」（76.2%）、「SOGI」（71.8%）、「羽曳野市男女共同参画推進プラン」（70.9%）、「羽曳野市男女共同参画推進条例」（68.0%）、「ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」（63.7%）、「困難女性支援法（女性支援新法）」（59.1%）、「女子差別撤廃条約」（57.2%）、「候補者男女均等法」（54.7%）の順となっています。

○前回調査結果と比べて『内容まで知っている』と答えた人が増えたものは、「ジェンダー」（前回13.4%→今回42.7%）、「LGBTQ」（9.6%→30.5%）、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」（12.3%→24.3%）、「モラル・ハラスメント」（47.7%→57.3%）などとなっています。

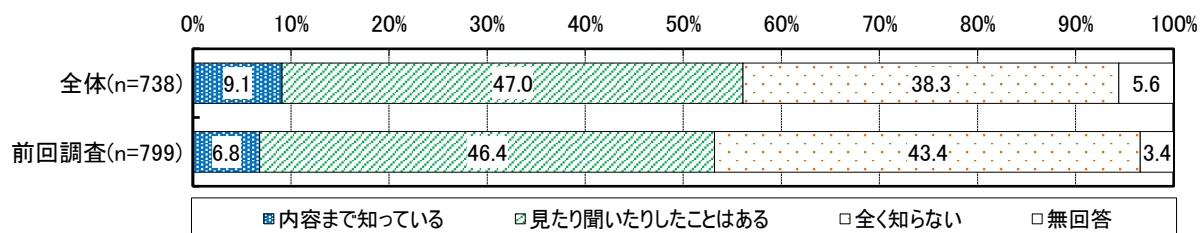


前回調査との比較（比較可能なもの）

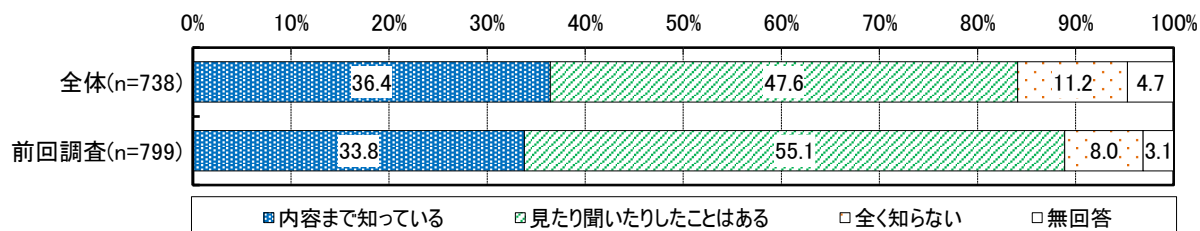
（１）女子差別撤廃条約



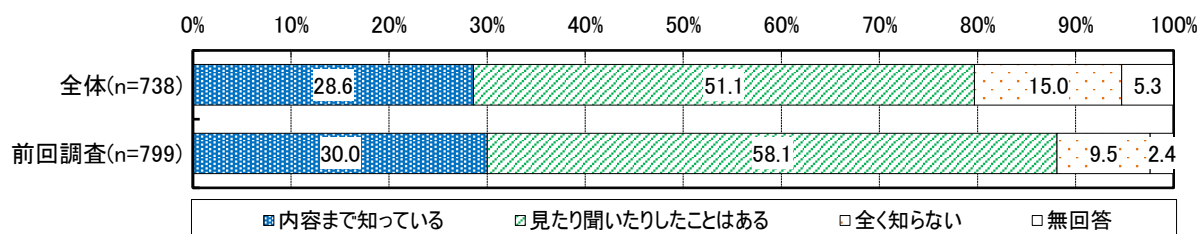
（２）男女共同参画社会基本法



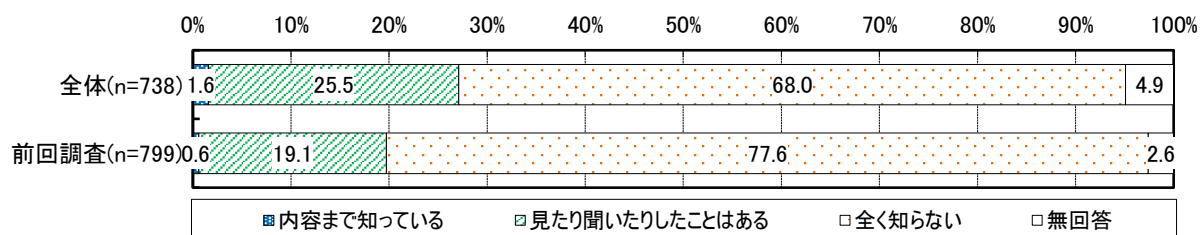
（３）男女雇用機会均等法



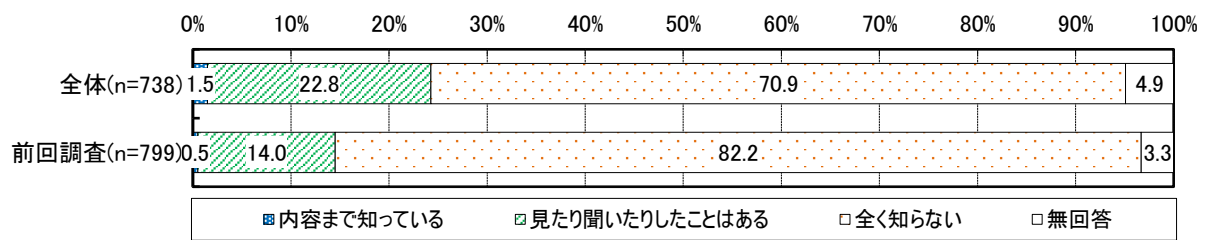
（４）育児・介護休業法



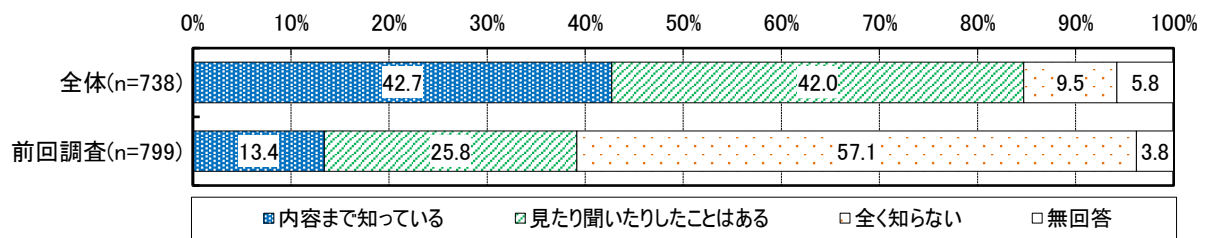
（10）羽曳野市男女共同参画推進条例



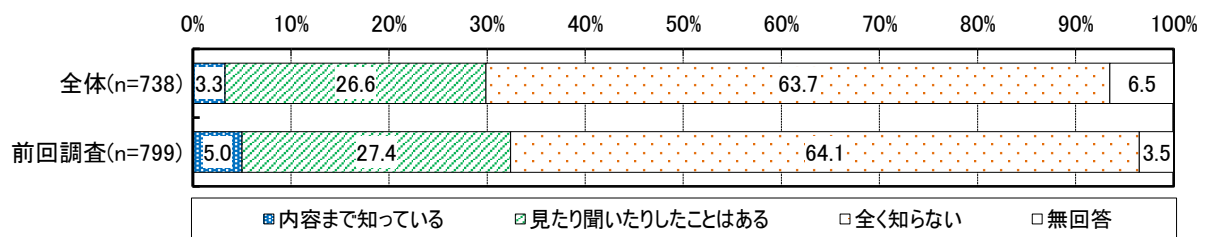
(11) 羽曳野市男女共同参画推進プラン



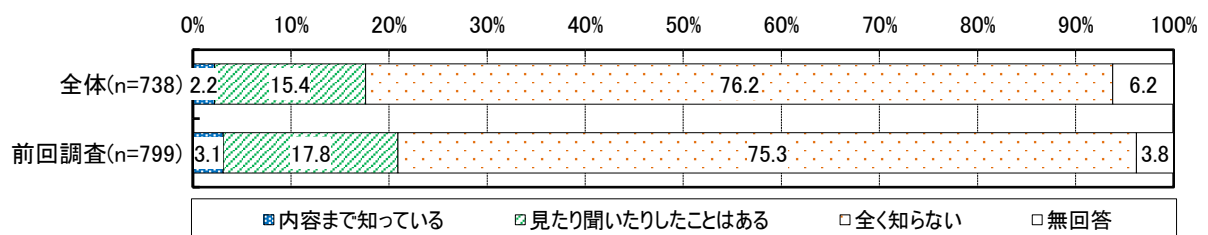
(12) ジェンダー



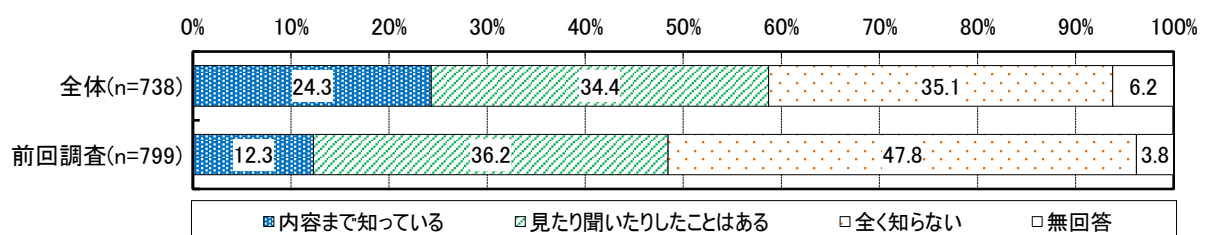
(13) ポジティブ・アクション（積極的改善措置）



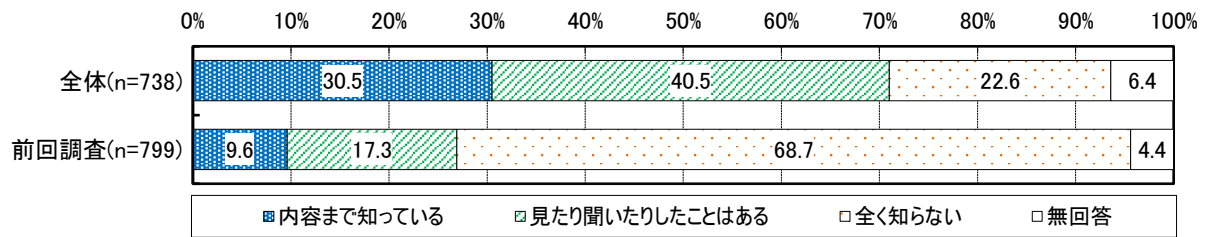
(14) リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康／権利）



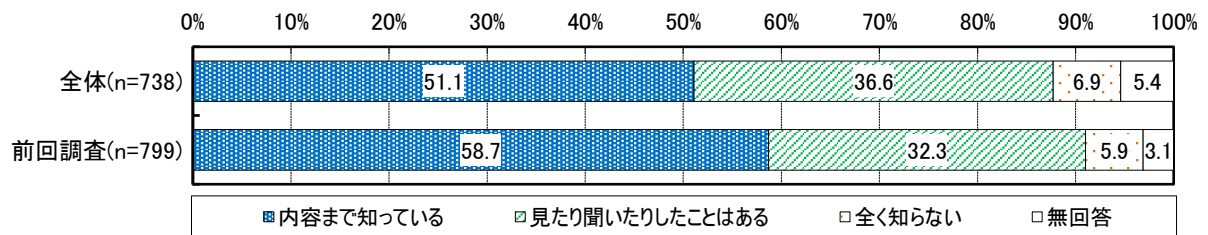
(15) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）



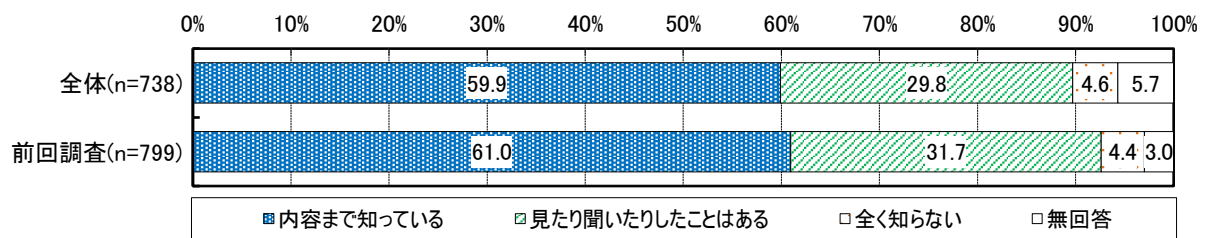
(17) LGBTQ



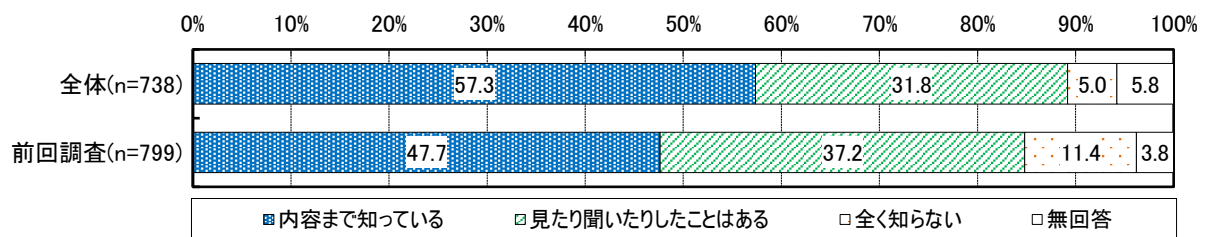
(19) ドメスティック・バイオレンス (DV)・デートDV (配偶者等からの暴力・恋人同士の間で起きる暴力)



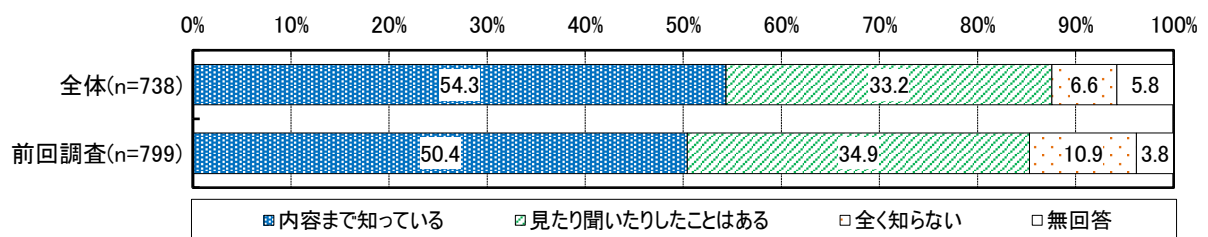
(20) セクシュアル・ハラスメント



(21) モラル・ハラスメント



(22) マタニティ・ハラスメント



6 自由回答意見

問33 男女共同参画に関することでご意見などがございましたら、ご自由にお書きください。

○調査票末尾の自由回答意見については、97件の意見が寄せられました。

ご意見の内容をテーマごとに分類したうえで、代表的なご意見を次のように紹介します。

《A 男女共同参画社会の実現について》37件

- 男性がもっと家事・育児に参加する方が良いと思います。それを子どもが見て真似をする。背中で語る。
- 女性の活躍できる社会にするべきです。女性の雇用をさらに強化すべきです。
- 「男女共同参画」について知り、考えることができて良かったです。上に立つ人が女性が多くなれば良いと思います。そのためには、家庭での家事、育児、介護等、女性に押しつけるのではなく、男性も同じように休みを取りながら、共同でできるような未来になってほしいです。小さな子どものうちから教育して、大人にももっと広まっていくと良いと思います。
- 長年アメリカに住んでいました。日本はかなり男女平等だと思います。政治家や役職者の数を同じにするためだけに女性を積極的に登用することには反対です。あくまで個々人の能力に応じての採用であるべきと思います。女性の社会進出を促したいのなら、保育施設の充実、時短勤務、子どもの急病時でも休みをとりやすい環境を整える方が優先ではないかと。あと、子育てに専念したい女性、配偶者の収入のみで満足している家庭に女性も外で働かないというプレッシャーをかけるのもどうかと思います。それは各家庭で話し合い、納得すればいいこと。

《B 家庭・介護・子育て環境について》2件

- 小学生や中学生を持つ親（特に母親）の在宅勤務の普及が必要と思います。女性の社会進出が重要であることは当然ですが、一方で子どもに関わる時間も極めて重要だと思います。子どもが学校から帰宅したそのちょっとした表情の変化がわかるのは毎日見ている母親が一番と思います。特にいじめの予兆を見つけるには表情のちょっとした変化を見つけれたり普段から会話をしやすい環境をつくっておくことが重要です。市の取り組みとして在宅勤務の普及を働きかけてほしいと思います。

《C 職業生活や地域社会について》2件

- 一番は、女性・男性の働きやすい環境、子どもや老人や世話をしなければならない人がいる家庭を行政がいかに手助けできるかにかかっている。とにかく元気な人には働いてもらい、その人にとって手の掛かる人がいれば働きやすい環境をつくり、しっかり納税してもらう社会をつくることだ。男女が働ける環境をつくることが一番である。その環境をつくる助けをするのが行政である。生まれた時から子どもを預かる社会、世話をしなければならない親の世話を仕事とする社会づくり、そしてしっかりと働ける社会づくりを願う。

《D 政策・方針決定の場への参画について》4件

- 女性を無理に管理職等にする必要はないと思いますが、男性と同じようにめざしたい人がめざせる環境づくりは必要だと思います。したくない人までする必要はないと思います。現代において男女共に働くのが一般的になっている以上、出産ができない男性がより女性を支えることが必要だと思います。また性犯罪やちかんが減ってほしいと心から願います。

《E 教育について》7件

- 小学生からの教育で男女共同参画を進めていただきたいです。
- 今ある慣習を大人が改めるよりも子どもに教育しておくことで10年後、20年後社会は変わると思います。人口を増やすことが一番の投資だと思いますし、子育てしやすい社会にして教育も時代に合わせてより良くできればと思います。

《F 人権の尊重について》3件

- 高齢につき、ハラスメント的な経験もほぼ最近はありませんが、10年以上前の頃を思い返すと今でも不快に思ったことは、人によっては美人、不美人で態度をあからさまに違う失礼な人。そして、若い人、高齢者に対しても同じで、まるで、汚い物を見るような目で見られているようで、とても悲しいと感じたことはありました。

《G 市政・国政について》18件

- 羽曳野市がどのような対策を取っているかわかりません。広く知らせるべきだと思います。気軽に相談できる窓口があればよいと思う。
- 市の職員全員がジェンダー平等をめざすという高い意識と専門性を持ち、役所で婚姻届を渡すときに「新しい苗字は夫婦二人でよく話し合って決めてくださいね」など声掛けをしたり、記載例を妻氏婚のものにしたり、家制度が廃止された経緯と夫婦二人で新しい戸籍をつくることになるので、「入籍しました」は間違いで「結婚しました」が正しい表現ですと説明する、ご主人様といった言葉を使わないなど、日頃の窓口仕事で人々の偏見や意識を変えていくことが重要だと思います。
またDVやハラスメントなどは、救済制度・救済方法・相談窓口などがあることを広めることで、救済や抑止につながると思います。

《H アンケートについて》24件

- この調査で出た意見・被害の実態や数、男女の認識の差など、集計結果や分析結果を、個人が特定されない範囲で市のホームページや広報で公開することも、みんなが考える良いきっかけになると思います。
- アルファベット表現やカタカナ表現ばかりで、わざわざカッコを用いて補足を入れないと理解しづらい傾向を強く感じます。子どもや高齢者の方々ならなおさらです。難しい言葉や表現は一切抜きにして誰でもわかりやすくすることで理解者が増え、結果的に望んでいる方向に向かうことができると感じます。

調査に用いた調査票

羽曳野市 男女共同参画に関する市民意識調査
—調査の趣旨とご協力のお願—

市民のみなさまには、日頃から市政にご理解、ご協力をお願いいたします。

本市では、「羽曳野市男女共同参画推進条例」及び「羽曳野市男女共同参画推進プラン」に基づき、男女共同参画社会の実現をめざして様々な施策を推進してまいりました。

この調査は、次期プランの策定に先立ち、市民のみなさまの意識やニーズを把握し、今後の施策の基礎資料とするために実施するものです。

調査票は、市内にお住まいの満18歳以上の方から無作為に抽出した2,000人を対象にお配りしており、無記名式で、お答えいただいた内容についてはすべて統計的に処理を行いますので、ご回答いただいた方のお名前や回答内容がわかることはありません。また、調査結果を他の目的に使用することはありませんので、ありのままお答えください。

ご協力くださいますようよろしくお願い申し上げます。

令和7年8月

羽曳野市

＜調査票のご記入について＞

1 お答えはご本人（あて名の方）が、ご自身のお考えでご記入ください。ただし、ご本人で答えが困難な方は、ご家族などのご協力によりお答えください。

2 各質問には、令和7年8月1日現在の状況でお答えください。

3 回答は、あてはまる番号に○をつけたり、記入欄にお書きいただくものなどがあります。また、質問によって選んでいただく数を「1」「3つまで」「いくつでも」などと指定していますので、質問文をよく読んでお答えください。

4 記入が終わりましたら、9月12日（金）までに同封の返信用封筒（切手不要）に入れてご投函ください。お名前を記入していただく必要はありません。

5 次のアドレスまたは二次元バーコードからインターネットを通じてご回答いただくことも可能です。（調査票の返送は不要です。）
https://enquete.cc/g/habikino

【お問い合わせ先】
羽曳野市 市民生活部 人権推進課
電話 072-958-1111（内線1052） FAX 072-958-8061
E-Mail jinkensu@city.habikino.jp

1

あなたとご家族について

あなたご自身のことについておたずねします。（いずれか1つに○）

F 1 あなたの性別は。（以後、ここで○をつけた性別として回答してください。）

1 女性	2 男性	3 その他	4 答えたくない
------	------	-------	----------

F 2 あなたの年齢は。

1 10歳代	2 20歳代	3 30歳代	4 40歳代
5 50歳代	6 60歳代	7 70歳代	8 80歳以上

F 3 あなたは結婚（事実婚を含む）されていますか。

1 未婚	2 既婚（配偶者・パートナーがいる）
3 離婚、離別または死別した	

F 4 あなたとあなたの配偶者・パートナーの主な職業をお答えください。配偶者・パートナーがおられない方は、ご自身の欄だけ記入してください。（○はそれぞれ1つ）

（1）あなたの職業	（2）配偶者・パートナーの職業
1 勤め人（正職）	1 勤め人（正職）
2 勤め人（パート・アルバイト・派遣）	2 勤め人（パート・アルバイト・派遣）
3 自営業・農業（家族従事者を含む）	3 自営業・農業（家族従事者を含む）
4 家事専業	4 家事専業
5 無職、年金受給者	5 無職、年金受給者
6 学生	6 学生
7 その他（ ）	7 その他（ ）

F 5 同居している家族の構成は。

1 ひとり暮らし	2 配偶者・パートナーとふたり
3 2世代家族（親と子）	4 3世代家族（親と子と孫）
5 その他の世帯（1～4以外）	

F 6 同居している家族の中へ何らかの助けや支援が必要とする方がおられますか。（○はいくつでも、あなたご自身も含まれます。）

1 小学校入学前の子ども	2 小・中学生の子ども
3 高校生年代の子ども	4 障害のある人（子ども）
5 介護や見守りが必要な高齢者	6 その他（ ）
7 あてはまる人は誰もいない	

2

仕事と生活のバランス、家庭での役割について

問1 あなたは、希望としてどのような暮らし方をしたいと思いますか。（○は1つ）
※F 4で「学生」と答えた方は、「仕事」には学校での授業等も含まれます。

1 「仕事」を優先したい
2 「家庭生活」を優先したい
3 「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）を優先したい
4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
5 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
6 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
7 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
8 その他（ ）

問2 それでは、あなたの現実の生活に最も近いものはどれですか。（○は1つ）
※F 4で「学生」と答えた方は、「仕事」には学校での授業等も含まれます。

1 「仕事」を優先している
2 「家庭生活」を優先している
3 「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）を優先している
4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
5 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
6 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
7 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
8 その他（ ）

問3 1日のうちで、あなたが仕事や家事に費やす時間は、平日または仕事がある日、休日それぞれどのくらいですか。（（1）（2）のそれぞれについて○は1つずつ）

	平日または仕事がある日 （○は1つ）	休日 （○は1つ）
（1）仕事（学生の場合は授業等）（在宅就労を含む） ※通勤時間は含みません	1 なし 2 4時間未満 3 4時間～6時間未満 4 6時間～8時間未満 5 8時間以上	1 なし 2 4時間未満 3 4時間～6時間未満 4 6時間～8時間未満 5 8時間以上

3

	平日または仕事がある日 （○は1つ）	休日 （○は1つ）
（2）家事（育児、介護等を含む）	1 ほとんどない 2 30分未満 3 30分～1時間未満 4 1時間～2時間未満 5 2時間～3時間未満 6 3時間～4時間未満 7 4時間～5時間未満 8 5時間以上	1 ほとんどない 2 30分未満 3 30分～1時間未満 4 1時間～2時間未満 5 2時間～3時間未満 6 3時間～4時間未満 7 4時間～5時間未満 8 5時間以上

問4 家庭における役割について、あなたはどのようにするのが望ましいと思いますか。また、実際にあなたの家庭ではどのように分担していますか。（（1）～（11）の理想と現実それぞれについて○は1つずつ）

	全員が お答えください			配偶者・パートナーの いる方のお答えください		
	理想	理想	理想	現実	現実	現実
	主に妻・パート・パートナ	それぞれ同じ程度	主に夫・パート・パートナ	主に妻・パート・パートナ	それぞれ同じ程度	その他の家族
（1）生活費を稼ぐ	1	2	3	1	2	3
（2）家事	1	2	3	1	2	3
（3）洗濯	1	2	3	1	2	3
（4）掃除	1	2	3	1	2	3
（5）その他の家事	1	2	3	1	2	3
（6）白々の家計の管理	1	2	3	1	2	3
（7）高価な物の購入の決定	1	2	3	1	2	3
（8）高齢者、病気の人の介護・看護	1	2	3	1	2	3
（9）子どもの教育としてつけ	1	2	3	1	2	3
（10）育児（乳幼児の世帯）	1	2	3	1	2	3
（11）自治会、町内会など地域活動への参加	1	2	3	1	2	3

4

問5 あなたは「男は仕事、女は家庭」という考え方（性別役割分担意識）について、どう思いますか。（○は1つ）

1 賛成	2 どちらかといえば賛成
3 どちらかといえば反対	4 反対
5 わからない	

問5-1 賛成と思う理由を教えてください。（○はいくつでも）

1 日本の伝統・慣習だと思うから
2 性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから
3 子どもの成長にとって良いと思うから
4 個人的にそうありたいと思うから
5 その他（ ）

問5-2 反対と思う理由を教えてください。（○はいくつでも）

1 男女平等に反すると思うから
2 女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとって損失だと思うから
3 男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから
4 少子高齢化により労働力が減少し、女性も仕事を必要があると思うから
5 一方的な考え方を押し付けるのは良くないと思うから
6 その他（ ）

問6 あなたは、家族・親族の介護をしたことがありますか。（○は1つ）

1 ある	2 ない
------	------

問7 あなた自身に介護が必要となった場合、誰に介護をしてほしいと思いますか。現在の状況にかかわらず、ご希望をお答えください。（○は2つまで）

1 配偶者・パートナー	2 娘
3 息子	4 婿の配偶者・パートナー
5 息子の配偶者・パートナー	6 その他の親族
7 ホームヘルパーやボランティア	8 社会福祉施設や有料老人ホームの職員
9 その他（ ）	10 わからない

5

問8 今後、男性が家事、育児、介護・看護、地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○は3つまで）

1 男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること
2 男性が家事、育児、介護・看護、地域活動に参加することについて、社会的評価を高めること
3 夫婦、パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと
4 労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
5 小さいときから男性に家事や育児に関する教育をすること
6 男性が育児や介護・看護、地域活動を行うための、仲間（ネットワーク）づくりを進めること
7 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
8 その他（ ）

問9 次の社会的な活動について今後参加したいと思うものがありますか。（○はいくつでも）

1 自治会・町内会の活動
2 PTAや子ども会の活動
3 地域における趣味・スポーツ・学習の活動
4 NPO（非営利団体）やボランティアの活動
5 民生委員・市民公募委員・市政協力委員など公的な立場での活動
6 その他（ ）
7 特に参加したいものはない

問10 防災・災害復興対策で、特に取り組む必要があると思うのはどれですか。（○は3つまで）

1 災害対策本部に女性に配慮され、被災時の対応に女性の視点を入れること
2 防災・復興に関する計画の策定のための防災会議などに女性が参画し、男女共同参画の視点で計画や防災マニュアルに反映すること
3 避難所の設備（男女別トイレ・多目的トイレ・更衣室・授乳・搾乳室・防犯対策等）
4 避難所運営の責任者に女性に配慮され、被災者対応に女性の視点を入れること
5 授乳乳、高齢者、障害者、貧乏者、女性が必要とするものなどの備えやコースの把握、指示する際の配慮
6 災害時の救護体制（診療・治療体制、妊産婦をサポートする保健師・助産師の配置）
7 被災者に対する男女別の相談体制
8 その他（ ）
9 必要だと思わない
10 わからない

6

職業生活や女性の活躍、困難支援などについて

問11 女性の働き方についてお尋ねします。現在の状況、経験したこと、これからの希望も言めて、あてはまるものをお尋ねします。（○は1つだけ）

※F1で「女性」と答えた方は「あなたご自身」、それ以外の方で女性の配偶者・パートナーがいる場合は「あなたの配偶者・パートナー」について、お答えください。

1 結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている（続けていた/続けるつもり）
2 結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念している（専念していた/専念するつもり）
3 子どもができるまで仕事をもち、子どもができたら家事や育児に専念している（専念していた/専念するつもり）
4 育児の時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続けている（続けていた/続けるつもり）
5 育児の時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けている（続けていた/続けるつもり）
6 仕事に就いたことはない（就くつもりはない）
7 その他（ ）

問12 これまでに雇用されて働いたこと（家族従事者も含む）がある方におたずねします。あなたの職場ではどのような状況ですか。

（（1）～（12）のそれぞれについて○は1つずつ）

	て女性 いる が 優遇 され て いる	男 女 平 等 で ある	て男性 いる が 優遇 され て いる	わ か ら ない
(1) 募集・採用の仕方	1	2	3	4
(2) 採用数	1	2	3	4
(3) 配置される職場	1	2	3	4
(4) 仕事の内容	1	2	3	4
(5) 賃金	1	2	3	4
(6) 昇進・昇給	1	2	3	4
(7) 能力評価（業績評価、人事考課等）	1	2	3	4
(8) 管理職への登用	1	2	3	4

7

	て女性 いる が 優遇 され て いる	男 女 平 等 で ある	て男性 いる が 優遇 され て いる	わ か ら ない
(9) 研修の機会や内容	1	2	3	4
(10) 働き続けやすい雰囲気	1	2	3	4
(11) 昇進・昇給	1	2	3	4
(12) 育児・介護休暇など休暇の取得に関して	1	2	3	4

問13 女性が働き続けるため、また一旦仕事を辞めた女性が再就職を希望する場合、どのようなことが必要だと思いますか。（○は3つまで）

1 女性の雇用機会の拡大
2 男女がともに取得できる育児・介護休業制度の充実
3 育児や介護・看護のための施設やサービスの充実
4 夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、介護・看護などへの参加
5 企業経営者や職場の理解
6 就業情報や職業紹介などの相談機関の充実
7 技能・技術を身につけるための研修や職業訓練の機会の充実
8 育児や介護・看護などによる退職者を元の職場で再雇用する制度の普及
9 労働時間の短縮やフレックスタイム制、在宅勤務など柔軟な勤務形態
10 給与や労働条件の改善
11 その他（ ）

問14 地域・職場などにおいて、政策などの立案や方針決定において女性の意見が反映されていると思いますか。（○は1つ）

1 反映されていると思う	2 どちらかといえば反映されていると思う
3 どちらかといえば反映されていないと思う	4 反映されていると思わない
5 わからない	

問15 あなたは、地域・職場などにおいて、政策などの立案や方針決定の場へ参画したいと思いますか。（○は1つ）

1 参画したい	2 どちらかといえば参画したい
3 どちらかといえば参画したいと思わない	4 参画したいと思わない
5 わからない	

8

問16 あなたが、次にあげるような職業や役職において、今後女性ももっと増える方がよいと思うのはどれですか。(〇はいくつでも)

1 知事や市長など	2 国会議員、府議会議員、市議会議員
3 公務員の管理職	4 裁判官、検察官、弁護士
5 大学教授	6 国連などの国際機関の管理職
7 企業の管理職	8 起業家・経営者
9 労働組合の幹部	10 農協の役員
11 新聞・テレビなどマスメディアの管理職	12 自治会長、町内会長等
13 その他()	
14 特になし	15 わからない

問17 日常生活や社会生活を送るうえで、女性であることにより様々な制約が課せられたり、困難に直面していると思うのはどれですか。(〇はいくつでも)

1 家庭においてきょうだいの間で扱いに差がある
2 親からの暴力、親やきょうだいの性被害を受ける
3 求職や就労などにおいて、選択の幅が限られる
4 加害行為やセクハラなど性的な対象として見られる
5 どこにも頼るところがなく、社会的に孤立する
6 大学・大学院など専門的な教育分野に進学する必要がないとして扱われる
7 予期せぬ妊娠や中絶を経験する
8 孤立した環境での出産と子育てを強いられる
9 その他()
10 特になし

問18 性的な被害、家庭の状況、地域社会との関係性、その他の様々な事情により日常生活や社会生活で困難な問題を抱える女性について、あなたはどのような支援が必要だと思いますか(〇はいくつでも)

1 家族や友人などの話を聞いてくれる第三者
2 専門的な知識をもつ公的な相談所
3 避難できる場所や居住して保護を受けられる場所
4 適切な診療を受けられる医療施設
5 訪問や巡回を伴うフォロー体制
6 自立を支援してくれる団体や法律
7 自治会など地域コミュニティによるサポート
8 学校教育などの教育機関によるサポート
9 その他()

9

問19 現在の制度では、離婚によって、夫婦のどちらかが必ず名字・姓を変えなければならないことになっています。あなたは、このことにより、名字・姓を変えた人に何らかの不便・不利益があると思いますか。(〇は1つ)

1 何らかの不便・不利益があると思う	2 不便・不利益はないと思う
--------------------	----------------

↓

問19-1 不便・不利益になると思うものを添ってください。(〇はいくつでも)

1 仕事の実績が引き継がれないなど、職業生活上の不便・不利益がある
2 名字・姓を変更した朝のみに名称変更の負担があるなど、日常生活上の不便・不利益がある
3 自己喪失感が生じたり、プライバシーが公になったりすることにより心理的負担が生ずる
4 実家の名字・姓を残せなくなることなどから、婚姻の妨げになる
5 その他()

問20 夫婦の名字・姓に関する制度のあり方をめぐる議論について、あなたはどのように思いますか。(〇は1つ)

1 現在の制度である夫婦同姓制度を維持した方がよい
2 現在の制度である夫婦同姓制度を維持した上で、旧姓を通称として幅広く使うことができるようにする法制度を設けた方がよい
3 選択的夫婦別姓制度(夫婦は同じ名字・姓を名乗るか、それぞれの婚姻前の名字・姓を揃えるようにする制度)を導入した方がよい
4 その他()
5 わからない

10

暴力やハラスメントについて

◆問21から問27について、回答しづらい場合は無理に回答されなくても結構です。

問21 次の行為を配偶者・パートナー等から受けることは、ドメスティック・バイオレンス(DV: 配偶者等からの暴力)だと思いますか。((1)～(17)のそれぞれについて〇は1つずつ)

	どんな場合でもDVにあたる	DVの場合とそうでない場合がある	DVにあたると思わない
(1) 平手やうたが(たたく)、なぐる、ける	1	2	3
(2) なぐるふりをして脅す	1	2	3
(3) 物にあたる、壊す	1	2	3
(4) 大声でどなる	1	2	3
(5) 悪言をはいたり、見下したりする	1	2	3
(6) 「誰のおかげで生活できるんだ」や「かいしょうなし」などと言う	1	2	3
(7) 何を言っても長時間無視し続ける	1	2	3
(8) 家に生活費を入れない	1	2	3
(9) 家族や友人との関わりを持たせない	1	2	3
(10) 相手の交友関係や電話を細かく監視する	1	2	3
(11) 他の異性との会話を許さない	1	2	3
(12) 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する	1	2	3
(13) 相手が嫌がるのに性的な行為を強要する	1	2	3
(14) 避妊に協力しない	1	2	3
(15) 相手が嫌がるのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	1	2	3
(16) 相手の許可をえずに性的な写真や動画を公開する	1	2	3
(17) 子どもの前で暴力をふるう	1	2	3

11

問22 配偶者・パートナーや元配偶者・元パートナー、恋人等から次のような行為を一度でも受けたことがありますか。(〇はいくつでも)

1 命の危機を感じるくらい暴力をうける
2 医師の治療が必要となる程度の暴力をうける
3 医師の治療が必要とならない程度の暴力をうける
4 なぐるふりをして脅される
5 あなたが嫌がっているのに性的な行為を強要される
6 あなたが嫌がっているのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる
7 何を言っても長時間無視され続ける
8 交友関係や電話を細かく監視される
9 「誰のおかげで生活できるんだ」や「かいしょうなし」などと言われる
10 大声でどなられる
11 生活費を渡してくれない(収入を生活費に充ててくれない)
12 受けたことがない

↓

◆問22で「1」～「11」のいずれかを選択された方におたずねします。

問23 配偶者・パートナー等からいずれかの行為を受けたことについて、誰かに話したり、相談しましたか。(〇はいくつでも)

1 家族・親族に相談した	2 同僚や友人に相談した
3 職場の上司に相談した	4 学校・職場の相談窓口相談した
5 公的機関に相談した	6 その他()
7 誰にも話さず、相談していない	

↓

問23-1 相談しなかったのは、どのような理由からですか。(〇はいくつでも)

1 誰に相談してよいのかわからなかったから
2 みっともないと思ったから
3 相談しても無駄だと思ったから
4 相談しても自分のせいだとされたかと思ったから
5 相手に知れるとよりひどい暴力を受けるとかと思ったから
6 自分にも悪いところがあるかと思ったから
7 相談するほどのことではないかと思ったから
8 家族に危害が及ぶかと思ったから
9 その他()

12

問24 あなたは、DVや性暴力の被害、それに関する悩みを相談できる窓口などで配慮してほしいと思うことは何ですか。(〇はいくつでも)

1 メールによる相談ができる
2 チャット、SNSなどによる相談ができる
3 電話による相談ができる
4 通話料が無料で相談できる
5 24時間相談ができる
6 医療費、カウンセリング費用、弁護士費用などについて、無料で支援が受けられる
7 相談内容に関連する、他の相談窓口との連携が行われる
8 同性の相談員がいる
9 匿名で相談ができる
10 弁護士など、法的知識のある相談員がいる
11 臨床心理士、公認心理師など、心理専門職の相談員がいる
12 DVや性暴力に関する専門の相談員がいる
13 その他()

問25 次の(1)～(24)の行為について、ハラスメント(相手に対して不適切な言動を行い、精神的・身体的に苦痛や不利益を与える行為)だと思いますか。また、そのような行為を受けたことや、したことがありますか。該当する行為に○をしてください。

	ハラスメント と思ひますか		経験が ありですか		
	思 う	思 わ な い	が 受 け た こ と	あ り し た こ と が	そ の よ う な こ と は な い
セクシャル・ハラスメント					
(1) 地位や権限を利用して、性的な関係を迫ること	1	2	1	2	3
(2) さわる、抱きつくなど身体に接触すること	1	2	1	2	3
(3) 性的冗談や質問、ひやかしの言葉などをかけること	1	2	1	2	3
(4) ノードポスターやわいせつ本、性的ジェスチャーを見せたりして、からかうこと	1	2	1	2	3
(5) 宴席でのお酌やデュエット、ダンスなどを強要すること	1	2	1	2	3

13

問31 今後、男女共同参画社会を推進するために、羽曳野市はどのようなことに力を入れていくべきですか（〇は3つまで）

- 1 羽根野市の議会委員や管理職など、政策・方針決定の場に女性を積極的に登用する
- 2 民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する
- 3 男性や女性の生き方や悩みに関する相談の場を充実する
- 4 男女共同参画社会づくりに役立つ情報を収集し広く提供する
- 5 職場において男女の均等な取組が図られるよう企業等に働きかける
- 6 仕事と生活のバランスがとれるよう男女ともに働き方の見直しを進める
- 7 学校教育や生涯学習の場で男女共同参画に向けた学習を充実する
- 8 妊娠・出産期、更年期など生涯を通じた女性の健康づくりを推進する
- 9 センシティブハラスメントや配偶者等からの暴力の防止や被害者の支援を充実する
- 10 男女共同参画を進めるための啓発活動を充実する
- 11 候補者男女均等法に基づき、選挙の候補者数をできる限り男女均等にすよう啓発活動を充実する
- 12 その他()

問32 次の「ことば」や「ことがら」についてご存知ですか。
((1)～(23)のそれぞれについて○は1つずつ)

	内容まで 知っている	見たり聞いたり したことはある	全く 知らない
(1) 女子差別撤廃条約			
定義名は「女子に対するあらゆる形態の差別撤廃に関する条約」。女子に対する差別」を定義し、締結国に対し、政治的及び公的領域、並びに経済的及び社会的活動における差別の撤廃のために適切な措置をとることを求めている。	1	2	3
(2) 男女共同参画社会基本法			
男女共同参画社会の形成に関する基本理念や国家の責務等の規定を定めるとともに、地方公共団体等の協力の責務を明らかにしている。	1	2	3
(3) 男女雇用機会均等法			
定義名は「雇用の分野における男女の均等な職業上の待遇の確保等に関する法律」。募集、採用、配置、昇進、教育訓練、定年、退職、解雇などについて男女とを差別して扱うことを禁じている。	1	2	3

18

	内容まで 知っている	見たり聞いたり したことはある	全く 知らない	
(4) 育児・介護休業法	育児休業は「育児休業法」、介護休業等育児又は介護休業を行う労働者の福祉に関する法律。育児や介護を行う労働者の就業生活と家庭生活との両立が図られるよう支障をすることを目的としている。	1	2	3
(5) 女性活躍推進法	就業率は「女性の就業生活における雇用の促進に関する法律」。女性の労働を促進して、雇用機会の拡大と雇用の確保を目的としている。	1	2	3
(6) 候補者男女均等法	選挙率は「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」。国家議員や地方議員の選挙において男女の被選挙権をできる限り均等にしようとする。政界その他の政治分野に資している。	1	2	3
(7) DV防止法	家庭内暴力は「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」。強姦、強盗、脅迫、前記支援などの権利義務を通じて、家庭内暴力(DV)の防止と被害者の救済を図っている。	1	2	3
(8) 国難女性支援法(女性支援新法)	災害時は「国難を乗り越える女性への支援に関する法律」。被災や家族内暴力(DV)などに直面する女性の自立に向けて公的支援を実施することを目的としている。	1	2	3
(9) LGBT理解増進法	差別禁止は「性指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律」。性的志向や性自認の多様性を受け入れる社会を醸成し、その多様性に富む社会の実現に貢献することを目的としている。	1	2	3
(10) 羽曳野市男女共同参画推進条例	男女共同参画の推進に関する基本理念や施策の基本となる事項を定めるとともに、市、市役所、事業主及び市民関係者の責務を明らかにしている。	1	2	3
(11) 羽曳野市男女共同参画推進プラン	男女共同参画に関する政策に向けた目標と達成のための取組に基盤となるものとして、市の役割を明確化しつつ、関係機関との連携を進め、効果的な取り組みを実現することを目指す。	1	2	3

19

	内容まで 知っている	見たり聞いたり したことはある	全く 知らない
(12) ジェンダー			
生まれてからの生物学的性別（セックス/sex）に対して、社会習得や習慣の華で作り上げられた「男性性」「女性性」など、「社会習得・文化時に形成された性別」のこと。	1	2	3
(13) ポジティブ・アクション (積極的改善措置)			
様々な分野において、活動に参加する機会のある男女の機会を改善するため、必要範囲内において、男女のいずれか一方に対し、活動に参加する機会を積極的に提供したり、個々の状況に応じて実施していくこと。	1	2	3
(14) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (性と生殖に関する健康/権利)			
いつ子供も生まるべきか産まないかを選ぶ自由、安全で望ましい性生活、安全な妊娠・出産、子どもが健康に生まれ育つことなど、個人、特に女性の性と生殖に関する健康や権利を保障するという考え方。	1	2	3
(15) ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)			
人々のとりがめ業務を続けるのが難しく、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、子育て期といた人生の各段階にに応じて多様な生き方を選択・実現できるとのこと。	1	2	3
(16) ダイバーシティ			
多様性を指す言葉で、組織や社会において、性別、年齢、国籍、文化、価値観など、様々な背景を持つ人々が共存し、それぞれの能力や個性を活かせる状態を意味している。	1	2	3
(17) LGBTQ			
L（レズビアン：女性同性愛者）、G（ゲイ：男性同性愛者）、B（バイセクシュアル：両性愛者）、T（トランスジェンダー：生まれながらに男性性・女性性に割り当てられた性別に異なる性別のあり方を指す）、Q（クエスチョニング：自身の性別や性指向が定まっていない状態にある人、または性別・性指向の両方とも定まらずに悩んでいる人）のこと。	1	2	3

20

羽曳野市 男女共同参画に関する市民意識調査報告書

発行年月 : 令和 8 (2026) 年 3 月

編集・発行: 羽曳野市 市民生活部 人権推進課

〒583-8585 大阪府羽曳野市誉田4丁目1番1号

電話 072-958-1111(内線1052)

FAX 072-958-8061

E-Mail jinkensuishin@city.habikino.lg.jp